

平成13年度

年報

年 報

平成13年度



独立行政法人

農業生物資源研究所



目 次

・ 組織	1
1. 組織図	3
2. 所在地一覧	5
・ 研究の実施状況	7
平成13年度計画	9
平成13年度の業務の実施状況	27
1. 研究業績一覧	
(1) 原著論文	53
(2) 総説	73
(3) 単行本	73
(4) データベース・マニュアル・報告書・学位論文	75
(5) 学会・シンポジウムでの発表要旨	76
(6) 解説・紹介・技術資料	121
(7) 特許等取得・品種登録	125
(8) 主要な研究成果	126
(9) 講演会・研究会等	127
2. プロジェクト研究一覧	130
3. シンポジウム・研究会等の行事	132
4. 共同研究相手先別一覧	134
・ 派遣・受入	135
1. 派遣等	
(1) 海外派遣	137
(2) 国内派遣等	145
2. 受入等	
(1) 海外からの受入	148
(2) 国内からの受入	154
(3) その他各種制度	157
・ 資格取得・表彰	161
・ 事業	165
1. 遺伝資源の配布	167
(1) 植物遺伝資源	
(2) 微生物遺伝資源	
(3) 動物遺伝資源	
(4) DNA等(イネ)	
(5) DNA等(ブタ)	
2. 遺伝資源の受入・保存	169
(1) 植物遺伝資源	
(2) 微生物伝資源	
(3) 動物遺伝資源	
3. 原蚕種及び桑の接穂・苗木の配布等	171
4. 依頼照射	173

・ 広報・普及	175
1. 刊行物一覧	177
2. 収書図書数	178
3. 視察・見学者数一覧	179
4. 普及・教育活動	179
5. 報道関係	180
(1) 記者発表	
(2) 資料提供	
(3) 新聞記事	
(4) テレビ・ラジオ放送	
(5) 雑誌・広報誌等	
(6) 取材協力	
・ 財務・資産等	189
1. 財務諸表	191
貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、行政サービス実施 コスト計算書	
2. 固定資産	196
3. 知的財産一覧	205
・ 人事異動	207
・ 名簿	215
1. 役職員名簿	217
2. 評価委員名簿	222
付録 1 研究チーム名等の略称一覧	224
2 組織・職名の英文名称	227
3 案内図	230

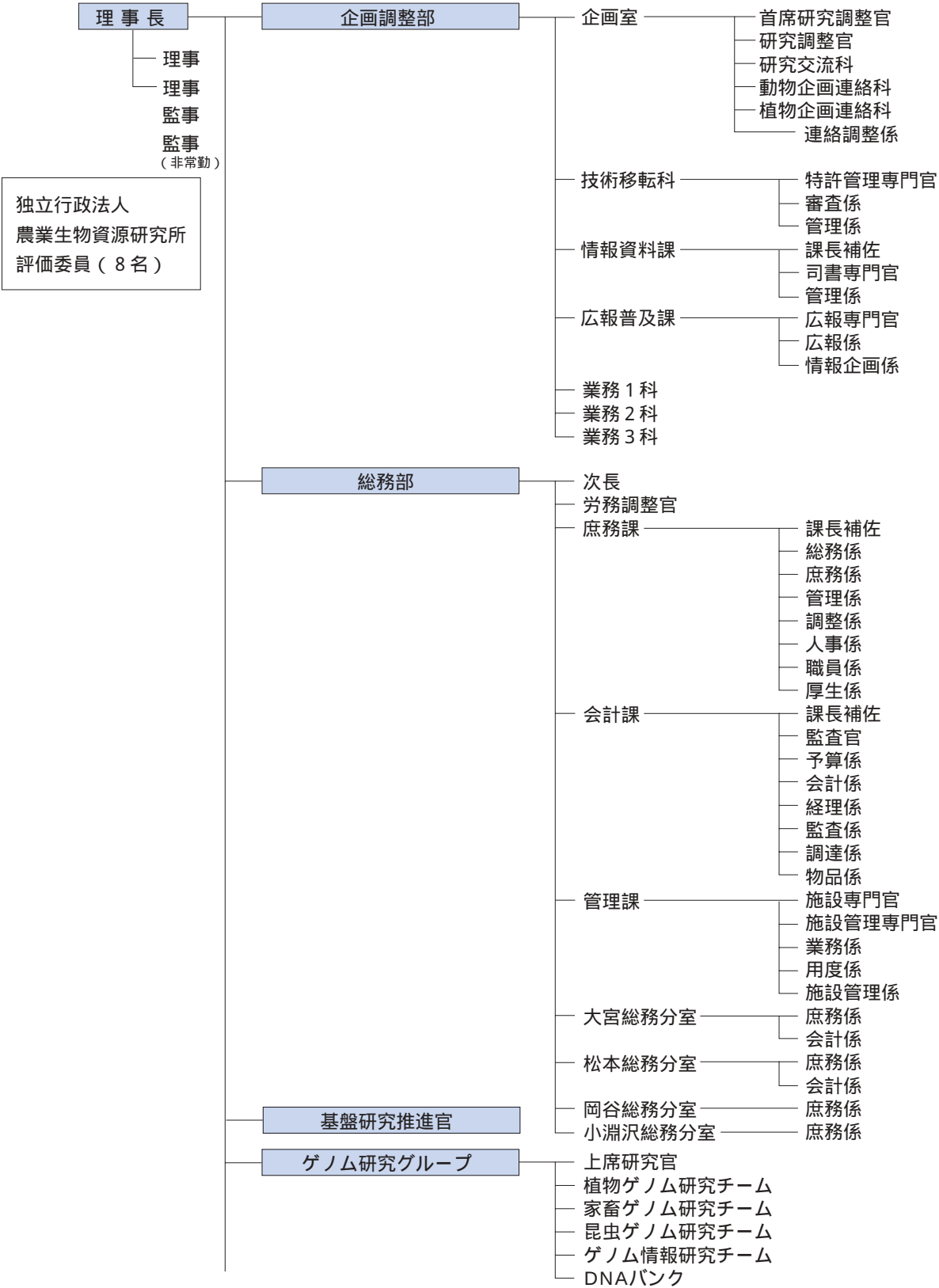
I 組 織

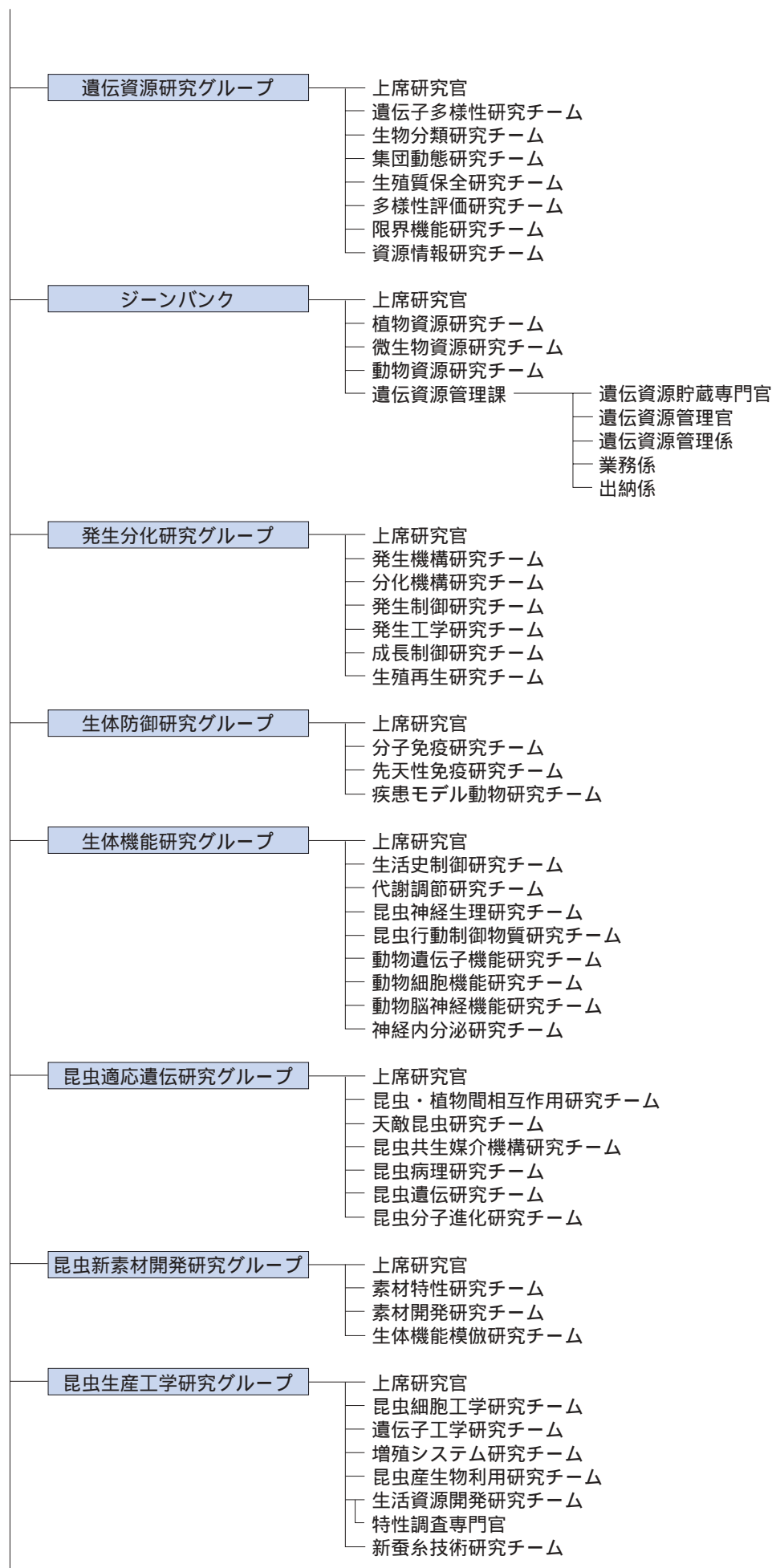


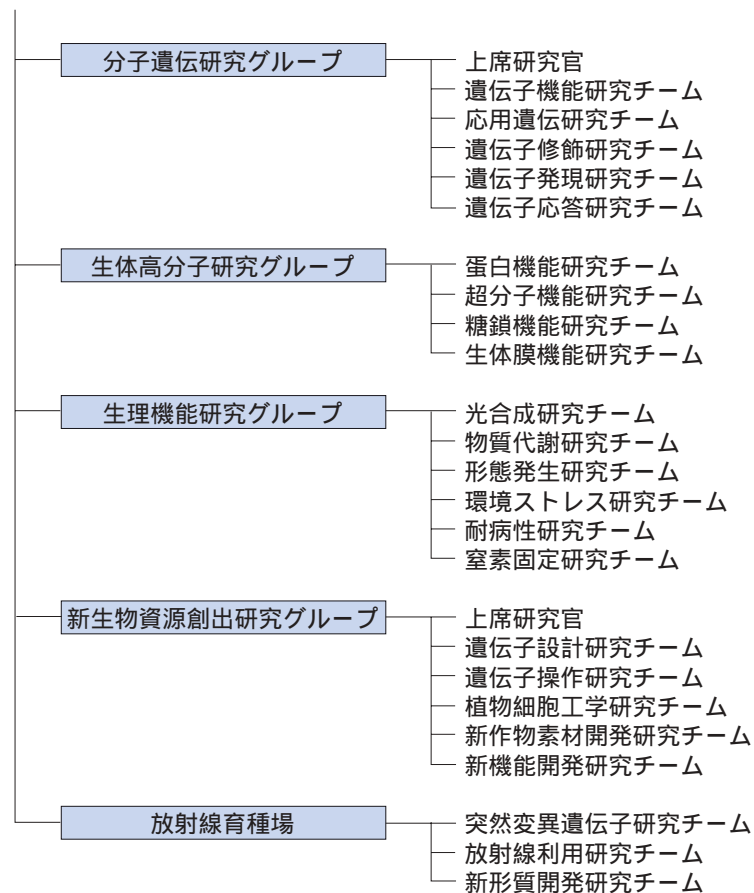
1. 組織図

(14. 3. 31 現在)

役員	5名
一般職員	99名
技術専門職員	45名
研究職員	283名
合計	432名

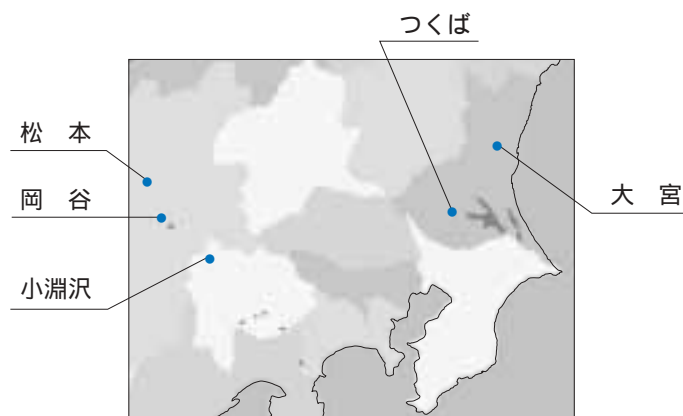






2. 所在地一覧

所在地	住所	電話番号	備考
つくば(本部)	〒305-8602 茨城県つくば市観音台2-1-2	0298-38-7406	
" (農環研地区)	〒305-8602 茨城県つくば市観音台3-1-3	0298-38-8363	
" (大わし地区)	〒305-8634 茨城県つくば市大わし1-2	0298-38-6026	
" (茎崎地区)	〒305-8602 茨城県稲敷郡茎崎町池の台2	0298-38-8599	
" (動衛研地区)	〒305-8602 茨城県つくば市観音台3-1-5	0298-38-7906	
大宮	〒319-2293 茨城県那珂郡大宮町上村田2425	0295-52-1138	放射線育種場
松本	〒390-0812 長野県松本市県1-10-1	0263-32-0549	新蚕糸技術研究チーム
岡谷	〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8	0266-22-3664	生活資源開発研究チーム
小淵沢	〒408-0044 山梨県北巨摩郡小淵沢町6585	0551-36-2046	昆虫遺伝研究チーム



II 研究の実施状況

平成13年度計画

1. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 研究業務の効率化

(1) 評価・点検の実施

評価項目、評価基準を年度前期中に定める。
研究所の評価委員会を開催する。
研究成果の検討会を開催する。
研究職員の業績審査のための委員会を開催する。

2 研究資源の効率的利用

(1) 生研機構の「新技術、新分野創出のための基礎研究推進事業」及び「新事業創出研究開発事業」、科学技術振興事業団の「戦略的基礎研究事業」並びに文部科学省の「科学技術振興調整費」等のプロジェクトに積極的に応募する。

(2) 農水省の交付金プロジェクトについても、評価結果に従って、重点的な配分を行う。

(3) 重要な施設、機械及び圃場、動物については、利用規程を整備し、効率的な利用に努めるほか、余裕がある場合にはインターネット等で公開し他法人等の研究者の利用に供する。

(4) 他独立行政法人の施設・機械及び圃場・動物の使用が当面不可欠であるため、関係法人間の連携を円滑に図るための協議会や委託契約等を整備する。

3 研究支援の効率化及び充実・高度化

(1) 知的所有権の取得と技術移転を業務とする技術移転科を企画調整部に配置するとともに、職務発明規程等を整備して知的所有権の取得・技術移転態勢を強化する。

(2) 農林水産省研究ネットワーク等を活用して、オンラインジャーナルを導入し、利用者サービスに努める。

(3) 施設等の保守管理については、できるだけ外部委託をする。

(4) 他独立行政法人等への委託を含め研究支援業務の効率的運営を図る。

4 連携、協力の促進

(1) 他の独立行政法人との連携、協力

共同研究規程(仮称)、流動研究員規程(仮称)、職務発明規程(仮称)等を整備して、共同研究や技術移転を積極的に行うとともに、得られた研究成果は他法人に活用されるよう広報に努める。また、独立行政法人農業技術研究機構の融合研究に協力する。

ジーンバンク事業の推進を図るため、他法人との連絡協議会(仮称)を設置して、事業の円滑な推進を図る。

(2) 産学官の連携、協力

イネゲノムの有用遺伝子の単離・機能解明においては、拠点として、他法人、大学、民間等外部機関と共同で研究を強力に推進する。

ゲノム研究等に関する国際会議を開催し、研究成果を国内外の研究機関に活用してもらうよう努める。特に、民間企業との交流を進める。

科学技術協力に関する政府間協定等を活用し、先進国等との共同研究を推進する。

国が実施する助成事業の推進に協力し、公立研究機関が実施する助成研究の推進に適切な指導を行う。

5 管理事務業務の効率化

事務の簡素化と迅速化を図るために、LAN等の整備を行う。また、光熱水の節約により、管理経費の節減を図る。

6 職員の資質向上

(1) 農林水産省、文部科学省等が主催する種々の研修に参加させるほか、流動研究員規程を整備して、優れた知識・技術を有する研究者を招へい又はその機関に派遣することにより研究員の資質向上を図る。

(2) 文部科学省の制度を活用して在外研究を奨励する。

(3) 博士号未取得の若手研究者については、チーム長等が取得に配慮するよう指導する。



国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置

試験及び研究並びに調査

A ゲノム生物学等を利用した生命科学 研究

1) ゲノムの構造解析とゲノム情報解析 システムの開発

(1) イネのゲノム構成及びイネゲノムのDNA塩基配 列の解析

イネ第1染色体のDNA塩基配列の解析

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：イネ第1染色体において、主要な遺伝子
領域について、配列解析のための技術開発を行い、
高精度（99.99％）に配列を解明する。

イネ第6染色体の物理地図作製とDNA塩基配列
の解析

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：イネ第6染色体において、塩基配列解析
のための、PACまたはBACを用いた物理地図を作
製し、作製した領域について、配列解析のための技
術開発を行い、高精度（99.99％）に配列を解明する。

(2) イネ完全長cDNAクローン収集とデータベー スの構築

平成12年度に収集された完全長cDNAクロ - ンの
クラスタリングとデ - タベ - ス化

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：平成12年度末までに収集されたクロ - ン
の端読み配列デ - タを基にしたクラスタリング及び
完全長を読んだクロ - ン約8000のアノ - テ - ション
を行う。

平成13年度に収集される完全長cDNAクロ - ンの
クラスタリング

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：平成13年度に順次収集されるクロ - ンの
端読み配列データを基にしたクラスタリングを行
う。

(3) ブタ及びカイコ等の遺伝地図と物理地図の作成

ブタの高密度遺伝地図、物理地図の作成

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：ブタ等の染色体重要領域のゲノム構造を
解析するとともに、QTLの存在する特定領域の遺
伝地図、物理地図の高密度化を図る。また、遺伝的
多様性の解析に有用な反復配列の解析を行う。

カイコの高密度遺伝地図、物理地図の作成

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：カイコゲノムのBACライブラリーを用
いて、カイコゲノム全体の30％程度をカバーする物
理地図を作成するとともに、カイコcDNAライブラ
リーより約300個のcDNAクローンを遺伝地図及び
物理地図上に位置づける。

(4) ゲノム機能予測技術の開発

コード領域予測技術の開発

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：イネゲノムからタンパク質コード領域を
効率よく予測する技術を開発する。

(5) イネゲノム統合データベース基盤の開発

イネゲノムデータベースINEの改良

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：イネゲノムデータベースINEの改良を行
い、イネゲノムに関する既存の遺伝地図情報、物理
地図情報、塩基配列情報、発現遺伝子地図情報等の
異なる種類の情報を有機的に連結する。

2) ゲノム情報等を活用した遺伝子の単 離と機能解明

(1) 遺伝地図情報を利用したイネ有用遺伝子の単離

遺伝地図情報を利用したイネ有用遺伝子の単離

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：イネの脱粒性及び節間伸長性について
は、相補性検定並びに発現解析による遺伝子の同定
を行う。出穂期及び紫外線感受性遺伝子については、
ゲノムクローンによる整列化地図の作製を通じて、
候補ゲノム領域の絞り込みを行う。

(2) イネミュータントパネルを利用した遺伝子機能解析システムの開発と利用

イネミュータントパネルを利用した遺伝子機能解析システムの開発と利用

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：破壊遺伝子を網羅的に解析するためのシステムの開発を行うとともに、このシステムを利用して転写制御やシグナル伝達に関与する遺伝子の変異体を同定する。

(3) 遺伝地図情報等を利用したブタの椎骨数、カイコDNV抵抗性遺伝子等の単離

比較遺伝地図情報等を活用したブタの生産形質関連遺伝子座の同定

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：比較遺伝地図情報等を活用したブタの肉量に関連する椎骨数、肉質、繁殖性に関連する遺伝子の存在領域の絞り込みを行うとともに、候補遺伝子の探索に着手する。

発現遺伝子の部分塩基配列情報等を利用したブタの椎骨数や肉質等に関連する遺伝子の単離

担当：生体機能研究グループ

研究計画：肉量に関連するブタ椎骨数候補遺伝子の多型と形質との関係を明らかにするため、第1染色体椎骨数関与領域に存在するFTZ-F1遺伝子の構造を明らかにするとともに、遺伝子内及び近傍に認められるSNPと椎骨数との関係を明らかにする。

カイコDNV抵抗性遺伝子等の単離

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：カイコ濃核病ウイルス抵抗性遺伝子(Nid-1)の単離を目指し、感受性系統と非感受性系統の間でサブトラクション、ディファレンシャルディスプレイによる候補探査を進めるとともに、地図情報を用いてNid-1遺伝子近傍のcDNAクローンの解析に着手する。

(4) 遺伝子群発現モニターシステムの開発

遺伝子発現モニタリングシステムの構築

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：イネ9000ESTクローン、約2万の完全長クローンをプローブとして固定したマイクロアレイを作製し、実験へ供用する。

(5) タバコ等の遺伝子レベルでの細胞内シグナル伝達系の解析

植物の病害抵抗性遺伝子に関する研究

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：タバコよりカルモジュリン遺伝子を網羅的に単離し、病傷害情報伝達に果たす役割を解析する。

葉等の形態形成機構の解析

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：アクチベ-シオンタギングの過程で得られた葉の形態変異株について、野生株と発現レベルの異なるmRNA或いはタンパク質を検出・同定する。

(6) 染色体構造の変化やDNAの修飾に着目した遺伝子発現調節機構の解析

ジーンサイレンシングに関与する遺伝子とシグナルの解析

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：ジーンサイレンシングに関与する遺伝子を植物等から絞り込むとともに、ジーンサイレンシングに特異的なシグナルと考えられる短鎖RNAの検出システムを確立する。

メチル化部位のゲノムマッピング

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：制限酵素ランダム-クゲノムスクニング(RLGS)法のための画像解析支援ソフトを完成させる。

3) タンパク質の網羅的解析と構造生物学的解明

(1) 遺伝子発現産物の構造・機能の網羅的解析

プロテオーム解析技術による植物ホルモン情報伝達機構の解析

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：植物ホルモン等の刺激で発現するイネ・タンパク質群を、気相プロテインシ-ケンサ-や質量分析計を利用して網羅的に構造解析するとともに、変動するリン酸化タンパク質を解析する。

タンパク質情報のデータベース化

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：2次元電気泳動で得られるタンパク質のスポット情報を中心としたイネのプロテオームデータベースを構築する。

(2) タンパク質の立体構造及び機能発現機構の解明

酵素・機能性蛋白質など生物学的に重要なタンパク質のX線解析法による立体構造の解明と蛋白工学的手法による機能の解析

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：アミラーゼキシラナーゼ等の酵素や蛇毒由来の種々の機能性蛋白質の結晶化を行い、X線構造解析を行う。改変蛋白質を発現させて機能部位を同定する。

植物ウイルスのX線結晶学的研究

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：イネ萎縮ウイルス（RDV）、コックスフットモットルウイルス（CfMV）などの植物ウイルスの良質の結晶を作製し高分解能X線構造解析を行う。

イネ構造ゲノム解明に向けての発現、精製、立体構造解析に関する研究

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：イネ完全長cDNAから蛋白質の発現及び精製を試みる。

NMRを用いた光合成電子伝達系タンパク質複合体等の分子認識・機能発現機構の解明

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：光合成電子伝達系タンパク質複合体について、超分子形成・機能発現機構をNMR法を中心とした物理化学的手法を用いて分子論的に解明する。高等植物のHis-Aspリン酸リレー情報伝達系のB型レギュレータ群タンパク質に保存されている機能未知Bモチーフの立体構造をNMR法により解析し、その機能を推定する。

物理化学的測定を用いた天然高分子集合体の形成機構の解明

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：天然高分子の濃厚溶液を用いてフィルムを形成し、フィルム形成の温度依存性その他の解析により構造形成機構を解明する。

（３）計算科学的手法によるタンパク質の構造・機能推定技術の開発

計算科学的手法によるタンパク質の構造・機能推定技術の開発

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：タンパク質ファミリーの配列をもとにして、共通に保存されている残基のうちモチーフ配列として定義されないものの生化学的機能との関連について検討を行う。

（４）糖質性エリシターとその認識機構及び情報伝達機構の解明

糖質性エリシターとその認識機構及び情報伝達機構の解明

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：DNAマイクロアレイ法を用いてエリシ

ターに応答する遺伝子（cDNA）を新たに20種類程度単離し塩基配列を解読する。また、エリシター以外のストレスによる単離遺伝子の発現特性を解析する。3量体型Gタンパク質欠損イネ系統におけるエリシター応答性を活性酸素生成、遺伝子発現等を指標として解析し、応答にいたるシグナル伝達過程を、Gタンパク質の役割を中心に解明する。

4）植物における生命現象の分子機構の解明

（１）光合成器官形成に関与する遺伝子群の解析と光合成光利用効率制御機構の解明

光合成光利用効率調節因子の同定と作用機作の解析

担当：生理機能研究グループ

研究計画：強光照射下での光化学系D1蛋白質の完全分解に関与するプロテアーゼの特性を明らかにする。また、酸性環境下より分離された光合成細菌の光合成色素、亜鉛を中心金属とするZn-BCh1aの構造を、普通のMg-BCh1a、及び水稻とパセリのCh1aと比較しながら高分解能NMRによって解析する。

イネにおける光形態形成遺伝子が関与する光合成制御機構の解析

担当：生理機能研究グループ

研究計画：光形態形成過程で特異的に発現変動を示す遺伝子をマイクロアレイ解析により同定・単離する。

（２）物質固定・代謝及び転流・蓄積に関与する遺伝子群の解析とその制御機構の解明

C3植物におけるC4光合成酵素の生理機能の解析

担当：生理機能研究グループ

研究計画：イネの炭素代謝とストレス耐性に及ぼすトウモロコシC4光合成酵素PEPCの影響を明らかにする。

エレオカリスにおけるC3-C4光合成型の変換とそれに伴う光呼吸の制御機構の解析

担当：生理機能研究グループ

研究計画：気相と水相で生育したエレオカリスにおける光呼吸酵素の細胞特異的な発現を調査するとともに、アブラナ科のC3-C4中間植物とC3植物から作出した交雑植物について葉内部構造や光呼吸形質を生理遺伝学的に解析する。

イネにおける光合成産物の転流に関与する遺伝子群の単離とその機能解析

担当：生理機能研究グループ

研究計画：イネの登熟や糖の転流に関与する形質（糖の出穂前蓄積、葉身窒素、ルビスコ）を支配する遺伝子座の解析、並びに出穂期前後に発現する遺伝子群のモニタリングを行う。また、Yeast two-hybrid system等を用いて、未熟種子で特異的に発現するプロテインキナーゼOSKのサブユニット構造や標的タンパク質を解明する。

（３）植物の形態形成を制御するジンクフィンガー型転写因子の機能解析

植物の形態形成を制御するジンクフィンガー型転写因子の機能解析

担当：生理機能研究グループ

研究計画：花器官の形成制御に関与するジンクフィンガー型転写因子PetSPL1のトランスポゾン挿入変異体を選抜し、花器官の数や形態に関わる表現型を解析する。また、イネから新たなジンクフィンガー型転写因子の遺伝子を単離する。

転写因子機能を利用した雄性及び雌性不稔誘導技術の開発

担当：生理機能研究グループ

研究計画：ペチュニアから単離したジンクフィンガー型転写因子ZPT3-2の遺伝子について、形質転換植物を用いて機能解析する。また遺伝子発現の組織特異性をin situ hybridization等を用いて解析する。

（４）原形質膜を介するオーキシン情報伝達機構の解析

原形質膜を介するオーキシン情報伝達機構の解析

担当：生体高分子研究グループ

研究計画：複合タンパク質と考えられている原形質膜オーキシン受容体の各構成成分を明らかにする。また、構成成分の一つとして既に明らかにしているオーキシン結合タンパク質について変異解析を行い、オーキシン応答に対する変異効果を調査する。

５）動物における生命現象の分子機構の解明

（１）生殖系列細胞等の発生分化機構の解明と発生工学的利用技術の開発

マウスをモデル系としたES細胞等の増殖及び分化制御要因の解析

担当：発生分化研究グループ

研究計画：既存のマウスES細胞の分化誘導に綿製ガーゼを利用したオルガノイド形成培養系を適用し

て、分化組織複合体の構築技術を確立する。また、同じES細胞を免疫不全マウスの皮下に注入し、奇形腫を形成させ、その過程を経時的に、組織学的に解析して培養系で再構築された分化組織複合体と比較する。

IGF-1レセプター遺伝子等の転写制御やシグナル伝達に関わる生理・形態形成関連遺伝子の発現様式の解析

担当：発生分化研究グループ

研究計画：家畜の胚、胎子、胎盤の形成に大きな影響を及ぼすインスリンの受容体遺伝子について、品種間、品種内における差異と、その生理的機能を明らかにするために、遺伝子の塩基配列と構造の決定を行い、いくつかの品種を用いてインスリン受容体遺伝子の多型解析を試みる。

ウシ等の培養細胞の遺伝子改変技術の確立と形質転換個体作出法の開発

担当：発生分化研究グループ

研究計画：アルギン酸ナトリウムを用いたブタ核移植卵子のカプセル化を検討し、卵管に移植した場合の胚盤胞への発生率を調べる。また、少数の受精卵子を追加移植した場合の受胎率の変化の有無を調べる。

ウシ胎盤細胞の分化増殖及び再構築要因の解析

担当：発生分化研究グループ

研究計画：ウシ胎盤胞由来栄養膜細胞にT抗原遺伝子を導入し不死化細胞系を確立するとともに、胎盤細胞の分化に関わるFGF、IGF等のサイトカイン及び転写因子遺伝子の発現を検索する。

（２）動物細胞株の機能特性の解析と成長等に関与する細胞因子の探索

脂肪細胞等動物細胞株の樹立と機能特性の解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：ウシ筋肉内脂肪前駆細胞株を用いて、分化誘導の前後で顕著な変化を示す蛋白質の検索を行い、脂肪細胞分化に関わる蛋白質を同定する。また、クローン家畜作出に適した長期培養可能な体細胞株の樹立を行い、遺伝子導入を試みる。

発育、成熟等に関与する因子の探索及び同定

担当：生体機能研究グループ

研究計画：コレステロール合成酵素であるHMG-CoA reductase、squalene synthase、CYP51及び異化酵素であるCYP7について遺伝子の発現変動を解析するとともに、核への刺激伝達等の細胞内情報伝達系に属するTyx 2、Smad 1 遺伝子に関し、ブタよりcDNAの分離と塩基配列の決定を行う。

(3) 家畜の脳辺縁系・視床下部情動調節機構及び繁殖中枢調節機構の解明

ウシ、ブタの脳定位固定装置等の開発及び大脳皮質並びに視床下部調節機能の解析

担当：生体機能研究グループ

研究計画：ウシ、豚脳の海馬、扁桃体電位変化や視床下部由来の情報伝達物質変化を個体レベルで測定・解析する技術を開発するとともに、ウシ、ブタにおける交感・副交感神経系の相互的調節系を明らかにするために、体の恒常性を保つ上で重要な自律神経系の活動変化を心電図等から解析する。

反芻動物の性腺刺激ホルモン放出ホルモン分泌調節に関わる神経伝達物質及び末梢性因子解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：シバヤギにおいてGnRH分泌調節機構の神経活動を電気信号として解析する手法を確立し、この活動を指標として、各種神経伝達物質及び急性低栄養が繁殖機能に及ぼす影響を検討する。

(4) ヒメミミズ等の発生分化、カイコの脱皮変態等に関わる主要な遺伝子の単離と機能解明

ヒメミミズ等の発生分化及びカイコの生殖系列形成体等に関わる主要遺伝子の単離と遺伝子機能解析系の構築

担当：発生分化研究グループ

研究計画：ヒメミミズ等無脊椎動物のcDNAライブラリーを作成して、細胞分化、形態形成、再生、性分化等に関わる主要な遺伝子の探索し、その構造、機能及び制御機構等の解析に着手する。

カイコの脱皮・変態時にホルモン活性物質により発現が誘導される主要遺伝子・タンパク質の単離とその機能解明

担当：発生分化研究グループ

研究計画：幼若ホルモン（JH）の生合成及び分解に関わる酵素をコードする遺伝子を単離し、その組織・時期特異的発現をJH活性調節との関係から解析する。また、脱皮ホルモン受容体のゲノムクローンを単離し、転写制御領域を解析するとともに、レポーターアッセイにより転写誘導の解析を行う。

カイコにおける真皮細胞の増殖調節機構の解明並びに斑紋等の組織形成に関わるタンパク質の同定

担当：発生分化研究グループ

研究計画：真皮細胞の増殖過程を通常品種とコブ蚕の皮膚を比較しつつ明らかにするとともに、増殖解析のマーカーとなる分子の探索を行う。

(5) フィブロイン遺伝子、尿酸合成等に関わる生理機能に係る遺伝子等の単離とその機能及び多様性の解析

間性系統等に注目した遺伝形質の連関解析

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：家蚕の性決定が異常になる突然変異である間性個体の特徴を明らかにするため、1次、2次、3次性徴のそれぞれにおいて生殖器や関連する組織における形態学的特徴を抽出し、記載を行う。

フィブロイン遺伝子、カルボキシエステラーゼ遺伝子等に注目した昆虫生理機能関連遺伝子の単離と分子進化学的解析

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：鱗翅目ヤマモユガ科の絹糸昆虫のフィブロイン遺伝子の構造解析をすすめ、国内産の種では種内変異の検討を行う。また、フィブロイン遺伝子の種間変異の検討のため、核遺伝子及び核外遺伝子を対象に分子系統解析に着手する。

尿酸合成やエクジステロイド受容機構等に関わる分子の単離と発現制御機構の解明

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：キサンチン脱水素酵素活性を欠くカイコ突然変異体o gの原因遺伝子を同定する目的で、モリブデン補酵素生合成系遺伝子の単離を試み、その中からo g遺伝子座に対応するものを探索する。また、エクジステロイドが機能する細胞内環境の分子の基盤を明らかにするため、特異性を担うエクダイソンレセプターと相互作用する分子の検索等を通して、関連遺伝子の単離に着手する。

(6) 昆虫の触角葉等における匂い情報の伝達・処理機構及び感覚子特異的分子等に注目した味覚受容伝達系の解明

昆虫の触角葉及びキノコ体における匂い情報の伝達・処理機構の解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：匂い刺激によって触角葉に生じる糸球体活性化パターンと糸球体からの出力信号との関係を明らかにするために、光学的測定法、電気生理学的手法を併用した解析を試みる

カイコ等の味覚応答の解明と感覚子特異的分子等に注目した味覚受容伝達系の解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：昆虫の味覚受容伝達系を解明するため、味覚器官の電氣的応答の細胞外記録と解析方法の確立、これまでに味覚組織から単離した遺伝子の解析、化学感覚に関連する新規な分子の単離方法の検討等

を行う。

- (7) ペプチド等の化学物質の生理機能に着目したバツタ等の体色制御機構、甲虫等の休眠等の解明と、カイコ等のアミノ酸合成酵素系等に着目した特異的代謝機能の解明

ペプチド等化学物質の生理的役割に着目したバツタ等の体色制御機構及び甲虫等の休眠・繁殖・耐寒性等の解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：休眠、低温耐性等の解明の一環として、ハムシ類、ゴキブリ類等の環境制御因の解明を図るとともに、長期乾燥休眠を行うユスリカ等の发育停止の生理特性解明に着手する。多型・相変異等の生理機構解明のため、コオロギやバツタ類の多型個体間の生理特性の比較研究を行う。

カイコ等のアミノ酸合成酵素系等に着目した特異的代謝機能の解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：アミノ酸代謝に関わる酵素としてカイコのグルタミンアミドトランスフェラーゼ等について特性解明に着手する。さらに、昆虫の血糖トレハロースの分解酵素であるトレハラーゼについて糖鎖の分析を行う。また、ステロールの栄養要求等についてカイコとエリサンの比較を行う。

6) 環境応答、生物間相互作用の分子機構の解明

- (1) 環境ストレスに応答する遺伝子群の単離とその機能解析

塩ストレスに応答する遺伝子群の単離とその機能解析

担当：生体機能研究グループ

研究計画：高塩濃度環境におかれたイネの細胞は、ナトリウムイオンのみならずクロライドイオンを吸収し、液胞に隔離することにより電気的中和と浸透圧維持に働くと考えられる。すでに得ているイオン輸送体遺伝子の細胞内局在性を解析することにより、その役割を明らかにする。

環境・病傷害ストレスによる植物細胞の二次代謝誘導とシアン耐性呼吸の役割の解明

担当：新生物資源創出研究グループ、生体機能研究グループ

研究計画：環境ストレスによって植物細胞がアントシアニン合成の誘導を受ける時の細胞質pH及びシアン耐性呼吸の動態を解析するとともに、

alternative oxidaseの発現誘導機構をプロモーターのトランジェントアッセイ系で解析する。

- (2) イネにおけるフィトクロムを介した光情報伝達経路の解析

イネにおけるフィトクロムを介した光情報伝達経路の解析

担当：生体機能研究グループ

研究計画：マイクロアレイを用いてphyAからのシグナルによって発現する遺伝子を網羅的に検索し、さらにそれらの時系列を明らかにする。

- (3) 植物の抵抗性遺伝子による病原体認識機構の分子遺伝学的解析

植物の抵抗性遺伝子による病原体認識機構の分子遺伝学的解析

担当：生体機能研究グループ

研究計画：抵抗性遺伝子が病原体の多様性と変異性にどのように対応して自らを多様化させているかについて、我々が単離したイネのいもち病抵抗性遺伝子Pi-bを材料として、抵抗性と感受性の間で抵抗性遺伝子とそのアナログ違いをインデিকা、ジャボニカ間で比較するとともに、さらに広く事例を求めて検討する。

- (4) 共生窒素固定根粒に特異的な植物遺伝子の機能と発現調節機構の解析

共生窒素固定根粒に特異的な植物遺伝子の機能と発現調節機構の解析

担当：生体機能研究グループ

研究計画：根粒に特異的な転写調節因子について、ミヤコグサを用いた形質転換実験等によりそれらの機能と発現調節機構を明らかにする。

- (5) マメ科モデル植物ミヤコグサにおける共生関連遺伝子の単離と遺伝子タギング系の開発

ミヤコグサにおけるNodファクター応答の解析

担当：生体機能研究グループ

研究計画：ミヤコグサ根粒菌の生産するNodファクターに対する植物の応答を形態学的及び遺伝子発現の面から解析する。

ミヤコグサcDNAアレイの構築と、根粒形成における発現遺伝子のプロファイリング

担当：生体機能研究グループ

研究計画：ミヤコグサESTクローンをを用いて15,000以上の重複のないcDNAを含む包括的なマイクロアレイを構築し、Nodファクター及び根粒菌感染に伴う

遺伝子発現プロファイルを明らかにする。

- (6) 効率的な超微量分析法の開発に着目したカメムシ等の行動解発因の解明と、植食性昆虫に対する有害物質の検定系の確立

効率的な超微量分析法の開発に着目したアリ類や捕食性カメムシ等の行動解発因の解明

担当：生体機能研究グループ

研究計画：ハリクチプトカメムシの微量行動制御物質、ゴマダラカミキリやリュウキュウクロコガネの性フェロモン活性成分の単離を試みるとともに、クロヤマアリ等の体表炭化水素多型の解明に関する研究に着手する。

植食昆虫に対する有害植物成分等の検定系の確立と検索

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：昆虫の摂食、生存等に影響を及ぼす植物由来殺虫性蛋白質等の成分を解明するために、簡便で効率的な検索手法を開発するとともに、吸汁性昆虫の摂食行動特性解明を進める。

- (7) トビイロウンカ共生微生物等の系統解析及び共生関連遺伝子の解析と昆虫・植物循環細菌等の感染・定着・増殖の分子機構の解明

トビイロウンカ共生微生物等の系統解析及び共生関連遺伝子の解析

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：トビイロウンカESTライブラリー作製のため、累積5,000クローンの配列データを得る。共生微生物ウォルバキアが感染する組織において、特異的に発現する遺伝子を探索する。動物セルラーゼの探索を行い、セルラーゼ遺伝子改変に向けて、遺伝子発現系を作製する。カメムシウイルス遺伝子のリボソーム内部進入配列の直下に様々なコード領域を連結し、この配列の汎用性を調査する。昆虫腸内におけるエンテロバクター等細菌の定着、増殖に関わる遺伝子の単離を進める。

昆虫腸内細菌に着目した昆虫・植物循環細菌等の感染・定着・増殖の分子機構の解明

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

ファイトプラズマ等昆虫・植物循環微生物の宿主内潜伏感染の野外における実態を明らかにする。

- (8) 昆虫病原微生物及び植物病原微生物に由来する生理活性物質等に着目した感染機構及び植物・微生物・昆虫の相互作用の解明

昆虫ボックスウイルスのスピンデル等の機能と感

染要因の解明

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：昆虫ウイルスでは、ドウガネブイブイの病原である昆虫ボックスウイルスのスピンデルの蛋白質の解析を進める。殺虫性の芽胞細菌であるBt菌の産生する数種 δ -内毒素がカイコ品種に及ぼす影響調査を進め、カイコの δ -内毒素抵抗性遺伝子の探索に着手する。昆虫病原系状菌については、ボーベリア属菌株の簡易識別方法について検討すると共に、ボーベリア・ブロンニアティ菌が産生する毒素蛋白質の性状調査を進める。昆虫病原微胞子虫等では垂直伝搬機構を解析するために、主にカイコ生殖器官の培養に着手する。

植物病原微生物に由来する生理活性物質に着目した、植物・病原微生物・昆虫の相互作用の解明

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：植物・微生物・昆虫の相互作用解明のため、クワ暗斑病菌が産生するトリコセシン類に属する毒素の機能について検討する。

- (9) 免疫担当細胞における生体防御関連遺伝子の単離と機能解明及び生体防御機構解析のためのインビトロ培養細胞系の開発

正常及び遺伝子改変マウスを用いた免疫系の機能解析

担当：生体防御研究グループ

研究計画：免疫関連遺伝子を改変したマウスに炎症反応、免疫寛容を誘導し、組織形態及び細胞機能を正常マウスと比較することにより、機能成熟に異常を認める細胞群を同定する。

免疫系細胞の新規遺伝子の単離と培養系における機能解析

担当：生体防御研究グループ

研究計画：脳、消化器で特異的な働きを有するマクロファージ系細胞及びT細胞の活性化に伴う遺伝子動態を解析するとともに、新規機能分子の遺伝子の単離を進める。

- (10) カイコの抗菌性タンパク質等の構造決定と改変及び機能、発現機構の解明

カイコの抗菌性タンパク質等の構造決定と改変及び機能、発現機構の解明

担当：生体防御研究グループ

研究計画：先天性免疫の関与する因子を解析するために、カプトムシ等の抗菌性タンパク質を精製、単離し、その特性、アミノ酸配列、構造を明らかにするとともに、細菌に対する作用メカニズムを調べる。

B 農林水産業の飛躍的発展を目指した革新技術の開発

1) 遺伝子組換えによる機能性作物等新生生物資源の開発

(1) C4光合成機能の利用や形態制御による作物生産性の向上

C4光合成機能の利用による植物の光合成機能の改良の試み

担当：生理機能研究グループ

研究計画：トウモロコシのC4光合成酵素PEPCとPPDKを併せ持つ形質転換イネを複数系統作出する。また、3番目のC4光合成酵素NADP-ME導入用コンストラクトを作成する。

植物の草型制御技術の開発

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：ジベレリン関連遺伝子やブラシノリド関連遺伝子等の発現制御を可能とするベクターを構築するとともに、形質転換イネの発現解析を行う。

(2) 遺伝子組換えを利用した病虫害抵抗性個体、ストレス耐性個体の作出

病害抵抗性関連遺伝子の探索

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：溶菌活性の高い多糖分解酵素の遺伝子をイネで効率よく発現するように加工後イネに導入し、得られた組換えイネのいもち病抵抗性を検定する。また、いもち病抵抗性のイネ品種でいもち病菌接種後に誘導的に発現する遺伝子群を同定する。

PEPC遺伝子を用いた酸性土壌耐性ダイズ及びムギ類の作出

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：PEPC（ホスホエノールピルビン酸カルボキシラーゼ）遺伝子をオオムギ及びダイズへの導入を試みる。

環境ストレス耐性機能を強化した組換え個体の開発

担当：生理機能研究グループ

研究計画：傷害に対して発現応答するペチュニアのジンクフィンガー型転写因子ZPT2-3のcDNAをペチュニアに再導入して高発現し、形質の変化を解析する。

(3) 遺伝子組換えにより健康機能性を増強した米の作出

遺伝子組換えにより健康機能性を増強した米の作

出

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：コレステロール値低下作用を示すダイズグリシニンの集積レベルを高めるため、2種類のグリシニン遺伝子を種子胚乳で特異的に発現、蓄積させた組換えイネの作出する。また転写因子を利用して発現を高める手法の開発を進める。

2) 新たなDNAマーカーの開発

(1) DNAマーカーによるイネ育種選抜システムの開発

DNAマーカーによるイネ育種選抜システムの開発

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：イネの着粒数に關与する量的形質遺伝子座を検出し、染色体上へ位置づける。出穂期及び穂発芽抵抗性に關与する遺伝子の選抜指標となる検出が容易なDNAマーカーを作出し、それらを利用して準同質遺伝子系統群を作出する。イネの出穂期予測法の開発に向けて、出穂期の異なる品種・系統における単離・同定された出穂期関連遺伝子の構造変異並びに発現量の差を調査する。

(2) ブタの肉質等に関連するDNAマーカーの開発

ブタの肉質等に関連するDNAマーカーの開発

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：ブタの肉質等のQTL解析のため、実験家系の生産及び多型マーカーの解析を行う。また、家系間で共通に利用できるマーカーを開発するとともに、その情報を取り入れた効率的なQTL解析のための統計モデルを構築する。

(3) カイコの絹の高品質化等に関連するDNAマーカーの開発

カイコ耐病性関連DNAマーカーの開発

担当：ゲノム研究グループ

研究計画：カイコの耐病性等に関わる遺伝子の単離に向けて、新たなcDNAライブラリーの調製を試み、これを用いて連鎖解析に用いる新たなDNAマーカーの開発に着手する。

3) 放射線利用技術の開発

(1) 各種作物におけるガンマ線とイオンビームによる突然変異誘発効率の比較

ガンマ線とイオンビーム照射による線量反応及び

変異率の比較

担当：放射線育種場

研究計画：種子繁殖及び栄養繁殖作物に対しガンマ線及びイオンビームを照射した場合の線量反応、変異率及び染色体への影響を調査し、その結果を基に生物学的効果を明らかにする。

効率的な突然変異誘発技術の開発

担当：放射線育種場

研究計画：代表的な作物について照射材料の種類及び放射線核種やエネルギーの違いによる変異の種類及び頻度を明らかにする。

(2) 木本性作物の耐病性に着目した突然変異体の誘発・選抜技術の開発と新規素材の作出

木本性作物の耐病性突然変異体の誘発・選抜技術の開発と素材作出

担当：放射線育種場

研究計画：木本性作物の各種耐病性突然変異の誘発・選抜方法を開発するためのガンマ線等照射条件、病原菌の接種等条件、キメラ解消法等の検討を行い、基礎的な知見を得る。

誘発突然変異と形質転換を利用した育種・機能解析素材作出法の開発

担当：放射線育種場

研究計画：ガンマ線やイオンビームの照射と培養等を組み合わせた突然変異誘発・選抜技術を果樹、茶等の作物に適用して各種素材作出法の開発を図るとともに、果樹等において、効率的な形質転換技術を開発するための基礎的な知見を得る。

(3) イネ貯蔵タンパク質等の突然変異遺伝子の単離と機能解析

グルテリン突然変異体の原因遺伝子の単離と機能解析

担当：放射線育種場

研究計画：インディカ種カサラスとの交配F2分離集団を用いたPFLP分析により、低グルテリン突然変異Lgc1及びグルテリンスポット1a欠失突然変異glu1の染色体上の位置を明らかにする。

イネの新規用途突然変異体の効率的選抜手法の開発及び単離

担当：放射線育種場

研究計画：ガンマフィールドにおける緩照射、ガンマルームにおける急照射を含めた様々な放射線照射法を用いて新規種子貯蔵タンパク質関連突然変異体単離のためのスクリーニングを行う。

C 新産業の創出を目指した研究

1) 有用物質生産技術の開発

(1) 生理活性ペプチド、抗体等の有用タンパク質生産のための組換えイネ等の作出

生理活性ペプチド、抗体等の有用タンパク質生産のための組換えイネ等の作出

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：血圧降下作用を持つ卵白アルブミン由来の生理活性ペプチドを貯蔵タンパク質の可変領域に挿入し、生理活性ペプチドを貯蔵タンパク質の一部として種子胚乳中に特異的に集積した組換えイネを作出する。

(2) 遺伝子導入カイコの周年・安定生産システムの構築と、効率的周年人工飼料育のためのクワ系統の素材化

遺伝子導入カイコの周年・安定生産システムの構築

担当：昆虫生産工学研究グループ

研究計画：カイコ人工飼料残渣等との全自動分別装置の開発を行う。

効率的周年人工飼料育のための桑系統の素材化

担当：昆虫生産工学研究グループ

研究計画：カイコの人工飼料添加用に適した桑品種育成を目的に交雑実生からの個体選抜を実施する。

2) 生体機能模倣技術の開発

(1) 化学分子受容体の固定法等に着目したバイオセンサー等の開発

化学分子受容体の固定法等に着目したバイオセンサー等の開発

担当：昆虫新素材開発研究グループ

研究計画：センシング要素技術開発に重要な味覚組織抽出液の分析及び効率的な固定化技術を検討するとともに、肝細胞認識分子を導入した絹フィブロイン作出を行う。

(2) 微小電極等の利用による飛翔行動等の生体機能計測手法の開発

微小電極等の利用による飛翔行動等の生体機能計測手法の開発

担当：昆虫新素材開発研究グループ

研究計画：マクロ生体信号解析の一つとしてカイコ幼虫の体積変化の物理的計測手法開発に着手すると

ともに、昆虫筋電位等のミクロ生体信号の解析が可能なマイクロデバイスを開発する。

3) 生物機能の改変による新規用途生物の開発

(1) ヒメハナカメムシ、カブリダニ等の系統解析法の確立

ヒメハナカメムシ、カブリダニ等の系統解析法の確立

担当：昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：ヒメハナカメムシ類について、地域集団の交配による休眠性の遺伝様式の解析を開始すると共に、種による生息場所の違いなど、天敵として有用な特性の解明を進める。またカブリダニ類とヒメハナカメムシ類について、RAPD法やPCR-RFLP法を用いて、種間関係、種内多型の解析を開始し、系統識別マーカーの作出に着手する。

(2) 環境負荷物質の低減及び環境修復のための組換え植物の作出

環境負荷物質の低減及び環境修復のための組換え植物の作出

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：環境負荷軽減のため、薬物代謝型P450遺伝子等を導入した組換えイネを作出し、固定化を図る。また、既作出形質転換体を用いて、代謝能力を解析する。

4) 新素材及び新蚕糸技術の開発

(1) セリシン蚕等の特異な繭糸質を有する蚕品種の開発及び飼育技術の開発

セリシン蚕等の特異な繭糸質を有する蚕品種の育成及び飼育技術の開発

担当：昆虫生産工学研究グループ、昆虫適応遺伝研究グループ

研究計画：細繊維度の優性3眠蚕系統を育成するため素材の選定を行う。セリシン蚕では、セリシン量の改良を行うとともにセリシン蚕の上蔭法を検討する。また、綿繭等、特異な繭糸質を有する品種の系統選抜を開始する。また、特徴ある蚕品種の飼育に適した効率的な桑栽培技術と飼育法を確立するため、異なる桑葉の比較試験を開始する。さらに保有するカイコ育種素材系統を維持、増殖しつつ、家系、血縁等に着目したDNAレベルのデータに基づく素材評価法の開発と有用物質生産用等、新規性のある素材

系統の開発に着手する。

(2) キチン、フィブロイン等を用いたファインケミカル等機能性素材の開発

キチン、フィブロイン等を用いた精密化学製品等機能性素材の開発

担当：昆虫新素材開発研究グループ

研究計画：キチンミクロスフェアを薬物徐放剤に利用するため、粒径の均一なミクロスフェアを得るための効率的な化学修飾法及び調製方法の検討を行う。

(3) 絹フィブロイン等生体高分子の理化学的特性の解明と創傷被覆材等への利用技術の開発

絹フィブロイン等生体高分子の理化学的特性の解明と創傷被覆材等への利用技術の開発

担当：昆虫新素材開発研究グループ

研究計画：絹タンパク成分の単離と材料特性の解明及び絹粉末複合による合成樹脂の改質を検討する。また、クモ糸タンパクを対象に、種々の分光手段を用いて高次構造の解析を行う。

(4) 昆虫由来色素等の抽出・機能評価、新衣料素材の作出及びシルクの機能性利用と加工技術による生活用素材の開発

昆虫由来色素等の抽出・機能評価及び新衣料素材の作出

担当：昆虫生産工学研究グループ

研究計画：昆虫由来色素で染色したタンパク質繊維の繊維害虫による食害試験により、昆虫由来色素の機能評価を行う。また、シルクの機能性利用のため、太繊維度シルク用感知器の設計・試作を行うとともに、細繊維度繭糸利用複合よこ糸の作製と加工を行い、超薄地織物の設計を行う。

シルクの機能性利用と加工技術による生活用素材の開発

担当：昆虫生産工学研究グループ

研究計画：絹タンパク質への機能性付与に向けた基礎的知見を得るために、セリシンタンパク質への化学修飾手法を検討する。細繊維度繭糸蚕「はくぎん」の3眠化繭を用いた場合の極細繊維度生糸の繊維制御技術を開発するとともに、伸縮性繊維とのハイブリッド化による伸縮性を有する太繊維度生糸の繰製方法を検討する。平面絹の用途として、インテリア製品の開発を行う。

D バイオテクノロジーを支える基盤技術の開発

1) 生物の多様性の解明と保全・利用技術の開発

(1) 遺伝子情報等に基づくイネ属等植物及び植物病原微生物の多様性解析

オルガネラ遺伝子情報等に基づく植物の多様性の解析

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：葉緑体遺伝子等の塩基配列に基づく栽培植物及びその近縁野生植物の遺伝子多様性を解析し、その関係を明らかにする。

植物病原微生物のゲノム構造における病原性関連遺伝子群の解析

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：代表的な植物病原細菌であるイネ白葉枯病菌のhrp等病原性遺伝子群をクローン化し、その構造を明らかにする。

擬頭を形成するフザリウム属菌等の分類形質の再評価

担当：遺伝資源研究グループ・ジーンバンク

研究計画：擬頭の形成が主要な鑑別形質とされるフザリウム属菌の種について、分子系統データと比較して分類形質を再評価、整理し、さらに種の記載、再定義を行う。

(2) 野生植物等の集団動態解析法の開発及び動物遺伝資源の特性維持、保全手法の効率化

アズキ集団動態解析のための分子マーカーの作出

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：日本に自生する代表的作物・野生種複合であるアズキ作物・野生種複合を対象に、アズキのマイクロサテライトをクローニングして、集団構造動態調査のためのマーカーを開発する。

豚小集団等の遺伝的多様性を推定するためのモデルの選択

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：豚の小集団を対象に、直接遺伝効果、母性遺伝効果、母性環境効果等のモデルへの寄与を明らかにし、有効な評価モデル構築に着手する。

(3) イネ栽培種等植物の環境適応機能及び重複遺伝子等の機能の多様性解析

イネ属植物等における遺伝子ファミリーの機能の多様性の解析

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：イネカタラーゼ遺伝子CatAプロモーター領域に挿入されている転移性因子と遺伝子発現との関係について明らかにする。

植物の限界環境適応機構に関わる分子機能の多様性解析

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：植物の耐凍性等の機構に関わるタンパク質等の探索、単離を行い、限界環境適応能及び分子機能の多様性を解析する。

(4) 物質生産性等微生物の有用機能の多様性解析

微生物の生物間相互作用に関わる遺伝子の解析

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：代表的な病原微生物であるイネいもち病菌の病原性発現に係わる遺伝子群のうち、非病原性遺伝子の解析を行う。

(5) 家畜配偶子と胚（生殖質）の保存のための増殖技術の開発及び野生植物等の生息域内保存のための調査研究

ブタ等生殖細胞からの胚作出系の開発

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：卵管上皮培養液を添加したコンディションメディア等を用いた培養条件が、ブタの卵子の発生能及び初期胚の発生能に及ぼす影響を明らかにする。

野生種集団における多様性の地理的分布の解析

担当：遺伝資源研究グループ

研究計画：アジアにおける代表的作物近縁野生種であるイネ属やアズキ亜属の野生種における集団の多様性に関する地理的分布を調査する。

2) 実験用動植物の開発

(1) ミュータントパネルの作出

ミュータントパネルの作出

担当：分子遺伝研究グループ

研究計画：遺伝子破壊システムを作出して4万系統とする。また、破壊遺伝子の解析を行う700系統を圃場に展開し、観察される変異形質をデータベース化する。

(2) マウスにおける遺伝子改変技術の開発と疾患モデルマウスの作出

免疫不全及び炎症性疾患モデルマウスの作出

担当：生体防御研究グループ

研究計画：トランスジェニックマウス、ノックアウトマウス及び多因子疾患モデルマウスを遺伝的背景の異なるマウスと交配を行う。また病態解析及び遺伝解析を行う。

疾患モデル動物作出のための効率的・新規技術の開発

担当：生体防御研究グループ

研究計画：効率的にモデル動物作出技術開発を行うために、実験用マウスを対象とし、雄生殖細胞のゲノムの改変技術を検討する。

(3) 形質転換ブタ作出技術の開発・改良

形質転換ブタ作出のための個別技術の高度化と技術体系の構築

担当：生体防御研究グループ

研究計画：ブタ体外培養受精卵の移植による産子生産技術を確立し、ブタ受精卵前核注入法によるトランスジェニックブタ作出の効率化を行う。また、動物細胞で複製可能な人工染色体の開発に取り組む。

3) 組換え動植物作出のための基盤技術の開発

(1) 新規な部位特異的プロモーターや誘導性プロモーターの開発

新規の強力プロモーターカセットの開発

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：恒常的に強く発現するプロモーター(EFプロモーター)についてその発現パターンを解析する。また、利用しやすいようにカセット化を図る。

バイナリー型植物発現ベクターの開発

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：植物起源の多様なプロモーターあるいはエンハンサー配列を組み込んで、植物における特性を検定するための新規バイナリー型発現ベクターの構築を実施する。

(2) 高等植物における相同組換え技術開発のための要因解析

高等植物における相同組換え技術開発のための要因解析

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：相同組換えに直接関与すると考えられるRad52経路の遺伝子をイネ、アラビドプシスより単離解析すると共に、これらの遺伝子の発現を増減させた植物体を育成し、相同組換え能の変化について

解析する。

(3) コムギ等難培養性作物における形質転換技術の開発・改良

コムギ及びダイズの形質転換技術の開発及び改良
担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：コムギについては効率的な再分化系を確立するために、高い再分化能を有する品種や系統の検索及び作出を行う。

(4) トランスポソンの改良等に着眼した組換え体昆虫等の作出技術及び昆虫培養細胞系簡易作出技術の開発と培養細胞系による昆虫免疫反応解析系の確立

トランスポソンの改良等に着眼した有用物質発現系構築のための組換え昆虫及び組換えウイルス作出技術の開発

担当：昆虫生産工学研究グループ

研究計画：昆虫へのDNAの注射法の改良等による組換え昆虫の作出法の改良及び組織特異的なプロモーターを利用した導入遺伝子の発現特性の解析並びに昆虫への接種法等の改良による組換えウイルスの感染向上法の検討を行う。

昆虫培養細胞系簡易作出技術の開発と培養細胞系による昆虫免疫反応解析系の確立

担当：昆虫生産工学研究グループ

研究計画：昆虫培養細胞株を短期間に作出するため、細胞接着基質の選抜と、特異遺伝子の導入法を開発する。また順次作出された培養細胞株の機能を解析する。作出された培養細胞株を利用して微生物の各種細胞壁構成成分に対して応答能のある免疫研究モデルとなる培養細胞株を選抜する。また同細胞株を用いて昆虫生体防御関連遺伝子プロモーターの転写調節領域の解析法の確立を図る。

(5) 社会的受容性の高い新規選抜技術の開発

社会的受容性の高い新規選抜技術の開発

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：遺伝子組換え作物の社会的認知の向上及び技術の高度化を図るために、抗生物質を用いた選抜マーカーを回避する技術の可能性を検討評価する。

代謝系遺伝子等を利用した選抜技術の開発

担当：新生物資源創出研究グループ

研究計画：動物由来代謝系酵素遺伝子を用いた形質転換植物体選抜の可能性を明らかにする。また、選抜マーカーとしての利用可能性を探るため、再分化関連遺伝子の解析を行う。

(6) 安全性評価手法の開発

組換え体の環境に対する安全性評価手法の高度化
担当：新生物資源創出研究グループ
研究計画：植物ホルモン等の遺伝子導入により積極的に形態を変化させた組換え農作物について、閉鎖系温室において他感物質の産生や雑草性に関わる特性等について調査するとともに、遺伝子を導入した組換え体植物における外来遺伝子とその産物の台木・穂木間での転流の有無について、DNA及びmRNAレベルで解析する。

E 生物遺伝資源の収集、評価、保存・増殖、配布、情報管理

(1) 遺伝資源の探索・特性評価・素材化

遺伝資源の探索・収集とネパール産ソバ野生種の遺伝特性の解析
担当：ジーンバンク
研究計画：ネパールから探索・収集したソバ属野生種のRAPD分析を行い、ネパール産野生種ソバの遺伝特性を明らかにする。収集・受入目標点数は、概ね植物4千点、微生物5百株、動物18点を目安とする。

遺伝資源の特性評価・素材化と遺伝特性評価のための家禽等のDNAマーカー開発

担当：ジーンバンク

研究計画：家禽（アヒル、ニワトリ）等動物遺伝資源の特性評価のためのマイクロサテライトDNAマーカーを開発するとともに、野生種等の有用遺伝子利用に着目し育種素材化を進める。特性評価目標点数は、概ね植物15万点、微生物1万5千点、動物7百点を目安とする。

(2) 遺伝資源の保存・管理と品質管理法の高度化

遺伝資源の長期保存と汚染種子微生物相の解析

担当：ジーンバンク

研究計画：アルタナリア等種子汚染微生物がナス科等野菜種子の発芽に及ぼす影響を明らかにするとともに、引き続き動植物、微生物遺伝資源の長期保存を進める。

遺伝資源の情報管理・提供システムの高度化と導入遺伝資源の情報公開

担当：ジーンバンク・遺伝資源研究グループ

研究計画：遺伝資源の来歴情報及び特性情報の管理・提供システムを高度化するとともに、海外から導入した植物遺伝資源の情報公開に着手する。また、引き続き海外との遺伝資源交換を円滑化するための

枠組み構築を進める。

専門研究分野を活かした社会貢献

(1) 分析、鑑定

依頼分析及び鑑定の為の規程を整備して、民間等からの分析及び鑑定の依頼に応じる。

(2) 講習、研修等の開催

都道府県の研究者を対象にしたバイオテクノロジー研修を実施するほか、国が主催する研修に積極的に協力する。

依頼研究員規程（仮称）、講習規程（仮称）等を整備して、他独立行政法人、大学、公立研究機関、民間等の研修生、を受け入れるほか、JICA等の海外からの研修生も積極的に受け入れる。

外部に対する技術相談窓口を設置し対応する。

(3) 行政、国際機関、学会等への協力

国やJICA等からの要請に応じて専門家を派遣する。

ゲノム等先端研究に関する国際会議を開催する。

依頼照射手続きを簡素化し、公立機関、民間等からの依頼照射の促進に努める。

成果の公表、普及の促進

(1) 成果の利活用の促進

直ちに利活用できる（普及に移しうる）成果を得られるよう努める。

研究資料、研究成果情報、研究所年報（和文、英文）及び研究所ニュース等を発行する。

インターネットのホームページを随時更新し、最新の情報を提供する。

遺伝資源の配布規程を整備し、配布を行う。

ゲノムの塩基配列情報は、インターネット等を通じて迅速に公開する。

単離した有用遺伝子等の研究成果は共同研究や研究成果移転促進事業により、他の独立行政法人や民間等に技術移転する。

(2) 成果の公表と広報

得られた研究成果については、迅速な学会発表や論文発表を奨励する。

研究所の展示室、つくばリサーチギャラリーについては、最新の成果を展示する。

また、研究所の公開を行うとともに見学者への案内

に努める。

(3) 知的所有権等の取得と利活用の促進

職務発明規程、育成者権等利用規程、特許権等実施規程等を整備し、知的所有権の取得を奨励するとともに外国への出願も行う。

育種の研究成果が得られた場合は、積極的に品種登録を行う。

実用化の促進を図るために研究成果移転促進事業等を通じて知的所有権の利活用を促進する。

予算（人件費の見積りを含む。） 収支計画及び資金計画

13年度予算額については、適切な業務運営に努め、効率的に執行する。

平成13年度収支計画

（単位：百万円）

平成13年度予算 （単位：百万円）	
区分	金額
収入	
運営費交付金	8,011
施設整備費補助金	109
受託収入	5,695
諸収入	8
計	13,823
支出	
業務経費	2,132
施設整備費	109
受託経費	5,695
試験研究費	5,434
管理諸費	261
一般管理費	1,525
研究管理費	185
管理諸費	1,340
人件費	4,362
計	13,823

（注記）4月1日確定額に基づき作成

区分	金額
費用の部	13,328
経常費用	13,328
人件費	4,362
業務経費	1,846
受託経費	5,225
一般管理費	1,517
減価償却費	378
財務費用	0
臨時損失	0
収益の部	13,328
運営費交付金収益	7,717
諸収入	8
受託収入	5,225
資産見返負債戻入	57
資産見返物品受贈額戻入	321
臨時収益	0
純利益	0
目的積立金取崩額	0
総利益	0

（注記）4月1日確定額に基づき作成

平成13年度資金計画

(単位：百万円)

区分	金額
資金支出	13,823
業務活動による支出	12,950
投資活動による支出	873
財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	0
資金収入	13,823
業務活動による収入	13,714
運営費交付金による収入	8,011
受託収入	5,695
その他の収入	8
投資活動による収入	109
施設整備費補助金による収入	109
その他の収入	0
財務活動による収入	0

(注記) 4月1日確定額に基づき作成

その他農林水産省令で定める業務運営に関する計画

1 施設及び設備に関する計画

13年度の施設及び設備に関する計画は、研究棟上水・井水配管改修を行う。

2 人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）

1) 人員計画

(1) 方針

重点研究領域への職員の重点配置等を行うことにより、研究業務の効率的、効果的な推進を行う。管理部門については、事務処理の一元化等を行い、効率化を図るとともに、適切な職員配置を行う。

(2) 人員に係る指標

13年度は、業務の効率化を図り、常勤職員3名の減を行う。

2) 人材の確保

職員の新規採用については、選考採用及び国家公務員採用試験の活用により行う。研究職員については任期付任用の拡大を図る。また、中期目標達成に必要な人材を確保するため、ポストドクター等の派遣制度を活用する。

広く人材を求めるため、研究を行う職については公募の導入を図る。

平成13年度の業務の実施状況

I. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 研究業務の効率化

(1) 評価・点検の実施

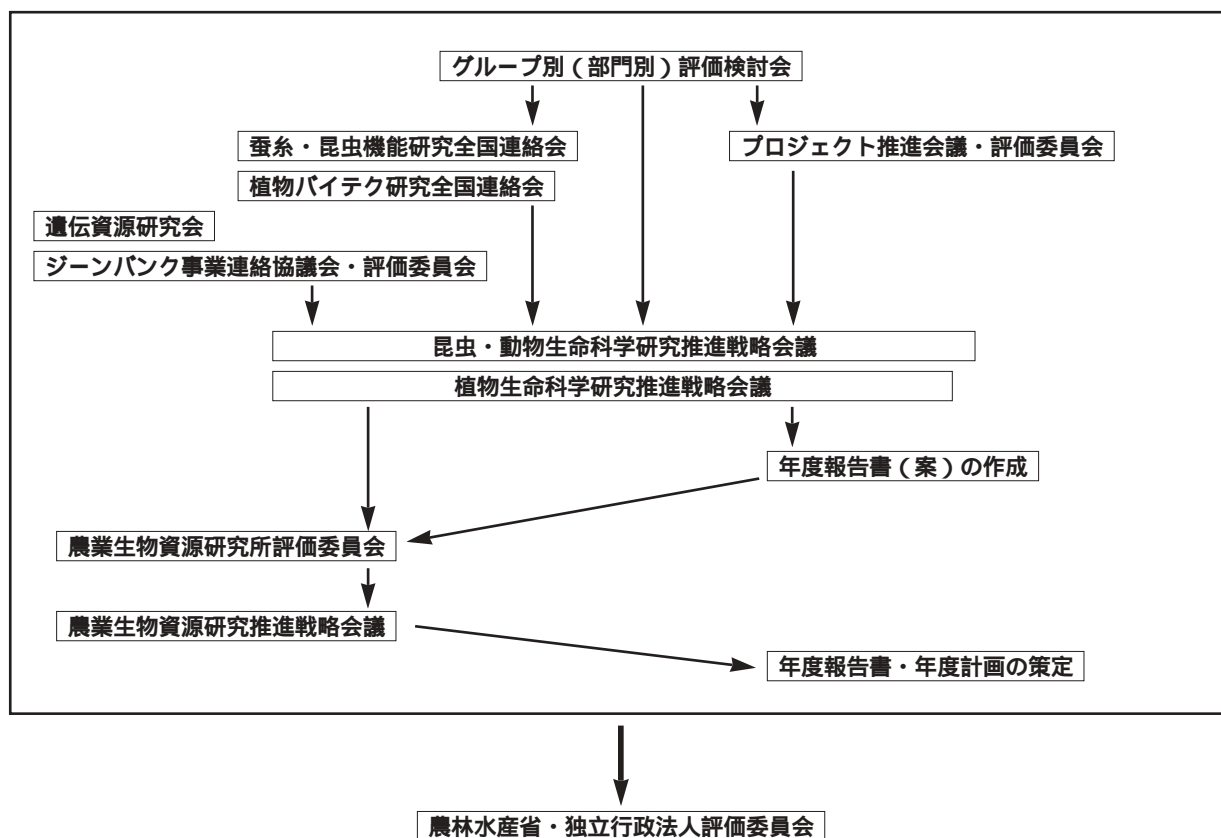
グループ別評価検討会から始まり、生物研評価委員会に至るまでの諸会議の開催の流れを明確化し、各会議における自己点検及び生物研評価委員会における評価項目、評価基準を定めた。

独立行政法人農業生物資源研究所評価委員会設置要領を定め、平成14年3月19日に評価委員会を開催し、外部評価委員による評価が行われた。

グループ別評価検討会を開催し、実施課題の達成状況と次年度計画を検討するとともに主要研究成果候補課題の選定を行った。他独立行政法人、民間、大学等の研究者の参画のもとに、昆虫・動物生命科学研究推進戦略会議、植物生命科学研究推進戦略会議を開催し、小課題レベルの達成状況と中課題レベルの問題点及び主要研究成果の検討を行った。農業生物資源研究推進戦略会議において主要な研究成果（35課題）を決定した。

研究職員の業績審査大綱及びマニュアルを作成中である。

諸会議等の流れ



2 研究資源の効率的利用

研究資源の効率的利用を図るため、所内研究推進費等（総額約60万円程度）の所内制度を設け、中期計画達成のために特に強化が必要な研究課題について海外旅費（14件）、所内研究推進費（24課題）、研究活性化経費（19件）の配分を行った。

所内の研究者が科学技術振興調整費等のプロジェクトへ応募することを奨励、援助し、17の制度に対し49件の応募を行った。13年度は生研機構の「新技術、新分野創出のための基礎研究事業」の一般型2課題、若手型1課題、科学技術振興事業団の「権利化試験事業」1課題並びに宇宙開発事業団の「宇宙環境利用に関する地上研究」1課題の4制度で5課題が採択された。

農林水産省の2つの交付金プロジェクトにおいて、特に評価の高い課題について重点課題として位置付け、研究費を増額するなど評価結果をもとに重点的な配分を実施した。

組換え体温室（BPRC）等、RI実験棟、植物ゲノム機能解析棟（PFGL）等の施設については、運営委員会等を設置し、これらの効率的な運営を図った。また、圃場委員会を設け実験圃場の効率的な運営を図った。研究所の共用機械のリストを作成し、共同利用、効率的維持管理の促進を図った。

他の独立行政法人と相互利用する施設等について覚書を交わし、事業推進の円滑化を図った。

3 研究支援の効率化及び充実・高度化

企画調整部に技術移転科を設置し、植物バイオテクノロジー関係の主任研究官1名及び動物バイオテクノロジー関係の研究員1名を配置し、知的所有権の取得と技術移転業務を強化した。

有料オンラインジャーナルについては、独立行政法人の幅広い研究領域をカバーするために、従来の16誌から36誌に拡大した。また、独立行政法人農業環境技術研究所、同食品総合研究所、同国際農林水産業研究センターとともに、総合オンラインジャーナルScience Directをコンソーシアムによる契約で導入した。さらに、所内向けホームページにオンラインジャーナルの一覧及び利用法を掲載し、研究支援の充実・高度化を図った。

研究施設、特殊空調設備、高度機器等の保守管理業務の外部委託を進めるとともに、桑園業務に関して業務科職員の指導のもとに人材派遣システムを利

用し、研究支援業務の充実及び効率的運営を図った。また、構内環境整備等についても外部委託を進めた。

研究支援のため科学技術振興事業団重点研究支援協力員制度により、6チームのべ29名の人材（テクニシャン）を確保した。

4 連携、協力の促進

（1）他の独立行政法人との連携、協力

独立行政法人農業生物資源研究所共同研究実施規程、依頼研究員受入れ規程、職務発明規程等を定め、共同研究や技術移転を行った。農林水産省所管の試験研究を主たる業務とする8独立行政法人と研究協力に関する協約を結んだ。独立行政法人国際農林水産業研究センターとの間で国際共同研究についての協約を結んだ。また、独立行政法人農業技術研究機構の融合研究「安全性に配慮した実用的な病害抵抗性組換えイネ系統の開発」及び「トリプトファン含量の高い飼料用イネの開発」に協力した。

ジーンバンクに関係する独立行政法人との間で、ジーンバンク事業の円滑な推進を図るため、「ジーンバンク事業連絡協議会」を設置し、ジーンバンク事業基本計画を定めるとともに平成13年度年次計画を策定した。

（2）産学官の連携、協力

国際コンソーシアムのリーダーとしてSTAFF研究所と共同でイネゲノム全塩基配列の解読を強力に推進した。イネゲノムの有用遺伝子の単離・機能解明においては、ミレニアム・ゲノム・プロジェクト「イネゲノム」のリーダーとして、産学官の関連研究室の研究を強力に推進した。このためイネゲノム研究推進事務局を設置し、プロジェクトの事務局機能、イネゲノム研究の広報、研究者間の連絡についての体制を強化した。また、新規課題のインターネットを利用した公募を行った。さらに、イネゲノムリソースの整備を行い、我が国のイネゲノム研究者への技術及び材料の提供を行った。

委託プロジェクトにおいてリーダーとして産学官にまたがる研究の推進及び取りまとめを行った。

国際イネゲノムフォーラム、COE（植物ゲノム機能研究）国際シンポジウム「植物遺伝子の機能解析」、「植物の転写因子」、COE（昆虫機能利用研究）国際シンポジウム「昆虫工場の開発」、開放的融合研究国際シンポジウム「造血細胞」、「水素、水和構造」等を開催した。昆虫ゲノム研究「ゲノム創農業」推進のため、民間を対象に意見交換会及び説明会

を開催した。「蚕糸・昆虫機能研究全国連絡会」及び「植物バイテク研究全国連絡会」を開催し、他の独立行政法人、大学、民間等の研究者の参画を求め、意見交換及び農業生物資源研究所に対する要望等の把握を行った。

科学技術協力に関する政府間協定を活用して、米国、英国など16か国と44課題の共同研究を行った。また、ジーバンク事業では他の独立行政法人（サブバンク）と協力して4か国で野生稻等の探索及び2か国でイモ類等の遺伝資源共同調査を行った。

公立研究機関が実施している先端技術等地域実用化研究促進事業（バイオテクノロジー実用化型）による助成研究や指定試験事業（桑品種育成）に協力し指導を行った。筑波大学大学院等との連携大学院に参画した。

民間から共同研究の依頼があった18件につき、所内審査会の検討を経て実施している。

得した。

研究成果の評価としての各種表彰受賞者は、文部科学省研究功績者表彰、文部科学省第60回注目発明、文部科学省平成13年度創意工夫功労者表彰、2002年度日本畜産学会賞、第2回日本応用動物昆虫学奨励賞、平成13年度畜産大賞最優秀賞、貞明皇后記念蚕糸技術賞、蚕糸有効賞等であった。

5 管理事務業務の効率化

事務処理の効率化を図るため、独立行政法人標準会計システムを導入し、予算から決算までの会計事務をシステム化するように努めた。

従来帳簿方式であった文書原簿、物品管理簿等を電子化し、検索等を容易にすることにより、事務処理の迅速化を図った。

ペーパーレス化に資するため、ホームページ及びメールを活用し、各種様式のダウンロードを可能にすることによって情報伝達の効率化を図った。

管理経費の節減に努めるため、電気供給契約及び冷暖房設備稼働等の見直しを行った。

6 職員の資質向上

業務上必要な各種研修及び講習会に一般職員15名、技術専門職員5名、研究職員13名を参加させ資質の向上に努めた。また、独立行政法人標準会計システムの導入にあたり研修会を実施し、新たな会計処理のための資質の向上を図った。

研究推進の加速化及び最新の研究情勢等の知見を得るため、長期在外研究も含め海外に延べ189名を派遣するとともに、海外から研究者を116名招へいし、研究員の資質の向上に努めた。

研究職員のうち博士号未取得の研究者については、チーム長等がその取得に向けて指導するとともに、研究推進にも配慮し、取得しやすい研究環境の醸成に努めた結果、平成13年度は2名が博士号を取



国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

試験及び研究並びに調査

A ゲノム生物学等を利用した生命科学研究

1) ゲノムの構造解析とゲノム情報解析システムの開発

イネゲノムの全塩基配列については11か国・地域が参加する国際コンソーシアムのリーダーとして、担当する染色体のうち第1染色体のphase2レベルでの解読を終了し、第2染色体の75%、第6染色体の85%、第7染色体の70%、第8染色体の70%を同レベルで解析した。これらはコンソーシアム全体が解析した270Mbの63%に相当する。また、完全長cDNAライブラリーについては、3月末現在で目標30,000種のうち24,500種を整備した。カイコゲノムについては、物理地図の作製を進め、ESTマーカーを用いたハイブリダイズ法により、全ゲノムの約30%をカバーするBACコンティグを遺伝地図上に位置づけた。ブタでは、染色体重要領域のゲノム構造の解析を行うとともに、アポトーシス関連遺伝子等生理機能上重要な遺伝子のクローニングとマッピングを行うなど顕著な成果が得られている。

(1) イネのゲノム構成及びイネゲノムのDNA塩基配列の解析

イネ第1染色体のDNA塩基配列の解析

第1染色体においては、すでに12年度に全体の80%にあたる40Mbの領域にPAC/BACクローンを整列化したが、本年度はさらにウォーキングによってギャップ領域を埋め、15あったコンティグを11に減らした。カバー領域は84%、43Mbと上昇した。日本が担当になった他の4本(第2、6、7、8)の各染色体に対してPAC/BACクローンを整列化した結果、各染色体共に70~80%の領域に物理地図を構築した。

イネ第6染色体の物理地図作成とDNA塩基配列の解析

第6染色体解析についてはすでにキャピラリーシーケンサーや分注ロボットを中心とした効率的な塩基

配列解析システムを構築したが、平成14年末のイネ全塩基配列高精度解析終了をめざして、本年度にはさらなるシステムの強化に向けて各ステップにおいて効率化を実現し、月当たり最高80~100 PAC/BACクローンの配列解析を行った。この結果、月当たり8~10Mbのペースで配列を公開した。

(2) イネ完全長cDNAクローン収集とデータベースの構築

平成12年度に収集された完全長cDNAクローンのクラスタリングとデータベース化

理化学研究所が開発した2段階クラスタリング法を適用し、ランダムにピックアップし、端読み配列解析された5'端配列及び3'端配列のうちから、3'端配列を用いて、28,000グループにクラスタリングを行った。そのうち完全長読みされた分について、完全長配列レベルでの再度のクラスタリングを行った。リダンダントな配列を除き、NCBI GenBank登録配列との相同性検索等を行い、最終的に15,826件をDDBJ登録、Web公開に向けた。

平成13年度に収集される完全長cDNAクローンのクラスタリング

端読み配列解析された5'端配列及び3'端配列から、3'端配列を用いて、28,000にグループ化を行った。グループ端読み配列をclustal Wで、アラインメント化して、個々のグループにおいて最長のクローンを代表クローンとして選別した。端読み配列からの代表クローンを完全長配列解析にまわすとともに、蓄積した端読みデータ、または、端読み配列が得られた元ライブラリー情報を用いて、クローンの出現の特異性、GC含量の変化、転写開始位置の予測、ゲノム配列との比較等を行った。

(3) ブタ及びカイコ等の遺伝地図と物理地図の作成

ブタの高密度遺伝地図、物理地図の作成

ブタT細胞抗原受容体δ鎖可変領域のゲノム構造の解析を行うとともに、アポトーシス関連遺伝子等ブタの生理機能上重要な遺伝子のクローニングとマッピングを行った。また、キジ目のmtDNAを効率よく決定する方法を開発し、遺伝的多様性及び分子系統学的解析を進めた。

カイコの高密度遺伝地図、物理地図の作成
全ゲノムBACコンティグ作製では6,200個の全EST
マーカーのうち、これまでに2,500個を用いたハイ
ブリ法により、スクリーニングを行った。得られた
167個のコンティグが遺伝地図上に位置付けられ、
ゲノムの約30%がカバーできていると考えられた。
第2、6、Z、W染色体においてBACコンティグ
(合計5Mb)を作成し、そのうち1.2Mbのシーケ
ンスを決定した。地図上に位置付けたマーカー数は合
計306個となった。

(4) ゲノム機能予測技術の開発

コード領域予測技術の開発

既に生物研が開発し公開しているイネ用遺伝子領域
予測プログラム(RiceHMM)について、パラメー
タチューニングを行い性能向上(予測精度の向上、
予測遺伝子数の増加)を図った。予測精度は約15%
向上し、予測遺伝子数は約25%増加した。

(5) イネゲノム統合データベース基盤の開発

イネゲノムデータベースINEの改良

イネゲノムデータベースINEの拡張を行った。具体
的には6,591個のESTのゲノム上の位置を明らかに
した。発現遺伝子地図データを研究者が参照しやす
い形に加工して公開するとともに、INEの他の地図
と統合した。また塩基配列国際コンソーシアムの国
外のグループの解析結果データをINEに組み込み、
公開した。

2) ゲノム情報等を活用した遺伝子の単 離と機能解明

イネ有用遺伝子についてはマップベースクローニ
ングにより、脱粒性遺伝子を単離・機能解明し特許出願
するとともに、遺伝子破壊系統(ミュータントパネル)
を用いて半矮性、直立葉、穎形態異常等を示す遺伝子
を単離し、特許を出願した。また、ブタでは背脂肪厚
に關与する遺伝子、カイコでは膿核病ウイルス抵抗性
遺伝子が存在する染色体領域の絞り込みを行うなど順
調に進展している。

(1) 遺伝地図情報を利用したイネ有用遺伝子の単離

遺伝地図情報を利用したイネ有用遺伝子の単離

脱粒性遺伝子については、相補性検定による機能の
証明を終了し、特許を出願した。第5染色体上に存
在する一つの遺伝子について、RFLPマーカーによ
る連鎖地図を作成して位置を特定した。遺伝子近傍

のSTSを利用して周辺のPACゲノミッククロー
ンを整列化させ、遺伝子領域を含むPACクローンの
塩基配列を解析して新たなSNP/SSRマーカーを作
出し、候補ゲノム領域を絞り込んだ。

(2) イネミュータントパネルを利用した遺伝子機能 解析システムの開発と利用

イネミュータントパネルを利用した遺伝子機能解 析システムの開発と利用

日本晴由来の変異系統9,600系統より3次元的にス
クリーニング出来るように $8 \times 12 \times 10 = 960$ 系統を1
集団として、10集団合計9,600系統よりプール化D
NAを調製し、これまでに作成したプールと合わせ
て37,440系統がPCRスクリーニングの対象として利
用可能になった。このシステムを利用してシグナル
伝達に關与する遺伝子の4つの独立な変異体を単離
し、その全てにおいて形態異常を確認した。

(3) 遺伝地図情報等を利用したブタの椎骨数、カイ コのDNV抵抗性遺伝子等の単離

比較遺伝地図情報等を活用したブタの生産形質関 連遺伝子座の同定

ブタ椎骨数関連QTL(量的形質遺伝子座)領域の
整列地図作製のためヒトゲノム情報より95個の
BACクローンの単離及び候補遺伝子を含むBACク
ローン及びcDNAの解析を行った。未解析のF2個
体データを追加して背脂肪関連QTLの再解析を行
い、5.3cMの範囲に領域を絞りこんだ。繁殖障害ゲ
ノム領域中のTGFB1遺伝子のゲノム構造を決定し
た。集団中で分離したQTLの個数に関するベイズ
推定法を開発した。RAG-1遺伝子を用いたノックア
ウトベクターを作製して特許を申請した。

発現遺伝子の部分塩基配列情報等を利用したブタ の椎骨数や肉質等に關与する遺伝子の単離

肉量に關連するブタ椎骨数候補遺伝子の多型と形質
との関係を明らかにするため、第1染色体椎骨数関
与領域に存在するFTZ-F1遺伝子を含むBACクロー
ンを単離し、そのゲノム構造を解析した。FTZ-F1
遺伝子のORF領域に9個のSNPを検出したが、い
ずれもアミノ酸置換に結びつく変異ではなかった。
ブタの脳組織特異的ライブラリーについては海馬、
嗅球の完全長ライブラリー - の作製を行い、予備的解
析から、完全長率はそれぞれ76%、66%であった。

カイコDNV抵抗性遺伝子等の単離

カイコ膿核病ウイルス抵抗性遺伝子Nid-1に加えて2
型抵抗性遺伝子nsd-2について、RFLPによりマッピ
ングを行った。両遺伝子近傍のcDNAクローンをプ

ロープにして、BACライブラリーのスクリーニング、ポジティブクローンのフィンガープリントを行い、近傍領域のコンティグを作成した。

(4) 遺伝子群発現モニターシステムの開発

遺伝子発現モニタリングシステムの構築

イネ9,000ESTアレイを用いた解析の2巡目を終了した。2色蛍光ラベリング法を検討し、従来の1色ラベリング法に加えて2色ラベリング法による解析についても受付を開始した。平成13年度末で、411RNAサンプルについてハイブリダイゼーション実験を終了し、画像データは担当者に返送した。独立9,000ESTクローンに対応する3'-UTRアレイの作成に着手した。アレイ実験に関するWebサイトを立ちあげ、利用者の便宜を図った。

(5) タバコ等の遺伝子レベルでの細胞内シグナル伝達系の解析

植物の病害抵抗性遺伝子に関する研究

TMV感染あるいは傷害を受けたタバコより、4つのカルシウム結合モチーフをもつ13種類の遺伝子を単離した。これらは推定アミノ酸配列から、タイプ、に分類された。それぞれの遺伝子に特異的なプローブを用いたノザン解析の結果から、これらはTMV感染によるHR、傷害、サリチル酸及びジャスモン酸処理などに対して異なる転写制御を受けていることが明らかになった。

葉等の形態形成機構の解析

ブラシノライド依存性変異体で、変異形質が挿入DNAが原因で起こっているかどうか遺伝解析を行った。変異形質を示す植物体の中で、挿入DNAを持たないものが存在したことからこの変異体は挿入DNAによるものではなく、培養により生じた事が示された。この変異体の葉鞘は非常に短い。縦断切片観察の結果、葉鞘の細胞が小さく、細胞伸長の異常が矮性の原因と考えられた。

(6) 染色体構造の変化やDNAの修飾に着目した遺伝子発現調節機構の解析

ジーンサイレンシングに関与する遺伝子とシグナルの解析

イネから2種類のDDM1相同遺伝子を単離し、それらがコードするタンパク質のアミノ酸配列を比較したところ、高い同一性を示した。シロイヌナズナのDDM1と比較すると、いずれも60%程度の同一性を示した。それぞれの相同遺伝子は第9染色体及び第3染色体に位置することが明らかとなった。

メチル化部位のゲノムマッピング

制限酵素ランドマークゲノムスキャンニング(RLGS)分析における二次元電気泳動像から効率的にメチル化部位を認識識別するために、RLGS解析支援ソフトを完成させた。これは、(1)インターネットを介して公共データベースから収集されたシーケンス情報を利用し、RLGS分析で用いる制限酵素の切断位置と切断によって得られるDNA断片の分子量を検出する、(2)RLGS二次元画像から可視化されたDNA断片(スポット)の位置情報を解析し、メチル化部位の検出を高速化するものである。

3) タンパク質の網羅的解析と構造生物学的解明

イネタンパク質の2次元電気泳動により、16,000個の独立スポットを確認し、そのうち約2,600個の部分的アミノ酸シーケンスを行った。また、ジベレリンやブラシノライド等植物ホルモンに関与する遺伝子を単離し、特許を出願するとともに、 α -アミラーゼの立体構造を解析し、機能の解明を行うなど順調に進展している。

(1) 遺伝子発現産物の構造・機能の網羅的解析

プロテオーム解析技術による植物ホルモン情報伝達機構の解析

微量タンパク質であるリン酸化タンパク質に焦点を絞り、質量分析計でリン酸化ペプチドを検出する条件を決定した。この方法を未知のリン酸化タンパク質に応用するために、まずプロテインキナーゼの検出を行った。プロテインキナーゼの下流にあるリン酸化タンパク質を解析し、ジベレリンやブラシノライドの制御下、ジベレリンの下流で5種類、ブラシノライドの下流で4種類の計9種類のリン酸化タンパク質がリン酸化、脱リン酸化されることを見出した。

タンパク質情報のデータベース化

Webブラウザで閲覧可能なプロテオームデータベース作成のためのデータ作成、データ入力システムを構築し、プロトタイプのデータベースを作成した。具体的には、PC(Windows)上のOracle8iデータベースに、課題一覧情報、2次元電気泳動像、各スポット情報、部分アミノ酸配列情報及びホモロジー検索情報、実験者情報を入力し、Web画面を作成した。また一部のアミノ酸配列情報についてはホモロジー検索を実施し、その結果を表示した。

(2) タンパク質の立体構造及び機能発現機構の解明

酵素・機能性タンパク質など生物学的に重要なタンパク質のX線解析法による立体構造の解明とタンパク工学的手法による機能の解析

中等度好熱菌 α -アミラーゼのX線解析を行い、2.0 分解能の立体構造を解明した。このデータを基にした蛋白工学的手法により、さらに熱安定性の高い変異体の作製に成功した。一方、放線菌由来キシラナーゼについては、基質との複合体のX線解析により、基質の基質結合ドメインへの結合様式を明らかにした。蛇毒由来タンパク質について、bitiscetin のX線解析を行い、VWFとの結合サイトを推定した。

植物ウイルスのX線結晶学的研究

イネ萎縮ウイルス(RDV)について分解能3.5 のX線解析が終了し、側鎖を含めた構造の全容が明らかになり、構造の精密化に着手した。コックスフットモットルウイルス(CfMV)については結晶を作製し、分解能4.0 までのX線データを部分的に収集した。

イネ構造ゲノム解明に向けての発現、精製、立体構造解析に関する研究

16種類のイネタンパク質の大量発現系の構築及び精製法を検討し、8種類のタンパク質について構造解析者にサンプルを提供することが可能な精製法を確立した。また、チオレドキシン融合タンパク質として目的タンパク質を発現した場合、発現量が多くかつ可溶性の状態でも目的タンパク質が得られることが多いこと、大量発現用のベクター構築は人為差や導入フラグメントのベクターへの導入のしやすさなどの違いから、効率に大きな差が出ることを確認した。

NMRを用いた光合成電子伝達系タンパク質複合体等の分子認識・機能発現機構の解明

光合成電子伝達系タンパク質フェレドキシン(Fd)単体とFd/フェレドキシンNADP+還元酵素複合体のNMR解析を行い、複合体形成に伴うFdの構造変化を明らかにした。シロイヌナズナのHis-Aspリン酸リレー情報伝達系のB型レスポンスレギュレータ(ARRs)に保存される機能未知Bモチーフの立体構造を決定した。トポケミストリー解析からB型ARRは転写因子であり、BモチーフがDNA認識ドメインであると推定した。ARR10-BのターゲットDNA配列を同定し、推定した分子機能を実証した。

物理化学的測定を用いた天然高分子集合体の形成機構の解明

天然タンパク質の希薄・濃厚溶液を乾燥すると、透明なフィルムが形成される。このフィルムの固体構造

は乾燥温度によって異なり、乾燥温度が低い時にはクランクシャフト構造(α 構造)になるが、高いと逆平行型 β 型になることを明らかにした。高温での構造形成においては、天然タンパク質の溶液のクランクシャフト構造間で結合している水素結合が熱によって切断され、熱安定な β 構造に変化したことが推定された。

(3) 計算科学的手法によるタンパク質の構造・機能推定技術の開発

計算科学的手法によるタンパク質の構造・機能推定技術の開発

ステロイド受容体リガンド結合ドメインの配列を材料とし、立体構造情報を加味したマルチプルアライメントを行った。配列上で80%以上保存されている残基は配列上既報のモチーフの定義ではカバーできない範囲に分散して存在していた。立体構造及び生化学的機能の相関の検討から、配列上保存されている残基はリガンド結合及びそれに共役する構造変化に関与することが推定された。

(4) 糖質性エリシターとその認識機構及び情報伝達機構の解明

糖質性エリシターとその認識機構及び情報伝達機構の解明

DNAマイクロアレイによりスクリーニングした結果、キチン8量体エリシターに応答する遺伝子として261種類を同定した。これらのうち30種類についてエリシター処理による発現変化を確認し、全塩基配列を決定した。弱酸処理、傷害応答等に対する発現変化を解析したところ、各遺伝子によってそれぞれ異なる応答パターンを示した。3量体型Gタンパク質欠損系統イネ培養細胞のエリシター応答は、正常型細胞と有意な差が認められなかった。

4) 植物における生命現象の分子機構の解明

ダイコン(C3植物)とアブラナ科*Diplotaxis*属植物(C3-C4中間植物)との属間交雑植物を作出し、その葉内部構造や光合成・光呼吸特性を明らかにした。トウモロコシC4光合成酵素PEPCを高発現する形質転換イネでは、明所での呼吸、有機酸合成、アミノ酸合成が促進されることを明らかにするとともに、光合成の機能制御に関わるタンパク質分解酵素の触媒機構を解明した。また、ジンクフィンガー型制御遺伝子の一つがタペート層の発達制御に関与しており、コサプレッ

ションにより雄性不稔となることが明らかになった。

(1) 光合成器官形成に関与する遺伝子群の解析と光合成光利用率制御機構の解明

光合成光利用率調節因子の同定と作用機作の解析

強光照射下での光化学系 D1タンパク質の初期損傷産物の完全分解には少なくとも3種類のプロテアーゼが関与すること、及び新生D1タンパク質のプロセッシングに関与するプロテアーゼは新種のセリン型プロテアーゼであることを明らかにした。好酸性光合成細菌の光合成色素、亜鉛を中心金属とするZn-BChlaの1H-及び13C-NMRシグナルの全帰属を行い、従来のバクテリオクロフィルのシグナル帰属の誤りを修正し、マクロサイクル上の電子密度と中心金属の関係を解析した。

イネにおける光形態形成遺伝子が関与する光合成制御機構の解析

イネ光形態形成初期の遺伝子発現変動をマイクロアレイで解析し、ジンクフィンガー型転写因子をコードする遺伝子が有意な発現変動を示すことを明らかにした。シロイヌナズナを用いてアクチベーションタギングラインより得られた胚軸の伸長が促進される系統について、CAPSマーカーを用いて変異形質のマッピングを行い、変異遺伝子は第5染色体上腕部に位置することを明らかにした。

(2) 物質固定・代謝及び転流・蓄積に関与する遺伝子群の解析とその制御機構の解明

C3植物におけるC4光合成酵素の生理機能の解析
酸性土壌耐性の増強が明らかとなったトウモロコシC4光合成酵素PEPCを高発現する形質転換イネを解析し、PEPCの高発現で光合成は変化しないものの明所での呼吸が促進されること、有機酸及びアミノ酸合成が促進されることを明らかにした。このことから、PEPCの高発現でTCAサイクルが促進され、その結果窒素同化が促進される可能性が示された。また、PEPCの高発現によりアルミニウム耐性が強化されることが明らかとなっているが、この効果は根からの有機酸分泌の促進とは異なるメカニズムによる可能性が示された。

エレオカリスにおけるC3-C4光合成型の変換とそれに伴う光呼吸の制御機構の解析

陸上でC4型、水中でC3型を発現するエレオカリスでは、光呼吸鍵酵素グリシンデカルボキシラーゼの細胞特異的な発現パターンが、光合成型の変換に対応して陸上と水中の間で切り換わることを見い出し

た。また、アブラナ科*Diplotaxis*属のC3-C4中間植物とダイコン(C3植物)から様々なゲノム構成をもつ交雑植物を作出して、C3型とC4型との中間的な葉内部構造や光合成・光呼吸特性の遺伝性を解析し、それらの形質はゲノムの構成比に従い交雑植物に遺伝することを明らかにした。

イネにおける光合成産物の転流に関与する遺伝子群の単離とその機能解析

イネ9,000クローンcDNAアレイを用いた発現モニタリングにより、出穂期葉鞘において発現量が変化する93遺伝子を選抜した。機能が未知の遺伝子の中から、葉鞘の生育ステージにより発現量が変動する18個の遺伝子を見いだした。日本晴とカサラスのF1自殖後代系統を用いて、イネの出穂前に蓄積する炭水化物含量並びに炭水化物総転流量に関与する遺伝子座を位置づけた。Two-hybridスクリーニング法により未熟種子で特異的に発現するプロテインキナーゼOSK(α -subunit)と相互作用する分子を検索し、4種類の β -subunitを単離した。

(3) 植物の形態形成を制御するジンクフィンガー型転写因子の機能解析とその利用

植物の形態形成を制御するジンクフィンガー型転写因子の機能解析

ペチュニアから単離した花器官の形成制御に関与するジンクフィンガー型転写因子PhSUP1(PetSPL1から名称変更)は、雄ずいの数及び雌ずいの発達の制御に関与するアラビドプシスのSUPERMAN(SUP)遺伝子に構造上類似している。SUP変異体にPhSUP1のゲノムDNAを導入したところ、表現型が相補された。トランスポゾンの挿入によってPhSUP1が変異した系統では、SUP変異体に類似の表現型が見られたが、PhSUP1変異系統ではSUP変異体には見られない葯の形成異常が認められ、PhSUP1が葯の形態形成にも関与していることが明らかになった。

転写因子機能を利用した雄性及び雌性不稔誘導技術の開発

ジンクフィンガーモチーフを3個含む転写因子ZPT3-2の機能をコサプレッションによる遺伝子発現抑制を利用して解析した結果、正常な場合には2~3層に発達するタペート層が1層までしか発達しないことから、この転写因子がタペート層の発達制御に関与していることが明らかになった。その結果、花粉細胞のほとんどが死滅し、雄性不稔になることが明らかになった。ZPT3-2遺伝子の転写物は減数分裂直後からタペート層に局在することが明らかと

なり、表現型との相関が認められた。

(4) 原形質膜を介するオーキシン・情報伝達機構の解析

原形質膜を介するオーキシン情報伝達機構の解析
オーキシン結合タンパク質の変異解析を行った結果、細胞分裂と細胞伸長の2種のオーキシン応答がそれぞれ異なるオーキシン受容体によって誘導されていることが示唆され、本タンパク質が細胞伸長に関与する受容体成分である可能性を示す結果を得た。

5) 動物における生命現象の分子機構の解明

エレクトロポレーションによるニワトリ初期胚への外来遺伝子導入とその発現に成功し、特許を出願した。妊娠牛に電極を装着し胎子の心臓から発生する電位変化の記録法を確立し、胎子心臓の自律神経活動変化を推測した。ヤマトヒメミズノ再生に関与する遺伝子の探索のため、再生断片と正常個体からcDNAライブラリーを作成した。カイコ蛹化時に特異的に発現する遺伝子のホルモンによる誘導条件を明らかにし、これらの遺伝子機能を推定するためのレポーターアッセイ系を確立した。また、乾燥状態で半永久休眠するネムリユスリカの室内継代飼育法の確立に成功するなど順調に進展している。

(1) 生殖系列細胞等の発生分化機構の解明と発生工学的利用技術の開発

マウスをモデル系としたES細胞等の増殖及び分化制御要因の解析

コラーゲンコートガーゼを用いた既存のマウスES細胞の培養において、コラーゲン分子に架橋を形成させない場合のES細胞は、接着性が低く繊維上に伸展しないが、架橋を形成させるとガーゼ繊維に強く接着し、繊維上にも増殖伸展した。浮遊培養した球状ES細胞を腎皮膜下に移植して奇形種を形成させ、組織化学的な検索に取り組んだ。重症複合体免疫不全動物を効率的に作出する方法を検討した。

IGF-1レセプター遺伝子等の転写制御やシグナル伝達に関わる生理・形態形成関連遺伝子の発現様式の解析

ほ乳類の発生に重要な役割を担う、IGF2、IGF2受容体(IGF2R)、インシュリン受容体(IR)のブタにおける塩基配列の決定を試みた。IGF2のPCR産物は得られたが、塩基配列の決定までには至らな

った。IGF2R、IRの部分配列は、ヒトなどとの高いホモロジーが得られた。ニワトリ胚盤葉細胞の培養では、基本培地を検討し、胚性の未分化な細胞マーカーである抗体に陽性を示す細胞が、培養5日目でも多数得られた。

ウシ等の培養細胞の遺伝子改変技術の確立と形質転換個体作出法の開発

アルギン酸ナトリウムを用いて豚核移植卵子を3段階に包埋し、仮親へ移植した場合卵子の発生率が向上することを明らかにした。これらの発育した核移植卵子を回収し、新たな仮親へ再度移植した結果、3頭の仮親から各1頭の体細胞クローン豚が誕生した。豚未成熟卵子は、48時間成熟培養を行うと活性化刺激を与えることによって、高率で活性化された。

ウシ胎盤細胞の分化増殖及び再構築要因の解析

SV40T遺伝子を導入したウシ胎盤由来栄養膜細胞の培養を継続すると、巨核化した細胞が認められたが、増殖性は向上せず、不死化細胞系の確立はできなかった。ウシ胎盤由来BT-1細胞を用いて分化誘導を検討した結果、cytokeratin、E-cadherin、interferon-t陽性、PL陰性のウシ栄養膜細胞の特性を維持し、単層の単核上皮細胞によって形成される多細胞性球状小胞を培地中に放出した。*in vitro*で発現する二核細胞は、*in vivo*における二核細胞と同様に高いDNA量を持ち、PLを産生した。

(2) 動物細胞株の機能特性の解析と成長等に関与する細胞因子の探索

脂肪細胞等動物細胞株の樹立と機能特性の解明

ウシ胎児及び成牛から合計17株の不死化細胞株を樹立するとともに、コラーゲン薄膜を利用して上皮間充織相互作用の解析に優れた三次元培養システムを開発した。ウシ筋肉内脂肪前駆(BIP)細胞の脂肪細胞分化に関して、カベオリン-1の発現が関与することを確認した。BIP細胞由来クローン牛を作出した。細胞譜系を制御できる培養系を開発するために、動物組織切片を動物細胞の培養担体に応用してその有用性を検証した。

発育、成熟等に関与する因子の探索及び同定

肝増殖作用を有する金属イオンのコレステロール代謝関連酵素遺伝子発現への影響を解析し、合成系酵素遺伝子の発現は上昇し、異化酵素遺伝子発現は低下することを明らかにした。ブタ摂食行動・肥満関連遺伝子を明らかにするため、OX1LR、OX2R、BRSの3つ遺伝子のBACクローンを分離し、これら遺伝子の塩基配列を明らかにした。細胞内情報伝達因子であるSmadIのスクリーニングを行い、

cDNAを単離した。

(3) 家畜の脳辺縁系・視床下部情動調節機構及び繁殖中枢調節機構の解明

ウシ、ブタの脳定位固定装置等の開発及び大脳皮質並びに視床下部調節機能の解析

push-pull法を用いて、ウシ視床下部内のソマトスタチン濃度変化を測定できることを明らかにした。匂いによる脳全体の活動変化の有無を検証するため、匂い刺激によるブタの大脳電気活動変化を測定し、匂いが特定の狭い周波数帯域で脳波に影響を及ぼすことが示唆された。卵丘細胞由来クローン胎子を妊娠したホルスタイン雌牛において、心電位R波の出現間隔を解析し、胎子の心臓自律神経活動の律動性を求めた。

反芻動物の性腺刺激ホルモン放出ホルモン分泌調節に関わる神経伝達物質及び末梢性因子解明

シバヤギにおける短期間の絶食負荷実験系を用いて、末梢血中の酢酸及びインスリン濃度は視床下部からの性腺刺激ホルモン放出ホルモン（GnRH）のパルス状分泌活動の動きと比例して、NEFA及びケトン体濃度は逆に反比例して変動することを明らかにした。また、フェロモン情報をGnRH分泌調節機構に伝える神経伝達物質の解析を行い有力な候補分子を見出した。

(4) ヒメミズ等の発生分化、カイコの脱皮変態等に関わる主要な遺伝子の単離と機能解明

ヒメミズ等の発生分化及びカイコの生殖系列形成体等に関わる主要遺伝子の単離と遺伝子機能解析系の構築

ヤマトヒメミズとミサカヒメミズの再生過程を比較解析し、それぞれの再生断片と正常個体からcDNAライブラリーを作成した。キメラ遺伝子を含むカイコ形質転換ベクターの作出を完了した。単離したカブラハバチdsxホモログには、既知のdsx相同遺伝子と同様に、非常に保存性の高いDNA結合領域が存在した。単一コピー遺伝子のカブラハバチ卵黄タンパク質遺伝子を、分裂中期染色体上にマップすることに成功し、単離した遺伝子を染色体上に物理的にマップすることが可能となった。

カイコの脱皮・変態時にホルモン活性物質により発現が誘導される主要遺伝子・タンパク質の単離とその機能解明

JH（幼若ホルモン）生合成に関与するファーンシルピロリン酸合成酵素及びJH分解酵素エボキシドヒドラーゼのカイコcDNAをクローニングした。活

性型脱皮ホルモン（20E）で脱皮を誘導したカイコにcAMP等を注射した結果から新生細胞の増殖・分化はcAMPをセカンドメッセンジャーとした信号伝達系によって誘導されることが示唆された。カイコ蛹化特異的遺伝子mRNA発現はJH濃度が低い状態で20E（20ヒドロキシエクダイソン）濃度が上昇することにより誘導された。前部絹糸腺を用いたレポーター・アッセイ系を構築した。

カイコにおける真皮細胞の増殖調節機構の解明並びに斑紋等の組織形成に関わるタンパク質の同定
カイコ4齢期における真皮細胞のDNA合成及び有糸分裂の頻度を免疫染色によって調べた結果、DNA合成、有糸分裂ともに齢の中期に最大となった。また、気門周辺の剛毛付近に新生細胞と考えられる細胞が認められ、真皮細胞増殖に関与していると推測された。

(5) フィブロイン遺伝子、尿酸合成等に関わる生理機能に係る遺伝子等の単離とその機能及び多様性の解析

間性系統等に着眼した遺伝形質の連関解析

カイコの間性突然変異系統について、生殖器、腹部体節数等の形態的特徴を明らかにし、交配実験により雌となるべきZW個体が間性化することを推定した。新規突然変異系統「濃ひので」について、形態形質の特徴を明らかにするとともに、遺伝解析により優性の突然変異形質であることを明らかにし、遺伝子の連関群及び座位を決定した。

フィブロイン遺伝子、カルボキシエステラーゼ遺伝子等に着眼した昆虫生理機能関連遺伝子の単離と分子進化的解析

カイコとクワコのミトコンドリア全ゲノムの一次構造の比較を行い、両種間に大きな分化の生じていることを明らかにした。昆虫集団の遺伝的多様性について昆虫4目86種568系統を収集し、重要な農業害虫のゲノムライブラリー作成、集団同定に有用と思われるクローンの単離等を進めた。その情報をもとにSSCPやAFLP等による昆虫種や集団の識別・同定法の検討を行うとともに、果樹等の重要害虫であるミバエ類を対象にDNA構造及び分子系統解析を行った。

尿酸合成やエクジステロイド受容機構等に関わる分子の単離と発現制御機構の解明

キサンチン脱水素酵素活性を欠くカイコ突然変異体ogに関連して、カイコゲノムからキサンチン脱水素酵素の活性化に必須であるモリブデン補酵素生合成系遺伝子群のホモログを探索し、ショウジョウバ

エと相同性を持つcDNA断片2種類を得た。遺伝解析の結果、そのうちの 하나가 og と同一遺伝子座にあると推定された。ショウジョウバエを用いてエクダイソンレセプター-EcR のドミナントネガティブ体を作製した。その機能異常解析及び機能回復実験から関与する EcR アイソフォームを特定し、その機能の発現機構の解析を進めた。

(6) 昆虫の触角葉等における匂い情報の伝達・処理機構及び感覚子特異的分子等に着目した味覚受容伝達系の解明

昆虫の触角葉及びキノコ体における匂い情報の伝達・処理機構の解明

匂い刺激に対する糸球体群の空間的応答と、細胞内記録法による単一神経細胞の同定と電気的応答とを同時に記録する方法を検討し、空間的な糸球体応答と単一神経細胞応答の同時記録が可能であることを示した。

カイコ等の味覚応答の解明と感覚子特異的分子等に着目した味覚受容伝達系の解明

アゲハ類の前肢ふ節の長短2タイプの味覚感覚子の分布と数について、種、性、個体による変異を明らかにした。カイコやアゲハ幼虫の口器、アゲハ成虫の口吻と前肢ふ節の味覚感覚子からの電気的応答を生きたまま記録する装置を作製し、長時間安定して記録を行うことが可能となった。対角線電気泳動を行い、アゲハ類の感覚器官に特異的なタンパク質スポットを検出した。ニクバエ唇弁付近でのみ発現しているレクチン様遺伝子の発現組織の組織学的観察を行った。

(7) ペプチド等の化学物質の生理機能に着目したバッタ等の体色制御機構、甲虫等の休眠等の解明と、カイコ等のアミノ酸合成酵素系等に着目した特異的代謝機能の解明

ペプチド等化学物質の生理的役割に着目したバッタ等の体色制御機構及び甲虫等の休眠・繁殖・耐寒性等の解明

トノサマバッタの体色と飼育温度との関係について検討し、温度が体色に影響することを確認した。チャパネアオカメムシの卵吸収に伴う卵巣や卵黄顆粒の変化について抗血清等を用いて組織化学的に追跡し、卵吸収過程における細胞の関与の可能性を示した。ブタクサハムシの交尾・繁殖戦略について検討し、野外における越冬状況、雌雄の越冬能力、越冬後の再交尾の繁殖への影響について明らかにした。ドウガネブイブイの脳には休眠を覚醒する働き

のあることが示唆された。ネムリユスリカの室内継代飼育法を確立した。

カイコ等のアミノ酸合成酵素系等に着目した特異的代謝機能の解明

フィブロイン合成能が欠損した突然変異蚕における排泄窒素化合物の含量やグルタミン代謝に関与する酵素の活性を検討し、尿酸の排泄が多く、それは尿酸の合成に関与する酵素活性が高いことに起因することを明らかにした。中腸の可溶性トレハラーゼの糖鎖構造について検討し、高マンノース型糖鎖が付加されていることを推定した。エリサンのステロールの栄養要求量がカイコに比べて著しく低いという特徴を明らかにした。

6) 環境応答、生物間相互作用の分子機構の解明

ニチニチソウから単離したシアン耐性呼吸・末端酸化酵素の遺伝子は、ストレス応答に伴う細胞質酸性化と遺伝子発現機構のモデル系として有用であること、また、イネからクローニングしたクロライドチャンネル遺伝子産物は、液胞膜と液胞前駆体と推定される小胞膜に局在することを明らかにした。昆虫の抗菌性タンパク質の発現を誘導する転写因子 Rel ファミリー遺伝子をカイコで単離・機能解析を行うとともに、カイコ消化液より抗ウイルス活性を持つタンパク質を精製し、遺伝子を単離した。シロアリ等から新規セルラーゼ遺伝子を単離し、遺伝子改変によりセルラーゼ機能を強化するための選抜系を確立した。また、主たる TNF 産生細胞の一つであるミクログリアを正常及び TNF 欠損マウスの脳より分離し培養細胞株を樹立するとともに、ニューロン細胞死に対するサイトカインの役割解明のためのニューロン/ミクログリア共培養系を確立するなど順調に進展している。

(1) 環境ストレスに応答する遺伝子群の単離とその機能解析

塩ストレスに応答する遺伝子群の単離とその機能解析

イネ「日本晴」よりクロライドチャンネル遺伝子のホモログ OsCLC-1, OsCLC-2 をクローニングした。Green Fluorescent Protein (GFP) 遺伝子を連結したこれら遺伝子を、タバコ培養細胞及びイネに導入し、共焦点レーザー蛍光顕微鏡により観察した結果、OsCLC-1 及び -2 は液胞膜に局在することが明らかになった。また、ショ糖密度勾配遠心により膜成分を分画した結果、OsCLC は液胞膜に局在した。高塩

濃度下における液胞へのNaClの蓄積に働くものと推定した。

環境・病傷害ストレスによる植物細胞の二次代謝誘導とシアン耐性呼吸の役割の解明

単離したalternative oxidase遺伝子上流領域は、トランジェントアッセイで対照プロモーターより強い活性を示した。リン酸吸収時の細胞質酸性化とシアン耐性呼吸の関係をNMRで解析し、シアン耐性呼吸の細胞質pH調節機構への関与が示唆された。サツマイモ根組織が黒斑病菌に感染したときにみられる著しいシアン耐性呼吸の増加はイポメアマロンやクロロゲン酸の合成・蓄積と平行しており、これら二次代謝産物生合成の副産物である多量の還元力を消費する役割を担っていることを明らかにした。

(2) イネにおけるフィトクロムを介した光情報伝達経路の解析

イネにおけるフィトクロムを介した光情報伝達経路の解析

マイクロアレイを用いてphyAのみを特異的に活性化するとされる遠赤色光 (FR) 照射後の遺伝子発現プロファイルを検討した。正常型では200個程度の遺伝子の発現がFRによって2倍以上に誘導され、そのうち80個がphyA特異的なシグナル伝達によることが明らかとなった。FR照射直後に一過的に誘導されるもののほとんどがphyA突然変異体でも誘導され、phyAを介さない反応によるものであったが、照射4時間後まで発現が増加するものの大部分はphyAからのシグナルによることが明らかになった。

(3) 植物の抵抗性遺伝子による病原体認識機構の分子遺伝学的解析

植物の抵抗性遺伝子による病原体認識機構の分子遺伝学的解析

イネのいもち病抵抗性遺伝子Pi-bのように、単一の抵抗性遺伝子がゲノム上にある場合、その遺伝子が多様な病原体に対して適応するには、何らかの遺伝子の多様化機構が必要と考えられる。Pi-bの周辺では通常のゲノム領域の数十倍にのぼるゲノム変動が起きている事が示され、1から数塩基レベルでの変動の集積によるものであることが示された。また、シロイヌナズナの数個の、クラスターを成さない単一遺伝子からなる抵抗性遺伝子において、多くは遺伝子近傍での変動が認められたが、変動の少ないものも存在した。

(4) 共生窒素固定根粒に特異的な植物遺伝子の機能と発現調節機構の解析

共生窒素固定根粒に特異的な植物遺伝子の機能と発現調節機構の解析

根粒特異的な3種類のジンクフィンガー型転写調節因子について、プロモータGUSを導入した形質転換ミヤコグサの解析により、これらの遺伝子の発現が根粒感染細胞に特異であることを明らかにした。これらの遺伝子を異所発現させた形質転換植物を作成し、その解析に着手した。ダイズ根粒のウリカーゼ遺伝子について、根粒非感染細胞特異的な発現に関与するcis領域を特定するとともに、ゲルシフトアッセイによって、根粒核抽出タンパク質にこの領域と特異的に相互作用する因子が存在することを確認した。

(5) マメ科モデル植物ミヤコグサにおける共生関連遺伝子の単離と遺伝子タギング系の開発

ミヤコグサにおけるNodファクター応答の解析

ミヤコグサ根粒菌 *M. loti* JRL501 (MAFF303099) 株の生産するNodファクターの全構造を決定した。これらの混合物及びHPLCによって精製した各画分を用いたバイオアッセイによって、ミヤコグサに対する生物活性には非還元末端のアセチルフコースが必須であることを明らかにした。根毛の変形を指標として精製Nodファクターに対するいくつかの根粒形成ミュータントの応答を調べ、根粒形成初期におけるそれぞれの変異遺伝子の位置づけを行った。

ミヤコグサcDNAアレイの構築と、根粒形成における発現遺伝子のプロファイリング

ミヤコグサESTおよそ68,000クローンから、重複を省いた約19,000クローンを選抜し、ナイロンメンブレンを用いたマイクロアレイを構築した。これを用いて、根粒菌感染に伴う遺伝子発現変動の網羅的解析を行い、感染から共生窒素固定根粒形成に至るプロセスで有意に発現が増大する合計1,055の遺伝子を見いだした。感染初期と、根粒原基形成後では発現遺伝子のプロファイルは大きく異なっており、感染初期に発現する遺伝子の多くは一過的であった。

(6) 効率的な超微量分析法の開発に着目したカメムシ等の行動解発因の解明と、植食性昆虫に対する有害物質の検定系の確立

効率的な超微量分析法の開発に着目したアリ類や捕食性カメムシ等の行動解発因の解明

ハリクチブトカメムシの雄成虫臭腺分泌物を抽出し、揮発性化学物質を成分別に単離し、化学成分を

明らかにした。カミキリムシのフェロモン成分を分離し、化学構造を決定した。サトウキビ害虫であるリュウキュウクロコガネ雄に対する交尾行動を解発する活性物質を同定した。クロヤマアリの巣仲間の認識等に係わる体表炭化水素における多型の国内分布を明らかにした。

植食昆虫に対する有害植物成分等の検定系の確立と検索

各種植物に含まれる毒成分について、エリサン幼虫を用いたバイオアッセイを行い、25種の植物にエリサンに対する顕著な毒性ないし成長阻害活性を認めた。特に、ヒメシダ（オシダ科）はきわめて強い活性を持つことを明らかにした。ツマグロヨコバイの唾液中に含まれるラッカーゼ様フェノールオキシダーゼについて解析を進め、分子量、等電点等の特性を明らかにし、漿液性唾液として摂食時に吐出されることを推定した。

（7）トビロウカ共生微生物等の系統解析及び共生関連遺伝子の解析と昆虫・植物循環細菌等の感染・定着・増殖の分子機構の解明

トビロウカ共生微生物等の系統解析及び共生関連遺伝子の解析

トビロウカcDNAのライブラリーを構築、末端塩基配列を決定した。ヒメトビロウカのウォルバキア感染によって発現量が増加する遺伝子を見つけた。シロアリ等からの新規セルラーゼcDNA分離に成功し、遺伝子改変セルラーゼ選抜系を確立した。昆虫RNAウイルスの翻訳開始機構について、チャバネアオカメムシ腸管ウイルス-IRES高次構造の機能が、類縁ウイルスに適用できることを明らかにした。エンテロバクターの腸内定着因子について、機能変異株を作製し、関連DNA領域のクローニングを進めた。

昆虫腸内細菌に着目した昆虫・植物循環細菌等の感染・定着・増殖の分子機構の解明

低密度のファイトプラズマを検出する手法として二段階LongPCRが有効であることを明らかにし、これまで不明であったファイトプラズマの非宿主昆虫、植物への低密度感染の実態を調査した。その結果、クワ萎縮病ファイトプラズマの感染が罹病クワを吸汁するいくつかの昆虫で認められ、特に、ヒシモンモドキによりシュンギクに低率ながら伝播することが明らかになった。さらに、タマネギ黄萎病原の非宿主とされている数種の昆虫及び植物における低密度感染、伝播が確認された。

（8）昆虫病原微生物及び植物病原微生物に由来する生理活性物質等に注目した感染機構及び植物・微生物・昆虫の相互作用の解明

昆虫ボックスウイルスのスピンドル等の機能と感染要因の解明

昆虫ボックスウイルス産生スピンドルが自身の感染増進機能を持つことを明らかにした。殺虫性の芽胞細菌であるBt菌の2種類のCry1Aa型 δ -内毒素に対するカイコ品種間の反応は類似し、抵抗性に数十倍の差異が認められた。Cry1Ab型毒素抵抗性遺伝子の一つは、分子遺伝子地図の第15連鎖群上に位置した。タンパク質の電気泳動によって、*Beauveria*属菌株の識別が可能であった。*B.brongniartii*に対するカイコの抵抗性は50倍以上の品種間差異があった。*Nozema bombycis*等で垂直伝搬の生じることを明らかにした。*Leptomonas* sp.（トリパノゾーマ科）のシスト形成が促進される培養条件を見いだした。

植物病原微生物に由来する生理活性物質に着目した、植物・病原微生物・昆虫の相互作用の解明

クワ暗斑病菌*Myrothecium roridum*の二次代謝産物ミロトキシンBは多くの植物の葉に褐変をひきおこし、他の糸状菌等に抗菌活性を示すことが知られているが、この毒素をカイコ、キボシカミキリ、マウスに経口投与すると発育遅延ないし死亡をひきおこし、酵母に対しても強い抗菌活性を示すことを明らかにした。

（9）免疫担当細胞における生体防御関連遺伝子の単離と機能解明及び生体防御機構解析のためのインビトロ培養細胞系の開発

正常及び遺伝子改変マウスを用いた免疫系の機能解析

カスパーゼ-1ノックアウトマウスを用いた炎症誘導及び感染実験から、カスパーゼ-1により活性化されるインターロイキン-18が好中球及びナチュラルキラー細胞の成熟・活性化を通して感染防御に働いていることを明らかにした。また、免疫寛容誘導機構に活用しうる抑制性T細胞の*in vitro*培養系を新たに開発し、正常マウス及びインターフェロン- γ ノックアウトマウスにおける経口免疫寛容と破綻について解析した。

免疫系細胞の新規遺伝子の単離と培養系における機能解析

マウスニューロンとミクログリア共培養系及びc-myc遺伝子導入により正常及びTNF欠損ミクログリア細胞株を樹立した。活性化ミクログリアの炎症

性サイトカインの発現及び消化管由来T細胞株の遺伝子発現を解析した。造血幹細胞に発現しているCD34抗原を免疫源として調整した。抗原提示に関与するウシ主要組織適合抗原複合体のDRB3遺伝子の多型を種々の和牛集団において解析した。

(10) カイコの抗菌性タンパク質等の構造決定と改変及び機能、発現機構の解明

カイコの抗菌性タンパク質等の構造決定と改変及び機能、発現機構の解明

昆虫の自然免疫系の遺伝子は転写因子Relファミリーによって転写発現誘導される。カイコのRelA及びRelB遺伝子をクローニングし、機能解析を行った。カイコの抗菌タンパク質セクロピンがカイコの皮膚形成や脱皮に関与することが示唆された。タイワンカブトムシ由来抗菌タンパク質ディフェンシンを化学合成し、プロテインデザインにより天然と同等の生物活性を有するディフェンシンを得た。カイコの消化液より抗ウイルスタンパク質を見だし、精製を行い、遺伝子を単離した。

B 農林水産業の飛躍的發展を目指した革新技術の開発

1) 遺伝子組換えによる機能性作物等の開発

開発した形質転換イネ作出法を用いて、ジベレリン代謝系の2β水酸化酵素遺伝子を茎葉で強く発現させる形質転換イネを作出し、その特性調査を実施した。この形質転換イネは、草型制御による生産性の向上に寄与するものと期待される。また、糖尿病や花粉症の予防等を目的とした遺伝子組換えイネそれぞれ30系統以上を作成し、機能の解析を進めている。

(1) C4光合成機能の利用や形態制御による作物生産性の向上

C4光合成機能の利用による植物の光合成機能の改良の試み

トウモロコシC4型PEPCを高発現する形質転換イネとトウモロコシC4型PPDKを高発現するイネを交配し、両形質を併せ持つ形質転換イネを作出した。イネCabプロモーター下流にトウモロコシC4型NADP-ME cDNAを連結したキメラ遺伝子を作成し、これをPEPC + PPDK高発現イネホモ系統に導入した。トウモロコシPPDK遺伝子を導入した形質転換イネにおいて、アグロバクテリウム法で導入し

た遺伝子は、イントロンを含むゲノム遺伝子、cDNAともに、高頻度で再配列を受けることを明らかにするなど順調に進展している。

植物の草型制御技術の開発

ブラシノリド受容体遺伝子をアクチンプロモーターに連結したベクターを用いて、「どんとこい」への遺伝子導入を行った。形質転換イネは、導入遺伝子の効果により葉が直立する傾向があり、また、種子の粒形がやや細長く、小さくなり、短稈を示す系統が多い等、ブラシノリド関連遺伝子の変異特有の形態が見られた。アクチンプロモーターを用いたため、直立葉以外の形質に変異を生じたものと考えられ、新たな茎伸長時特異的に発現するプロモーターの単離を行った。

(2) 遺伝子組換えを利用した病虫害抵抗性、ストレス耐性個体の作出

病害抵抗性関連遺伝子の探索

キチンエリシターによって発現が誘導されるカルスの遺伝子群のうち、21種類について幼苗におけるいもち病菌接種後の発現動向を分析した結果、13遺伝子の発現量が感染に伴って上昇した。複数の病気に対して元品種とは異なる反応を示す形質転換イネにおける遺伝子発現をマイクロアレイで解析した結果、7遺伝子の発現が非形質転換イネと比較して3倍以上増加した。キチナーゼ過剰発現イネ系統の隔離圃場におけるいもち病抵抗性について、感染初期には抵抗性であるが感染2週間以後は発病抑制効果が十分でないことが明らかになった。

PEPC遺伝子を用いた酸性土壌耐性ダイズ及びムギ類の作出

オオムギへのPEPC遺伝子の導入のために2,100個の未熟胚を処理し、ハイグロマイシン耐性の植物体を60個体得た。そのうち35個体については目的遺伝子の存在を確認した。ダイズでは遺伝子導入した外植片は、抗生物質による選抜をかけずに不定芽を誘導し、これまでに約70個体の幼植物を誘導した。再分化個体についてGUSによる遺伝子導入を調査した結果、一部の葉でGUS活性が見られたが、同一個体内でもGUS活性に差異が見られ、高いキメラ性が示された。

環境ストレス耐性機能を強化した組換え個体の開発

傷害に対して発現応答するペチュニアのジンクフィンガー型転写因子ZPT2-3遺伝子のプロモーター領域をLUCレポーター遺伝子につないでペチュニアに再導入し、ストレスにより誘導されるLUC活

性を測定した。ZPT2-3プロモーターの活性は傷害、低温ストレスで強く誘導されたが、乾燥ストレスでは殆ど誘導されなかった。特に、傷害ストレスによって、localな応答に加えてsystemicな応答が見られた。CaMV 35SプロモーターにZPT2-3をつないでペチュニアに導入し、ZPT2-3が高発現している形質転換体を4系統得た。

(3) 遺伝子組換えにより健康機能性を増強した米の作出

遺伝子組換えにより健康機能性を増強した米の作出

1個のgluten exorphinA5をコレステロール値低下作用を示すダイズグリシニンA1aB1bの塩基性サブユニットのC末端可変領域に挿入したコンストラクトと2個のexorphinA5ペプチドを酸性サブユニットのC末端の可変領域に挿入したコンストラクトを構築し、胚乳特異的プロモーターの制御下で発現させた形質転換イネをそれぞれ30系統以上作出し、クマーシー染色でバンドとして検出できる程度発現している系統をそれぞれのコンストラクトから作出した。

2) 新たなDNAマーカーの開発

イネ遺伝子置換システムを用いて、出穂等の量的形質に関与する遺伝子を単離し、特許を出願した。また、ブタ椎骨数QTL領域内に22個のマイクロサテライトマーカーを開発するなど順調に進展している。

(1) DNAマーカーによるイネ育種選抜システムの開発

DNAマーカーによるイネ育種選抜システムの開発

ササニシキとハパタキの雑種後代を用いて、穂長や着粒数に関与するQTLを見出した。さらに、第1染色体の着粒数に関与するQTL、qSN-1を単一遺伝子座としてマッピングした。第5染色体の穂長に関与するQTLの存在を再確認した。コシヒカリにKasalathの染色体断片を置換した系統群の作出を完成した。

(2) ブタの肉質等に関連するDNAマーカーの開発

ブタの肉質等に関連するDNAマーカーの開発
ブタの肉質等のQTL解析のため、5つのブタ実験家系において、椎骨数QTL領域近傍にある新たな21個のマイクロサテライトマーカーについて多型調

査を行ない、多型の存在したものについてはF2個体のジェノタイピングを行った。このQTL領域内にさらに22個のマイクロサテライトを開発した。統合解析のために、多型の無いマイクロサテライトマーカーを補完する目的で、その近傍のSNPをBACクローンより検索し、アジア系と西洋系のブタにおいては1SNP/約300bpの頻度で検出した。

(3) カイコの絹の高品質化等に関連するDNAマーカーの開発

カイコ耐病性関連DNAマーカーの開発

連関検索を効率的に行うために開発したスクニング連鎖解析法を用いて、BT毒素Cry1Ab抵抗性遺伝子座及び広食性遺伝子座の分子マーカーによるマッピングを行い、座乗連関群がそれぞれ、第15及び第9連関群であることを明らかにした。

3) 放射線利用技術の開発

日本原子力研究所との共同により、イオンビーム照射による突然変異体作出技術を開発した。また、すでに作出した低タンパク質米の腎臓病患者の食事療法用主食としての評価を継続している。

(1) 各種作物におけるガンマ線とイオンビームによる突然変異誘発効率の比較

ガンマ線とイオンビーム照射による線量反応及び変異率の比較

ダットンソバに各種イオンビームを照射した結果、変異誘発効果を有することが確認されたが、線種により線量反応、変異の種類及び変異率が異なった。普通ソバにγ線を照射した結果、感受性は貯蔵条件あるいは水分条件により変化することが認められたが、γ線の間接作用としての抗酸化能に対する影響は認められなかった。サトウキビの多芽体にγ線照射をした結果、線量の増大に伴ない核DNA量が減少した。無毛変異の出現率は200Gyの照射で急激に高くなり、無毛変異体の核DNA量は原品種よりも少なかった。

効率的な突然変異誘発技術の開発

キクの葉片に対して、再分化率が約80%以上となる線量では炭素イオンビーム照射の効果が高く、それ以下ではγ線照射の効果が高い傾向があった。またヘリウムイオンでは両者に比べて変異誘発効果は低かった。パインアップルのカルスへのγ線の急照射では、変異誘発には50～100Gyが有効であった。イネについてヘリウムイオンの半数致死線量は80Gy

程度、 γ 線では250Gy程度であった。炭素イオンでは反復誤差が大きかったが、種子稔性と生存率との関係において、概ね相関が認められた。

(2) 木本性作物の耐病性に着目した突然変異体の誘発・選抜技術の開発と新規素材の作出

木本性作物の耐病性突然変異体の誘発・選抜技術の開発と素材作出

リンゴ品種「印度」の斑点落葉病耐病性突然変異体は、原品種より耐病性が高く果実形質に大きな差はなかった。ナシ黒斑病毒素の簡易安定的な作成法及びナシのモデル品種苗木への γ 線急照射条件の検討を行った。チャ炭疽病抵抗性変異体を選抜するための各プロセスに適した分生孢子濃度を確定した。 γ 線緩照射中のチャ個体群について抵抗性検定を行った。「ゴールド二十世紀」への γ 線再照射で得られた高レベル黒斑病耐病性突然変異は明らかに強い耐病性を示し、果実形質には大きな差は認められなかった。

誘発突然変異と形質転換を利用した育種・機能解析素材作出法の開発

ニホンナシとリンゴでイオンビーム照射に対する反応の基礎的知見を得た。リンゴ再分化培養系を改良した。ナシ等難培養性果樹の再分化系の開発に着手した。チャの芽に対するイオンビーム照射の好適条件と、木化根の不定芽形成における γ 線照射の好適条件及びホルモン添加の影響の概要を把握した。チャ変異体「無毛茸系統」の特性を解析した。「ふじ」低樹高突然変異体のマルバ台接木2年目の生育特性を明らかにし、各種変異原処理個体の育成及び低樹高突然変異体のスクリーニングを行った。

(3) イネ貯蔵タンパク質等の突然変異遺伝子の単離と機能解析

グルテリン突然変異体の原因遺伝子の単離と機能解析

Lgc1は第2染色体上のグルテリン構造遺伝子の機能喪失による変異と強連鎖することが明らかになった。Lgc1のRNAiには2種類のsiRNAが検出され、これには2重鎖RNAの形成が関与していると考えられた。アレルギー患者血清と非常に強い反応を示した30kDaのタンパク質のN末端及び内部アミノ酸配列から、このタンパク質をコードする遺伝子を明らかにした。

イネの新規用途突然変異体の効率的選抜手法の開発及び単離

低アミロース突然変異系統を用いて登熟気温に対す

るアミロース含量の温度反応の解析を行い、育種素材として有用と考えられる温度反応のゆるやかな系統を見いだした。低グルテリンかつ26kDa欠失のダブルミュータントを用いてこれに低アミロースと直播適性を付与した系統を育成した。ダブルミュータントは可消化性タンパク質の少ない実質的な低タンパク質米であることから腎臓病患者の食事療法用主食として評価を継続している。

C 新産業の創出を目指した研究

1) 有用物質生産技術の開発

血圧降下作用を有する生理活性ペプチド、オボキニン遺伝子を導入したイネを作出した。また、経口感染促進剤の人工飼料への添加により組換え体ウイルスを効率的に経口感染させる方法確立し、カイコでヒト血清アルブミンを生産するシステムを開発するなど順調に進展している。

(1) 生理活性ペプチド、抗体等の有用タンパク質生産のための組換えイネ等の作出

生理活性ペプチド、抗体等の有用タンパク質生産のための組換えイネ等の作出

ovokinin 誘導体挿入グリシニンに5'非翻訳領域を完全に含むグルテリンプロモーターを繋いだ後、pGTV35SHPTのバイナリーベクターに導入し、アグロバクテリウムEH105を介してイネに遺伝子導入を行った。可変領域にovokinin 誘導体を挿入したダイズグリシニンは、劇的に集積レベルが低下した。別の機能性ペプチドを同じ部位に挿入した時より集積レベルが低下していることから、集積レベルは挿入する部位より挿入配列に依存していると推定された。

(2) 遺伝子導入カイコの周年・安定生産システムの構築と、効率的周年人工飼料育のためのクワ系統の素材化

遺伝子導入カイコの周年・安定生産システムの構築

有用物質生産の目的でカイコにウイルスを接種して4~5日経過したカイコとその残渣、糞等とを自動的に分別、回収する回転型カイコ回収装置を開発し、分別機能を検証した。組換えウイルスのカイコへの経口感染促進剤の人工飼料への添加濃度とカイコのウイルス感染について検討し、感染率の高い条件を見出した。NVP経口感染方法を取り入れたカイコ

幼虫で組換えヒト血清アルブミンを発現させるシステムを開発した。

効率的周年人工飼料育のための桑系統の素材化人工飼料添加用のクワ系統の育成を行うため、11組み合わせの交配を行い、3,137本の実生を養成した。系統選抜試験に供試する12個体と系統適応性検定試験に供試予定の機械収穫適性が高いとみられる1系統を選出した。

2) 生体機能模倣技術の開発

ニクバエの味覚組織から抽出した味覚受容体を包埋したリン脂質膜がセンサーとして機能することを確認した。また、昆虫の神経応答の計測に適用するため、微小な金属・酸化物・半導体電界効果トランジスタを試作するなど順調に進展している。

(1) 化学分子受容体の固定法等に着目したバイオセンサー等の開発

化学分子受容体の固定法等に着目したバイオセンサー等の開発

ニクバエの味覚組織である唇弁組織抽出物を含むリン脂質膜を金蒸着プラズモンチップに固定化して塩刺激をしたところ応答が得られ、抽出液に塩受容体が含まれていることが確認された。細胞認識に関与している糖β-ガラクトース残基を共有結合的にフィブロインに導入することによって(LacCYSF)肝細胞の接着量が増加することを明らかにした。

(2) 微小電極等の利用による飛翔行動等の生体機能計測手法の開発

微小電極等の利用による飛翔行動等の生体機能計測手法の開発

音響式体積計によるカイコ幼虫体積測定は迅速に行えるが、メスシリンダーによる水中測定法にくらべ若干小さい値になった。前年度までに開発したカイコから自動で体液を採取するシステムについて、カイコ把持器の性能向上、カイコの供給能力の向上等を図った。筋電位測定のための2チャンネル小型無線機の回路を改良し、2チャンネル間の混信を防止した。昆虫の筋電位等を記録する微小電極として、MOSFET(金属・酸化物・半導体電界効果トランジスタ)を作製した。

3) 生物機能の改変による新規用途生物の開発

日本産ヒメハナカメムシ5種について、マルチプレックスPCR法による迅速な同定技術を開発した。また、動物由来の薬物代謝遺伝子を導入した組換えイネを作出し、このイネが除草剤等の環境負荷物質を吸収・分解することを確認するなど順調に進展している。

(1) ヒメハナカメムシ、カブリダニ等の系統解析法の確立

ヒメハナカメムシ、カブリダニ等の系統解析法の確立

タイリクヒメハナカメムシについて、沖縄産と福島産の系統には、短日処理による休眠率に大きな差異のあることを明らかにした。日本に分布するヒメハナカメムシ5種について、マルチプレックスPCR法を用いた簡便な識別法を確立した。ケナガカブリダニ8系統についてRAPDを検出、プライマーを選定し、そのバンドパターンと実測データの解析から、産卵数と産卵期間は異なる遺伝子群に支配されていることが示唆された。この方法で有用形質にリンクしたマーカーを作製できると考えられた。

(2) 環境負荷物質の低減及び環境修復のための組換え植物の作出

環境負荷物質の低減及び環境修復のための組換え植物の作出

薬物代謝型P450遺伝子の一分子種であるCYP1A1を発現したバレイショ二倍性半数体9系統、CYP2B6を発現したバレイショ二倍性半数体9系統を得た。これらの系統はそれぞれのP450分子種が代謝する除草剤に対して抵抗性を示した。また、すでに作出したP450遺伝子導入イネ形質転換体より得たR1種子について、P450分子種が代謝すると推定される除草剤を含む培地上で発芽テストを行い、除草剤耐性が付与されたことを確認した。さらに、CYP2B6発現イネでは、非形質転換体に比べてより速く除草剤メトラクロールの減少が観察された。

4) 新素材及び新蚕糸技術の開発

絹の超微粉末を化学繊維の表面にコーティングし、絹と化学繊維の双方の長所を持つ新素材を製造する技術を開発した。また、繭糸タンパク質セリシンがいくつかの機能性を持つことを明らかにし、セリシンのみを多量に生産する蚕品種を育成し、特許を出願するな

ど順調に進展している。

(1) セリシン蚕等の特異な繭糸質を有する蚕品種の開発及び飼育技術の開発

セリシン蚕等の特異な繭糸質を有する蚕品種の育成及び飼育技術の開発

優性3眠蚕と細織度4眠蚕の交雑種を極細織度繭糸の2眠蚕へ誘導した。セリシン蚕について、セリシン生産量を増加させるための交雑法を開発し、効率的な上簇方法とその装置化等を検討した。桑生育状況を調査し、桑枝条伸長に対する温度と日長との関係を解析した。広食性蚕のDNAレベルでの系統評価の基礎的研究を実施した。熱帯系多化性蚕品種について保存法マニュアルを作成した。新規用途開発に向けた蚕育種系統のスクリーニング、形態情報の画像データベース化、有用物質生産用蚕品種開発に着手した。

(2) キチン、フィブロイン等を用いたファインケミカル等機能性素材の開発

キチン、フィブロイン等を用いた精密化学製品等機能性素材の開発

超音波キャビテーション現象を利用したキチンミクロスフェアの均一化法による粒径制御には限界があることが明らかになった。「昆虫工場」廃棄物から排出されるカイコ幼虫死骸からのクチクラ、フィブロインの分別回収法として、廃棄物処理装置を開発した。この方法で回収したキチン、フィブロインには、NMR解析により物理的構造変化は認められなかった。家蚕フィブロインとサクサンフィブロインとの膜状ハイブリッド素材を作製し、分子形態等物理特性を解析した。

(3) 絹フィブロイン等生体高分子の理化学的特性の解明と創傷被覆材等への利用技術の開発

絹フィブロイン等生体高分子の理化学的特性の解明と創傷被覆材等への利用技術の開発

平均粒子径2.6 μ mで、5 μ m以上の粉末を除いた結晶性絹タンパク超微粉末を調製した。この微粉末を利用し、繊維の表面に絹微粉末が局在している直径約20 μ mの合成繊維を作製した。絹タンパクの2次構造を解析し、4つの構造に分けられ、フィブロインの性状でそれらの構造が異なることを明らかにした。クモの牽引糸を用いてタンパク質の高次構造をNIRとマイクロ全反射型赤外分光法により解析したところ、シート構造、ヘリックス構造、ターン構造、ランダム構造の2次構造成分から構成されていた。

(4) 昆虫由来色素等の抽出・機能評価、新衣料素材の作出及びシルクの機能性利用と加工技術による生活用素材の開発

昆虫由来色素等の抽出・機能評価及び新衣料素材の作出

昆虫由来色素の機能評価を繊維害虫ヒメマルカツオブシムシによって調査し、ラックダイ虫から抽出した色素で染色した羊毛や、鉄媒染が食害を阻止する効果があること等を明らかにした。画像処理手法に基づく太織度用感知器及び、太糸繰糸機を設計試作した。細織度繭糸を利用した複合よこ糸を作出するため、熱分解性繊維と細織度繭糸「はくぎん」による生糸との複合糸を作製して8種の薄地織物を試織・特性解析した。

シルクの機能性利用と加工技術による生活用素材の開発

セリシンの極性有機溶媒への溶解特性について、添加塩の種類とその濃度や温度等の要因を検討した。極細織度生糸を繰製する際の織度の計測・制御に、レーザーセンサ技術が利用可能であることを確認し、細織度蚕品種の繭糸織度特性等を明らかにした。ネットロウシルクとナイロン系のハイブリッド化や熱処理技術等により太織度生糸の物理的機能を付与する技術開発を行った。ネットロウシルク繰製機構の高速化を実現した。平面絹の吸水性や光沢などの特性を明らかにし、ランブシェード等の開発等を進めた。

D バイオテクノロジーを支える基盤技術の開発

1) 生物の多様性の解明と保全・利用技術の開発

イネミトコンドリアについてゲノム解析を進め、約95%の塩基配列を決定した。イネ白葉枯病菌において、代表的な病原性遺伝子群を含む約200kbの全塩基配列を決定し、新規遺伝子の推定を行った。日本産フザリウム属菌の解析を行い、新種1、日本未報告種2を明らかにした。ブタ体外成熟・受精卵子を*in vitro*で胚盤胞にまで発生させる系を開発し特許を出願した。また、ツルアズキの殺虫成分について構造解析を進め、新規物質を発見し、特許を出願するなど順調に進展している。

(1) 遺伝子情報等に基づくイネ属等植物及び植物病原微生物の多様性解析

オルガネラ遺伝子情報等に基づく植物の多様性の解析

栽培オオムギ及びその近縁野生種、32分類群の葉緑体についてコード領域、非コード領域のDNA塩基配列を解析し、その結果に基づいて作成した系統樹から倍数体の起源等について新たな知見を得た。また、オオムギの条性等に関わる遺伝子単離のため、連鎖地図の作成とBACスクリーニングシステムの確立を行った。イネミトコンドリアについては、ゲノム解析を進め、約95%の塩基配列を決定した。

植物病原微生物のゲノム構造における病原性関連遺伝子群の解析

構築したイネ白葉枯病菌BACライブラリーから、代表的な病原性遺伝子群hrp遺伝子クラスターを含むクローンを単離し、その近傍を含めた約200kbの挿入断片について全塩基配列を決定した。遺伝子領域予測プログラムで解析した結果、その領域に160個の遺伝子を予測し、同領域の遺伝子構成の特徴を明らかにするとともに、新規遺伝子の推定を行った。同領域ではトランスポゼースのホモログである繰返し配列の挿入が顕著であり、病原性多様化との関連が示唆された。

擬頭を形成するフザリウム属菌等の分類形質の再評価

*Fusarium subglutinans*の旧定義に該当する日本産フザリウム属菌の分類学的解析と分類形質の評価を行い、新種1、日本未報告種2を明らかにした。光条件の制御によってこれら菌種間や近縁既知種の区別に矛盾のない有効な鑑別形質を定義した。そのうち新種については、国際植物命名規約に基づき、*F.fractiflexum*として記載を行った。日本では未報告の*F.concentricum*及び*F.circinatum*については日本新産種として再記載した。

(2) 野生植物等の集団動態解析法の開発及び動物遺伝資源の特性維持、保全手法の効率化

アズキ集団動態解析のための分子マーカーの作出AC反復配列からなるアズキのマイクロサテライトライブラリーを作成し、プライマーの設計が可能な60種類のマイクロサテライトの塩基配列を明らかにした。マーカー化した25種類のうち6種類は反復数の変異が小さいものの、集団間の動態調査に利用可能であった。また、RAPDマーカーを用いてネパール、ブータンのアズキ栽培種及び野生種は日本と台湾に分布するものと異なる大きな遺伝変異を持つこ

とを明らかにした。

豚小集団等の遺伝的多様性を推定するためのモデルの選択

無限遺伝子座モデル（遺伝モデル）を想定し、動物小集団の血縁情報及び表型価を発生させ、この情報に対し様々なモデルを当てはめた。遺伝モデルに母性遺伝効果や母性環境効果が含まれ、評価モデルにそれらを含まない場合に、パラメーターの推定値に偏りがあった。評価モデルが遺伝モデルに一致した時、及びすべての変量効果を含んだ評価モデルが用いられた時に最も正確なパラメーターが推定された。評価モデルには想定可能なすべての変量効果を含むことが望ましいと結論づけた。

(3) イネ栽培種等植物の環境適応機能及び重複遺伝子等の機能の多様性解析

イネ属植物等における遺伝子ファミリーの機能の多様性の解析

イネカタラーゼ遺伝子CatAの上流領域に存在する転移因子が近傍に存在する遺伝子群の発現解析を行った結果、この転移因子を持つ遺伝子は穎花で発現していることを明らかにした。イネCatB及びCatA遺伝子の5'上流領域から、それぞれ根及び葯特異的プロモーターカセットに必要なDNA断片を得た。マイクロアレイを用い、幼苗イネ葉身及び葉鞘で日周変動を示す遺伝子を解析した。細胞周期で変動するタンパク質を検出し、その一つをβ-チューブリンと同定した。

植物の限界環境適応機構に関わる分子機能の多様性解析

レンゲツツジ花芽鱗片の氷核活性の増加過程で、特異的に発現する遺伝子をdifferential display法により検索し、再現性よく増加するメジャーなバンド130クローンを見出し、クローニングした。ブロムグラス懸濁培養細胞の低温及びABA処理による耐凍性誘導過程をイネマイクロアレイを用いて時系列的に解析し、各処理に特徴的或いは共通して発現する遺伝子群を見出し、16クローンの発現を確認した。限界環境適応関連遺伝子同定のためのオオムギ全ゲノムにわたる連鎖地図を作成した。

(4) 物質生産性等微生物の有用機能の多様性解析

微生物の生物間相互作用に関わる遺伝子の解析いもち病抵抗性遺伝子Pitをもつイネ品種「K59」に対するイネいもち病菌の病原性について、いもち病菌交配後代を用いた遺伝解析を行い病原性発現に係わる1因子支配の非病原性遺伝子Avrtを同定した。

AFLPマーカーと非病原性遺伝子Avrtとの連鎖分析を行い、0cMのAFLPマーカーを含む密接連鎖マーカーを得た。孢子形成に関連する遺伝子群を単離し、付着器形成にも関連すると予想される遺伝子を得た。

- (5) 家畜配偶子と胚（生殖質）の保存のための増殖技術の開発及び野生植物等の生息域内保存のための調査研究

ブタ等生殖細胞からの胚作出系の開発

卵管上皮細胞培養液を添加したコンディショニングメEDIUMと低酸素培養の組み合わせによって、ブタ体外成熟・受精卵子を*in vitro*で胚盤胞にまで発生させる系を開発した。この系で得た胚の移植によって産子を得ることに成功し、従来困難であったブタ胚の体外生産技術が確立された。ブタ未成熟卵胞を卵巣摘出ヌードマウスの腎皮膜下に移植すると、卵胞が発育し移植後約50日には発情が起こることを明らかにした。ブタ未成熟精巣細胞を培養し、セルトリ細胞の機能を8週間以上維持することに成功した。

野生種集団における多様性の地理的分布の解析
イネ属Cゲノム種に特異的なタンデムリピートTrsCファミリー領域塩基配列を、*O. officinalis* complex、9種14系統について解析した結果、アジア、アフリカ及びアメリカ起源の3グループに分類された。スリランカにおけるササゲ属アズキ亜属野生種について調査し、従来考えられた2種だけでなく、6種見いだされ、地理的分布も多様であった。そのうち1種は栽培後の検討で新種と判明した。アズキ亜属の多様性解析の中で見いだされたツルアズキ殺虫成分について構造解析を進め、新規物質を発見した。

2) 実験用動植物の開発

イネミュータントパネル5万系統を作出し、そのうち2,000系統の変異形質についてデータベース化を図った。TNF及びHSP70.1欠損マウスの系統を作成した。また、肥満・高脂血症・糖尿病疾患モデルマウスを用いて遺伝的原因のゲノム解析を行うなど順調に進展している。

- (1) ミュータントパネルの作出

ミュータントパネルの作出

日本晴由来遺伝子破壊系統（NF系統）を9,600系統作成した。NF系統を圃場に900系統展開して表現型の観察を行った。334（37.1%）系統から何らかの表現型の変異が観察された。塩基配列解析データの個数及びデータ量の両方の増加に伴い、コンピュータ

に負荷がかかるようになったので、フラットなファイルにデータを保存していた従来の系から、Berkely DB version3で構築した系を新規に構築して移行した。

- (2) マウスにおける遺伝子改変技術の開発と疾患モデルマウスの作出

免疫不全及び炎症性疾患モデルマウスの作出

すでに作出したTNF及びHSP70.1ノックアウトマウスを戻し交配し、C57BL/6系及びBALB系を作製した。またWASPタンパク質のEVH1ドメインを過剰発現させた組換えマウスを作製した。ポリジェニックな肥満・糖尿病・高脂血症モデルマウスKK-Ayの脂質代謝異常のQTL解析から染色体の5カ所に原因遺伝子座をマップした。

疾患モデル動物作出のための効率的・新規技術の開発

精巣精細胞内DNA注入による組換え動物の作出法を開発した。雄生殖細胞をベクターとして用いるために雄生殖細胞で特異的に発現しているhsp70.2遺伝子を単離しプロモーター領域の解析を行った。

- (3) 形質転換ブタ作出技術の開発・改良

形質転換ブタ作出のための個別技術の高度化と技術体系の構築

ブタの発生工学は胚操作及び移植段階がネックとなり制約を大きく受けている。ブタ体内受精卵の体外培養法を開発し、外科的移植により産子を得た。人工染色体MACの構築に成功した。

3) 組換え動植物作出のための基盤技術の開発

イネにおいて恒常的かつ強く発現するEFプロモーターを単離し、葉、根等で強く発現することを明らかにした（特許出願中）。カイコの組換え効率を向上させるDNA微量注射装置を改良し、特許を出願した。また、初代培養期間を大幅に短縮できる昆虫細胞培養培地を開発し、特許を出願するなど順調に進展している。

- (1) 新規な部位特異的プロモーターや誘導性プロモーターの開発

新規の強力プロモーターカセットの開発

恒常的に強く発現するプロモーターを含む領域をイネより単離して、塩基配列の解析、転写開始点の決定等の分子生物学的な基礎解析を行った。プロモ-

ター領域を決定し、プロモーター活性のあるDNA断片を用いて、GUSレポーター遺伝子を発現させることで、発現する組織の解析を行った。一連の解析により葉部、根等多様な組織で強く発現していることを明らかにした。イネEFプロモーターとして特許出願中である。

バイナリー型植物発現ベクターの開発

前年度までに作製したバイナリー-Tiベクターをベースに、新たに10種類のプラスミドを構築した。新規バイナリーベクターはエレクトロポーション法によりアグロバクテリウムに導入した。得られたアグロバクテリウム系統は、シロイヌナズナへ、あるいは共存培養法によりイネに形質転換した。アグロバクテリウムを介し、これらのベクターをシロイヌナズナに遺伝子導入したところ、比較的良好な形質転換結果が得られた。

(2) 高等植物における相同組換え技術開発のための要因解析

高等植物における相同組換え技術開発のための要因解析

シロイヌナズナのT-DNAタギングライブラリーのスクリーニングにより、ヒトのRad51B相同遺伝子のノックアウト個体を2種類選抜した。これらの植物体の自殖後代からノックアウトホモの系統を得た。Rad51、Rad54遺伝子の発現量が野生型より2～3倍高い形質転換体を作出した。イネにおいてクローン化されたRad50、Rad51、Rad54のcDNAの解析からこれらの遺伝子はシロイヌナズナと極めて高い相同性を有することが明らかになった。

(3) コムギ等難培養性作物における形質転換技術の開発・改良

コムギ及びダイズの形質転換技術の開発及び改良
コムギにおいて「単子葉植物の超迅速形質転換法」を用いた形質転換系を確立するため、選抜条件、再分化条件等の培養諸条件の検討を行った。コムギカルスはハイグロマイシンに対して、非感受性を示し、選抜には不適であった。これに対し、G418は20mg/l前後で選抜に利用可能と判断された。イネにおいて、カルス形成・再分化能に関与するQTLを1つずつ含む準同質遺伝子系統群を調査し、マップベースクローニングによる遺伝子単離が可能か否かを調査した。

(4) トランスポゾンの改良等に着目した組換え体昆虫等の作出技術及び昆虫培養細胞系簡易作出技術の開発と培養細胞系による昆虫免疫反応解析系の確立

トランスポゾンの改良等に着目した有用物質発現系構築のための組換え昆虫及び組換えウイルス作出技術の開発
カイコ卵へのDNA注射装置の改良・開発を進めた結果、注射操作の精度・再現性等が向上した。トランスポゾンpiggyBacに挿入した外来遺伝子の大きさと転移活性の関係や、セリシン遺伝子1やフィブロインL鎖のプロモーター、組換え昆虫(ショウジョウバエ)を用いた時計遺伝子の発現を解析した。カイコウイルスの経皮接種時期やウイルスの投与方法など組換えウイルスの感染向上方法、有用物質生産施設の消毒法などを検討した。

昆虫培養細胞系簡易作出技術の開発と培養細胞系による昆虫免疫反応解析系の確立

昆虫培養細胞株の樹立期間を大幅に短縮できる鱗翅目昆虫等の初代細胞培養培地を開発した。細胞へ外来性及び内在性の遺伝子と遺伝子産物の導入を行う研究を実施した。カイコの抗菌ペプチドの活性化反応の検討には既存のカイコ由来細胞株を用いて行える可能性を示した。抗菌ペプチド遺伝子プロモーターに結合する因子の精製を行った。感染時に転写誘導される遺伝子の単離・同定、感染刺激に応答するカイコ培養細胞におけるタンパク質発現の有無等を検討した。

(5) 社会的受容性の高い新規選抜技術の開発

社会的受容性の高い新規選抜技術の開発

詳細なマッピングのため、SSRsを利用したマイクロサテライトマーカーの利用を行った。完全長cDNA(22A)を単離し塩基配列を決定した。各品種由来のイネ培養細胞を用い、得られた遺伝子22Aの発現を解析した結果、高い再分化を示す品種で発現が高く、再分化能が低下した培養細胞で低かった。昨年度の圃場調査の結果、草形、出穂期、食味等が対照と同等であった系統を用い再度圃場調査を行い、昨年度とほぼ同じ結果を得た。

代謝系遺伝子等を利用した選抜技術の開発

P450形質転換体はバレイショ及びタバコにおいて選抜でき、ペチュニア、イネでは選抜の可能性が示唆された。in planta法で得られたシロイヌナズナT1種子を各種除草剤で選抜した結果、CYP1A1と3μMクロロプロファムの組合せが最適であった。CYP1A1と0.06μMノルフルラゾンの組合せはカナマイシンを使用したときと比べ、短期間で選抜が可

能であった。CYP1A1、CYP2B6、CYP2C19遺伝子を形質転換して選抜された除草剤耐性個体の全てにおいてP450遺伝子の存在を確認した。

(6) 安全性評価手法の開発

組換え体の環境に対する安全性評価手法の高度化
トウモロコシ由来のスクロースリン酸合成酵素 (SPS) 遺伝子を導入した組換えバレイショの非閉鎖環境における安全性評価を行い、茎葉及び根における有毒物質産生能及び土壌微生物相への影響について非組換え体との間に差異が無かった。PEPC組換えイネにおいて緑葉産生物は非組換えイネと同一の結果を得た。根圏への分泌物のHPLC分析では、組換えイネに特異的な分泌物は産生されていないと判断されたが、ピークの相対的な高さが非組換えイネと異なることから、分泌物の量比は異なることが示唆された。

E 生物遺伝資源の収集、評価、保存、増殖、配布、情報管理

サブバンク等の協力のもとに、植物6,405点、微生物1,185株、動物195点の収集・受入を行うとともに、保存している遺伝資源について特性評価を実施した。イネゲノムデータベースへのEST地図情報の追加を実施した。マイクロアレイプロジェクト用イネcDNAクローンセットの配布の迅速化を図るなど順調に進展している。

(1) 遺伝資源の探索・特性評価・素材化

遺伝資源の探索・収集とネパール産ソバ野生種の遺伝特性の解析

サブバンク等の協力のもとに、国内外で探索・収集を実施するとともに、植物6,405点、微生物1,185株、動物195点の収集・受入を行った。IPGRIとの共同研究の一環で、ネパールの宿根ソバ集団の多様性をRAPD分析で解析し、同国中西部、西部、中央部ごとに特徴のある地域集団が形成されていることを明らかにした。

遺伝資源の特性評価・素材化と遺伝特性評価のための家禽等のDNAマーカー開発

サブバンク等の協力のもとに、収集・保存している遺伝資源について、植物198,036点、微生物17,583点、動物4,806点の特性評価を実施した。うち、微生物5,069点は品質管理検査、動物3,820点はカイコ育種素材分であった。野生種等の育種素材化の一環で、果実用クワ品種等を開発した。また、インドネシア

側共同研究機関の協力を得て、インドネシア産アヒルのゲノミックDNAを用い、マイクロサテライトマーカーの開発を行った。

(2) 遺伝資源の保存・管理及び特性情報の高度化

遺伝資源の長期保存と汚染種子微生物相の解析
サブバンク等の協力のもとに、ベースコレクションとして植物219,700点、微生物17,947株、動物869点を保存するとともに、遺伝資源の増殖等を実施し、アクティブコレクションを植物121,706点、微生物11,825株、動物68点とした。また、センターバンクに保存中の野菜種子について、種子伝染性微生物相を解析し、*Alternaria*属菌のなかに発芽阻害や発芽後の生育抑制の原因となる菌を同定した。

遺伝資源の情報管理・提供システムの高度化と導入遺伝資源の情報公開

ロボット型検索エンジン、BioCrawlerへの新たな2つの機能の追加を行った。イネゲノム自動アノテーションシステム、RiceGAASの改修及びアノテーション情報の更新を行った。イネゲノムデータベースへのEST地図情報の追加を実施した。マイクロアレイプロジェクト用イネcDNAクローンセットの配布の迅速化を図った。植物・微生物・動物遺伝資源データベースの統合化に向けてスキーマ開発を開始するとともに、微生物遺伝資源の在庫管理システム開発に着手した。

2 専門研究分野を活かした社会貢献

(1) 分析、鑑定

宮内庁紅葉山御養蚕所の蚕種（小石丸）について母蛾検査の依頼があり実施した。

(2) 講習、研修等の開催

都道府県の研究者を対象にしたバイオテクノロジー研修を開催した。また、国等が主催する4件のゲノム研修等に講師を派遣するなど積極的に協力した。

独立行政法人農業生物資源研究所依頼研究員受入れ規程、講習規程等を整備し、依頼研究員7名、講習生80名のほか、JICA等の海外からの研修生26名を受け入れた。

技術相談の担当窓口を設けインターネットで広報した。相談に対しては職員が迅速に対応した。

(3) 行政、国際機関、学会等への協力

国や独立行政法人、JICA等からの要請に応じて

23件の専門家派遣を行った。

国内において11件の国際シンポジウム等を主催した。

放射線育種場において、国の研究機関5カ所から計138回、公立試験研究機関9カ所から計127回、大学2カ所から計3回、民間・個人16カ所から計49回の依頼照射を行った。

3 成果の公表、普及の促進

(1) 成果の利活用の促進

農業生物資源研究推進戦略会議において、主要な成果を1)「知的貢献」：新しい法則・原理の発見、独創的な理論の構築、未知の現象の予測・発見など、論文発表による知の創造への貢献、2)「技術開発」：生産性の向上及び消費ニーズに対応した品質の向上を図る上でキーとなる革新的な技術開発研究への貢献、3)「農業生産」：農林水産業における生産活動を通じた社会への貢献、4)「生物産業」：成果の活用により社会に直接の利便をもたらすことができる産業技術開発への貢献、と定義した。このうち「農業生産」と「生物産業」に分類された8件を直ちに利活用できる（普及に移しうる）成果として決定し、他の27件の成果とともに「平成13年度の主要な研究成果」として印刷・配布し、ホームページ上で公開することとした。

研究成果情報を1回、研究所ニュースを4回発行するとともに、研究資料、研究所年報及びAnnual Reportの刊行規程を定めた。

インターネットのホームページを随時更新し、最新の情報を提供した。

遺伝資源の配布に関する規定を整備し、植物及び微生物遺伝資源、DNA等の配布を行った。

独立行政法人農業生物資源研究所のホームページを始め、イネゲノム、ジーンバンク等のホームページを開設し研究情報の提供を行った。平成13年度はトップページに、5,792,248件のアクセスがあった。

イネゲノムのホームページ上にイネゲノム塩基配列情報を公開するとともに、塩基配列の新たな解読成果を日々追加公開した。

(2) 成果の公表と広報

研究成果の発表は、原著論文269（うち234が英文）、総説8、単行本40、データベース・マニュアル・報告書・学位論文6、学会・シンポジウムでの発表要旨787、解説・紹介・技術資料73、講演会・研究会等での発表59件を行った。

パネルを93枚作成し、研究所の大わし地区展示室、ゲノム解析センターロビー、放射線育種場等とつくりサーチギャラリーに展示した。

記者発表会5回、資料配付6回あわせて11回の報道対応を行った。生物研が関係する新聞記事は184件掲載された。TV、雑誌等のマスコミの取材には積極的に対応し、研究成果等が32回紹介された。

IRRI副所長、CGIAR事務局長、マレーシア科学技術環境大臣等をはじめ、計64件の海外からの視察者、見学者の受入を行った。

一般公開を本部・大わし地区（茨城県つくば市）放射線育種場（茨城県那珂郡大宮町）及び生活資源開発研究チーム（長野県岡谷市）で行い、約2,200名の参加があった。全大阪消費者団体連絡会、つくば人権と環境のための市民会議・遺伝子組換え食品いらないキャンペーン等の市民団体、大阪市立東高等学校はじめ各地の高校生等計108件の国内の視察者・来訪者の受入を行った。「つくばちびっ子博士（つくば市教育委員会主催）」「まつもと工業まつり（松本商工会議所主催）」等、青少年、市民対象の各種イベントに参加し、科学技術への理解醸成を図った。

(3) 知的所有権等の取得と利活用の促進

職務発明規程、知的所有権実施規程等を整備し、知的所有権の取得を奨励した結果、国内特許出願42件、外国出願16件を行った。

品種出願2件、品種登録国内1件、国外3件、命名登録1件を行った。

取得した特許については、情報を研究成果移転促進事業の事業主体の社団法人農林水産技術情報協会に提供した。13年度に登録になった特許を農業生物資源研究所ニュース第4号に掲載し、広報した。13年度には2件の特許許諾を行った。年度末に許諾申請があった品種2件についての決定は14年度早い時期に決定することとした。



・ 予算（人件費の見積りを含む。） 収支計画及び資金計画

1 予算配分等

旧農業生物資源研究所、旧蚕糸・昆虫農業技術研究所等の4機関からなる独立行政法人農業生物資源研究所として発足したことから、事業の円滑な移行を踏まえつつ、事業費の配分については、研究推進に要する直接経費に十分に配慮した。

さらに、研究の重点化・戦略化を図るため新しい所内制度を設け、所内研究推進（シーズ培養、FS研究、研究加速化、新規異動者支援等の目的に約20百万円）、研究活性化（交付金研究において顕著な成果が期待できる課題の推進、シンポジウム・研究会等の開催支援の目的に約30百万円）、研究調査のための外国旅費等（戦略的調査・研究情報収集、国際学会の運営のための派遣、若手研究者への支援、外国人研究者招へい等の目的に約10百万円）等へ重点配分した。また、研究成果の特許出願経費（約87百万円）及び広報等に関する経費（約25百万円）等に重点配分することにより、研究成果の有効的活用を図った。

2 外部資金等

年度計画等の事業推進に有効な競争的資金等の確保に積極的に対応することとし、年度計画予算額5,695百万円に対し、政府等プロジェクトへ提案・参画することにより研究資源の充実に努め、6,477百万円〔農林水産省5,702百万円、文部科学省679百万円、独立行政法人17百万円、その他79百万円（計画額対比782百万円増）〕の受託研究経費等が確保された。

さらに、公募型の競争的資金に応募した結果、5課題が採択され102百万円（特殊法人101百万円、民間1百万円）が確保され、研究推進の充実に図られた。

3 経費の節約等

電気供給契約の見直し及び冷暖房設備の稼働・利用の点検等により、経費の節約に努めた。特に、廊下、居室等については、こまめに点検等を行い消灯に努め、一般管理費の節約に努めた。上水道の利用・管理等についても同様に行った。



． その他農林水産省令で定める業務運営に関する計画

1 施設及び設備に関する計画

研究棟上水・井水配管改修を施設整備費補助金により実施した。

2 人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）

1）人員計画

（１）方針

研究業務の効率的、効果的な推進をめざして、選考採用及び国家公務員試験の活用により必要な人材を確保するとともに、研究職員の重点配置を行った。管理部門については、事務処理の一元化等を行い効率化を図った。

（２）人員に係る指標

平成14年１月１日現在、常勤職員数は一般職102名、技術職45名、研究職287名の計434名であった。

2）人材の確保

選考採用により研究職２名、技術専門職１名の採用を行い、国家公務員試験により 種４名（研究職）種１名（一般職） 種３名（一般職）を採用した。

平成14年４月１日付け採用に向けて研究職６名の公募を行い、採用を決定した。このうち２名については独立行政法人農業生物資源研究所ではじめての任期付き採用になる。

研究グループ長等の採用については公募規則を作成中である。

科学技術振興事業団科学技術特別研究員制度等によりポストドクター166名の人材を確保した。



1. 研究業績一覧

(1) 原著論文

- 1 Abe H, Ohbayashi F, Sugasaki T, Kanehara M, Terada T, Shimada T, Kawai S, Mita K, Kanamori Y, Yamamoto MT, Oshiki T (2001) Two novel *Pao*-like retrotransposons (*Kamikaze* and *Yamato*) from the silkworm *Bombyx mori* and *B. mandarina* : common structural feature of *Pao*-like element. **Molecular and General Genetics** 265:375-385
- 2 Akino T, Fukaya M, Yasui H, Wakamura S (2001) Sexual dimorphism in cuticular hydrocarbons of the white-spotted longicorn beetle, *Anoplophora malasiaca* (Coleoptera: Cerambycidae). **Entomological Science** 4(3):271-277
- 3 Amaya T, Tanaka H, Yamaguchi T, Shibuya N, Takahashi T (2001) The first synthesis of tetraglucosyl glucitol having phytoalexin-elicitor activity in rice cells based on a sequential glycosylation strategy. **Tetrahedron Letters** 42:9191-9194
- 4 Ando A, Kawata H, Murakami T, Shigenari A, Shiina T, Sada M, Tsuji T, Toriu A, Nakanishi Y, Mitsubashi T, Sekikawa K, Inoko H (2001) cDNA cloning and genetic polymorphism of the swine major histocompatibility complex (SLA) class II DMA gene. **Animal Genetics** 32:73-77
- 5 Aoki T, O'Donnell K, Ichikawa K (2001) *Fusarium fractiflexum* sp. nov. and two other species within the *Gibberella fujikuroi* species complex recently discovered in Japan that form aerial conidia in false heads. **Mycoscience** 42:461-478
- 6 青木孝之 (2001) フザリウム属菌および関連子囊菌類の分類. **Japanese Journal of Phytopathology** 67:235-247
- 7 Arai T, Freddi G, Innocenti R, Kaplan DL, Tsukada M (2001) Acylation of silk and wool with acid anhydrides and preparation of water-repellent fibers. **Journal of Applied Polymer Science** 11:2832-2841
- 8 Arai T, Ishikawa H, Freddi G, Winkler S, Tsukada M (2001) Chemical modification of *Bombyx mori* silk using isocyanates. **Journal of Applied Polymer Science** 79:1756-1763
- 9 Arai T, Wilson DL, Kasai N, Freddi G, Hayasaka S, Tsukada M (2002) Preparation of silk fibroin and polyallylamine composites. **Journal of Applied Polymer Science** 11:1963-1970
- 10 Arakaki N, Miyoshi T, Noda H (2001) *Wolbachia*-mediated parthenogenesis in the predatory thrips *Frankliniopsis vespiformis* (Thysanoptera: Insecta). **Proceedings of the Royal Society of London Series B** 268:1011-1016
- 11 Arakaki N, Oishi T, Noda H (2001) Parthenogenesis induced by *Wolbachia* in *Gronotoma micromorpha* (Hymenoptera: Eucilidae). **Entomological Science** 4(1):9-15
- 12 Arakawa T, Furuta Y, Miyazawa M, Kato M (2002) Flufenoxuron, an insect growth regulator, promotes peroral infection by nucleopolyhedrovirus (BmNPV) budded particles in the silkworm, *Bombyx mori* L. **Journal of Virological Methods** 100: 141-147
- 13 Arakawa T, Kamimura M, Miyazawa M, Kiuchi M (2001) Inactivation or removal of the budded particles of a nuclear polyhedrosis virus of a silkworm, *Bombyx mori* L. (Lep., Bombycidae). **Journal of Applied Entomology** 125:165-167
- 14 馬場孝秀, 間野吉郎, Sayed-Tabatabaei BE, 川崎信二, 小松田隆夫 (2002) 小型ゲルと銀染色を用いた簡易 AFLP法. **育種学研究** 4:1-4
- 15 Bayes M, Prieto I, Noguchi J, Barbero JL, Jurado P (2001) Evaluation of the *Stag3* gene and the synaptonemal complex in a rat model (*as/as*) for male infertility. **Molecular Reproduction and Development** 60:414-417

- 16 Chebotar VK, Asis Jr. CA, Akao S (2001) Production of growth-promoting substances and high colonization ability of rhizobacteria enhance the nitrogen fixation of soybean when coinoculated with *Bradyrhizobium japonicum*. **Biology and Fertility of Soils** 34:427-432
- 17 Chen JG, Shimomura S, Sitbon F, Sandberg G, Jones AM (2001) The role of auxin-binding protein 1 in the expansion of tobacco leaf cells. **The Plant Journal** 28(6):607-617
- 18 Day RB, Okada M, Ito Y, Tsukada K, Zaghoulani H, Shibuya N, Stacey G (2001) Binding site for chitin Oligosaccharides in the soybean plasma membrane. **Plant Physiology** 126:1162-1173
- 19 堂地修, 今井敬 (2001) リノール酸アルブミンがウシ体外受精由来切断分離胚の凍結・融解後の生存性に及ぼす影響. **酪農学園大学紀要** 26:51-56
- 20 Elmes GW, Akino T, Thomas JA, Clarke RT, Knapp JJ (2002) Interspecific differences in cuticular hydrocarbon profiles of *Myrmica* ants are sufficiently consistent to explain host specificity by *Maculinea* (large blue) butterflies. **Oecologia** 130:525-535
- 21 Freddi G, Arai T, Colonna G, Boschi A, Tsukada M (2002) Binding of Metal cations to chemically modified wool and antimicrobial properties of the wool-metal complexes. **Journal of Applied Polymer Science** 82:3513-3519
- 22 Fuchimoto D, Mizukoshi A, Shultz RM, Sakai S, Aoki F (2001) Posttranscriptional regulation of cyclin A1 and cyclin A2 during mouse oocyte meiotic maturation and preimplantation development. **Biology of Reproduction** 65: 986-993
- 23 Fujii Y, Okuda D, Fujimoto Z, Morita T, Mizuno H (2002) Crystallization and preliminary crystallographic studies of dimeric disintegrins from the venom of two *Agkistrodon* snakes. **Acta Crystallographica section D** 58:145-147
- 24 Fujimoto Z, Kuno A, Kaneko S, Kobayashi H, Kusakabe I, Mizuno H (2002) Crystal structures of the sugar complexes of *Streptomyces olivaceoviridis* E-86 xylanase: Sugar binding structure of the family 13 carbohydrate binding module. **Journal of Molecular Biology** 316:65-78
- 25 Fujiwara C, Murakami S, Taniguchi H, Miyamoto Y, Sakumoto R, Takeuchi S, Takahashi S, Okuda K (2002) Hepatocyte growth factor is a regulator in the proliferation of microvascular endothelial cells in bovine corpus luteum. **Journal of Reproduction and Development** 48: 49-55
- 26 Fukayama H, Tsuchida H, Agarie S, Nomura M, Onodera H, Ono K, Lee BH, Hirose S, Toki S, Ku MSB, Makino A, Matsuoka M, Miyao M (2001) Significant accumulation of C₄-specific pyruvate, orthophosphate dikinase in a C₃ plant, rice. **Plant Physiology** 127:1136-1146
- 27 Fukui K (2001) Effects of fluctuating temperature on mulberry sapling growth and dry matter accumulation. **The Journal of Sericultural Science of Japan** 70(1):31-36
- 28 Fukuoka S, Okuno K (2001) QTL analysis and mapping of *pi21*, a recessive gene for field resistance to rice blast in Japanese upland rice. **Theoretical and Applied Genetics** 103:185-190
- 29 Funahashi H, Ekwall H, Kikuchi K, Rodoriguez-Martinez H (2001) Transmission electron microscopy studies of the zona reaction in pig oocytes fertilized *in vivo* and *in vitro*. **Reproduction** 122:443-452
- 30 Furukawa T, Kimura S, Ishibashi T, Hashimoto J, Sakaguchi K (2001) A plant homologue of 36 kDa subunit of replication factor C: molecular cloning and characterization. **Plant Science** 161:99-106
- 31 Fuse T, Sasaki T, Yano M (2001) Ti-plasmid vectors useful for functional analysis of rice genes. **Plant Biotechnology** 18(3): 219-222
- 32 Gan H, Wang Y, Jiang H, Mita K, Kanost MR (2001) A bacteria-induced, intracellular serpin in granular hemocytes of *Manduca sexta*. **Insect Biochemistry and Molecular Biology** 31:887-898
- 33 Gao X, Bian W, Yang J, Tang K, Kitani H, Atsumi N, Jing N (2001) A role of N-cadherin in neuronal differentiation of embryonic carcinoma P19 cells. **Biochemical and Biophysical Research Communications** 84: 1098-1103

- 34 Gloz JF, Oh H-Y, Su V, Kusaba M, Newbigin E (2001) Genetic analysis of *Nicotiana* pollen-part mutants is consistent with the presence of an S-ribonuclease inhibitor at the S locus. **Proceedings of the National Academy of Science USA** 98:15372-15376
- 35 Haga A (2001) Utylizacja biopolimerow. **Zycie Uczelni** 67 : 18-19
- 36 Hagio T (2002) Adventitious shoot regeneration from immature embryos of sorghum. **Plant Cell, Tissue and Organ Culture** 68:65-72
- 37 原和二郎, 小瀬川英一, 間瀬啓介, 長岡純治, 岡野和広, 門野敬子 (2001) カイコにおけるEST化したcDNAクローンのRFLPによる連関検索. **日本蚕糸学雑誌** 70(3):135-143
- 38 Harumi T, Maruyama K, Kagami H, Sano A, Matsubara Y, Tagami T, Naito M (2001) Cloning of porcine IGF1 receptor cDNA and detection of sequence polymorphisms using RT-PCR. **Animal Genetics** 32:386-389
- 39 Harushima Y, Nakagahra M, Yano M, Sasaki T, Kurata N (2001) A genome-wide survey of reproductive barriers in an intraspecific hybrid. **Genetics** 159:883-892
- 40 Harushima Y, Nakagahra M, Yano M, Sasaki T, Kurata N (2002) Diverse variation of reproductive barriers in three intraspecific rice crosses. **Genetics** 160:313-322
- 41 長谷川清寿, 赤木悟史, 高橋清也, 居在家義昭, 岡崎尚之, 阿部茂樹 (2001) ウシ摘出卵巣由来卵丘細胞 - 卵子複合体からの体細胞核移植胚の作出. **日本胚移植学雑誌** 23:61-66
- 42 畠山正統 (2002) 昆虫の精細胞に授精能はあるか?. **生物科学** 53 (4): 221-227
- 43 畠山吉則, 早坂昭二 (2002) マルチプライマーPCR法を用いた新規微孢子虫検出法. **日本蚕糸学雑誌** 70(3):163-166
- 44 Hayashi M, Miyahara A, Sato S, Kato T, Yoshikawa M, Taketa M, Hayashi M, Pedrosa A, Onda R, Imaizumi-A H, Bachmair A, Sandal N, Stougaard J, Murooka Y, Tabata S, Kawasaki S, Kawaguchi M, Harada K (2001) Construction of a genetic linkage map of the model legume *Lotus japonicus* using an intraspecific F₂ population. **DNA Research** 8:301-310
- 45 Herath CB, Watanabe G, Wanzhou J, Noguchi J, Akiyama K, Kuramoto K, Groome NP, Taya K (2001) Elevated levels of inhibin-A and immunoreactive inhibin in aged male Wistar rats with testicular Leydig cell tumor. **Journal of Andrology** 22(5):838-846
- 46 Hikono H, Ohta M, Zhou J-H, Sakurai M (2001) Expression and distribution of the kit receptor in bovine bone marrow cells. **American Journal of Veterinary Research** 62: 974-977
- 47 Hinomoto N, Osakabe M, Gotoh T, Takafuji A (2001) Phylogenetic analysis of green and red forms of the two-spotted spider mite, *Tetranychus urticae* Koch (Acari: Tetranychidae), in Japan, based on mitochondrial cytochrome oxidase subunit I sequences. **Applied Entomology and Zoology** 36(4):459-464
- 48 Hinomoto N, Takafuji A (2001) Genetic diversity and phylogeny of the Kanzawa spider mite, *Tetranychus kanzawai*, in Japan. **Experimental and Applied Acarology** 25: 355-370
- 49 Hiraga S, Sasaki K, Ito H, Ohashi Y, Matsui H (2001) A large family of class III plant peroxidases **Plant Cell Physiology** 42:462-468
- 50 Hiraiwa H, Uenishi H, Kiuchi S, Watanabe M, Takagaki Y, Yasue H (2001) Assignment of T cell receptor (TCR) alpha-chain gene (A), beta-chain gene (B), gamma-chain gene (G), and delta-chain gene (D) loci on swine chromosomes by in situ hybridization and radiation hybrid mapping. **Cytogenetics and Cell Genetics** 93:94-99
- 51 Hiraiwa H, Uenishi H, Yasue H (2001) Alignment of VIM, MRC1, GAD2, and IL2RA genes on swine chromosome 10q by in situ hybridization and RH mapping. **Cytogenetics Cell Genetics** 94:229-232
- 52 Hirata T, Kimishima E, Aoki T, Nirenberg HI, O'Donnell K (2001) Morphological and molecular characterization of *Fusarium verticillioides* from rotten banana imported into Japan. **Mycoscience** 42:155-166

- 53 Hirochika H (2001) Contribution of the Tos17 retrotransposon to rice functional genomics. *Current Opinion in Plant Biology* 4: 118-122
- 54 Hirotsu S, Mizuno H, Fukuda K, Ma CQ, Matsui T, Hamako J, Morita T, Titani K (2001) Crystal structure of bitiscetin, a von Willebrand factor-dependent platelet aggregation inducer. *Biochemistry* 40:13592-13597
- 55 Horita M, Tsuchiya K (2001) Genetic diversity of Japanese strains of *Ralstonia solanacearum*. *Phytopathology* 91:399-407
- 56 Ichikawa Y, Takagi K, Tsumagari S, Ishihama K, Morita M, Kanemaki M, Takeishi M, Takahashi H (2001) Canine parentage testing based on microsatellite polymorphisms. *The Journal of Veterinary Medical Science* 63(11):1209-1213
- 57 Ichimaru T, Mori Y, Okamura H (2001) A possible role of neuropeptide Y as a mediator of undernutrition to the hypothalamic gonadotropin-releasing hormone pulse generator in goats. *Endocrinology* 142(6): 2489-2498
- 58 Ikeda H, Kato K, Kitani H, Suzuki T, Yoshida T, Inaguma Y, Yamamoto N, Suh J-G, Hyun B-H, Yamagata T, Namikawa T, Tomita T (2001) Virological properties and nucleotide sequences of Cas-E-type endogenous ecotropic murine leukemia viruses in South Asian Wild Mice, *Mus musculus castaneus*. *Journal of Virology* 75(11): 5049-5058
- 59 Ikeda H, Kikuchi K, Noguchi J, Takeda H, Shimada A, Mizokami T, Kaneko H (2002) Effect of preincubation of cryopreserved porcine epididymal sperm. *Theriogenology* 57:1309-1318
- 60 Inagaki N, Maitra R, Satoh K, Pakrasi HB (2001) Amino acid residues that are critical for *in Vivo* catalytic activity of CtpA, the Carboxyl-terminal processing protease for the D1 protein of photosystem II. *The Journal of Biological Chemistry* 276: 30099-30105
- 61 Inagaki N, Yamamoto Y, Satoh K (2001) A sequential two-step proteolytic process in the carboxyl-terminal truncation of precursor D1 protein in *Synechocystis* sp. PCC6803. *FEBS Letters* 509: 197-201
- 62 Inui H, Shiota N, Ido Y, Inoue T, Hirose S, Kawahigashi H, Ohkawa Y, Ohkawa H (2001) Herbicide metabolism and tolerance in the transgenic rice plants expressing human CYP2C9 and CYP2C19. *Pesticide Biochemistry and Physiology* 71:156-169
- 63 Ishibashi T, Kimura S, Furukawa T, Hatanaka M, Hashimoto J, Sakaguchi K (2001) Two types of replication protein A 70 kDa subunit in rice, *Oryza sativa*: molecular cloning, characterization, and cellular & tissue distribution. *Gene* 272:335-343
- 64 Ishida N, Isobe S, Ogawa H, Koizumi M, Kano H, Hazlewood CF (2001) Ontogenetic changes of water states and structural organization in growing kidney beans: parameter-imaging based on the diffusion measurements. *Cellular and Molecular Biology* 47(5):935-946
- 65 Ishida N, Takano H, Naito S, Isobe S, Uemura K, Haishi T, Kose K, Koizumi M, Kano H (2001) Architecture of baked breads depicted by a magnetic resonance imaging. *Magnetic Resonance Imaging* 19:867-874
- 66 石井和雄, 佐藤正寛, 佐々木修, 古川力 (2001) シリアンハムスターにおける母性効果を利用した選抜試験、2・4世代までの結果. *草食実験動物* 25:29-33
- 67 Ishimaru K, Hirose T, Aoki N, Takahashi S, Ono K, Yamamoto S, Jiangzong W, Saji S, Baba T, Ugaki M, Matsumoto T, Ohsugi R (2001) Antisense expression of a rice sucrose transporter OsSUT1 in rice (*Oryza sativa* L.). *Plant Cell Physiology* 42:1181-1185
- 68 Ishimaru K, Kobayashi N, Ono K, Yano M, Ohsugi R (2001) Are contents of Rubisco, soluble protein and nitrogen in flag leaves of rice controlled by the same genetics? *Journal of Experimental Botany* 52(362):1827-1833
- 69 Ito N, Takabatake R, Seo S, Hiraga S, Mitsuhara I, Ohashi Y (2002) Induced expression of a temperature-sensitive leucine-rich repeat receptorlike protein kinase gene by hypersensitive cell death and wounding in Tobacco plant carrying the *N* resistance gene. *Plant Cell Physiology* 43(3):266-274

- 70 Kajiwara H, Kaneko T (2002) Utility of single-strand conformation polymorphism analysis was improved by Low-Cross-Linking polyacrylamide gel and quick Low-Background silver staining. *Analytical Biochemistry* 300: 273-274
- 71 Kaku H, Ogawa T (2001) Genetic analysis of the relationship between the browning reaction and bacterial blight resistance gene *Xa3* in rice. *Journal of General Plant Pathology* 67(3):228-230
- 72 加来久敏 (2001) 中国における *Agrobacterium* 属細菌の探索と植物バイオベクターとしての特性解明 土と微生物 55(2):73-80
- 73 Kamimura M, Nakahara Y, Kanamori Y, Tsuzuki S, Hayakawa Y, Kiuchi M (2001) Molecular cloning of silk-worm paralytic peptide and its developmental regulation. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 286:67-73
- 74 Kamiya E, Yamakawa M, Shono T, Kono Y (2001) Molecular cloning, nucleotide sequences and gene expression of new cytochrome P450s (CYP6A24, CYP6D3v2) from the pyrethroid resistant housefly, *Musca domestica* L. (Diptera: Muscidae). *Applied Entomology and Zoology* 36(2):225-229
- 75 Kaneko H, Noguchi J, Kikuchi K, Akagi S, Shimada A, Taya K, Watanabe G, Hasegawa Y (2001) Production and endocrine role of inhibin during the early development of bull calves. *Biology of Reproduction* 65:209-215
- 76 金子浩之, 野口純子, 菊地和弘, 轟木淳一 (2001) ウシの卵胞発育に対する内分泌調節. *Journal of Reproduction and Development* 47:11-18
- 77 Karnuah AB, Uenishi H, Kiuchi S, Kojima M, Onishi A., Yasue H, Mitsuhashi T (2001) Assignment of 64 genes expressed in 28-Day-Old pig embryo to radiation hybrid map. *Mammalian Genome* 12:518-523
- 78 Kashiwazaki N, Kikuchi K, Suzuki K, Noguchi J, Nagai T, Kaneko H, Shino M (2001) Development *in vivo* and *in vitro* to blastocysts of porcine oocytes matured and fertilized *in vitro*. *Journal of Reproduction and Development* 47(5):303-310
- 79 Kato H, Hata T (2001) Bleaching of chinese tusser silk with hydrogen peroxide. *International Journal of Wild Silkmoth & Silk* 6:73-78
- 80 Kato Y, Aizawa T, Hoshino H, Kawano K, Nitta K, Zhang H (2002) *abf-1* and *abf-2*, ASABF-type antimicrobial peptide genes in *Caenorhabditis elegans*. *The Biochemical Journal* 361:221-230
- 81 Kawaguchi M, Imaizumi-Anraku H, Koiwa H, Niwa S, Ikuta A, Syono K, Akao S (2002) Root, root hair, and symbiotic mutants of the model legume *Lotus japonicus*. *MPMI* 15(1):17-26
- 82 Kawaguchi M, Motomura T, Imaizumi-Anraku H, Akao S, Kawasaki S (2001) Providing the basis for genomics in *Lotus japonicus*: the accessions Miyakojima and Gifu are appropriate crossing partners for genetic analyses. *Molecular Genetics and Genomics* 266:157-166
- 83 Khandoker MY, Imai K, Takahashi T, Hashizume K (2001) Role of Gelatinase on follicular atresia in the bovine ovary. *Biology of Reproduction* 65:726-732
- 84 Kikuchi K, Hirai M, Shiotsuki T (2001) Molecular cloning and tissue distribution of farnesyl pyrophosphate synthase from the silkworm *Bombyx mori*. *Journal of Insect Biotechnology and Sericology* 70(3):167-172
- 85 Kikuchi K, Onishi A, Kashiwazaki N, Iwamoto M, Noguchi J, Kaneko H, Akita T, Nagai T (2002) Successful piglet production after transfer of blastocysts produced by a modified *in vitro* system. *Biology of Reproduction* 66:1033-1041
- 86 菊池尚志 (2001) マイクロアレイ技術を用いた植物遺伝子発現の網羅的解析のためのシステムの整備. 育種学研究 3:95-101
- 87 Kimura M, Furuichi M, Yamamoto M, Kumasaka T, Mizuno H, Miyano M, Yamaguchi I (2002) The flexible C-terminal region of *Aspergillus terreus* blastocidin S deaminase: identification of its functional roles with deletion enzymes *Biochemical and Biophysical Research Communications* 290(1):421-426

- 88 Kimura S, Suzuki T, Yanagawa Y, Yamamoto T, Nakagawa H, Tanaka I, Hashimoto J, Sakaguchi K (2001) Characterization of plant proliferating cell nuclear antigen(PCNA) and flap endonuclease-1(FEN-1), and their distribution in mitotic and meiotic cell cycles. **The Plant Journal** 28(6):643-653
- 89 Kishimoto N, Sakai H, Jackson J, Jacobsen SE, Meyerowitz EM, Dennis ES, Finnegan JE (2001) Site specificity of the *Arabidopsis* MET1 DNA methyltransferase demonstrated through hypermethylation of the *superman* locus. **Plant Molecular Biology** 46:171-183 2001
- 90 Kitamoto H (2002) Studies on the prevention of aerobic spoilage of silage by killer yeast *Kluyveromyces lactis*. **Bulletin of the National Institute of Agrobiological Resources** 16:1-72
- 91 小林栄治, 島貫伸一, 秋田富士, 峰澤満, 栗田崇 (2001) ブタ4品種におけるエストロゲン受容体遺伝子の多型解析. **日本養豚学会誌** 38(3):125-129
- 92 Kobayashi K, Hatakeyama M, Toshima Y, Tamada Y (2001) Response by bilayer membranes containing the labial palpus of fly to stimulative substances. **Molecular Crystals & Liquid Crystals Incorporating Nonlinear Optics Bulletin** 370:347-352
- 93 Kobayashi M, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Magoshi J, Magoshi Y (2001) Control of gel-sol transition of silk fibroin by metal ions. **Transactions of the Materials Research Society of Japan** 26(2):577-579
- 94 Kohsaka T, Sasada H, Sato E, Banba K, Hashizume K (2001) Ultrastructural properties and immunolocalization of relaxin in the cytoplasmic electron-dense granules of large luteal cells during pregnancy in the cow. **The Journal of Reproduction and Development** 47(4):217-225
- 95 Koizumi M, Ishida N, Kano H (2000) Postharvest fruits and MRI. **Current Topics in Plant Biology** 2:1-20
- 96 Komatsu S, Guangxiao Yang, Unno K, Park P (2002) Characterization of a membrane-associated phosphoprotein (pp47) in rice (*Oryza sativa* L.) seedlings treated by gibberellin. **Journal of Plant Physiology** 159:121-128
- 97 Komatsu S, Konishi H, Yang G, Rakwal R (2001) Identification of a membrane-associated protein that is phosphorylated in gibberellin-treated rice seedlings. **Research Communications in Biochemistry, Cell & Molecular Biology** 5(1-2):133-145
- 98 Komatsu S, Li W, Konishi H, Yoshikawa M, Konishi T, Yang G (2001) Characterization of Ca²⁺-dependent protein kinase from rice root: differential response to cold and regulation by abscisic acid. **Biological & Pharmaceutical Bulletin** 24(11):1316-1319
- 99 Komatsuda T, Salomon B, Bryngelsson T, Bothmer R von (2001) Phylogenetic analysis of *Hordeum marinum* Huds. based on nucleotide sequences linked to the *vrs1* locus. **Plant Systematics Evolution** 227:137-144
- 100 Konishi H, Ishiguro K, Komatsu S (2001) A proteomics approach towards understanding blast fungus infection of rice grown under different levels of nitrogen fertilization. **Proteomics** 1:1162-1171
- 101 小西一之, 新納正之, 今井敬, 後藤裕司 (2001) 黒毛和種供胚牛への脂肪酸カルシウム給与が過剰排卵処理成績に及ぼす影響. **肉用牛研究会報** 71:2-10
- 102 Konno K, Okada S, Hirayama C (2001) Selective secretion of free glycine, a neutralizer against a plant defense chemical, in the digestive juice of the privet moth larvae. **Journal of Insect Physiology** 47:1451-1457
- 103 Kosugi S, Ohashi Y (2002) Interaction of the *Arabidopsis* E2F and DP proteins confers their concomitant nuclear translocation and transactivation. **Plant Physiology** 128:833-843
- 104 Kubo N, Takano M, Nishiguchi M, Kadowaki K (2001) Mitochondrial sequence migrated downstream to a nuclear V-ATPase B gene is transcribed but non-functional. **Gene** 271:193-201
- 105 Kumar NS, Yamamoto T, Basavaraja HK, Datta RK (2001) Studies on the effect of high temperature on F1 hybrids between polyvoltine and bivoltine silkworm races of *Bombyx mori* L. **Journal of Industrial Entomology** 2(2):123-127

- 106 Kumura H, Tanaka A, Abo Y, Yui S, Shimazaki K, Kobayashi E, Sayama K (2001) Primary culture of porcine mammary epithelial cells as a model system for evaluation of milk protein expression. *Bioscience, biotechnology, and biochemistry* 65:2098-2101
- 107 Kusaba M, Tung C-W, Nasrallah ME, Nasrallah JB (2002) Monoallelic expression and dominance interactions in anthers of Self-Incompatible *Arabidopsis lyrata*. *Plant Physiology* 128:17-20
- 108 草場基章, 松田久美子, 佐藤豊三, 田中欽二, 八重樫博志 (2001) ヤマノイモに発生した白絹病 (新称) 佐賀大学農学部集報 86:57-66
- 109 Landais I, Pommert J-M, Mita K, Nohata J, Gimenez S, Fournier P, Devauchella G, Duonor-Cerutti M, Ogliastro M (2001) Characterization of the 90-kDa heat shock protein in the Lepidoptera *Bombyx mori* and *Spodoptera frugiperda*. *Gene* 271: 223-231
- 110 Lin HX, Ashikari M, Yamanouchi U, Sasaki T, Yano M (2002) Identification and characterization of a quantitative trait locus, *Hd9*, controlling heading date in rice. *Breeding Science* 52:35-41
- 111 Lin Zhihong, Nomura O, Hayashi T., Wada Y, Yasue H (2001) Characterization of a SINE species from vicuna and its distribution in animal species including the family Camelidae. *Mammalian Genome* 12:305-308
- 112 Maeda M (2001) The conserved residues of the ligand-binding domains of steroid receptors are located in the core of the molecules. *Journal of Molecular Graphics and Modelling* 19: 543-551
- 113 Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Kobayashi M, Tsuda H, Nakamura S (2001) Biospinning(Fiber formation of silk). *Proceedings of the 10th International Wool Textile Research conference* 1SF(3):1-7
- 114 Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Kobayashi M, Tsuda H, Nakamura S (2001) Crystallization of silk fibroin. *Proceedings of the 10th International Wool Textile Research conference* 1SF(4):1-7
- 115 Magoshi J, Nakamura S (2001) Biodegradable polymer in seed protein from corn. *Recent Advances in Environmentally Copatible* 11:247-257
- 116 馬越淳, 馬越芳子, 田中稔久, 井上俊一, 小林将俊, 津田英利 生物紡糸-カイコの糸作り (2001) 高分子学会誌 50(10):2170-2171
- 117 Mano Y, Kawasaki S, Takaiwa F, Komatsuda T (2001) Construction of a genetic map of barley (*Hordeum vulgare* L.)cross Azumamugi x Kanto Nakate Gold using a simple and efficient amplified fragment-length polymorphism system. *Genome* 44 (2): 284-292
- 118 松井太衛, 広津昌子, 水野洋 (2001) フォン・ビルブランド因子のモジュレータータンパク質であるボトロセチンの立体構造と機能. 日本血栓止血学会誌 12(3):240-245
- 119 Matsui K, Mano Y, Taketa S, Kawada N, Komatsuda T (2001) Molecular mapping of a fertility restoration locus (*Rfm1*) for cytoplasmic male sterility in barley (*Hordeum vulgare* L.). *Theoretical and Applied Genetics* 102:477-482
- 120 Matsumoto K, Yamamoto D S, Sumitani M, Lee J M, Hatakeyama M, Oishi K (2002) Detection of a single copy gene on a mitotic metaphase chromosome by fluorescence in situ hybridization (FISH) in the sawfly, *Athalia rosae* (Hymenoptera). *Archives of Insect Biochemistry and Physiology* 49: 34-40
- 121 松本耕平, 李載みん (日へんに文) 畠山正統, 大石陸生 (2001) カブラハバチにおける FISH 法を用いた遺伝子のマッピング. *Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan* 36: 25-26
- 122 Matsumoto S, Yoshiga T, Yokoyama N, Iwanaga M, Koshiha S, Kigawa T, Hirota H, Yokoyama S, Okano K, Mita K, Shimada T, Tatsuki S (2001) Characterization of acyl-CoA-binding protein (ACBP) in the pheromone gland of the silkworm, *Bombyx mori*. *Insect Biochemistry and Molecular Biology* 31: 603-609
- 123 Matsushita Y, Deguchi M, Youda M, Nishiguchi M, Nyunoya H (2001) The tomato mosaic tobamovirus movement protein interacts with a putative transcriptional coactivator KELP. *Molecules and Cells* 12:57-66
- 124 峰澤満 (2001) 動物遺伝資源の現状 - 危機にある在来品種 アニテックス 13(5):237-242

- 125 Mitsuahara I, Nakajima Y, Natori S, Mitsuoka T, Ohashi Y (2001) *In vitro* growth inhibition of human intestinal bacteria by sarcotoxin IA, an insect bactericidal peptide. **Biotechnology Letters** 23: 569-573
- 126 Mitsuahara I, Shirasawa-Seo N, Iwai T, Nakamura S, Honkura R, Ohashi Y (2002) Release from Post-transcriptional gene silencing by cell proliferation in transgenic tobacco plants: Possible mechanism for noninheritance of the silencing. **Genetics** 160:343-352
- 127 Mitsuhashi W (2002) Further evidence that spindles of an entomopoxvirus enhance its infectivity in a host insect. **Journal of Invertebrate Pathology** 79:59-61
- 128 Miura K, Lin SY, Yano M, Nagamine T (2001) Mapping quantitative trait loci controlling low temperature germinability in rice (*Oryza sativa* L.). **Breeding Science** 51:293-299
- 129 Miyamoto M, Yano M, Hirasawa H (2001) Mapping of quantitative trait loci conferring blast field resistance in the Japanese upland rice variety Kahei. **Breeding Science** 51:257-261
- 130 宮島たか子, 山本俊雄, 間瀬啓介, 飯塚哲也, 野崎稔, 木内信 (2001) トリフルミゾール投与による細繊維度蚕品種の「はくぎん」及び「ほのぼの」の3眠化とその繭糸質特性. **日本蚕糸学雑誌** 70:37-42
- 131 Mizuno H, Fujimoto Z, Atoda H, Morita T (2001) Crystal structure of an anticoagulant protein in complex with the Gla domain of factor X. **Proceedings of the National Academy of Science USA** 98(13):7230-7234
- 132 森下敏和, 手塚隆久 (2001) 九州における普通ソバの農業関連形質の年次変動と品種間差異. **日本作物学会記事** 70(3):379-386
- 133 Morozumi T, Sumantori C, Nakajima E, Kobayashi E, Asano A, Oishi T, Mitsuhashi T, Watanabe T, Hamasima N (2001) Three types of polymorphisms in exon 14 in porcine *Mx1* gene. **Biochemical Genetics** 39(12):251-260
- 134 Murai H, Hashimoto Z, Sharma PN, Shimizu T, Murata K, Takumi S, Mori N, Kawasaki S, Nakamura C (2001) Construction of a high-resolution linkage map of a rice brown planthopper (*Nilaparvata lugens* Stal) resistance gene *bph2*. **Theoretical and Applied Genetics** 103:526-532
- 135 Muraji M (2001) Molecular, morphological, and behavioral analyses of Japanese Gerris (*Macrogeris*) water striders (Heteroptera: Gerridae): evidence for a new species. **Entomological Science** 4:321-334
- 136 Muraji M, Kawasaki K, Shimizu T (2001) Nucleotide sequence variation and use of mitochondrial DNA for phylogenetic analyses in anthocorid bugs (Heteroptera: Anthocoridae). **Japan Agricultural Research Quarterly** 35:85-90
- 137 Muraji M, Nakahara S (2001) Phylogenetic relationships among fruit flies, *Bactrocera* (Diptera, Tephritidae), based on the mitochondrial rDNA sequences. **Insect Molecular Biology** 10:549-559
- 138 Muraji M, Tachikawa S (2001) Nucleotide substitutions in a portion of the mitochondrial cytochrome b gene in water striders (Heteroptera: Gerridae). **Journal of Agricultural Science, Tokyo Nogyo Daigaku** 46:166-173
- 139 Nagai T (2001) The improvement of In Vitro maturation systems for bovine and porcine oocytes. **Theriogenology** 55:1291-1301
- 140 Nagata R, Mori M, Hanada K, Nishiguchi M (2001) An improved method of reverse transcription and polymerase chain reaction (RT-PCR) to efficiently detect potyvirus, sweet potato feathery mottle virus (SPFMV) RNA in sweet potato. **Journal of General Plant Pathology** 67:164-168
- 141 Naito M, Sano A, Matsubara Y, Harumi T, Tagami T, Sakurai M, Kuwana T (2001) Localization of primordial germ cells or their precursors in stage X blastoderm of chickens and their ability to differentiate into functional gametes in opposite-sex recipient gonads. **Reproduction** 121(4):547-552
- 142 Naito M, Sano A, Tagami T, Harumi T, Matsubara Y, Kuwana T (2001) Effect of mytomycin C treatment on feeder cells and the proliferation of cultured chicken primordial germ cells isolated from embryonic blood. **Journal of Poultry Science** 38(4):343-347

- 143 中原重仁, 加藤治夫, 金田昌士, 杉本民雄, 村路雅彦 (2001) PCR-RFLPによるミカンコミバエ種群 *Bactrocera dorsalis* complex (Diptera: Tephritidae)の識別「*B. dorsalis* (フィリピン産個体群)と*B. dorsalis* (台湾産個体群)の遺伝的変異. **植物防疫所調査研究報告** 37:69-73
- 144 Nakajima Y, van der Goes van Naters-Yasui A, Taylor D, Yamakawa M (2001) Two isoforms of a member of the arthropod defensin family from the soft tick, *Ornithodoros moubata* (Acari: Argasidae). **Insect Biochemistry and Molecular Biology** 31:747-751
- 145 Nakamura A, Noda T (2001) Host-age effects on oviposition behavior and development of *Oomyzus sokolowskii* (Hymenoptera: Eulophidae), a larval-pupal parasitoid of *Plutella xylostella* (Lepidoptera: Yponomeutidae). **Applied Entomology and Zoology** 36:367-372
- 146 Nakano H, Shimada A, Imai K, Takezawa T, Takahashi T, Hashizume K (2002) Bovine trophoblastic cell differentiation on collagen substrata: formation of binucleate cells expressing placental lactogen. **Cell and Tissue Research** 307:225-235
- 147 中島健一, 高林千幸, 寺本英敏, 中村邦子, 鮎澤弘子, 岩垂美智子, 宮崎栄子, 大江尚夫 (2001) 全齢人工飼料育繭による生糸及び織物の特性解明. **日本シルク学会誌** 10:13-19
- 148 Nakayama S, Fujishita M, Sone T, Ohyama K (2001) Additional locus of rDNA sequence specific to the X chromosome of the liverwort, *Marchantia Polymorpha*. **Chromosome Research** 9:469-473
- 149 Nishibori M, Hayashi T, Tsudzuki M, Yamamoto Y, Yasue H (2001) Complete sequence of the Japanese quail (*Coturnix japonica*) mitochondrial benome and its genetic relationship with related species. **Animal Genetics** 32:380-385
- 150 Nishimura N, Tanabe S, He D-Y, Yokota T, Shibuya N, Minami E (2001) Recognition of N-acetylchitoooligosaccharide elicitor by rice protoplasts. **Plant Physiology and Biochemistry** 39:1105-1110
- 151 Noda H, Koizumi Y, Zhang Q, Deng K (2001) Infection density of *Wolbachia* and imcompatibility level in two planthopper species, *Laodelphax striatellus* and *Sogatella furcifera*. **Insect Biochemistry and Molecular Biology** 31: 727-737
- 152 Noda H, Miyoshi T, Zhang Q, Watanabe K, Deng K, Hoshizaki S (2001) *Wolbachia* infection shared among planthoppers (Homoptera: Delphacidae) and their endoparasite (Strepsiptera: Elenchidae): a probable case of interspecies transmission. **Molecular Ecology** 10: 2101-2106
- 153 Noda T, Kamano S (2002) Artificial rearing of *Nezara viridula* (L.) and *N. antennata* Scott (Heteroptera: Pentatomidae) with semi-solid meridic diets. **Applied Entomology and Zoology** 37:43-50
- 154 Noda T, Kimura Y, Maria BR de Lopez, Mirian T de Evert, Palacio C (2002) Potential of predatory aatural enemies for biological control of Sap-Sucking insect pests in paraguay. **Japan Agricultural Research Quarterly** 36:31-35
- 155 Noda T, Li Chengyun, Li Jiarui, Ochiai H, Ise K, Kaku H (2001) Pathogenic diversity of *Xanthomonas oryzae* pv. *oryzae* strains from Yunnan province, China. **Japan Agricultural Research Quarterly** 35(2):97-103
- 156 野崎稔, 大山誠, 井波勇二, 飯野健一, 橋本好二 (2001) トラクタ装着用電動式農薬散粒機 **日本蚕糸学雑誌** 70:155-157
- 157 Obara M, Kajiura M, Fukuta Y, Yano M, Hayashi M, Yamaya T, Sato T (2001) Mapping of QTLs associated with cytosolic glutamine synthetase and NADH-glutamate synthase in rice (*Oryza sativa* L.). **Journal of Experimental Botany** 52: 1209-1217
- 158 Ochiai H, Inoue Y, Hasebe A, Kaku H (2001) Construction and characterization of a *Xanthomonas oryzae* pv. *oryzae* bacterial artificial chromosome library. **FEMS Microbiology Letters** 200:59-65
- 159 Ohbayashi F, Suzuki MG, Mita K, Okano K, Shimada T (2001) A homologue of the *Drosophila doublesex* gene is transcribed into sex-specific mRNA isoforms in the silkworm, *Bombyx mori*. **Comparative biochemistry and physiology .Ser.B** 128: 145-158

- 160 Ohsako T, Fukuoka S, Bimb HP, Baniya BK, Yasui Y, Ohnishi O (2001) Phylogenetic analysis of the genus *Fagopyrum* (Polygonaceae), including the Nepali species *F. megacarpum*, based on nucleotide sequence of the *rbcL-accD* region in chloroplast DNA. **Fagopyrum** 18:9-14
- 161 Okada M, Matsumura M, Shibuya N (2001) Identification of a high-affinity binding protein for N-acetylchitooligosaccharide elicitor in the plasma membrane from rice leaf and root cells. **Journal of Plant Physiology** 158:121-124
- 162 Okada S, Sone T, Fujisawa M, Nakayama S, Takenaka M, Ishizaki K, Kono K, Shimizu-Ueda Y, Hanajiri T, Yamato KT, Fukuzawa H, Brennicke A, Ohyama K (2001) The Y chromosome in the liverwort *Machantia polymorpha* has accumulated unique repeat sequences harboring a male-specific gene. **Proceedings of the National Academy of Science USA** 98:9454-9459
- 163 Okano K, Shimada T, Mita K, Maeda S (2001) Comparative expressed-sequence-tag analysis of differential gene expression profiles in BmNPV-infected BmN cells. **Virology** 282: 348-356
- 164 Okumura N, Kurosawa Y, Kobayashi E, Watanobe T, Ishiguro N, Yasue H, Mitsuhashi T (2001) Genetic relationship amongst the major non-coding regions of mitochondrial DNAs in wild boars and several breeds of domesticated pigs. **Animal genetics** 32 :139-147
- 165 Onodera Y, Suzuki A, Wu C-Y, Washid H, Takaiwa F (2001) A rice functional transcriptional activator, RISBZ1, responsible for endosperm-specific expression of storage protein genes through GCN4 motif. **The Journal of Biological Chemistry** 276:14139-14152
- 166 Oshima A, Ikeda S, Katoh E, Tabata Y (2001) Chemical structure and physical properties of radiation-induced crosslinking of polytetrafluoroethylene. **Radiation Physics and Chemistry** 62:39-45
- 167 Peng L, Kawagoe Y, Hogan P, Delmer D (2002) Sitosterol- β -glucoside as primer for cellulose synthesis in plants. **Science** 295:147-150
- 168 Peng L, Xiang F, Roberts E, Kawagoe Y, Greve LC, Kreuz K, Delmer DP (2001) The experimental herbicide CGA 325'615 inhibits synthesis of crystalline cellulose and causes accumulation of Non-Crystalline β -1,4-Glucan associated with CesA protein. **Plant Physiology** 126:981-992
- 169 Quan G-X, Mita K, Okano K, Shimada T, Ugajin N, Xia Z, Goto N, Kannke E, Kawasaki H (2001) Isolation and particular expression of the ecdysteroid-inducible angiotensin-converting enzyme-related gene in wing discs of *Bombyx mori*. **Insect Molecular Biology** 31: 97-103
- 170 Rabbani MA, Qureshi AA, Afzal M, Anwar R, Komatsu S (2001) Characterization of mustard germplasm by SDS-PAGE of total seed proteins. **Pakistan journal of botany** 33(2):173-179
- 171 Rakwal R, Kaku H, Komatsu S (2001) Immunological evidence for induction of pathogenesis related proteins by jasmonic acid and blast infection in rice(*Oryza sativa* L.). **Research Communications in Biochemistry, Cell & Molecular Biology** 5: 3-25
- 172 Rakwal R, Komatsu S (2001) Jasmonic acid-induced necrosis and drastic decreases in ribulose-1,5-bisphosphate carboxylase/oxygenase in rice seedlings under light involves reactive oxygen species. **Journal of Plant Physiology** 158:679-688
- 173 李載岐, 畠山正統 (2001) 昆虫卵黄蛋白質の構造と機能 ―その類似性と分子系統解析への利用―. **生物科学** 53 (2): 105-112
- 174 Sagisaka A, Miyanoshita A, Ishibashi J, Yamakawa M (2001) Purification, characterization and gene expression of a glycine and proline-rich antibacterial protein family from larvae of a beetle, *Allomyrina dichotoma*. **Insect Molecular Biology** 10: 293-302
- 175 Saha S, Shimizu M, Geshi M, Izaike Y (2002) Comparison of enzymatic and mechanical methods for the collection of bovine preantral follicles. **Animal Science** 74:155-161

- 176 Sakaguchi M, Dominko T, Yamauchi N, Leibfried-Rutledge LM, Nagai T, First NL (2002) Possible mechanism for acceleration of meiotic progression of bovine follicular oocytes by growth factors *in vitro*. **Reproduction** 123:135-142
- 177 Sakamoto T, Kobayashi M, Itoh H, Tagiri A, Kayano T, Tanaka H, Iwahori S, Matsuoka M (2001) Expression of a gibberellin 2-oxidase gene around the shoot apex is related to phase transition in rice. **Plant Physiology** 125:1508-1516
- 178 Sakata K, Nagamura Y, Numa H, Antonio BA, Nagasaki H, Idonuma A, Watanabe W, Shimizu Y, Horiuchi I, Matsumoto T, Sasaki T, Higo K (2002) RiceGAAS: an automated annotation system and database for rice genome sequence. **Nucleic Acids Research** 30: 98-102
- 179 Sarker N, Hawken RJ, Takahashi S, Alexander LJ, Awata T, Schook LB, Yasue H (2001) Directed isolation and mapping of microsatellites from swine chromosome 1q telomeric region through microdissection and RH mapping. **Mammalian Genome** 12:524-527
- 180 Sasagawa H, Nakahara Y, Kiuchi M (2001) An ENF peptide, *Bombyx mori* paralytic peptide, induces cell proliferation and morphological changes in *Bombyx* cell lines. **In vitro cellular & developmental biology Animal** 37:638-640
- 181 Sasaki K, Hiraga S, Ito H, Seo S, Matsui H, Ohashi Y (2002) A wound-inducible tobacco peroxidase gene expresses preferentially in the vascular system. **Plant Cell Physiology** 43(1):108-117
- 182 Sasaki T (2001) The progress in rice genomics. **Euphytica** 118: 103-111
- 183 Sato M, Saiki T, Wei W, Kawakita H (2001) A unique behavior in the leafhopper vector and *in vitro* isolation of mulberry dwarf phytoplasma. **Japanese journal of Mycoplasma** 28: 15-18
- 184 Sato M, Tsuji NM, Gotoh H, Yamashita K, Hashimoto K, Tadotsu N, Yamanaka H, Sekikawa K, Hashimoto Y (2001) Overexpression of the Wiskott-Aldrich Syndrome Protein N-terminal domain in transgenic mice inhibits T Cell proliferative responses via TCR signaling without affecting cytoskeletal rearrangements. **The Journal of Immunology** 167:4701-4709
- 185 Sato M, Watanabe K, Sato Y (2001) *Pseudomonas syringae* pv. *solidago* pv. nov., the causal agent of bacterial leaf spot of tall goldenrod *Solidago altissima* L. **Journal of General Plant Pathology** 67:303-308
- 186 佐藤正寛, 古川力, 高橋秀彰, 峰澤満 (2001) シリアンハムスターの繁殖形質における遺伝的パラメーターの推定. **草食実験動物** 25:5-12
- 187 佐藤正寛, 石井和雄, 古川力, 高橋秀彰, 峰澤満 (2001) 近交系シリアンハムスターの繁殖および発育能力におけるダイアレルクロスによる遺伝分析 2. 組み合わせ能力の推定. **草食実験動物** 25:13-19
- 188 Sato T, Morishita T, Hara T, Suda I, Tetsuka T (2001) Near-Infrared reflectance spectroscopic analysis of moisture, fat, protein, and physiological activity in buckwheat flour for breeding selection. **Plant Production Science** 4:270-277
- 189 佐藤豊三, 森充隆, 富岡啓介, 大久保博人 (2001) *Pseudocercospora* sp. によるデンドロビウム (デンファレ) の新病害, すず葉枯病の発生 **四国植物防疫研究** 36:29-36
- 190 Seo S, Seto H, Yamakawa H, Ohashi Y (2001) Transient accumulation of jasmonic acid during the synchronized hypersensitive cell death in *Tobacco mosaic virus*-infected tobacco leaves. **Molecular plant-microbe interactions**. 14:261-264
- 191 Sharma A, Komatsu S (2002) Involvement of a Ca^{2+} -dependent protein kinase component downstream to gibberellin-binding phosphoprotein, RuBisCO activase, in rice. **Biochemical and Biophysical Research Communications** 290(2):690-695
- 192 Sharma A, Matsuoka M, Tanaka H, Komatsu S (2001) Antisense inhibition of a BRI1 receptor reveals additional protein kinase signaling components downstream to the preception of brassinosteroids in rice. **FEBS Letters** 507:346-350

- 193 Shcherban AB, Vaughan DA, Tomooka N, Kaga A (2001) Diversity in the integrase coding domain of a gypsy-like retrotransposon among wild relatives of rice in the *Oryza officinalis* complex. **Genetica** 110:43-53
- 194 Shibata Y, Carninci P, Sato K, Hayatsu N, Shiraki T, Ishii Y, Arakawa T, Hara A, Osato N, Izawa M, Aizawa K, Itoh M, Shibata K, Shinagawa A, Kawai J, Ota Y, Kikuchi S, Kishimoto N, Muramatsu M, Hayashizaki Y (2001) Removal of polyA tails from full-length cDNA libraries for high-efficiency sequencing. **Biotechniques** 31(5): 1-4
- 195 Shibuya N, Minami E (2002) Oligosaccharide signaling for defense responses in plant. **Physiological and Molecular Plant Pathology** 59:223-233
- 196 Shimada A, Nakano H, Takahashi T, Imai K, Hashizume K (2001) Isolation and characterization of a bovine blastocyst-derived trophoblastic cell line, BT-1: development of a culture system in the absence of feeder cell. **Placenta** 22:652-662
- 197 Shimanuki S, Kobayashi E, Awata T (2001) A single nucleotide polymorphism in the porcine androgen receptor gene. **Animal Genetics** 32:165-166
- 198 清水徹, 川崎建次郎, 日本典秀 (2001) タイリクヒメハナカメムシの分布北限について (半翅目: ハナカメムシ科). **Japanese Journal of Entomology New Series** 4: 129-141
- 199 Shin HJ, Lee DE, Shin DH, Kim KU, Kim HY, Ohashi Y, Han O, Baik MG, Back K (2001) Molecular cloning and cultivar specific expression of MAP kinases from *Capsicum annuum*. **Molecules and Cells** 11: 48-54
- 200 Shirasawa-Seo N, Mitsuhashi I, Nakamura S, Murakami T, Iwai T, Nishizawa Y, Hibi T, Ohashi Y (2002) Constitutive promoters available for transgene expression instead of *CaMV 35S RNA* promoter: *Arabidopsis* promoters of tryptophan synthase protein β subunit and phytochrome B. **Plant Biotechnology** 19(1):19-26
- 201 Shobuike T, Tatebayashi K, Tani T, Sugano S, Ikeda H (2001) The *dhp1⁺* gene, encoding a putative nuclear 5' $\rightarrow$ 3' exonuclease, is required for proper chromosome segregation in fission yeast. **Nucleic Acids Research** 29:1326-1333
- 202 Smilde WD, Haluskova J, Sasaki T, Graner A (2001) New evidence for the synteny of rice chromosome 1 and barley chromosome 3H from rice expressed sequence tags. **Genome** 44:361-367
- 203 Sugimura M, Hirayama C, Nakamura M (2001) Selective transport of the mulberry leaf urease from the midgut into the larval hemolymph of the silkworm, *Bombyx mori*. **Journal of Insect Physiology** 47:1133-1138
- 204 Sugiyama N, Izawa T, Oikawa T, Shimamoto K (2001) Light regulation of circadian clock-controlled gene expression in rice. **The Plant Journal** 26(6): 607-615
- 205 Suh S, Noda H, Blackwell M (2001) Insect symbiosis: Derivation of yeast-like endosymbionts within an entomopathogenic filamentous lineage. **Molecular Biology and Evolution** 18: 995-1000
- 206 Suto J, Sekikawa K (2002) Y-chromosomal factor is involved in neonatal lethality in ♀ DDD $\times$ ♂ DH-Dh/+ F₁ Dh/+ male mice. **Mammalian Genome** 3:149-152
- 207 Suto J, Yamanaka H, Sekikawa K (2002) Genetic analysis of inferior nurturing ability in RR mice. **Reproduction** 123:53-58
- 208 Suzuki MG, Ohbayashi F, Mita K, Shimada T (2001) The mechanism of sex-specific splicing at the *doublesex* gene is different between *Drosophila melanogaster* and *Bombyx mori*. **Insect Biochemistry and Molecular Biology** 31:1201-1211
- 209 Suzuki Y, Ise K, Nagamine T (2000) Geographical variation of the gene, (*lox3(t)*), causing lipoxygenase-3 deficiency in Asian rice varieties. **Rice Genetics Newsletter** 17:13-14
- 210 Taguchi SF, Yuan Z, Hake S, Jackson D (2001) The *fasciated ear2* gene encodes a leucine-rich repeat receptor-like protein that regulates shoot meristem proliferation in maize. **Genes & Development** 15:2755-2766

- 211 Taji H, Kasai Y, Sugio A, Kuwahara S, Watanabe M, Harada N, Ichikawa A (2002) Practical enantioresolution of alcohols with 2-methoxy-2-(1-naphthyl)propionic acid and determination of their absolute configurations by the ^1H NMR anisotropy method. *Chirality* 14(1):81-84
- 212 高林千幸, 坪井恒, 中村邦子, 中島健一, 寺本英敏, 宮坂照彦 (2001) 玉糸節の簡易計測とそれに基づく織物上の節発現シミュレーション *日本シルク学会誌* 10:23-30
- 213 Takafuji A, Sugeng S, Hinomoto N (2001) Host-related differences in diapause characteristics of different geographical populations of the Kanzawa spider mite, *Tetranychus kanzawai* Kishida (Acari: Tetranychidae), in Japan. *Applied Entomology and Zoology* 36: 177-184
- 214 Takahashi H, Satho M, Minezawa M, Purwadaria T, Prasetyo H (2001) Characterization of duck microsatellite report sequences. *Japan Agricultural Research Quarterly* 35(4):217-219
- 215 Takahashi M, Kiuchi M, Kamimura M (2002) A new chitinase-related gene, *BmChiR1*, is induced in the *Bombyxmori* anterior silk gland at molt and metamorphosis by ecdysteroid. *Insect Biochemistry and Molecular Biology* 32:147-151
- 216 Takahashi Y, Ayahiko S, Sasaki T, Yano M (2001) *Hd6*, a rice quantitative trait locus involved in photoperiod sensitivity, encodes the α subunit of protein kinase CK2. *Proceedings of the National Academy of Science USA* 98:7922-7927
- 217 Takai R, Hasegawa K, Kaku H, Shibuya N, Minami E (2001) Isolation and analysis of expression mechanisms of a rice gene, EL5, which shows structural similarity to ATL family from *Arabidopsis*, in response to *N*-acetylchitooligosaccharide elicitor. *Plant Science* 160: 577-583
- 218 Takeda M, Mita K, Quan G-X, Shimada T, Okano K, Kanke E, Kawasaki H (2001) Mass isolation of cuticle protein cDNAs from wing discs of *Bombyx mori* and their characterizations. *Insect Biochemistry and Molecular Biology* 31: 1019-1028
- 219 Takeda S, Sugimoto K, Kakutani T, Hirochika H (2001) Linear DNA intermediates of the *Tto1* retrotransposon in *Gag* particles accumulated in stressed tobacco and *Arabidopsis thaliana*. *The Plant Journal* 28:307-317
- 220 Takeichi T (2001) Parenchyma-specific galactose-rich basic glycoprotein in plant cell wall. *Recent Research Developments in Plant Physiology* 2:213-218
- 221 Takeuchi Y, Hayasaka H, Chiba B, Tanaka I, Shimano T, Yamagishi M, Nagano K, Sasaki T, Yano M (2001) Mapping quantitative trait loci controlling cool-temperature tolerance at booting stage in temperate *japonica* rice. *Breeding Science* 51:191-197
- 222 Tamada Y, Murata M, Hayashi T, Goto K (2002) Anticoagulant mechanism of sulfonated polyisoprenes. *Biomaterials* 23:1375-1382
- 223 Tamura Y, Nakajima K, Nagayasu K, Takabayashi C (2002) Flavonoid 5-glucosides from the cocoon shell of the silkworm, *Bombyx mori*. *Phytochemistry* 59:275-278
- 224 Tanaka A, Yasuda K, Wakamura S (2001) Sex pheromone of *Acrolepiopsis nagaimo* Yasuda (Lepidoptera: Acrolepiidae), a predominant leafminer on Chinese yam in Tottori Prefecture: field evaluation and activity of the third component. *Applied Entomology and Zoology* 36(2):203-207
- 225 Tanaka T, Magoshi J, Magoshi Y, Lotz B, Inoue S-I, Kobayashi M, Tuda H, Becker MA, Han Z, Nakamura S (2001) Spherulites of tussah silk fibroin: Structure, thermal properties. *Journal of Thermal Analysis and Calorimetry* 64:645-650
- 226 田中宥司 (2001) ジベレリン・ブラシノライド関連遺伝子によるイネ草型の育種. *日本作物学会記事* 70(1):286-287
- 227 Taniguchi Y, Henry LY, Yamada T, Akagi S, Takahashi S, Shimizu M, Yasue H, Sasaki Y (2001) Analysis of expressed sequence tags from a cDNA library of somatic nuclear transfer-derived cloned bovine whole foetus. *Animal Genetics* 32:1-6

- 228 Tanno K, Taketa S, Takeda K, Komatsuda T (2002) A DNA marker closely linked to the *vrs1* locus (row-type gene) indicates multiple origins of six-rowed cultivated barley (*Hordeum vulgare* L.). **Theoretical and Applied Genetics** 104:54-60
- 229 Todoroki J, Yamakuchi H, Mizoshita K, Kubota N, Tabara N, Noguchi J, Kikuchi K, Watanabe G, Taya K, Kaneko H (2001) Restoring ovulation in beef donor cows with ovarian cysts by progesterone-releasing intravaginal silastic devices. **Theriogenology** 55:1919-1932
- 230 Tomioka K, Sato T (2001) Restriction landmark genomic scanning (RLGS) in fungi. **Mycoscience** 42:295-299
- 231 Tomioka K, Sato T, Koganezawa H (2001) Anthracnose of *Nemesia strumosa* caused by *Colletotrichum fuscum*. **Journal General Plant Pathology** 67:111-115
- 232 Tomooka N, Vaughan DA, Xu RQ, Kashiwaba K, Kaga A (2001) Japanese native vigna genetic resources. **Japan Agricultural Research Quarterly** 35:1-9
- 233 Tretinnikov ON, Tamada Y (2001) Influence of casting temperature on the Near-Surface structure and wettability of cast silk fibroin films. **Langmuir** 17:7406-7413
- 234 Tsuchiya K, d'Ursel C, Horita M, Nozu Y (2001) Monoclonal and Polyclonal Antibodies Against *Xanthomonas campestris* pv. *vesicatoria*: Characterization and Application. **Plant Pathogenic Bacteria** 417-420
- 235 Tsuji N, Mizumachi K, Kurisaki J (2001) Interleukin-10-secreting Peyer's patch cells are responsible for active suppression in low-dose oral tolerance. **Immunology** 103:458-464
- 236 Tsukada M, Arai T, Freddi G, Imai T, Kasai N (2001) Grafting vinyl monomers onto silk (*Bombyx mori*) using different initiators: Properties of grafted silk. **Journal of Applied Polymer Science** 81:1401-1409
- 237 Tufail M, Hatakeyama M, Takeda M (2001) Molecular evidence for two vitellogenin genes and processing of vitellogenins in the American cockroach, *Periplaneta americana*. **Archives of Insect Biochemistry and Physiology** 48 (2) : 72-80
- 238 Uenishi H, Hiraiwa H, Sawazaki T, Kiuchi S, Yasue H (2001) Genomic organization and assignment of the interleukin 7 gene (IL7) to porcine chromosome 4q11-->q13 by FISH and by analysis of radiation hybrid panels. **Cytogenetics and Cell Genetics** 93:65-72
- 239 Ueno O (2001) Environmental regulation of C₃ and C₄ differentiation in the amphibious sedge, *Eleocharis vivipara*. **Plant Physiology** 127:1524-1532
- 240 Ueno O (2001) Ultrastructural localization of photosynthetic and photorespiratory enzymes in epidermal, mesophyll, bundle sheath, and vascular bundle cells of the C₄ dicot *Amaranthus viridis*. **Journal of Experimental Botany** 52: 1003-1013
- 241 Umemoto T, Yano M, Satoh H, Shomura A, Nakamura Y (2002) Mapping of a gene responsible for the difference in amylopectin structure between *japonica*-type and *indica*-type rice varieties. **Theoretical and Applied Genetics** 104:1-8
- 242 Ushijima K, Sassa H, Tamura M, Kusaba M, Tao R, Gradziel TM, Dandekar AM, Hirano H (2001) Characterization of the S-locus region of almond (*Prunus dulcis*): Analysis of a somaclonal mutant and a cosmid contig for an S haplotype. **Genetics** 158: 379-386
- 243 Vermunt AMW, Kamimura M, Hirai M, Kiuchi M, Shiotsuki T (2001) The juvenile hormone binding protein of silkworm haemolymph: gene and functional analysis. **Insect Molecular Biology** 10:147-154
- 244 Wakamura S, Arakaki N, Ono H, Yasui H (2001) Identification of novel sex pheromone components from a tussock moth, *Euproctis pulverea*. **Entomologia Experimentalis et Applicata** 100:109-117
- 245 Wakamura S, Arakaki N, Yamazawa H, Nakajima N, Yamamoto M, Ando T (2002) Identification of epoxyhenicosadiene and novel diepoxy derivatives as sex pheromone components of the lea-Winged tussock moth *Perina nuda*. **Journal of Chemical Ecology** 28: 449-467

- 246 Wako T, Terami F, Hanada K, Tabei Y (2001) Resistance to *Zucchini yellow mosaic virus* (ZYMV) in transgenic cucumber plants (*Cucumis sativus* L.) harboring the coat protein gene of ZYMV. **Bulletin of the National Research Institute of Vegetables, Ornamental Plants and Tea** 16:175-186
- 247 涌井麻衣子, 谷田貝麻美子, 小原奈津子, 佐野千絵, 生野晴美, 馬越芳子, 斉藤昌子 (2001) 天然染料染色布上の媒染剤量の I C P - A E S 並びに蛍光 X 線による分析. **文化財保存修復学会誌** 45:12-26
- 248 Wang Y-P, Liu Q-C, Li A-X, Zhai H, Morishita T, Hong C-J (2002) Production of homogeneous mutants through the use of chronic radiation in combination with shoot apex culture in sweetpotato. **Acta Agronomica Sinica** 28(1):18-23
- 249 Wang Z-X, Yamanouchi U, Katayose Y, Sasaki T, Yano M (2001) Expression of the *Pib* rice-blast-resistance gene family is up-regulated by environmental conditions favouring infection and by chemical signals that trigger secondary plant defences. **Plant Molecular Biology** 47: 653-661
- 250 Watanabe H, Tokuda G (2001) Animal cellulases. **Cellular and Molecular Life Sciences** 58:1167-1178
- 251 渡辺裕文 (2001) 動物のもつセルラーゼ. **糖質学会誌** 48:343-351
- 252 渡辺裕文, 徳田岳 (2001) シロアリとセルロース分解. **化学と生物** 39:618-623
- 253 Watanabe J, Sakajiri K, Okushi K, Kawauchi S, Magoshi J (2001) Columnar liquid crystal in polypeptides 1. **Macromolecular chemistry and physics** 202:1004-1009
- 254 渡邊匡彦 (2001) 越冬期の昆虫における糖および多価アルコール類の蓄積とその役割 **低温生物工学会誌** 47:56-61
- 255 Watanabe T, Seo S, Sakai S (2001) Wound-induced expression of a gene for 1-aminocyclopropane-1- carboxylate synthase and ethylene production are regulated by both reactive oxygen species and jasmonic acid in *Cucurbita maxima*. **Plant Physiology and Biochemistry** 39: 121-127
- 256 山口純一郎, 稲田稔, 松崎正文, 加来久敏 (2001) ナスすすかび病菌の感染・病斑形成過程の組織学的観察. **日本植物病理学会報** 67:19-25
- 257 Yamakawa H, Mitsuhashi I, Ito N, Seo S, Kamada H, Ohashi Y (2001) Transcriptionally and post-transcriptionally regulated response of 13 calmodulin genes to tobacco mosaic virus-induced cell death and wounding in tobacco plant. **European Journal of Biochemistry** 268: 3916-3929
- 258 Yamamoto T, Taguchi-Shiobara F, Ukai Y, Sasaki T, Yano M (2001) Mapping quantitative trait loci for days-to-heading, and culm, panicle, and internode lengths in a BC₁F₃ population using an elite rice variety, Koshihikari, as the recurrent parent. **Breeding Science** 51: 63-71
- 259 Yamauchi N, Yamada O, Takahashi T, Hashizume K (2001) Steroid formation of bovine endometrial stromal cells with non-adherent culture plate. **Journal of Reproduction and Development** 47:165-171
- 260 Yamazaki M, Tsugawa H, Miyao A, Yano M, Wu J, Yamamoto S, Matsumoto T, Sasaki T, Hirochika H (2001) The rice retrotransposon *Tos17* prefers low-copy-number sequences as integration targets. **Molecular Genetics and Genomics** 265:336-344
- 261 Yamazawa H, Nakajima N, Wakamura S, Arakaki N, Yamamoto M, Ando T (2001) Synthesis and characterization of diepoxyalkenes derived from (3Z,6Z,9Z)-TRIENES: Lymantriid sex pheromones and their candidates. **Journal of Chemical Ecology** 27(11): 2153-2167
- 262 Yano M, Kojima S, Takahashi Y, Lin HX, Sasaki T (2001) Genetic control of flowering time in rice, a short-day plant. **Plant Physiology** 127:1425-1429
- 263 Yasui H (2002) Identification of antifeedant in bitter melon leaves and their effects on feeding behavior of several lepidopteran species. **Japan Agricultural Research Quarterly** 36(1):25-30

- 264 Yasui H (2001) Sequestration of host plant-derived compounds by geometrid moth, *Milionia basalis*, toxic to a predatory stink bug, *Eocanthecona Furcellata*. **Journal of Chemical Ecology** 27:1345-1353
- 265 Yoshida S, Murakami R, Watanabe T, Koyama A (2001) Rhizopus rot of mulberry-grafted saplings caused by *Rhizopus oryzae*. **Journal of Genaral Plant Pathology** 67:291-293
- 266 Yoshikawa M, Iwasaki H, Shinagawa H (2001) Evidence that phenylalanine 69 in *Escherichia coli* RuvC resolvase forms a stacking interaction during binding and destabilization of a holliday junction DNA substrate. **The Journal of Biological Chemistry** 276:10432-10436
- 267 Yoshioka K, Fukushima S, Yamazaki T, Yoshida M, Takatsuji H (2001) The plant zinc finger protein ZPT2-2 has a unique mode of DNA interaction. **The Journal of Biological Chemistry** 276(38):35802-35807
- 268 Zhao X, Mita K, Shimada T, Okano K, Quan G-X, Kanke E, Kawasaki H (2001) Isolation and expression of an ecdysteroid-inducible neutral endopeptidase 24.11-like gene in wing discs of *Bombyx mori*. **Insect Biochemistry and Molecular Biology** 31:1213-1219
- 269 Zhou J-H, Hikono H, Ohta M, Sakurai M (2001) Cloning of bovine CD34 cDNA. **Journal of Veterinary Medical Sciences** 63:1051-1053

所 属		氏 名	原著論文番号
企画調整部	研究調整官	川崎 建次郎	136,198
	研究交流科	萱野 暁明	177
	動物企画連絡科長	加藤 正雄	12
	植物企画連絡科長	花田 薫	140,246
	技術移転科	今井 恒夫	236
	業務科長	野崎 稔	130,156
ゲノム研究グループ	ゲノム研究グループ長	佐々木 卓治	31, 39, 40,110,178,182,202,216,221,249,258,260,262
	上席研究官	安江 博	50, 51, 77,111,149,164,179,227,238
	上席研究官	三田 和英	1, 32,109,122,159,163,169,208,218,268
	植物ゲノム研究チーム長	松本 隆	67,178,260
	植物ゲノム研究チーム	片寄 裕一	249
	家畜ゲノム研究チーム長	粟田 崇	91,179,197
	家畜ゲノム研究チーム	林 武司	111,149
	家畜ゲノム研究チーム	小林 栄治	91,106,133,164,197
	家畜ゲノム研究チーム	上西 博英	50, 51, 77,238
	昆虫ゲノム研究チーム長	原 和二郎	37
	昆虫ゲノム研究チーム	門野 敬子	37
	ゲノム情報研究チーム長	坂田 克己	178
	ゲノム情報研究チーム	沼 寿隆	178
	DNAバンク長	長村 吉晃	178
	遺伝資源研究グループ長	栗崎 純一	235
遺伝資源研究グループ	上席研究官	橋本 純治	30, 63, 88
	上席研究官	加来 久敏	71, 72,155,158,171,256
	遺伝子多様性研究チーム長	門脇 光一	104
	遺伝子多様性研究チーム	中山 繁樹	148,162
	生物分類研究チーム	青木 孝之	5, 6, 52
	生物分類研究チーム	落合 弘和	155,158
	集団動態研究チーム	友岡 憲彦	193,232
	集団動態研究チーム	加賀 秋人	193,232
	生殖質保全研究チーム長	金子 浩之	59, 75, 76, 78, 85,229
	生殖質保全研究チーム	野口 純子	15, 45, 59, 75, 76, 78, 85,229
	生殖質保全研究チーム	菊地 和弘	29, 59, 75, 76, 78, 85,229
	多様性評価研究チーム	北本 宏子	90
	限界機能研究チーム	小松田 隆夫	14, 99,117,119,228
	資源情報研究チーム	佐藤 正寛	66,186,187,214
	植物資源研究チーム長	長峰 司	128,209
	植物資源研究チーム	三浦 清之	128
ジーンバンク	植物資源研究チーム	福岡 修一	28,160
	微生物資源研究チーム長	佐藤 豊三	108,189,230,231
	微生物資源研究チーム	堀田 光生	55,234
	動物資源研究チーム長	峰澤 満	91,124,186,187,214
	動物資源研究チーム	高橋 秀彰	56,186,187,214
	発生分化研究グループ長	居在家 義昭	41,175

所 属		氏 名	原著論文番号
	発生機構研究チーム	加藤 祐輔	80
	発生機構研究チーム	畠山 正統	42,120,121,173,237
	発生制御研究チーム長	内藤 充	141
	発生制御研究チーム	松原 悠子	141,142
	発生制御研究チーム	春海 隆	38
	発生工学研究チーム長	永井 卓	78, 85,139,176
	発生工学研究チーム	大西 彰	77, 85
	発生工学研究チーム	淵本 大一郎	22
	成長制御研究チーム長	木内 信	13, 73,130,180,215,243
	成長制御研究チーム	塩月 孝博	84,243
	成長制御研究チーム	神村 学	13, 73,215,243
	生殖再生研究チーム長	橋爪 一善	83, 94,146,196,259
	生殖再生研究チーム	高橋 透	83,146,196,259
	生殖再生研究チーム	今井 敬	19, 83,101,146,196
生体防御研究グループ	生体防御研究グループ長	関川 賢二	184,206,207
	上席研究官	櫻井 通陽	46,141,269
	分子免疫研究チーム長	木谷 裕	33, 58
	分子免疫研究チーム	辻 典子	184,235
	先天免疫研究チーム長	山川 稔	74,144,174
	先天免疫研究チーム	石橋 純	174
	疾患モデル動物研究チーム長	後藤 英夫	184
	疾患モデル動物研究チーム	須藤 淳一	206,207
生体機能研究グループ	生活史制御研究チーム	渡邊 匡彦	254
	代謝調節研究チーム長	中村 匡利	203
	代謝調節研究チーム	平山 力	102
	昆虫神経生理研究チーム	市川 明生	211
	昆虫行動制御研究チーム長	若村 定男	2,224,244,245,261
	昆虫行動制御研究チーム	秋野 順治	2, 20
	昆虫行動制御研究チーム	安居 拓恵	2,244,263,264
	動物遺伝子機能研究チーム長	三橋 忠由	4, 77,133,164
	動物遺伝子機能研究チーム	小島 美咲	77
	動物細胞機能研究チーム	竹澤 俊明	146
	動物脳神経機能研究チーム	作本 亮介	25
	神経内分泌研究チーム長	岡村 裕昭	57
昆虫適応遺伝研究グループ	上席研究官	佐藤 守	183,185
	昆虫・植物間相互作用研究チーム	今野 浩太郎	102
	昆虫・植物間相互作用研究チーム	田村 泰盛	223
	天敵昆虫研究チーム長	野田 隆志	145,153,154
	天敵昆虫研究チーム	日本 典秀	47, 48,198,213
	昆虫共生媒介機構研究チーム長	野田 博明	10, 11,151,152,205
	昆虫共生媒介機構研究チーム	渡辺 裕文	250,251,252
	昆虫共生媒介機構研究チーム	渡部 賢司	185
	昆虫病理研究チーム	三橋 渡	127
	昆虫病理研究チーム	村上理都子	265
	昆虫遺伝研究チーム長	小瀬川 英一	37

所 属		氏 名	原著論文番号
	昆虫分子進化研究チーム長	永易 健一	223
	昆虫分子進化研究チーム	村路 雅彦	135,136,137,138,143
昆虫新素材開発研究グループ	上席研究官	塚田 裕	7, 8, 9, 21,236
	素材特性研究チーム	都島 美行	92
	素材特性研究チーム	宮澤 光博	12, 13
	素材特性研究チーム	泰 珠子	79
	素材開発研究チーム長	羽賀 篤信	35
	生体機能模倣研究チーム長	玉田 靖	92,222,233
昆虫生産工学研究グループ	上席研究官	加藤 弘	79
	上席研究官	早坂 昭二	9, 43
	増殖システム研究チーム	小山 朗夫	265
	昆虫産生物利用研究チーム長	馬越 芳子	93,113,114,116,225,247
	生活資源開発研究チーム長	高林 千幸	147,212,223
	生活資源開発研究チーム	中島 健一	147,212,223
	生活資源開発研究チーム	寺本 英敏	147,212
	新蚕糸技術研究チーム長	山本 俊雄	105,130,258
	新蚕糸技術研究チーム	間瀬 啓介	37,130
	新蚕糸技術研究チーム	福井 邦明	27
	新蚕糸技術研究チーム	飯塚 哲也	130
分子遺伝研究グループ	分子遺伝研究グループ長	肥後 健一	178
	上席研究官	大橋 祐子	49, 69,103,125,126,181,190,199,200,257
	遺伝子機能研究チーム長	廣近 洋彦	53,219,260
	遺伝子機能研究チーム	宮尾 安藝雄	260
	遺伝子機能研究チーム	杉本 和彦	219
	遺伝子機能研究チーム	山崎 宗郎	260
	応用遺伝研究チーム長	矢野 昌裕	31, 39, 40, 68,110,128,129,157,216,221,241,249,258,260,262
	応用遺伝研究チーム	井澤 毅	204
	応用遺伝研究チーム	山本 伸一	260
	遺伝子発現研究チーム長	菊池 尚志	86,194
	遺伝子発現研究チーム	森 昌樹	140
	遺伝子発現研究チーム	岸本 直己	89,194
	遺伝子応答研究チーム長	小松 節子	96, 97, 98,100,170,171,172,191,192
	遺伝子応答研究チーム	光原 一朗	69,125,126,200,257
	遺伝子応答研究チーム	岩井 孝尚	126,200
	遺伝子応答研究チーム	吉川 学	98,266
生体高分子研究グループ	生体高分子研究グループ長	澁谷 直人	3, 18,150,161,195,217
	蛋白機能研究チーム長	水野 洋	23, 24, 54, 87,118,131
	蛋白機能研究チーム	藤本 瑞	23, 24,131
	超分子機能研究チーム長	馬越 淳	93,113,114,115,116,225,253
	超分子機能研究チーム	山崎 俊正	267
	超分子機能研究チーム	加藤 悦子	166
	超分子機能研究チーム	前田 美紀	112
	糖鎖機能研究チーム長	南 栄一	150,195,217
	糖鎖機能研究チーム	賀来 華江	217
	生体膜機能研究チーム長	下村 正二	17

所 属		氏 名	原著論文番号
生理機能研究グループ	生体膜機能研究チーム	梶原 英之	70
	生体膜機能研究チーム	田口 文緒	210,258
	生理機能研究グループ長	赤尾 勝一郎	16, 81, 82
	光合成研究チーム	狩野 広美	64, 65, 95
	光合成研究チーム	稲垣 言要	60, 61
	光合成研究チーム	深山 浩	26
	物質代謝研究チーム長	上野 修	239,240
	物質代謝研究チーム	石丸 健	67, 68
	物質代謝研究チーム	高橋 咲子	67
	形態発生研究チーム長	高辻 博志	267
	形態発生研究チーム	菅野 正治	201
	環境ストレス研究チーム長	高野 誠	104
	環境ストレス研究チーム	武市 哲郎	220
	耐病性研究チーム	川崎 信二	14, 44, 82,117,134
新生物資源創出研究グループ	遺伝子設計研究チーム	西澤 洋子	200
	遺伝子操作研究チーム長	高岩 文雄	117,165
	遺伝子操作研究チーム	土岐 精一	26
	遺伝子操作研究チーム	川越 靖	167,168
	植物細胞工学研究チーム長	田部井 豊	246
	植物細胞工学研究チーム	萩尾 高志	36
	新作物素材開発研究チーム長	田中 宥司	177,192,226
	新機能開発研究チーム	川東 広幸	62
放射線育種場	突然変異遺伝子研究チーム	草場 信	34,107,242
	放射線利用研究チーム長	森下 敏和	132,188,248

(2) 総説

- 1 木谷裕, 関川賢二 (2001) クローン動物作出の現状と問題点 **バイオサイエンスとインダストリー** 59:709-711
- 2 Okamoto H, Hirochika H (2001) Silencing of transposable elements in plants. *Trends in Plant Science* 6:527-534
- 3 Saido-Sakanaka H, Ishibashi J, Yamakawa M (2001) Synthetic oligopeptides derived from insect defensin have antimicrobial activity against antibiotic-resistant bacteria and dermatophytic fungi. *Peptide Science* 2000 243-244
- 4 Sakumoto R, Okuda K (2001) Possible roles of tumor necrosis factor- α in bovine ovary *Reproductive biotechnology* 113-120
- 5 Sasaki T (2001) Das Japanische Reisgenomprogramm(RGP). *GenomXPress* 3:10-12
- 6 都築政起, 三橋忠由 (2001) 家禽のゲノム解析 **畜産先進技術最新研究情報** 23-26
- 7 Yano M (2001) Genetic and molecular dissection of naturally occurring variation. *Current Opinion in Plant Biology* 4: 130-135
- 8 矢野昌裕 (2001) 作物の遺伝子資源—変異の発掘と創出— **育種学研究** 3:275-279

(3) 単行本

- 1 栗田崇 (2001) ゲノムライブラリー **動物遺伝育種学事典** 197-199
- 2 Bossak N, Karnuah A, Furukawa T, Yamamoto Y, Mitsuhashi T (2001) The PCR-based approaches for the detection of Marek's disease virus sequences in chickens. *Current progress on Marek's disease research* 43-49
- 3 Fujimoto Z, Kuno A, Kaneko S, Kobayashi H, Kusakabe I, Mizuno H (2002) Structure of the catalytic module and family 13 carbohydrate binding module of a family 10 xylanase from *Streptomyces olivaceoviridis* E-86 in complex with xylose and galactose. *Carbohydrate bioengineering Interdisciplinary approaches* 106-112
- 4 萩尾高志 (2001) 遺伝子組換え技術 **食品大百科事典** 757-760
- 5 Hashimoto M, Rockenstein E, Takenouchi T, Mallory M, Masliah E (2001) Mechanisms of α -synuclein and NAC Fibrillogenesis. *Alzheimer's Disease: Advances in Etiology, Pathogenesis and Therapeutics* 569-586
- 6 橋爪一善 (2002) 着床と妊娠 **新しい家畜繁殖学、臨床獣医** 20:36-42
- 7 橋爪一善, 木崎景一郎, 山田治 (2001) 子宮内膜細胞外マトリックス **妊娠の生物学** 201-209
- 8 日本典秀 (2001) DNA分析 **ダニの生物学** 154-169
- 9 Hirochika H, Miyao A, Yamazaki M, Takeda S, Abe K, Hirochika R, Agrawal GK, Watanabe T, Sugimoto K, Sasaki T, Murata K, Tnaka K, Onosato K, Miyazaki A, Yamashita Y, Kojima N (2001) Retrotransposons of rice as a tool for the functional analysis of genes. *Rice Genetics IV* 279-292
- 10 Hosoda K, Katoh E, Hatta T, Mizuno T, Yamazaki T (2002) NMR Solution structure of B-Motif, a signature motif of type-B response regulators for His-to-Asp phosphorelay signal transduction system, and its interactions with DNA. *Peptides: The Wave of the Future, Michal Lebl and Richard A. Houghten (Editors) American Peptide Society* 411-412
- 11 Hosoe M, Shioya Y, Niimura S (2001) Recent studies on cortical granules in mammalian eggs. *Reproductive Biotechnology* 41-46
- 12 井澤毅 (2001) 光シグナルによる花成誘導—植物はいかに日の長さを測るのか— **「細胞工学」別冊植物細胞工学シリーズ16「植物の光センシング」** 124-133

- 13 Kaku H, Ochiai H (2001) The causal bacterium of red stripe of rice. *Plant Pathogenic Bacteria* 249-251
- 14 片桐文章, 高辻博志 (2001) 植物における転写調整研究. **遺伝子発現—ジーンセレクターから生命現象へ—** 435-456
- 15 菊地和弘 (2001) 卵子の基礎: 卵子の成熟: 細胞質成熟. **卵子研究法** 41-48
- 16 小林栄治 (2001) 連鎖. **動物遺伝育種学事典** 599-601
- 17 Kohara N, Sano C, Ikuno H, Magoshi Y, Becker MA, Yatagai M, Saito M (2001) Degradation and color fading of cotton fabrics dyed with natural dyes and mordants. *ACS Symposium Series, 779, Historic Textiles, Papers, and Polymers in Museums* 74-85
- 18 松井太衛, 広津昌子, 水野洋 (2002) von Willebrand因子を活性化する蛇毒タンパク質の構造と機能. **血小板血栓形成の分子機構** 181-188
- 19 三橋忠由 (2001) ESTs. **動物遺伝育種学辞典** 11-12
- 20 Nagai T, Kikuchi K, Fuchimoto D, Yoshioka K (2001) Current status and perspectives in cloning and related studies. *Program and Abstracts* 1-105
- 21 永井利郎 (2002) 遺伝資源保存事業. **食品大百科事典** 826-829
- 22 Ochiai H, Hasebe A, Kaku H (2001) Phylogenetic analysis of *Xanthomonas* strains based on the nucleotide sequences of 16S-23S rRNA spacer region, 23S rRNA and gyrB genes. *Plant Pathogenic Bacteria* 144-146
- 23 大橋祐子 (2001) シグナル 緊急事態に植物はどう立ち向かうか. **植物学がわかる。朝日新聞社** 96-99
- 24 大橋祐子, 瀬尾茂美 (2001) 傷害に対する応答. **環境応答 朝倉植物生理学講座** 5: 178-186
- 25 Ohashi Y, Seo S, Mitsuhashi I, Yamakawa H, Ito N (2001) Signaling pathways for TMV-and Wound-Induced resistance in tobacco plants. *Delivery and Perception of Pathogen Signals in Plants* 122-129
- 26 大橋祐子 (2001) 植物における病原体感染・傷害ストレスの情報伝達. **ストレスの植物生化学・分子生物学** 171-183
- 27 Sasaki T (2001) The rice genome project in Japan. *Dealing with Genetically Modified Crops* 11: 102-109
- 28 佐藤正寛 (2001) 共通環境効果, 細胞質遺伝, 母性効果, 母豚生産性指数. **動物遺伝育種学辞典** 146-147, 227-228, 542-543, 545
- 29 佐藤正寛 (2001) 第3章 動物の飼育法 3.1 小動物 (3.1.2 マウス, 3.1.3 ゴールデンハムスター). **新編動物栄養試験法** 35-41
- 30 Shibuya N, Yamaguchi T, Ito Y, Kaku H, Okada M, Maehara Y (2001) Rice receptors for chitin and glucan elicitors. *Perception and Delivery of Pathogen Signals in Plants* 46-53
- 31 Sode K, Yamamoto S, Tomiyama M (2001) Metabolic engineering approaches for the improvement of bacterial hydrogen production based on *Escherichia coli*. Mixed acid fermentation. *Biohydrogen II* 195-204
- 32 杉本和彦, 廣近洋彦 (2001) 3. 傷害応答. **植物ゲノム機能のダイナミズム (転写因子による発現制御)** 205-214
- 33 Tabei Y (2001) Environmental risk assessment of GMO and activities for building public acceptance in Japan *Dealing with Genetically Modified Crops* 3:9-17
- 34 高岩文雄 (2001) 予防医療に期待される遺伝子組換え食品. **インターラボ** 36,10: 39-40

- 35 田中喜之 (2001) サツマイモの傷害に伴うフェニルアラニンアンモニアリアーゼ (PAL) の発現制御と不活性化因子の機能. **ストレスの植物生化学・分子生物学** 60-66
- 36 徳永智之 (2001) 遺伝子組換え技術. **食品大百科事典** 770-772
- 37 上野修 (2002) 作物の光合成. **作物学事典** 117-130
- 38 Yamazaki T, Katoh E, Hatta T, Tomari T, Tashiro S, Shindo H, Mizuno T (2002) A new N-Terminal helix capping box. **Peptides: The Wave of the Future, Michal Lebl and Richard A. Houghten (Editors)** 350-352
- 39 Yano M (2001) Naturally occurring allelic variations as a new resources for functional genomics in rice. **Rice Genetics IV** 227-238
- 40 Yatagai M, Magoshi Y, Becker MA, Sano C, Ikuno H, Kohara N, Saito M (2001) Degradation and color fading of silk fabrics dyed with natural dyes and mordants. **Historic Textiles, Papers, and Polymers in Museums** 779:86-97

(4) データベース・マニュアル・報告書・学位論文

- 1 羽賀篤信 (2001) 昆虫キチンの特性解明と利用可能性. **蚕糸・昆虫農業技術研究所研究資料** 28 : 124-133
- 2 三村温子, 中島健一, 田村泰盛 (2001) 植物染料の抗菌性に関する研究. **長野県情報技術試験場研究報告** 17:12-15
- 3 永井利郎. *Bacillus subtilis (natto)* の分子遺伝学的研究. **学位論文** 1-112
- 4 長峰司, 中山博貴, 江花薫子, 秋葉光孝, 大水豊司 (2001) 福島県における作物在来品種の残存調査. **植物遺伝資源探索導入調査報告書** 17:1-5
- 5 長峰司, 白田和人 (2001) ブータン国における植物遺伝資源の探索収集事前調査. **植物遺伝資源探索導入調査報告書** 17:141-144
- 6 中島健一, 高林千幸 (2001) キトサンによるシルクウェブへの抗菌性付与. **岡谷蚕糸博物館紀要** 6:56

(5) 学会・シンポジウムでの発表要旨

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
1	Abe K, Takeda S, Sawaki H, Miyao A, Hirohiko H	Analysis of rice mutants with curly roots caused by the insertion of the retrotransposon Tos17	Plant, Animal & Microbe Genomes X	744	2002
2	阿部清美, 武田真, 村田和優, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦	イネレトロトランスポゾンTos17の挿入によって得られたクロマチン重合因子機能欠損変異体の解析	日本蚕糸学会中部支部講演集	3: 58	2001
3	阿部清美, 武田真, 澤木弘道, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦	レトロトランスポゾンTos17の挿入によって誘発されたイネcurly root変異体の解析	食と農を考える雑誌AFF	3P: 056	2001
4	Agrawal GK, Yamazaki M, Kobayashi M, Hirochika R, Miyao A, Hirochika H	A Tos17-based forward genetic approach to understand ABA biosynthesis / regulation in rice	Abstracts of 17th International Conference on Plant Growth Substances	161	2001
5	Akagi S, Takahashi S, Ohkoshi K, Takenouchi T, Shimizu M, Geshi M, Adachi N, Fuchimoto D, Izaike Y, Aso H	Developmental potential of nuclear-transferred embryos using a bovine mammary epithelial cell line (BMEC)	Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies, Program and Abstracts	57	2001
6	Akagi S, Takahashi S, Adachi N, Sugawara T, Tozuka Y, Nirasawa K, Yamamoto E, Shimizu M, Izaike Y	Production of calves by nuclear transfer using non-cultured and cultured cumulus cells	Theriogenology	57(1):393	2002
7	赤尾勝一郎, 田島茂人, 大山卓爾, 安藤象太郎, 南澤究	共生窒素固定研究の展開と持続的農業生産	日本土壌肥科学会高知大会	73(1):73-78	2002
8	Akimoto C, Takai R, Hasegawa K, Shibuya N, Minami E	Isolation and characterization of rice genes responsive to N-acetylchitooligosaccharide elicitor using DNA microarray analysis	Program & Abstracts; 10th international congress on Molecular Plant-Microbe Interactions	102	2001
9	秋本千春, 田中喜之, 矢崎潤史, 岸本直己, 菊池尚志, 渋谷直人, 南栄一	DNAマイクロアレイシステムを用いたキチンオリゴマー応答性遺伝子の探索	日本植物生理学会2002年度年会講演	245	2002
10	秋野順治	クロクサアリ女王はいかにしてホストの巣に侵入するか	第46回日本応用動物昆虫学会大会		2002
11	秋野順治	サムライアリが引き起こす混乱	第44回日本蟻類研究会大会		2001
12	秋野順治, 若村定男, 寺山守, 山岡亮平	クロヤマアリは1種か? ~ 体表炭化水素組成に見られる多型 ~	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	151	2001
13	安藤露, 林鴻宣, 正村純彦, 清水武彦, 矢野昌裕	イネ第1染色体上の着粒密度に関する遺伝子の連鎖解析	育種学研究 (日本育種学会第100回講演会要旨集)	3 (別2) : 44	2001
14	Ando Y, Mitsuhashi I, Iwai T, Ohashi Y	傷誘導性の新奇タバコ酸性PR-1タンパク質の細胞間隙への蓄積	日本植物生理学会2001年度年会講演	151	2001
15	Antonio BA, Nobushima S, Honda S, Kanamori H, Yamagata H, Yamamoto K, Matsumoto T, Sasaki T, Sakata K	An auto-assembly system for rice genome sequencing	Abstracts for the 5th Annual Conference on Computational Genomics	15	2001
16	Antonio BA, Sakata K, Sasaki T	Bioinformatics and the rice genome	Rice Genetics IV(Proceedings of the 4th International Rice Genetics Symposium)	293-305	2001
17	Aoki T, O'Donnell K	Re-identification of the causal Fusarium of Pitch canker of Pinus luchuensis	Jpn. J. Phytopathol.	67: 169	2001
18	Aoki T, O'Donnell K	Effect of different light conditions on the conidiogenesis of Fusarium concentricum	日本菌学会第45回大会講演要旨集	28	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
19	青木孝之	実験室における菌類の形態観察と記録法：メッシュ接眼マイクロメーターを用いた菌類の描画法（改変Oberwinkler法）	日本菌学会会報	42: 45-48	2001
20	青木孝之, Baharuddin Bin Salleh	マレーシアのサトウキビ・イネの植物体に見いだされた糸状菌群集の多様性解析	2001年度日本土壌微生物学会講演要旨集	35	2001
21	新垣則雄, 野田博明, 三好猛晴	寄生蜂やアザミウマの産雌単為生殖に関するWolbachia	第45回日本応用動物昆虫学会大会	184	2001
22	新居雅宏, 谷史雄, 仁木明人, 林武司, 上西博英, 美川智, 小林栄治, 栗田崇, 内田陽子, 安江博	日本イノシシと大ヨークシャー種交雑家系におけるQTL解析	日本畜産学会第98回大会講演要旨	83	2001
23	新宅俊之, 日本典秀, 天野洋	ミヤコカブリダニ系統間のDNA配列の比較	第10回ダニ学会大会プログラム	9	2001
24	芦川雄二, 南貞媛, 前田治子, 野尻秀昭, 藤本瑞, 伏信新矢, 水野洋, 吉田貴子, 羽部浩, 山根久和, 大森俊雄	Agrobacterium sp. 13株由来のcarbazole 1,9a-dioxygenaseの精製と結晶化	日本蚕糸学会中部支部講演集	302	2002
25	Asis Jr.CA, Khan NK, 久保田正亜, 太田寛行, 有馬泰紘, 中西康博, 林長生, 土屋健一, 赤尾勝一郎	サトウキビ茎中の糖・有機酸組成と内生室素固定細菌の炭素源としての役割	植物微生物研究会 第11回研究交流会宮崎大会 講演要旨集	54-56	2001
26	Ayabe Y, Nemoto K, Kojima M, Degawa M	Effect of cadmium chloride on the gene expression of several enzymes in the testes and livers of rats	Mutation Research-Fundamental and Molecular Mechanisms of Mutagenesis	483 (Suppl.1):83	2001
27	鮎澤弘子, 岩垂美智子, 中島健一, 寺本英敏, 高林千幸	セリシン繭の性状と利用技術の検討	日本蚕糸学会中部支部講演集	57:52	2001
28	Baba K, Lakshmykutty AA, Yasukochi Y, Mita K	カイコの大規模BACコンテグ構築と遺伝子発現地図の作成	Plant, Animal & Microbe Genomes X		2002
29	馬場浩太郎, 安河内祐二, 野畑順子, 三田和英	カイコの大規模BACコンテグ構築と遺伝子発現地図の作成	第24回日本分子生物学会年会講演要旨		2001
30	番保徳, 坂本知昭, 坂井美穂, 大竹祐子, 萱野暁明, 松岡信, 田中宥司	イネ由来ポリペプチド鎖延長因子βプロモーターの単離と発現プロモーターとしての利用	育種学研究	3(1):27	2001
31	Bing YZ, Hirao Y, Takenouchi N, Che LM, Kawayama M, Nagai T	In vitro maturation of denuded porcine oocytes in the presence of cysteamine under the condirions of different oxygen environments	Theriogenology (Proceedings : Annual Conference of the International Embryo Transfer Society)	57:713	2002
32	Bing YZ, Che LM, Hirao Y, Takenouchi N, Kawayama M, Nagai T	In vitro development of porcine oocytes activated by electric pulse: effect of maturation culture period	The International Workshop in Tsukuba: Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies Program and Abstracts	58	2001
33	Bing YZ, 平尾雄二, 竹之内直樹, Che LM, 永井卓	電気刺激およびブチロラクトン-1 (BL-1) による豚体外成熟卵子の単為発生	第8回日本胚移植研究会大会	32	2001
34	Botchkarev V, Hamashima N, Mitsuhashi T	Establishment of chicken/hamster cell clones for chicken RH panel	The Journal of Animal Genetics	29:69	2001
35	Chen F, Kishimoto T, Ishikawa M	Characterization of an antifreezing protein from Sasa.	Proceeding of 17th International Conference on Plant Growth Substances.	124	2001
36	千葉文弥, 早坂浩志, 矢野昌裕, 永野邦明	奥羽197号とトヨニシキの交雑に由来する組換え型自殖系統群のイネ穂ばらみ期耐冷性に関するQTL解析	育種学研究（日本育種学会第100回講演会要旨集）	3（別2）：5	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
37	千葉壮太郎, 宮西征揮, 近藤秀樹, 西口正通, 玉田哲男	BNYVV P25遺伝子はテンサイの接種葉 におけるウイルス増殖を抑制する	日本植物病理学会報	67:145	2001
38	張紅, 加藤祐輔	ASABF型線虫抗菌ペプチドと富システ イン型軟体動物抗菌ペプチドとの特異な 共通構造	第38回補体シンポジウム・第 12回日本生体防御学会合同学 術集会抄録集	12,a: 13	2001
39	張薔, 野田博明	ウォルバキア感染によって発現量に影響 を受ける培養細胞の遺伝子	第45回日本応用動物昆虫学会 大会	171	2001
40	Chourkina I, 矢内早苗, 榛澤章三, 荏澤圭二郎, 水谷誠, 三橋忠由	ニワトリALV - Aレセプター遺伝子型と 肉腫抵抗性との関係	動物遺伝育種学研究	29:68	2001
41	Danbiinyam N, Takahashi H, Nomura K, Minezawa M, Amano T	Genetic variation at mirosatellite loci in Mongolian goat populations	Proceedings of the 99th Japanese society of ani- mal science meeting	44	2001
42	Day RB, Koshioka M, Mitsui T, Ueguchi- Tanaka M, Matsuoka M, Shibuya N, Minami E	Two rice GRAS family genes responsive to N-acetylchitooligo- saccharide elicitor and phytoac- tive gibberellins	日本植物生理学会2002年度年 会講演	198	2002
43	Day RB, Shibuya N, Minami E	Induction and regulation of two novel transcription factors from rice in response to chitin percep- tion and GA3 signaling: The involvement of GA3 in the chitin- induced defense response in rice	Program & Abstracts; 10th international con- gress on Molecular Plant-Microbe Interactions	114	2001
44	出口雅一, 玉井淳史, 飯哲夫, 川上茂樹, 渡辺雄一郎, 西口正通, 松下保彦, 丹生谷博	植物ウイルスの移行蛋白質と相互作用す る植物側因子MIP102及びKELPの解析	日本植物病理学会	9	2001
45	Dinnyes A, Yang X, Nagai T, Bagis H, Li X, Presicce GA, Gasparrini B, Neglia G, Wilmut I	Solid Surface Vitrification (SSV): An Efficient Method for Oocyte and Embryo Cryopreservation in Cattle, Pig and Mouse.	CRYO 2001 38th Meeting of the Society for Cryobiology In associa- tion with the Society for Low Temperature Biology	79	2001
46	土井孝爾, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, カルニンチビエロ, 林崎良英, 菊池尚志	イネ完全長cDNAプロジェクト: Gene Ontologyを用いた完全長cDNAデー タベースの有用性検証の試み	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	608	2002
47	Ebina M, Tsuruta M, Yazaki J, Kishimoto N, Fujii F, Shimbo K, Shimatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Ohta T, Kikuchi S, Kobayashi M, Nakagawa H	Expression profiling of apomixis embryo development in guinea- grass using cDNA microarrays	Plant and Animal Genome X	258	2002
48	江花薫子, 生井兵治, 奥野員敏	イネの他感作用とネクロシシス発現に関 するQTL解析	育種学研究	3別1:235	2001
49	江尻由希, 南久松真子, 藤本浩文, 山田恵美子, 野畑順子, 三田和英, 橋戸和夫, 土田耕三, 高田直子, 普後一, 前川秀彰	FISH法およびファイバー-FISH法による rDNAクラスターの解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	4P-340:205	2001
50	遠藤真咲, 刑部敬史, 野村美子, 市川裕章, 土岐精一	inplantaトランスフォーメーション法 によるアラビドプシスALS遺伝子の相 同組換え	Plant&Cell Physiol. Suppl.	43:121	2001
51	遠藤征馬, 加藤恭宏, 杉浦和彦, 矢野昌裕, 井上正勝, 工藤悟	陸稲「戦捷」のいもち病圃場抵抗性に関 するQTL解析	育種学研究(日本育種学会第 99回講演会要旨集)	3(別1): 116	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
52	榎本淳, 水町功子, 栗崎純一	β -ラクトグロブリン由来ペプチドの経口投与により誘導されるエピトープ特異的な免疫応答抑制効果	第31回日本免疫学会総会・学術集会記録	31:295	2001
53	江藤奈穂子, 安田慶次, 安居拓恵, 若村定男	イモソウムシの接触性フェロモンの生物検定法	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	147	2001
54	淵本大一郎, 菊地和弘, 岩元正樹, Omfai Tamas, 永井卓, 大西彰, 渡部聡, 鈴木俊一, 阪谷美樹, 高橋昌志	ブタ初期胚におけるSRY遺伝子の発現の検出	日本畜産学会第100回大会講演要旨	124	2002
55	藤井佳史, 藤本瑞, 小林秀行, 金子哲, 水野洋	Irpx lacteus 由来アスパラギン酸プロテアーゼの結晶構造解析	2001年度日本結晶学会年会講演要旨集	47	2001
56	藤川貴史, 加来久敏, 露無慎二	Xanthomonas属細菌のavr/pth遺伝子ファミリーが表すサプレッサー様活性	日植病報	67:212	2001
57	Fujimori M, Hirata M, Akiyama F, Mano Y, Komatsu T, Yazaki J, Kishimoto N, Fujii F, Shimbo K, Simatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Ohta T, Kikuchi S, Takamizo T	cDNA analysis of crown rust resistance in italian ryegrass (Lolium multiflorum Lam)	Plant and Animal Genome X	257	2002
58	藤森茂雄, 鷺尾尊規, 肥後健一, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, カルニンチビエロ, 林崎良英, 菊池尚志, 富田勝	イネ・ヒト・アラビドプシス完全長cDNAとゲノム配列におけるSSRs (Simple Sequence Repeats) の統計的解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	749	2001
59	Fujimoto Z, Fujii Y, Kobayashi H, Kaneko S, Mizuno H	Crystallographic study of mushroom aspartic proteinase at 1.4 Å resolution	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	31	2001
60	Fujimoto Z, Kaneko S, Kuno A, Kobayashi H, Kusakabe I, Mizuno H	Crystal structure of a chimeric xylanase between Streptomyces olivaceoviridis E-86 FXYN and Cellulomonas fimi Cex	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	30	2001
61	Fujimoto Z, Kaneko S, Kuno A, Kobayashi H, Kusakabe I, Mizuno H	Crystallographic study of a chimeric xylanase between Streptomyces olivaceoviridis E-86 FXYN and Cellulomonas fimi Cex	Abstracts of 4th Conference of the Asian Crystallographic Association	A6:125	2001
62	Fujimoto Z, Kuno A, Kaneko S, Kobayashi H, Kusakabe I, Mizuno H	Crystal structure of family 10 xylanase complexed with xylose and galactose	Abstracts of 4th Carbohydrate Bioengineering Meeting	22	2001
63	Fujimoto Z, Kuno A, Kaneko S, Kobayashi H, Kusakabe I, Mizuno H	Crystal structures of the sugar complexes of Streptomyces xylanase	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	17	2001
64	藤本瑞, 久野敦, 金子哲, 小林秀行, 日下部功, 水野洋	放線菌キシラナーゼの触媒ドメインのキシロオリゴ糖結合構造	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	267	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
65	Fujisaki S, Eguchi T, Hiraiwa H, Watanabe Y, Saito T, Yasue H	Construction of full-length cDNA library from porcine olfactory bulb and its analysis	Plant, Animal & Microbe Genomes X	81	2002
66	藤崎誠一郎, 平岩秀樹, 江口智子, 渡邊康子, 齋藤敏之, 安江博	ブタの嗅球における完全長cDNA library	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	2P:10	2001
67	Fujita N, Miyao A, Hirochika H, Nakamura Y	ノックアウトイネ、スターチシンターゼ1型変異体の性質	日本応用糖質科学会講演要旨集	48:68	2001
68	Fukuda A, Nakamura A, Tagiri A, Tanaka H, Tanaka Y	The functional analysis of the plant Na ⁺ /H ⁺ antiporter genes	Plant and Cell Physiology supplement	43: 100	2002
69	福岡修一, NV Alvatieva, 江花薫子, Luu NT, 奥野員敏, 長峰司	RFLPマーカーを用いたベトナムイネの種内変異の解析	育種学研究	3 (別2): 307	2001
70	福岡修一, Tran DS, 江花薫子, Luu NT, 奥野員敏, 長峰司	ベトナム在来イネ品種における品種内変異の解析	育種学研究	4:148	2002
71	古市真木雄, 木村真, 山本雅貴, 熊坂崇, 山下昭和二, 水野洋	Blasticidin S deaminase(BSD)の基質認識機構	日本生物物理学会	97	2001
72	Furuichi M, Yamamoto M, Kumasaka T, Kimura M, Hiroshi M	Crystal structures of blasticidin S deaminase complexed with its substrate,Blasticidin S	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	36	2001
73	古川智之, 石橋豊隆, 木村成介, 橋本純治, 坂口謙吾	高等植物イネのXPG-likeヌクレアーゼのクローニングとその解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	762	2001
74	古澤軌, 細江実佐, 大越勝広, 高橋清也, 清河信敬, 藤本純一郎, 徳永智之	再生医学応用のための免疫不全動物作出法の検討	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	732	2001
75	古谷綾子, 津下誠治, 奥尚, 津野和宣, 落合弘和, 加来久敏, 久保康之, 堀野修	イネ白葉枯病菌のhpaP変異株のイネ葉内での増殖について	日本植物病理学会報	67:211	2001
76	房相佑, 上野修, 和田義春, 金子幸雄, 松澤康男	Diploaxis tenuifolia (C3-C4植物) とダイコン (C3植物) との属間雑種植物の作出およびそれらの葉構造と光呼吸	育種学研究	3:72	2001
77	Haga A	The development of the effective utilization technique for dead bodies of silkworm larvae as waste in the Insect Factory	Proceedings of a Joint International Symposium of Insect Factory C O E Research Program and Insect Factory Research Project	101-105	2001
78	羽賀篤信	昆虫工場廃棄物から分別回収された試料のバーコードラベルによる情報管理	日本蚕糸学会関東支部第52回学術講演会講演要旨集	16	2001
79	濱仲早苗, 高橋透, 今井敬, 橋爪一善	ウシの血漿中エストラジオール濃度の簡便なモニタリング法	生研機構バイオ胎盤シンポジウム	36	2001
80	Hamasima N, Suzuki H, Suzuki K, Awata T	Annotation and classification of porcine ESTs of the back fat tissue	Plant, Animal and Microbe Genomes X	230	2002
81	花田博文, 南立孝一, 粟田崇, 高橋政義, 武田久美子, 大西彰, 田上貴寛, 三宅陽一	ホルスタイン種で見られた矮小個体の染色体分析	日本畜産学会第104回大会講演要旨	42	2001
82	原和二郎, 金容洵, 宮本和久, 佐藤令一	カイコの分子遺伝子地図上へのBT毒素受容体のマッピング	日本蚕糸学会関東支部第52回学術講演会講演要旨集	13	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
83	原和二郎, 金容洵, 佐藤令一, 宮本和久	BT毒素受容体のカイコ分子遺伝子地図 上へのマッピング	第七回 B T 研究小集会	5	2001
84	Hariyama A, Dochi O, Ieda S, Imai K, Koyama H	Effects of ascorbic acid albumin in culture medium on in vitro develop- ment and post-cryopreservation survival of bovine embryos	Current status and per- spectives in cloneing and related studies; Program and abstracts.	60	2001
85	長谷部亮, Fathepure, BZ, 堀田光生, 土屋健一, 飯田滋	青枯病菌 <i>Ralstonia solanacearum</i> より 単離された 5 種類の挿入配列因子	日本植物病理学会報	67:211	2001
86	長谷川毅	トビイロウンカのカルボキシルエステラ ーゼ遺伝子の増幅様式	第45回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨	39	2001
87	長谷川喜久, 金子浩之, 橋本統, 星信彦	種々のインヒピン標品の生物活性と免疫 活性に関する比較研究	日本繁殖生物学会講演要旨 第94回	88	2001
88	橋本典久, 松本静治, 吉川正巳, 堀田光生, 土屋健一	京都府内産トウガラシ青枯病菌に対する トウガラシおよびピーマンの品種間抵抗 性差異	日本植物病理学会報	67:201-202	2001
89	Hashiyada Y, Okada M, Imai K, Yamauchi K, Kojima T	Survival of Day 14 bovine concep- tuses after transfer to Day 7-9 recipient	Theriogenology	57:543	2002
90	Hashizume K, Ishiwata H, Kizaki K, Yamada O, Imai K, Takahashi T, Patel OV, Akagi S, Shimizu M, Takahashi S, Katsuma S, Shiojima S, Hirasawa A, Tsujiimoto G, Izaike Y	Implantation and placental devel- opment in somatic cell clone recipient cows	Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies	22	2001
91	Hashizume K, Kizaki K, Nakano H, Nakano H, Takahashi T, Imai K	Identification of bovine heparan ase cDNA and its localization in placenta	Sixth International Conference on the Extracellular Matrix of the Female reproductive Tract		2001
92	橋爪一善	胎盤機能の再構築を目指して	生研機構バイオ胎盤シンポジ ウムつくば	27	2001
93	Hatakeyama M, Mastsumoto K, Yamamoto SD, Sumitani M, Lee JM	Isolation and structural analysis of the sex-determining gene, double- sex homologue, in the sawfly, <i>Athalia rosae</i>	Zoological Science	18 (suppl.): 51	2001
94	畠山正統, 山本大介, 炭谷めぐみ, 李載みん	カブラハバチにおける性分化遺伝子ホモ ログの単離	第37回日本節足動物発生学会		2001
95	畠山吉則, 早坂昭二	マルチプライマーPCR法による新規微 粒子病検出法「～その実践的応用に向 けての検討～」	日本蚕糸学会関東支部講演要 旨集	52 - 15	2001
96	初瀬洋美, 平岩秀樹, 本間大輔, 安江博, 高垣洋太郎	ブタの抗原レセプター再構成遺伝子 RAG-1とRAG-2の解析I: cDNAの他動 物との比較	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	1P-509:82	2001
97	八田知久, 加藤悦子, 高辻博志, 山崎俊正	ZPT 2 - 2 タンパク質の溶液構造およ び標的DNAとの相互作用解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨集	501	2001
98	Hattori M	Electronic monitoring of feeding and oviposition behavior of plan- thopper, and its application in plant resistance studies	International Workshop Varietal Resistance based Sustainable Insect Pest Management in Rice" in China. Abstract "	17 - 19	2001
99	服部誠	ツマグロヨコバイおよびトビイロウンカ 唾液腺の酵素活性と漿液性唾液タンパク 質	日本応用動物昆虫学会講演要 旨	45 : 106	2001
100	早坂昭二, 畠山吉則	カイコ病原性原虫 <i>Leptomonas</i> sp. の シスト形成	日本蚕糸学会関東支部講演要 旨集	52 - 14	2001
101	Hayashi T, Awata T	Bayes estimation of total number of QTL	Plant, Animal and Microbe Genomes X	149	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
102	Hayashi T, Awata T	QTL analysis using pseudo-test cross strategy	Breeding Research	4-1P:275	2002
103	林武司, 栗田崇	ダイアレルクロスにおけるQ T L 解析. 偏り補正のためのcomposite interval mappingの利用	育種学研究	237	2001
104	He F, Ouwehand AC, Isolauri E, Morita H, Hosoda M, Hashimoto H, Fuse T, Mizumazhi K, Kurisaki J, Benno Y, Salminen S	Bifidobacteria isolated from aller- gic and healthy infants: differ- ences in taxonomy, mucus adhe- sion and immunomodulatory effects	International Conference of Intestinal Bacteriology, Abstract	64-65	2001
105	樋口幹人, 渡邊彰, 長嶺慶隆, 宮下範和, 栗田崇	ウシカテプシンD遺伝子に見られたアミ ノ酸置換を伴う多型	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	213	2002
106	日本典秀	カブリダニとハナカメムシのDNAマー カーの作成・利用について	第19回捕食・寄生性昆虫ワー クショップ講演要旨	26	2001
107	日本典秀, 村路雅彦, 川崎建次郎, 野田隆志, 清水徹	ヒメハナカメムシ類のDNAマー カーの開発	第45回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨	139	2001
108	日本典秀, 豊島真吾	RAPDによるケナガカブリダニの有用 形質マーカースの探索	第10回ダニ学会大会プログラ ム	9	2001
109	平井剛夫	ドウガネブイブイ幼虫の幼若ホルモン活 性物質投与による休眠への影響	日本昆虫学会講演要旨集	52	2001
110	Hirako M, Aoki M, Kimura Y, Hanafusa Y, Ishizaki H, Kariya Y, Shimizu M, Akagi S, Takahashi S, Izaike Y	A somatic cell cloned bpvine fetus with trophoblastic abnormalities at laste stages of gestation	Theriogenology	57(1):420	2002
111	平尾雄二, 相澤健一, 竹之内直樹, 永井卓	初期胞状卵胞から採取したウシ卵母細胞 の体外成長に及ぼす酸素濃度の影響	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	118	2001
112	Hirata M, Tsumagari M, Sato T, Hashizume K, Ito A	Regulation of matrix metallopro- teinases production in bovine endometrial fibroblast and/or tro- phoblasts	Society for the Study of Reproduction 34th annu- al meeting	186	2001
113	平田美智子, 津曲美智子, 佐藤隆, 橋爪一善, 伊東晃	ウシ子宮内膜間質細胞およびウシ胚盤胞 由来栄養膜細胞におけるMMPsおよび TIMPs発現調節	生研機構バイオ胎盤シンポジ ウム	29	2001
114	平八重一之, 藤田佳克, 林長生	日本および中国産イネいもち病菌株にお けるAvr-ks領域の検出	日本植物病理学会報	67:131	2001
115	平八重一之, 藤田佳克, 林長生, 奥田充, 田中裕子, 宮坂篤	イネいもち病菌の非病原性遺伝子(Avr- sh, -ks)マーカースのS T S 化	日本植物病理学会報	67:130-131	2001
116	Hirayama C, Sugimura M, Nakamura M	Unusual urea metabolism associ- ated with the host plant urease in the silkworm, Bombyx mori	Proceedings of the 4th Asia Pacific Conference of Entomology	141	2001
117	Hirochika H, Miyao A, Yamazaki M, Takeda S, Abe K, Hirochika R, Agrawal G, Watanabe T, Sugimoto K, Sasaki T, Murata K, Tnaka K, Onosato K, Miyazaki A, Yamashita Y, Kojima N	Functional analysis of rice genes using the endogenous retrotrans- poson Tos17	Abstracts of NIAS- COE/BRAIN Joint International Symposium	9-10	2001
118	Hirochika H, Takeda S, Sugimoto K, Okamoto H	Regulatory mechanisms of plant retrotransposons	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	W2aE:5	2001
119	廣瀬文昭, 島田浩章, 高野誠	イネのクリプトクロム遺伝子の単離と解 析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	812	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
120	広瀬咲子, 川東広幸, 小島美咲, 小沢憲二郎, 大川秀郎, 大川安信	ブタP450 2C49を導入したイネの除草 剤耐性	育種学研究	4 別1:240	2002
121	広瀬咲子, 川東広幸, 大川秀郎, 大川安信	ヒトP4502C9遺伝子導入イネにおける プロモーターによる発現の差異	育種学研究	3 別2:254	2002
122	広瀬咲子, 川東広幸, 大川秀郎, 大川安信	ヒトP4502B6導入イネの除草剤耐性と 代謝分析	育種学研究	3 別1:253	2001
123	広瀬咲子, 川東広幸, 大川秀郎, 大川安信	ヒトP450 2B6遺伝子を導入したイネ の次世代系統の遺伝子不活性化現象につ いて	日本植物細胞分子生物学会シ ンポジウム講演要旨集	103	2001
124	Hirose T, Takano M, Tomio T	Molecular cloning and characteri- zation of a gene for cell wall-bound invertase, OsCIN1, from rice in relation to grain filling	ComBio 2001, Combined Conference Abstract	Pos-1-146	2001
125	Hirotsu S, Fukuda K, Mizuno H, Qi M C, Matsui T, Morita T, Titani K	Crystal structure of Bitiscetin, a von Willebrand factor-dependent platelet aggregation inducer	Abstracts of XVIII con- gress of the internation- al society on thrombosis and haemostasis	81	2001
126	Hirotsu S, Mizuno H, Fukuda K, Qi M C, Matsui T, Hamako J, Morita T, Titani K	Crystallographic studies of Bitiscetin, a von Willebrand factor- dependent platelet aggregation inducer	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology includ- ing hydrogen and hydra- tion' in Organized research Combination System	33	2001
127	本間大輔, 平岩秀樹, 上西博英, 崎村健司, 安江博	ブタ Interleukin-2 Receptor γ Chain 遺伝子のクローニングと解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	2P-007:97	2001
128	本間大輔, 平岩秀樹, 上西博英, 崎村建司, 安江博	ブタInterleukin-2 Receptor γ chain 遺伝子のクローニングと解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	482	2001
129	Horii K, Sakai S, Suvd D, Kagawa M, Fujimoto Z, Takase K, Mizuno H	Enhanced thermostability of Bacillus stearothermophilus α - amylase by deletion of two residues in the loop region	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology includ- ing hydrogen and hydra- tion' in Organized research Combination System	42	2001
130	Horii T, Nagao Y, Totsuka Y, Tokunaga T, Okada M, Izaike Y, Yonekawa H, Imai H	The method of changing charac- teristics of wild mice using ES cells from laboratory	Theriogenology	57 (1) :565	2002
131	Horita M, Nozu Y	Stimulatory effects of inflammato- ry cytokines on CD4+ regulatory T cell clones derived from Peyer's patches	日本免疫学会総会・学術集会 記録	31: 294	2001
132	久野敦, 伊藤茂泰, 平林淳, 上田知弘, 金子哲, 藤本瑞, 笠井献一, 水野洋, 長谷川常巳	ファミリー13糖結合モジュール群の機能 解析	日本農芸化学会2002年度年会 講演要旨集	266	2002
133	Hosoda K, Katoh E, Hatta T, Mizuno T, Yamazaki T	NMR solution structure of B-Motif, A signature motif of type-B response regulators for HIS-TO- ASP phosphorelay signal-trans- duction system, and its interac- tions with DNA	2nd International/17th American Peptide Symposium	71	2001
134	細田和男, 加藤悦子, 八田知久, 水野猛, 山崎俊正	高等植物のHis-Aspリン酸転移情報伝 達系B型レスポンスレギュレータの認識 機構	第40回NMR討論会講演要旨 集	366-367	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
135	Hosoe M, Noguchi J, Kikuchi K, Kaneko H, Tokunaga T	Follicular development and the oocyte maturation in bovine fetal ovaries by xenotransplantation	Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies, Program and Abstracts	78-79	2001
136	Hua Y-J, Roller L, Tanaka Y, Kataoka H	Cloning of cDNA encoding Bombyx prothoracicostatic peptide (PTSP) and identification of its producing cells	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	168	2001
137	深谷緑, 秋野順治, 安居拓恵, 若村定男	ゴマダラカミキリ体表成分組成の性的二型と雄による配偶者認識	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	152	2001
138	深谷緑, 秋野順治, 安田哲也, 安居拓恵, 若村定男	ゴマダラカミキリ雄の雌への近距離での定位---雌の「匂い」と視覚要因	日本動物行動学会第20回大会発表要旨集	18	2001
139	深山浩, 玉井鉄宗, 土田博子, 徳富(宮尾)光恵	トウモロコシC4型PEPCの高発現はイネの明所での呼吸を促進する	日本植物生理学会2002年度年会および第42回シンポジウム講演要旨	43:173	2002
140	市橋隆壽, 福井邦明	桑樹夏秋期の伐採時期・強度と収量、樹勢との関係	日蚕中部講演要旨	57:41	2001
141	Ichikawa A, Kasai Y, Taji H, Kuwahara S, Watanabe M, Harada N	One the use of 2-methoxy-2-(1-naphthyl)propionic acid and 2-methoxy-2-(2-naphthyl)propionic acid for the resolution of enantiomers	Abstracts for 12th Conference of the Society for Chromatographic Sciences (Chromatography)	22:53-56	2001
142	Ichikawa A, Taji H, Kasai Y, Kuwahara S, Watanabe M, Hiradate S, Ono H, Harada N	Enantioresolution of Alcohols by use of 2-Methoxy-2-(1-naphthyl)propionic acid	Abstract Book of International Symposium on High Performance Liquid phase Separations and Related Techniques (HPLC Kyoto)	74	2001
143	市ノ瀬仁美, 金子哲, 久野敦, 藤本瑞, 水野洋, 日下部功, 小林秀行	放線菌由来キシラナーゼの基質特異性に関する解析	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	267	2002
144	家入誠二, 佐藤正寛	希望改良量の設定が制限付き選抜方法の下での選抜の正確度に与える影響	第76回日本養豚学会講演要旨	32	2001
145	飯塚哲也, 間瀬啓介, 山本俊雄	沢 J 広食性遺伝子の座位(予報)	日本蚕糸学会中部支部講演集	57:46	2001
146	池宮秀和, 永富成紀, 高原利雄, 出花幸之介	観賞用パインアップルの有望系統の選抜	園芸学会九州支部研究集録	9: 24	2001
147	Imai K, Kizaki K, Takahashi T, Izaike Y, Hashizume K	Expression of DNA methyltransferase in bovine placenta during early pregnancy	Therigenology	57:641	2002
148	今井敬	ウシのIVM-IVF	第42回日本哺乳動物卵子学会	6	2001
149	今井敬, Mam.Y.khondoker, 高橋透, 橋爪一善	活性型マトリックスメタロプロテアーゼの発現ウシ卵子の体外成熟	第94回日本繁殖生物学会	103	2001
150	今泉(安楽)温子, 川口正代司, 村上泰弘, 妹尾啓史, Solaiman MZ, 河内 宏, 赤尾勝一郎, 川崎信二	根粒形成初期過程に関与する宿主遺伝子のpositional cloningに向けて	日本植物学会第65回大会研究発表記録	2SH4:65	2001
151	今泉(安楽)温子, 村上泰弘, 川口正代司, 川崎信二	根粒菌・菌根菌との初期認識過程が破綻したLjsym70, Ljsym72変異体原因遺伝子のポジショナルクローニング	第2回ミヤコグサ分子遺伝学ワークショップ		2001
152	Imaizumi-Anraku H, Murakami Y, Kawaguchi M, Senoo K, Solaiman MZ, Harada K, Akao S, Kawasaki S	HEGS/AFLP saturation mapping of LjSym72 locus, vital for a common initial step of symbiosis with Rhizobia and arbuscular mycorrhiza	Abstracts of Euro Conference Molecular Genetics of Model Legumes: Impact for Legume Biology and Breeding	34	2001
153	Inagaki N, Yamamoto Y, Satoh K	Possible involvement of two-step processing in the C-terminal cleavage of precursor D1 protein in Synechocystis sp. PCC6803	Abstracts of the 12th International Congress on Photosynthesis	S5-022:65	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
154	稲垣言要, 讓原奈津, 須藤しづ江, 西村実	赤色光による子葉鞘の伸長抑制機構に欠損のあるイネ突然変異株の単離	日本植物生理学会2002年度年会および第42回シンポジウム講演要旨集	264	2002
155	稲毛優子, 村瀬亜弓, 新開浩樹, 内田陽子, 島貫伸一, 楠本宏司, 管井紀子, 三宅正志, 木内幸子, Nitish Sarker, 安江博, 上西博英, 林武司, 和田康彦, 美川智, 粟田崇	ブター一番染色体下部領域の椎骨数に影響を及ぼすQTL解析	日本畜産学会第98回大会講演要旨	III28-18:83	2001
156	Inoue S, Tsuda H, Tanaka H, Magoshi Y, Mizuno S	Degummed silk fibers or Bombyx mori consist of an H-chain,L-chain and P25(fibrohexamerin)in a 6:6:1 molar ratio	Sericologia	41(2):157-163	2001
157	井関崇, 福田善通, 矢野昌裕, 山岸真澄	イネの薬培養においてアルビノ発生に関わる遺伝子座の準同質遺伝子系統を用いた解析	育種学研究 (日本育種学会第99回講演会要旨集)	3別1:231	2001
158	石亦宏, 筒井ひろ子, 辻典子, 中埜広樹, 安達圭志, 竹内理, 星野克明, 審良静男, 岡村春樹, 藤本治朗, 中西憲司	自然免疫活性化によるListeria monocytogenesの排除機構	日本免疫学会総会・学術集会記録	31:125	2001
159	Ishibashi J, Saido-Sakanaka H, Yamakawa M	Isolation, cloning and chemical synthesis of Oryctes rhinoceros defensin	2nd International Peptide symposiums, Programs and Abstracts	152	2001
160	石橋純, 西堂(坂中)寿子, 山川稔	タイワンカブトムシディフェンシンの化学合成	日本農芸化学会、2001年度大会講演要旨集	236	2001
161	石橋豊隆, 木村成介, 古川智之, 橋本純治, 坂口謙吾	高等植物イネのUV-DDB2に似た遺伝子の同定とUV-DDB1との関係	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	762	2001
162	石田正彦, 江花薫子, 福岡修一, 山守誠, 長峰司	RAPDマーカーによる日本産Brassica napus遺伝資源の遺伝的多様性解析	育種学研究	4:149	2002
163	石田信昭, 高野博幸, 内藤成弘, 小泉美香, 五十部誠一郎, 植村邦彦, 狩野広美, 拝師智之, 巨瀬勝美	MRIによる市販食パンの網目構造のルーチン分析へのアプローチ	日本食品科学工学会第48回大会講演集	139	2001
164	石田信昭, 内藤成弘, 高野博幸, 五十部誠一郎, 植村邦彦, 小泉美香, 狩野広美	MRIによる食パンのネットワーク構造の評価	第40回NMR討論会講演要旨集	282-285	2001
165	石井和雄, 佐藤正寛, 佐々木修, 武田尚人, 古川力	シリアンハムスターにおける母性効果を利用した選抜試験 5.9世代までの結果	日本畜産学会第100回大会講演要旨	77	2002
166	石井和雄, 西村宏一, 佐々木修, 工藤修, 普川一雄, 亀山賢次, 小林栄治, 古川力	同腹で生産した近交度の異なる子豚の成長特性と血液成分特性の比較	日本畜産学会第102回大会講演要旨	41	2001
167	石井卓朗, 米澤勝衛	確率理論モデルによる生産力検定試験方式の検討: 多年次データを用いた一括選抜方式との比較による多段階選抜の有効性について	育種学研究	4:100	2002
168	Ishikawa M, Ide H, Price WS, Arata Y	NMR microscopy visualized fine freezing behaviors in palm leaves: asymmetric freezing of deeply supercooled mesophyll cells	Proceeding of Proceeding of 6th International Plant Cold Hardiness Seminar,	42	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
169	Ishikawa M, Ide H, Price WS, Arata Y	Preferential freezing avoidance localized in the anthers and embryo sacs in wintering flower buds of <i>Daphne Kamtschatica</i> var. <i>jezoensis</i> as revealed by nuclear magnetic resonance (NMR) microscopy	Proceeding of Proceeding of 6th International Plant Cold Hardiness Seminar,	43	2001
170	Ishikawa M, Ide H, Price WS, Arata Y	NMR microscopy as a tool for visualizing freezing behaviors in plant tissues: the case of <i>Cornus florida</i> flower buds revisited.	Proceeding of Proceeding of 6th International Plant Cold Hardiness Seminar,	44	2001
171	Ishikawa M, Ide H, Price WS, Arata Y	Freezing behaviors in plant tissues as visualized by NMR microscopy.	Proceeding of Proceeding of 6th International Plant Cold Hardiness Seminar,	11	2001
172	石本政夫, 寺石正義, 加賀秋人, 川崎信二, 菅原二三男	リョクトウの虫害抵抗性遺伝子単離のためのBAC物理地図の作製と抵抗性の物質的機構解析	育種学研究 (日本育種学会第100回講演会要旨集)	3(suppl.2):16	2001
173	Ishiwata H, Kizaki K, Nakano H, Takahashi T, Imai K, Hirasawa A, Shiojima S, Katsuma S, Suzuki Y, Ikawa K, Tsujimoto G, Hashizume K	Characterization of inducible genes in gestating bovine uterus employing cDNA Micoarray/	Society for the Study of Reproduction 34th annual meeting	268	2001
174	石渡広子, 高橋透, 今井敬, 橋爪一善	ウシ栄養膜細胞の活性と妊娠関連糖タンパク質の発現変動	生研機構バイオ胎盤シンポジウム	38	2001
175	石渡広子, 木崎景一郎, 中野博子, 今井敬, 高橋透, 平澤明, 塩島聡, 勝間進, 鈴木康仁, 伊川浩司, 西桂, 辻本豪三, 橋爪一善	ヒットピッキング法により作成したウシ子宮・胎盤cDNAマイクロアレイの特性	第94回日本繁殖生物学会	83	2001
176	礪貝美菜子, 古川智之, 石橋豊隆, 木村成介, 安藤露, 上田忠正, 橋本純治, 坂口謙吾	高等植物イネのReplication FactorCのクローニングとその解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	762	2001
177	伊藤茂泰, 久野敦, 毛利秋人, 奥山恭子, 金子哲, 藤本瑞, 水野洋, 日下部功, 長谷川常巳	ファミリー13CBMに属するキシラン結合ドメインの糖結合特性とその進化的意義	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	268	2002
178	伊藤茂泰, 毛利秋人, 奥山恭子, 金子哲, 藤本瑞, 水野洋, 日下部功, 久野敦, 長谷川常巳	放線菌由来キシラナーゼに存在する基質結合ドメインの機能解析と機能改変	第74回日本生化学会大会発表抄録集	821	2001
179	Ito Y, Maehara Y, Yamaguchi T, Shibuya N	Affinity labeling of a laminari-oligosaccharide binding protein in the plasma membrane of suspension-cultured rice cells	日本植物生理学会2001年度年会講演	198	2002
180	Itoh Y, Watanabe J, Nikaidou N, Mitsutomi M, Nishizawa Y, Tanaka H, Watanabe T	Resistance to Blast in transgenic rice plant introduced chiC gene from <i>Streptomyces griseus</i> HUT6037	日本農芸化学会講演要旨集	133	2002
181	伊藤裕之, 佐藤和広, 川崎信二, 武田和義	オオムギアルミニウム耐性の精密マッピングに向けたマップ集団の再構成	育種学研究 (日本育種学会第100回講演会要旨集)	3(suppl.2):242	2001
182	岩橋圭一郎, 後藤哲雄, 永田徹, 野田博明	ハダニに共生する <i>Wolbachia</i> における wsp 領域を用いた系統解析	第45回日本応用動物昆虫学会大会	28	2001
183	岩井孝尚, 足立陽子, 佐々木卓治, 大橋祐子	イネPR1遺伝子群の発現特性の解析.	日本植物生理学会2001年度年会	99	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
184	Iwai T, Kaku H, Honkura R, Nakamura S, Ochiai H, Sasaki T, Fukumoto F, Ohashi Y	Overproduction of oat cell wall-bound leaf thionin in rice plants confers enhanced resistance to rice bacterial seedling blight disease	6th International Workshop on Pathogenesis-Related Proteins in Plants	29	2001
185	Iwamoto M, Yazaki J, Fujii F, Shimbo K, Shimatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Ohta T, Sato Y, Honda S, Yamamoto K, Sakata K, Sasaki T, Kishimoto N, Kikuchi S, Higo K	Analysis of genes expressed with diurnal fluctuations using rice cDNA microarrays	Plant & Cell Physiology	S77:43	2002
186	岩元正樹, 菊地和弘, 田上貴寛, 武田久美子, 花田博文, 大西彰	酸素濃度および培養時間がブタ体外成熟卵子の単為発生能に及ぼす影響	日本畜産学会第99会大会講演要旨	53	2001
187	岩元正樹, 秋田富士, 美川智, 武田久美子, 田上貴寛, 淵本大一郎, 鈴木俊一, 渡部聡, 栗田崇, 花田博文, 永井卓, 大西彰	アルギン酸ナトリウム胞埋による体細胞クローンブタの作出とその後の発育	日本畜産学会第100回大会講演要旨	102	2002
188	岩本政雄, 橋本純治, 肥後健一	Tourist-OsaCatA型転移因子はイネ類花で発現する遺伝子近傍に挿入されている	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	495	2001
189	岩本政雄, 肥後ひろみ, 肥後健一	イネの根及び葎で発現しているカタラーゼ遺伝子のプロモーター解析	第19回日本植物細胞分子生物学会(東京)大会・シンポジウム講演要旨集	68	2001
190	岩崎杏, 井手武, 高岩文雄, 鳥山欣哉	形質転換イネ胚乳におけるスギ花粉アレルゲンCry j1の生産	日本育種学会第100回講演要旨集	3 別2: 91	2001
191	Kadowaki K, Kubo N	Transfer of ribosomal protein genes from mitochondrion to the nucleus during plant evolution	Endocytobiology VIII	54	2001
192	Kadowaki K, Nishikawa T, Kubo N, Salomon B, Komatsuda T, Bothmer R von	Analysis of chloroplast and mitochondrial sequences for taxonomic analysis of tribe Triticeae	4th International Triticeae Symposium, Book of abstracts	30	2001
193	門脇光一	共生過程におけるミトコンドリアゲノムから核ゲノムへの遺伝子転移: 機能を獲得した配列と獲得に失敗した配列	日本植物生理学会サテライトシンポジウム	5	2002
194	Kaga A, Yoon MS, Tomooka N, Doi K, Kashiwaba K, Vaughan DA	Genetic diversity in the genus Vigna subgenus Ceratotropis revealed by AFLP markers	Breeding Research	3 別1: 185	2001
195	加賀秋人, Wang XW, Han OK, 柏葉晃一, 友岡憲彦, ダンカンヴォーン	SSRマーカーを用いたアズキ栽培 - 雑草 - 野生複合の解析. 1. 1つの自生集団内に見出された遺伝的変異	育種学研究	4(1):145	2002
196	Kagami H, Nakada A, Uemura T, Tagami T, Naito M, Matsubara Y, Harumi T, Ono T	Developmental analysis of avian primordial germ cells and the genetic regulation in differentiation	Proceedings of the 14th International Congress of Developmental Biology	43(Suppl.):119	2001
197	Kagami H, Tagami T, Naito M, Matsubara Y, Harumi T, Ono T	Genetic analysis of Development and differentiation of avian germ cells	Proceedings of the International Symposium Development and Epigenesis of Mammalian Germ Cells and Pluripotent Stem Cells		2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
198	Kagawa M, Fujimoto Z, Takase K, Mizuno H	Structure of the Butillus subtilis α -amylase complexed with the inhibitor acarbose	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	34	2001
199	梶原英之, 金子卓世, 石坂真澄	イネ放射線変異体系統のプロテオーム分析とSSCP法による遺伝子突然変異の同定	日本電気泳動学会		2001
200	Kajiwar H, Kaneko T, Nishimura M, Ishizaka M	Analysis of radiation mutants of rice: application of proteomics and single strand conformation polymorphism	ComBio 2001	1-157	2001
201	柿元一樹, 野田隆志, 日本典秀	ヒメハナカメムシ類3種の発育零点と発育有効積算温度	第47回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	132	2001
202	Kaku H, Minami E, Shibuya N	Oligochitin elicitor-binding protein from plasma membrane of rice cells	Abstracts; GLYCO XVI international Symposium on Glycoconjugates	47	2001
203	加来久敏, 白石慎, 落合弘和	イネ赤条斑病菌 <i>Microbacterium</i> sp. の感染様式とベノミル剤感受性	日植病報	67:203	2001
204	角康一郎, 清水力, 永山孝三, 田中喜之	SPR法によるALS遺伝子の合成及びその遺伝子から発現したALSの薬剤感受性	日本農薬学会第27回大会		2002
205	Kamimura M, Takahashi M, Kikuchi K, Kiuchi M	Hormonal regulation of metamorphosis-specific genes in Bombyx mori silk gland	Abstracts of the 14th Naito Conference on Bioactive Natural Products and their Modes of Action (III)	57	2001
206	Kamimura M, Takahashi M, Kiuchi M	Hormonal regulation of metamorphosis-specific genes in Bombyx mori silk gland	Proceedings of the 4th Asia Pacific Conference of Entomology	58	2001
207	神村学, 木内信, 中原雄一	昆虫成長因子カイコ麻痺ペプチド (BmPP) mRNAの発現様式	第45回日本応用動物昆虫学会要旨集	167	2001
208	上中弘典, 菅野正治, 高辻博志	ルシフェラーゼ・レポーター遺伝子を用いたペチュニア・ジンクフィンガー遺伝子ZPT2-3の傷害応答プロファイルの解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	4P:433	2001
209	Kaneko H, Noguchi J, Kikuchi K, Ohnuma K, Hasegawa Y	Measurement of dimeric inhibins in testes of developing bulls	Biology of Reproduction	64(supple.1) 209	2001
210	金子浩之	ウシの卵胞発育に対する内分泌調節	第94回日本繁殖生物学会講演要旨	42	2001
211	金子浩之, 野口純子, 菊地和弘, 長谷川喜久	個体発育にともなう精巢中インヒピンAおよびB産生の変化	第94回日本繁殖生物学会講演要旨	80	2001
212	Kaneko S, Iwamatsu S, Fujimoto Z, Kuno A, Ichinose H, Mizuno H, Hasegawa T, Kobayashi H	The substrate recognition of family 10 xylanase from <i>Streptomyces olivaceoviridis</i> E-86: a study by site-directed mutagenesis to make and obstacle in the outer side of the substrate binding cleft	Abstracts of 4th Carbohydrate Bioengineering Meeting	52	2001
213	金子哲, 久野敦, 藤本瑞, 伊藤茂泰, 水野洋, 日下部功, 長谷川常巳, 小林秀行	放線菌キシラナーゼの触媒ドメイン中に存在する両末端ヘリックスの安定性への関与	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	267	2002
214	狩野広美, 石田信昭, 五十部誠一郎, 小泉美香	NMR顕微鏡による拡散計測に基づくインゲン組織中の水のコンパートメントの分布の推定	日本植物学会第65回大会研究発表記録	107	2001
215	Kapoor M, Takatsuji H	<i>Petunia</i> pMADS3 plays a role in maintaining the identity of floral meristem	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	3P:623	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
216	刑部敬史, 吉岡藤治, 市川裕章, 加藤友彦, 田畑哲之, 浅野智哉, 樽井俊介, 吉岡泰, 町田泰則, 関原明, 小林正智, 篠崎一雄, 土岐精一	アラビドプシスにおけるRad51B相同遺伝子の機能解析	Plant&Cell Physiol.	43Suppl.:125	2002
217	刑部敬史, 吉岡藤治, 清水武史, 市川裕章, 土岐精一	アラビドプシスにおけるRad52経路相同遺伝子の単離と解析	日本分子生物学会第1回春季シンポジウム	34	2001
218	Kasai Y, Taji H, Kuwahara S, Watanabe M, Harada N, Ichikawa A, Schurig V	2-Methoxy-2-(1-naphthyl)propionic acid, a powerful chiral auxiliary for determination of the absolute configurations of alcohols by CD and ¹ H NMR anisotropy method	Book of Abstracts, 8th International Conference on Circular Dichroism	8:83	2001
219	葛西祐介, 田地宏美, 桑原俊介, 渡辺政隆, 原田宣之, 市川明生	強力な不斉識別能と磁気異方性効果を有するカルボン酸の開発と絶対配置決定への応用	第45回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会講演要旨集	58-60	2001
220	粕谷悦子, 作本亮介, 渡邊康子, 齋藤敏之, 甫立孝一	push-pull法によるウシ視床下部内ソマトスタチン濃度測定を試み	日本畜産学会第100回大会講演要旨集	VIII28-19	2002
221	粕谷悦子, 齋藤敏之, 作本亮介	脳定位手術による牛視床下部へのアプローチ	日本畜産学会第99回大会講演要旨	69	2001
222	加藤悦子, 伊島理恵子, John Louis, Dennis A Torchia, 山崎俊正	フリーHIVプロテアーゼのNMRによる運動性に関する研究	第40回NMR討論会講演要旨集	326 - 327	2001
223	加藤悦子, 細田和男, 八田知久, 水野猛, 山崎俊正	高等植物のHis-to-Aspリン酸転移情報伝達系B型レスポンスレギュレータDNA結合ドメインの立体構造とDNAとの相互作用	日本蛋白質科学会 プログラム・要旨集	205	2001
224	加藤秀憲, 光原一朗, 大橋祐子, 名取俊二, 古藤田信博, 岩波宏, 副島淳一	ザルコトキシン遺伝子を導入した形質転換体リンゴの解析.	園芸学会雑誌	70別1:212	2001
225	加藤弘	サク蚕糸の漂白	日本野蚕学会第7回講演要旨	7: 5	2001
226	加藤静恵, 山崎俊正, 高井亮太, 南栄一, 加藤悦子	N - アセチルキトオリゴ糖エリターにより発現誘導されるE L 5 遺伝子のR I N G - H 2 finger motifの溶液構造とその機能に関する研究	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	501	2001
227	川越靖, 柿野瑞枝, 小川雅広, 高岩文雄	イネα - グロブリン (2Sアルブミン種子貯蔵タンパク質) のジシステインを含むアルファヘリックスはG F Pを球状のタンパク顆粒にターゲットする	Plant&Cell Physiol.	43Suppl.:222	2002
228	Kawahigashi H, Hirose S, Hayashi E, Ohkawa H, Ohkawa Y	Susceptibility toward Ethofumesate in human P450 transgenic rice plants	日本農薬学会第27回大会講演要旨集	121	2002
229	川東広幸, 広瀬咲子, 乾秀之, 大川秀郎, 大川安信	3分子種のヒトP450を導入したイネにおける除草剤耐性と代謝分析	育種学研究	3 別 1: 254	2001
230	川東広幸, 広瀬咲子, 大川秀郎, 大川安信	イネ形質転換体の交配によるP450遺伝子の集積	日本植物細胞分子生物学会 (東京) 大会・シンポジウム講演要旨集	102	2001
231	川東広幸, 小沢憲二郎, 大川安信	高頻度再分化能力を持つコシヒカリアイソジェニックラインのRFLP分析	育種学研究	3 別 2: 109	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
232	河合淳, カルニンチビエロ, 早津徳人, 白木利幸, 広實朋子, 品川朗, 太田由巳, 伊藤昌可, 荒川貴博, 石井善幸, 安西亜矢子, 柴田一浩, 相澤克則, 佐々木大輔, 吉野正康, 原亜矢子, 福田史朗, 香川育子, 大里直樹, 今野英明, 足立淳, 近藤伸二, 斎藤輪太郎, 岸本直己, 佐藤浩二, 菊池尚志, 林崎良英	イネ完全長cDNAプロジェクト・クロ ーン収集とシーケンス決定	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	608	2001
233	川崎信二, 清水顕史, 三上一保	高能率ゲノム走査法(HEGS:High Efficiency Genome Scanning)とそ の応用	育種学最近の進歩	43:41-44	2001
234	川頭信之, 小島恵一, 大根田英祐, 矢作渡, 並木高洋, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, カルニンチビエロ, 林崎良英, 菊池尚志	イネ完全長cDNAにおけるモチーフ検 索と解析結果	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	608	2001
235	Kayang BB, Inoue-Murayama M, Hoshi T, Matsuo K., Takahashi H, Minezawa M, Mizutani M, Ito S	Characterization of one hundred microsatellite loci in Japanese quail and cross-species amplifica- tion in chicken and guinea fowl	日本畜産学会第99回大会講演 要旨	42	2001
236	Kayang BB, Inoue-Murayama M, Hoshi T, Matsuo K, Takahashi H, Minezawa M, Mizutani M, Ito S	Cross-species amplification of Japanese quail and chicken microsatellite loci for comparative genetic mapping in the family Phasianidae	日本動物遺伝育種学会第2回 大会	29(1):54	2001
237	Kikawada T	Mechanism of trehalase gene expression in the silkworm, Bombyx mori	The Annual Meeting of the Entomological Society of America2001 An Entomological Odyaaey	114	2001
238	Kikawada T	Cloning and expression of sugar transporter gene in the silkworm	日本分子生物学会・第2回春 季シンポジウム「分子生物学 の躍動」ーDNAの働きを中心 とした細胞の基本的な機能ー	37	2001
239	黄川田隆洋	カイコの糖輸送体遺伝子の単離とその発 現	日本蚕糸学会関東支部第52回 学術講演会講演要旨集	3	2001
240	Kikuchi K, Ekwall H, Tienthai P, Kawai Y, Rodriguez-Martinez H	Lipid droplet transition throuthout sperm penetration to pronuclear formation in porcine oocytes	The International Workshop in Tsukuba: Current Status and Perspectives in Clonimg and Related Studies	63	2001
241	Kikuchi K, Naito K, Noguchi J, Kaneko H, Tojo H	MPF regulates aging in porcine oocytes matured in vitro	The International Workshop in Tsukuba. Current Status and Perspectives in Clonig and Related Studies:	40	2001
243	Kikuchi K, Onishi A, Kashiwazaki N, Iwamoto M, Noguchi J, Kaneko H, Akita T, Nagai T	Deveropmental abilty to piglets after transfer to recipients of procine blastocysts produce In vitro	Therigenology	57:673	2002
244	菊地和弘, 大西彰, 柏崎直巳, 岩元正樹, 野口純子, 金子浩之, 秋田富士, 永井卓	体外生産胚盤胞の移植による仔ブタの生 産	第94回日本繁殖生物学会講演 要旨	58	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
245	Kikuchi S, Yazaki J, Kishimoto N, Ishikawa M, Sato K, Nagata T, Kawagashira N, Doi K, Kojima K, Namiki T, Shimbo K, Fujii F, Ohta T, Shimatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Honda S, Toyoshima K, Sakata K, Yamamoto K, Sasaki T, Otomo Y, Murakami K, Matsubara K, Kawai J, Piero Carninci, Hayashizaki Y	Rice functional genomics via cDNA microarray: Expression profiles of stress-responsive genes and rice full-length cDNA clones for global expression analysis	Plant and Animal Genome X	75	2002
246	菊池尚志, 肥後健一, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, カルニンチピエロ, 林崎良英	イネ完全長cDNAプロジェクト: 2つの方法を用いた完全長cDNAライブラリーの構築、クローンの単離、完全長配列決定、データベースの構築に関して	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	607	2001
247	木村成介, 古川智之, 上田忠正, 安藤露, 橋本純治, 坂口謙吾	高等植物イネの2種類のフラップエンドヌクレアーゼ1	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	762	2001
248	金容洵, 原和二郎, 和田早苗, 神田康三, 宮本和久	Bacillus thuringiensis CryIAb型δ-内毒素に対するカイコの抵抗性遺伝子	第64回昆虫病理研究会講演要旨	8	2001
249	金容洵, 原和二郎, 和田早苗, 神田康三, 宮本和久	Bacillus thuringiensis CryIAb型δ-内毒素に対するカイコの抵抗性遺伝子について	第7回BT研究小集会講演要旨集	4	2001
250	桐淵協子, 武田正敬, 杉森美帆, 軸丸裕介, 山口武志, 秋本千春, 南栄一, 小野寺治子, 宇垣正志, 田中宥司, 渋谷直人, 小原直美, 長谷川守文, 児玉治, 野尻秀昭, 大森俊雄, 西山真, 山根久和	イネにおけるジャスモン酸応答性遺伝子RERJ 1の機能解析	植物化学調節学会第36回大会講演要旨	75-76	2001
251	Kishimoto K, Ogata Y, Nakajima M, Tabei Y, Nishizawa Y, Hibi T, Akutsu K	Endogenous Antifungal Substances Induced in Cucumber Plants Expressing a Rice Chitinase Gene	育種学研究	67:182	2001
252	岸本久太郎, 尾形祐美子, 中島雅美, 田部井豊, 西澤洋子, 日比忠明, 阿久津克己	イネ・キチナーゼ遺伝子を導入した組換えキュウリにおける内在性抗菌物質の誘導	平成13年度 日本植物病理学会大会講演要旨	124	2001
253	Kishimoto N, Yazaki J, Fujii F, Shimbo K, Shimatani Z, Nagata Y, Hashimoto A, Ohta T, Ishikawa M, Kojima K, Jianzhong Wu, Yamamoto K, Sakata K, Sasaki T, Kikuchi S	Rice functional genomics via cDNA microarray: application of cDNA microarray to research on responses to UVB- and gamma ray-irradiations	Keystone Symposia 2002 Specificity and crosstalk in plant signal transduction	57	2002
254	Kishimoto N, Yazaki J, Fujii F, Shimbo K, Todoriki S, Ohta T, Shimatani Z, Nagata Y, Hashimoto A, Ishikawa M, Kojima K, Jianzhong Wu, Yamamoto K, Sakata K, Sasaki T, Kikuchi S	Application of cDNA microarray to research on responses to UVB- and gamma ray-irradiations and validation by real-time PCR	The microarray gene expression database group meeting (MGEDIV)	10	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
255	Kishimoto N, Yazaki J, Fujii F, Shimbo K, Yasui H, Yoshimura A, Ohta T, Shimatani Z, Nagata Y, Hashimoto A, Yamamoto K, Sakata K, Sasaki T, Kikuchi S	Affects of trisomy on gene expression: analysis by using microarray	Genes and Genetic Systems	76: 449	2001
256	岸本直己	イネのcDNAマイクロアレイ解析	第6回ムギ類分子生物学研究会例会(招待講演)		2001
257	岸本直己, 矢崎潤史, 藤井文子, 真保佳納子, 島谷善平, 長田夕子, 橋本晶子, 石川雅弘, 太田智弥, 山本公子, 坂田克己, 佐々木卓治, 菊池尚志	イネcDNAマイクロアレイを用いた紫外線・ガンマ線被照射イネの発現解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	614	2001
258	岸本正, 石川雅也	凍結制御に関わる植物由来の氷核活性物質	日本植物生理学会2001年度年会要旨集	192	2001
259	岸本正, 石川雅也	季節、生育段階に伴う氷核活性の発現	日本植物生理学会2002年度年会発表要旨集	209	2002
260	Kitamoto H, Miyakawa T	Kluyveromyces lactis killer protein (Zymocin) is activated by calcium in Saccharomyces cerevisiae	Workshop " BIOLOGY OF KLUYVEROMYCES. XIV "	16	2001
261	北本宏子	カルシウムで活性化されるKluyveromyces lactis キラータンパク質は出芽酵母のアクチンとキチン局在を阻害する	日本生物工学会大会講演要旨集平成13年度	512	2001
262	北本宏子, 宮川都吉	出芽酵母カルシウム情報伝達系に対するKluyveromyces lactisキラータンパク質の影響	日本農芸化学会誌	2-5ca06	2002
263	北本宏子, 宮川都吉	酵母Kluyveromyces lactisキラータンパク質はカルシウムで活性化される	Yeast Genetics and Molecular Biology News JAPAN	34:31	2001
264	木谷裕, 松本由記, 高田益宏, 山中晴道, 関川賢二	TNF- α 遺伝子欠損マウスに由来するミクログリア細胞株の樹立	組織培養研究	20: 93	2001
265	清田誠一郎, 矢崎芳明, 坂野勝啓	ニチニチソウのalternative oxidaseプロモーターのtransient assayによる解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	808	2001
266	Kizaki K, Nakano H, Takahashi T, Imai K, Takezawa T, Todoroki J, Fuchimoto D, Izaike Y, Hashizume K	Differential expression of vascular endothelial growth factor and basic fibroblast growth factor in bovine uterus and placenta	Society for the Study of Reproduction 34th annual meeting	165	2001
267	木全弘一, 水町功子, 米倉政実, 栗崎純一	β -ラクトグロブリン部分ペプチドの投与による経口免疫寛容誘導性能の比較	日本畜産学会第100回大会講演要旨	178	2002
268	小林麻子, 江花薫子, 椎名次男, 中島秀治, 藤井勇, 長峰司	稲在来品種「越前」のDNA変異の解析	育種学研究	4:104	2002
269	小林栄治, 石井和雄, 佐々木修, 秋田富士, 栗田崇, 古川力	ランドレースきょうだい交配家系におけるDNAマーカーホモ化の推移	第76回日本養豚学会大会講演要旨	34	2001
270	小林栄治, 田中麻衣子, 堂向美千子, 柳井智, 松本敏美, 島貫伸一, 秋田富士, 石井和雄, 佐々木修, 林武司, 古川力, 栗田崇	ブタ第7染色体の背脂肪厚QTL解析の精密化	日本畜産学会第100回大会	109	2002
271	小林栄治, 柳井智, 松本敏美, 田中麻衣子, 島貫伸一, 堂向美千子, 秋田富士, 石井和雄, 佐々木修, 林武司, 美川智, 上西博英, 和田康彦, 古川力, 栗田崇	ブタ8番染色体の詳細な連鎖地図に基づく背脂肪厚QTLの再解析	日本畜産学会第99回大会講演要旨	41	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
272	小林 亨, 倉田啓而	レーザマーカを用いたカイコの体液採取法の開発	日本蚕糸学会関東支部 第52回学術講演会講演要旨集	5	2001
273	Koga-Ban Y, Tabei Y, Ishimoto M, Nishizawa Y, Tsuchiya K, Kayano T, Tanaka H	Environmental risk assessment of transgenic cucumber harboring rice chitinase gene	Plant & Animal Genome IX	98	2001
274	小池淑子, 嶋田透, 鈴木雅京, 三田和英, 阿部広明, 前田進, 小副川和豊, deJong Pieter	カイコZ染色体に座乗する遺伝子の同定と構造解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	2P-023: 98	2001
275	小泉一愉, 中川由香, 西田克利, 三ツ橋知沙, 真保佳納子, 山本公子, 藤井文子, 坂田克己, 佐々木卓治, 矢崎潤史, 岸本直己, 菊池尚志, 佐藤光, 島田浩章	登熟期における細胞内シグナル伝達系に支配される遺伝子発現の網羅的解析	日本育種学会第100回講演会	3:2	2001
276	小泉一愉, 西田克利, 三ツ橋知沙, 真保佳納子, 藤井文子, 矢崎潤史, 岸本直己, 菊池尚志, 佐藤光, 島田浩章	種子成熟期における細胞内シグナル伝達系に支配される遺伝子発現の網羅的解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	617	2001
277	小泉美香, 石田信昭, 狩野広美	小果実の内部形態と糖分布のNMRイメージング	第40回NMR討論会講演要旨集	274-277	2001
278	小泉美香, 石田信昭, 狩野広美	冬期休眠中にツルボ鱗茎に蓄積する糖のNMR顕微鏡によるケミカルシフトイメージング	日本植物学会第65回大会研究発表記録	107	2001
279	小島恵一, 永田俊文, 大根田英祐, 矢作渡, 並木高洋, 河合純, カルニンチビエロ, 林崎良英, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 鷲尾尊規, 富田勝, 菊池尚志	イネの完全長cDNAにおける相同配列構造を含むクラスタークロンの解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	607	2001
280	Kojima M, Nemoto K, Degawa M	Alternative gene expression of enzymes responsible for the cholesterol and testosterone biosyntheses in testes and livers in lead nitrate-treated rats	Mutation Research-Fundamental and Molecular Mechanisms of Mutagenesis	483 (Suppl.1):82	2001
281	小島美咲, 根本清光, 出川雅邦	コレステロール生合成酵素遺伝子の発現誘導と細胞増殖との関連性	第60回日本癌学会総会記事	92(Suppl.): 500	2001
282	小島晶子, 門奈理佐, 佐々木卓治, 矢野昌裕	イネ感光性遺伝子Hd3aのマップベースクローニング	育種学研究(日本育種学会第99回講演会要旨集)	3期1: 51	2001
283	Komatsu A, Yoshikawa A, Hasegawa H, Kawahigashi-Kobayashi M, Nishizawa Y, Sugimoto K, Tozawa Y, Wakasa K	Analysis of rice transformants with the mutated anthranilate synthase gene driven by five different promoters for the development of selection marker	日本植物生理学会2002年会及び第42回シンポジウム	169	2002
284	小松晃, 鈴木暁子, 西澤洋子, 杉本和彦, 川岸万紀子, 戸澤譲, 若狭暁	改変アントラニル酸合成酵素遺伝子を用いた選択マーカー開発のためのプロモーターの検討	育種学研究	89	2001
285	Komatsu S, Konishi H, Shen S, Yoshikawa M, Yang G	Rice proteomics: A step towards functional analysis of the rice genome	International Proteomics Conference 2001 (Abstracts)	290(2):690-695	2001
286	Komatsu S, Konishi H, Yang G, Sharma A, Yoshikawa M, Fujisawa Y, Iwasaki Y	Functional analysis of a heterotrimeric GTP binding protein in rice	FEBS Annual Abstracts 2001	268:79	2001
287	Komatsu S, Yoshikawa M, Sharma A	A proteome approach towards understanding a role of calreticulin and interacted protein in rice	Plant, Animal & Microbe Genome X (Abstract)	263	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
288	小松節子, 小西博郷, Shen Shihua, Rakwal Randeep, 楊広笑, 吉川学, 佐々木卓治	プロテオーム解析によるイネゲノム機能 解明とその応用	第1回日本蛋白質科学会年会 要旨集	93	2001
289	小松節子, 小西博郷, 楊広笑, 加来久敏, 林長生, 藤澤由紀子, 岩崎行玄	イネの三量体GTPタンパク質で制御さ れているプロテインキナーゼの役割	生化学	73(8):862	2001
290	Komatsuda T, Mano Y	Molecular mapping of the non-brit- tle rachis 1 (btrl) locus in barley (Hordeum vulgare L.)	In Backmann K.(ed) Proceeding 6th Gatersleb en Research Conference	72	2002
291	Komatsuda T, Salomon B, Bothmer R von	A new molecular tool for studying the nuclear genome in the Triticeae	Proceeding 4th International Triticeae Symposium	57-62	2001
292	近藤歩, 上野修	CAM植物における細胞質型および葉緑 体型ピルビン酸Piジキナーゼの光によ る活性調節	日本作物学会紀事	70: 240-241	2001
293	小西博郷, 小松節子	イネ幼苗期の根において植物ホルモンに より誘導されるタンパク質の網羅的解析	生化学	73(8):962	2001
294	小西博郷, 小松節子	幼苗期イネにおいてブラシノリドで誘 導されるタンパク質群の解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	615	2001
295	小西博郷, 小松節子	プロテオーム解析技術による植物ホル モンで誘導される幼苗期イネタンパク質の 網羅的解析	第1回日本蛋白質科学会年会 要旨集	446	2001
296	小西左江子, 林少揚, 佐々木卓治, 矢野昌裕	イネ脱粒性遺伝子qSH-1のマッピング	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	711	2001
297	Konno K	Plant defense and counteraction of insects	The 14th Naito Conference on Bioactive Natural Products and Their Mode of Action: Insect Bioactive Molecules and Their Modes of Action	30-31	2001
298	Konno K, Hirayama C, Shinbo H, Nakamura M	A new bioassay method for plant defense using the eri silkworm: Application to the privet specialist herbivores system and other plant defense mechanisms	The 4th Asia Pacific Conference of Entomology	67	2001
299	Konno K	A new method for bioassaying the effects of plant defenses on insects using the eri silkworm: Application to privet-privet special- ist herbivore system and other plant defense mechanisms	The Eleventh Symposium on Insect- Plant Relationships Abstract	93	2001
300	今野浩太郎, 平山力, 中村匡利, 河野勝行	熱不安定性の殺虫・成長阻害活性を持つ 植物の探索とそれら活性の性質	日本農芸化学会2002年度大会 大会講演要旨	76	2002
301	今野浩太郎, 平山力, 中村匡利, 河野勝行	鱗翅目幼虫に対する種々の植物の毒性・ 成長阻害活性とそれら活性の熱不安定性 について	第45回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨	141	2001
302	金野俊洋, 竹澤俊明, 山内伸彦, 山田治, 今井敬, 高橋透, 橋爪一善	コラーゲンゲル内細胞培養法を用いての ウシ子宮内膜様構造の再構築	生研機構バイオ胎盤シンポジ ウム	41	2001
303	小杉俊一, 大橋祐子	イネPCF familyのDNA結合及び2量体 形成の特異性.	日本植物生理学会2001年度年 会	45	2001
304	高潤一郎, 宮崎直幸, 小川輝, 内藤久志, 中川敦史, 月原富武, 藤本瑞, 水野洋, 東貴彦, 渡邊康雄, 大村敏博	イネ萎縮ウイルスの ab initio 単結晶構 造解析	2001年度日本結晶学会年会講 演要旨集	69	2001
305	河本夏雄	カイコog遺伝子はDrosophilaモリブデ ン補酵素合成酵素遺伝子ma-lのホモロ グである。	日本動物学会第72回大会予稿 集	67	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
306	河本夏雄	酵母で発現させたカイコキサンチン脱水素酵素BmXDH1の活性	日本蚕糸学会第71回学術講演会講演要旨集	30	2001
307	小山朗夫, 山ノ内宏明, 町井博明	コルヒチン処理によって育成した混数性桑系統の形態的特性	日本蚕糸学会関東支部 第52回学術講演会 講演要旨集		2001
308	小山朗夫, 山ノ内宏明, 町井博明	混数性桑系統の不定芽由来再生個体におけるキメラ構造の変化	日本蚕糸学会関東支部 第52回学術講演会 講演要旨集		2001
309	Kubo C, Ohtani T, Aoki T, Umemoto S	Occurrence of Fruit Rot of Japanese Pear Caused by <i>Fusarium avenaceum</i> (Fries) Saccardo	Jpn. J. Phytopathol.	67:164-165	2001
310	Kubo N, Kadowaki K	Gene transfer from the mitochondrion to the nucleus and subsequent activation mechanism in higher plants	Endocytobiology VIII	68	2001
311	Kubo N, Komatsuda T, Salomon B and Kadowaki K	Mitochondrial rps2 of barley has a C-terminal extension differing from that of other cereals but is highly conserved in <i>Hordeum</i> species	4th International Triticeae Symposium, Book of abstracts	92	2001
312	久保中央, 小松田隆夫, Bjorn Salomon, 門脇光一	Triticeae連におけるミトコンドリア rps2の遺伝子の多様性	育種学研究	3(Suppl.2):292	2001
313	久保中央, 有村慎一, 堤伸浩, 平井篤志, 門脇光一	ミトコンドリアタンパク質局在シグナルの機能解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	544	2001
314	久慈直昭, 吉井穀, 高橋純, 佐藤健二, 谷垣礼子, 清水亜紀, 浅田弘法, 小澤伸晃, 丸山哲夫, 末岡浩, 吉村泰典, 小松節子	質量分析法を併用したヒト精子膜蛋白質のプロテオミクス解析	第46回日本不妊学会学術講演会プログラム	151	2001
315	久慈直昭, 吉井穀, 寺西貴英, 高橋純, 中林章, 佐藤健二, 谷垣礼子, 吉井紀子, 浅田弘法, 浜谷敏生, 丸山哲夫, 末岡浩, 小松節子, 吉村泰典	ヒト精子抽出蛋白質の2次元電気泳動によるプロテオーム解析の試み	第19回日本受精着床学会講演抄録集	177	2001
316	熊谷禎洋, 鷲尾尊規, 菊池尚志, 肥後健一, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, カルニンチピエロ, 林崎良英, 富田勝	イネ完全長cDNAにおける二次構造の網羅的解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	607	2001
317	Kuno A, Ito S, Kaneko S, Fujimoto Z, Mizuno H, Hayashi K, Hasegawa T, Kusakabe I, Taira K	Sugar-binding specificity of the type XIII xylan binding domain of a family F/10 xylanase from <i>Streptomyces olivaceoviridis</i> E-86	Abstracts of 4th Carbohydrate Bioengineering Meeting	55	2001
318	叢花, 長峰司, 藤巻宏	中国新疆ウイグル自治区の水稻地方品種の特性解析	育種学研究	4:115	2002
319	草野博彰, 浅野敬幸, 奥田知弘, 島田浩章, 門脇光一	形質転換イネの師管を利用したタンパク質生産の試み	育種学研究	3(Suppl.2):98	2001
320	草野博彰, 浅野敬幸, 島田浩章, 門脇光一	師部発現プロモーターを利用したシンク器官における有用物質生産の試み	日本育種学会	182	2002
321	桑原実, 光原一朗, 岩井孝尚, 後藤洋子, 加来久敏, 三浦正幸, 大橋祐子	ヒト由来の細胞抑制遺伝子bcl-xLを過剰発現させたイネ植物の塩および病害抵抗性	日本植物生理学会2001年度年会	64	2001
322	桑名芳彦	昆虫の行動発現機構解明のための匂い源定位ロボット開発	第19回日本ロボット学会学術講演会概要集	81	2001
323	Landais I, Pomet J-M, Mita K, Nohata J, Gimenez S, Fournier P, Devauchelle G, Duonor-Cerutti M, Ogliastro M	Characterization of the cDNA encoding the 90kDa heat-shock protein in the <i>Lepidoptera Bombyx mori</i> and <i>Spodoptera frugiperda</i>	Fifth International Workshop on Molecular Biology and Genomics in Lepidoptera	4	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
324	Madsen LH, Borisov AY, Tsyganov VE, Voroshilova VA, Batagov AO, Umehara Y, Schauser L, Sandal N, Ellis N, Tikhonovich IA, Stougaard J	The pea Sym35 gene is a homolog of Lotus Nin-characterization of three sym35 mutant alleles	Molecular Genetics of Model Legumes	90	2001
325	前田治子, 南貞媛, 芦川雄二, 野尻秀昭, 藤本瑞, 伏信新矢, 水野洋, 吉田貴子, 羽部浩, 山根久和, 大森俊雄	ダイオキシン・カルバゾール分解系初発酸化酵素 carbazole 1,9a-dioxygenase の結晶化	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	302	2002
326	Maeda M	Relationship between conserved residues and biochemical functions in ligand binding domains of steroid receptors	Model(l)ing 2001: The Annual International Meeting of the Molecular Graphics and Modelling Society	49	2001
327	前田美紀	ステロイド受容体リガンド結合ドメインにおいて高度に保存されているアミノ酸残基	第24回情報化学討論会、第29回構造活性相関シンポジウム講演要旨集	243-244	2001
328	前田美紀, 賀来華江	D-エリスルロース還元酵素と類縁タンパク質	第1回日本蛋白質科学会年会プログラム・要旨集	318	2001
329	Magoshi J, Magoshi Y, Inoue S, Tanaka T, Tuda H, Kobayashi M	Nanocomposites of rod-string structure in silk fibroin molecule by AFM	ヨーロッパ高分子集会	84	2001
330	Magoshi J, Magoshi Y, Inoue S, Tanaka T, Tuda H, Kobayashi M	Crystallization of silk fibroin, Bombyx mori	Polymer International-Polymer the third Millennium	16	2001
331	Magoshi J, Magoshi Y, Inoue S, Tanaka T, Tuda H, Kobayashi M.	Crystallization of silk fibroin, Bombyx mori	Proceedings of the Congress of Polymer	s6:1	2001
332	馬越淳, 馬越芳子, 井上俊一, 田中稔久, 津田英利, 小林将俊	フィブリン蛋白質の微小構造形成	Polyme Preprints, Japan	50: 5	2001
333	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M, Nakamura S	Biospinning (Bio-formation of silk fiber)	Polymer International-Polymer the third Millennium	15	2001
334	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M, Nakamura S	Biospinning:ebaporation of water by drawing	ACS	42: 2	2001
335	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M, Nakamura S	Inorgainic constitution of silk fibroin	ACS	42:1	2001
336	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M, Nakamura S	Crystallization of silk fibroin	Procedings of the American Chemical Society Division of Polymeric Materials: Science and Engineering	84	2001
337	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M	Study ofcel-sol transition of silkfibroin	Procedings of the American Chemical Society Division of Polymeric Materials: Science and Engineering	84	2001
338	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M, Becker M	Rheological behavior of silk fibroin aqueous solutin:gel-sol	ACS	84:620	2001
339	Magoshi J, Magoshi Y, Tanaka T, Inoue S, Tuda H, Kobayashi M, Becker M, Rotz B	Biospinning (Bio-formation of silk fiber)	Proceedings of the Congress of Polymer	S6:2	2001
340	馬越淳	植物体の熱測定	熱測定学会	37:194-195	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
341	馬越淳, 小林将俊, 田中稔久, 井上俊一, 津田英利, 馬越芳子	パルスNMR法による絹フィブロインの 構造とダイナミックスの研究	第13回高分子ゲル研究討論 会、高分子学会	37:194-195	2001
342	馬越淳, 馬越芳子, 井上俊一, 田中稔久, 津田英利, 小林将俊	カイコの紡糸-液状絹の延伸	高分子学会予稿集	50: 3	2001
343	馬越淳, 馬越芳子, 井上俊一, 田中稔久, 津田英利, 小林将俊	絹フィブロインタンパク質水溶液のレオ ロジー挙動	Polymer Preprints, Japan	50:3	2001
344	馬越淳, 馬越芳子, 井上俊一, 田中稔久, 津田英利, 小林将俊	原子間力顕微による絹フィブロインタン パク質分子の観察	高分子学会予稿集	50:14	2001
345	馬越淳, 馬越芳子, 井上俊一, 田中稔久, 津田英利, 小林将俊, 中村茂夫	家蚕の絹フィブロインの金属イオンに関 する研究	Polymer Preprints, Japan	50:3	2001
346	間瀬啓介, 山本俊雄, 原和二郎	FISH法を用いた発現遺伝子マッピング の試み	日本蚕糸学会中部支部講演集		2001
347	増川正敏, Antonio BA, 井戸沼淳子, 根岸真奈美, 有川浩司, 向井喜之, 太田勇, 松本隆, 坂田克己, 佐々木卓治	イネゲノム第1染色体塩基配列のアノテ ーション	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	610	2001
348	Matsubara Y, Hirota A, Hideo H, Onishi A, Kagami H, Tagami T, Harumi T, Sakurai M, Sano A, Naito M	An ability of cultured chicken blas- todermal cells to reconstitute the germline of blastodermal chimera	Proceedings of the Interna- tional Workshop in Tsuku- ba Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies	98	2001
349	松原悠子, 田上貴寛, 櫻井通陽, 鏡味裕, 花田博文, 春海隆, 佐野晶子, 内藤充	支持細胞を用いたニワトリ胚盤葉細胞の 培養の試み	日本畜産学会第100回大会講 演要旨		2002
350	松原悠子, 田上貴寛, 櫻井通陽, 鏡味裕, 春海隆, 佐野晶子, 内藤充	基礎培養液の違いによるニワトリ胚盤葉 細胞中の抗体陽性帽の出現率	日本畜産学会第99回大会講演 要旨	59	2001
351	Matsuda J, Takahashi S, Ohkoshi K, Kaminaka K, Kaminaka S, Nozaki C, Maeda H, Tokunaga T	Attempt to produce transgenic rabbit using somatic cell nuclear transferred chimeric embryos	UC Davis Transgenic Animal Research Confe- rence III	65	2001
352	Matsuda J, Takahashi S, Ohkoshi K, Kaminaka K, Kaminaka S, Nozaki C, Maeda H, Tokunaga T	Attempt to produce transgenic rabbit using somatic cell nuclear transferred chimeric embryos	Transgenic Research Conference III.	60	2001
353	松田岳博, 中尾大輔, 津村徳道, 竹谷勝, 岩本政雄, 三宅洋一	ゲノムインフォメーシング ーマイク ロアレイ画像情報解析ー	Extended Abstracts (The 49th Spring Meeting, 2002); The Japan Society of Applied Physics and Related Societies	3:984	2002
354	Matsukawa K, Hosoe M, Izaike Y, Takahashi S, Hanada A	The effent of stallion sperm pre- treatment before intracytoplasmic sperm injection using piezo micro- manipulator	Theriogenology	57 :(1) 757	2002
355	Matsumoto K, Lee J M, Hatakeyama M, Oishi K	Genetic linkage analysis using AFLP markers in the turnip sawfly, Athalia rosae	Genes & Genetic Systems	76 (6): 450	2001
356	松本和典, 岡村裕昭, 西口靖彦, 山岸則昭	シバヤギの肝門脈へのVFA注入が視床 下部室傍核のノルエピネフリンの変動に 及ぼす影響	日本畜産学会第99回大会講演 要旨	V15-6:66	2001
357	松本耕平, Lee Jae-Min, 畠山正統, 大石陸生	AFLP マーカーを用いたカブラハバチ Athalia rosae の遺伝子連鎖解析	日本遺伝学会第73回大会プロ グラム	1E11:131	2000
358	松本耕平, 炭谷めぐみ, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチの遺伝子連鎖地図と細胞学 的地図	第21回菅平前口動物学セミナ ー		2001
359	松本耕平, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチの遺伝子連鎖地図の作製	第37回日本節足動物発生学会		2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
360	松本耕平, 李載日文, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチにおけるFISH法を用いた 遺伝子のマッピング	Proceedings of Arthropo- dan Embryological Society of Japan	36: 25-26	2001
361	松下保彦, 出口雅一, 永井晶子, 吉村和馬, 玉井淳史, 飯哲夫, 川上茂 樹, 渡辺雄一郎, 西口正通, 丹生谷博	トマトモザイクウイルスの移行蛋白質と 結合する植物蛋白質MIP102を利用した ウイルス抵抗性作物の試み	日本植物病理学会報	67:157	2001
362	松山秀一, 大蔵聡, 櫻井勝康, 束村博子, 前多敬一郎, 岡村裕昭	メラノコルチン受容体の活性化はシバヤ ギにおいてパルス状GnRH分泌を促進 する	第94回日本繁殖生物学会大会 講演要旨集	96	2001
363	Medvedev S, Tokunaga T, Nagai T	Epigenetic reprogramming of the genome at the beginning of mouse development: Dynamic role of chromatin modification	International Symposium: Development and Epigenetics of Mammalian Germ Cells and Pluripotent Stem Cell	47	2001
364	Medvedev S, Tokunaga T, Schlitz RM, Nagai T, Bossak N, Izaike Y	The regulatory role of the first round of DNA replication in the reprogramming of gene expression in mice	Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies, Program and Abstracts	89	2001
365	Mikami I, Motomura T, Hayashi N, Kawasaki S	A trial to construct an ordered genome library of the rice blast fungus Magnaporthe grisea through the 3D-HEGS	1st International Workshop on Magnaporthe Pathogenicity and Genomics	31	2001
366	Mikami I, Motomura T, Hayashi N, Kawasaki S	A trial to construct an ordered genome library of the rice blast fungus Magnaporthe grisea through the 3D-HEGS	ぶんせき	605	2001
367	三上一保, 本村知樹, 山加夕子, 原田久也, 川崎信二	3D-HEGSを用いた全ゲノムライブラリ ー整列化の試み I. イネいもち病菌をモ デル系として	育種学研究(日本育種学会第 100回講演会要旨集)	3(suppl.2):14	2001
368	三上一保, 本村知樹, 林長生, 川崎信二	3D-HEGS/AFLPを用いたいもち病菌ゲ ノムライブラリー整列化の試み	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	3: 21	2001
369	Mikawa S, Uenishi H, Kiuchi S, Kishi H, Ogawa H, Iga K, Kobayashi E, Akita T, Hayashi T, Yasue H	Structural analysis of TGFB1 gene as candidate for a recessive-lethal in the National Institute of Animal Industry (NIAI) swine family	Plant, Animal and Microbe Genomes X	231	2002
370	Mikawa S, Uenishi H, Kiuchi S, Kishi H, Ogawa H, Iga K, Kobayashi E, Akita T, Hayashi T, Yasue H	Structural analysis of tgfb1 gene as candidate for a recessive- lethal in the national institute of animal industry swine family	Plant, Animal & Microbe Genomes X	612	2002
371	Milan D, Schiex T, Yerle M, Rink A, Beattie C, Hawken R, Schook L, Yasue H, Fredholm M, Rohrer G	Integration of genetic and radia- tion hybrid maps of the pig: The second generation IMPRH maps.	Plant, Animal & Microbe Genomes X	607	2002
372	耳田直純, 清水武史, 中島麻里奈, 島津樹一, 吉岡藤治, 新関稔, 中村伸吾, 川崎信二, 刑部敬史, 土岐精一, 市川裕章	Two Genes Each for RAD51 and LIM15/DMC1 Are Expressed in Rice	日本植物生理学2002年度年会 講演要旨集		2002
373	味村正博, 菅谷公彦, 阿部広明, 嶋田透, 三田和英	カイコW染色体のゲノム解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	2P-022:98	2001
374	Minakuchi C, Nakagawa Y, Seino A, Kiuchi M, Tomita S, Kamimura M	Cloning of cDNAs of ecdysone receptor (EcR) and ultraspiracle (USP) from Chilo suppressalis, and their functional analyses	Abstracts of the 14th Naito Conference on Bioactive Natural Products and their Modes of Action (III)	59	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
375	Minami E, Akimoto C, Takai R, Hasegawa K, Shibuya N	Isolation and characterization of rice genes responsive to N-acetylchitooligosaccharide elicitor by DNA microarray	Abstracts; GLYCO XVI XVI international Symposium on Glycoconjugates	48	2001
376	南貞媛, 藤本瑞, 伏信新矢, 水野洋, 吉田貴子, 羽部浩, 野尻秀昭, 山根久和, 大森俊雄	<i>Pseudomonas resinovorans</i> CA10株のcarbazole 1,9a-dioxygenaseのferredoxin componentの結晶構造解析	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	302	2002
377	峰澤満, 高橋秀彰, 佐藤正寛, 武田尚人, 柴田知也, 門脇宏, 鈴木啓一, 小林栄治	系統造成中豚集団のマイクロサテライトDNAマーカーを用いた遺伝的多様性の解析	日本畜産学会第99回大会講演要旨	41	2001
378	西川盾士, 小林享夫, 白田和人, 知花高志, 夏秋啓子	ナス科型種子における種子汚染菌類の検出とその病原性	日本植物病理学会報(講演要旨)	67-2:169	2001
379	Mita K, Morimyo M, Koike Y, Nohata J, Suzuki M, Shimada T, Okano K, Maeda S	Bombyx genome information	Fifth International Workshop Molecular Biology and Genomics in Lepidoptera	S3:12	2001
380	Mita K, Shimada T	Bombyx genome works - Present situation and future plan	Brainstorming workshop for the silkworm genomics		2001
381	Mita K, Shimada T, Yasukochi Y, Tamura T, Nagaraju J, Couble P, Goldsmith M	Genome works in the silkworm, <i>Bombyx mori</i> : a status report	USDA:Comparative Insect Genomic Workshop		2001
382	Mitsuhara I, Kuwahara M, Gotoh Y, Miura M, Ohashi Y	Overproduction of animal cell death suppressor BCL-xL or CED-9 in transgenic tobacco and rice plants confers delayed HR	6th International Workshop on Pathogenesis-Related Proteins in Plants	80	2001
383	光原一郎, 瀬尾(白澤)直美, 中村茂雄, 岩井孝尚, 本蔵良三, 大橋祐子	ルシフェラーゼ遺伝子導入植物をモデルとしたジーンサイレンシングの解析	日本植物生理学会2001年度年会	111	2001
384	光原一郎, 後藤洋子, 喬景波, 三浦正幸, 大橋祐子	動物由来の細胞死抑制遺伝子を過剰発現させた植物におけるストレス耐性と病斑形成の遅延	日本植物病理学会大会	143	2001
385	三橋忠由, Irina Chourkina	ニワトリマイコプラズマ非感受性解析家系におけるマイコプラズマの存在	動物遺伝育種学研究	29:68	2001
386	Mitsunashi W, Sato M, Hirai Y	Involvement of spindles of an entomopoxvirus (EPV) in the enhancement of the EPV infection to its host insect	SIP 34th Annual Meeting The Israeli-Dutch Meeting PROGRAM and ABSTRACTS	52	2001
387	Miyamoto k, Furuta Y, Kim Yong soon, Wada S, Kanda K	Relationship between <i>Bacillus thuringiensis</i> delta-endotoxin resistance and nuclear polyhedrosis virus resistance of the silkworm, <i>Bombyx mori</i>	日本蚕糸学会関東支部 第52回学術講演会	52:13	2001
388	宮本和久	パチルス・チューリングシスの多様性と利用	第18回農業生物活性研究会シンポジウム	18:9-12	2001
389	Miyao A, Tanaka K, Sawaki H, Onosato K, Yamashita Y, Hirochika H	Insertion preference of retrotransposon Tos17 in rice genome.	Plant, Animal & Microbe Genomes X	340	2002
390	宮尾安藝雄, 田中克幸, 澤木弘道, 小野里桂, 山下優美子, 廣近洋彦	イネミュータントパネルの作出と遺伝子破壊領域の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	615	2001
391	宮島たか子, 山本俊雄	数種のセリシン蚕における繭層セリシンのアミノ酸組成の比較	日蚕中部支部講要	57:24	2001
392	宮島たか子, 山本俊雄, 野崎稔, 吉田主成	セリシン蚕の繭層中のフィブロイン量について	日蚕シルク学会発表要旨集	49:130	2001
393	宮下範和, 志賀一穂, 鈴木暁之, 竹之内敬人, 竹澤俊明, 永井卓	体細胞クローン牛の精子テロメア長とその精子を人工授精して得た後代産子の白血球テロメア長の解析	第94回日本繁殖生物学会	55	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
394	宮崎直幸, 高潤一郎, 内藤久志, 小川輝, 中川敦史, 月原富武, 藤本瑞, 水野洋, 東貴彦, 渡邊康雄, 大村敏博	イネ萎縮ウイルスの3.5 分解能 X 線結晶構造解析	2001年度日本結晶学会年会講演要旨集	43	2001
395	三好猛晴, 王景明, 野田博明	ウンカ類酵母様共生微生物の卵巣への侵入	第45回日本応用動物昆虫学会大会	177	2001
396	水町功子, 高山喜晴, 栗崎純一	β -ラクトグロブリン及び卵白オボムコイドに対する免疫応答に及ぼす経口摂取抗原の影響	日本畜産学会第100回大会講演要旨	178	2002
397	水町功子, 木元広実, 岡本隆史, 何方, 細田正孝, 栗崎純一	乳酸菌の経口投与が β -ラクトグロブリンに対する経口免疫寛容に及ぼす影響	2002年度農芸化学学会大会要旨	97	2002
398	Mizuno H	An inhibition mechanism of coagulation based on the structure of blood coagulation factor complexed with its binding protein from snake venom	播磨国際フォーラム	14	2002
399	Mizuno H, Fujii Y, Fujimoto Z, Okuda D, Morita T	Crystallographic study of a platelet-aggregation inhibitor, trimastatin from snake venom	Abstracts of 4th Conference of the Asian Crystallographic Association	A6:29	2001
400	水野洋, 藤井佳史, 奥田大樹, 藤本瑞, 森田隆司	X線解析法による血小板凝集阻害タンパク質 Disintegrin の立体構造の解明	第74回 日本生化学会大会発表抄録集	625	2001
401	Mizusawa N, Miyao M	Degradation of the D1 protein of photosystem II proceeds via multiple pathways under illumination in vivo	Light Stress and Photosynthesis: UV and Visible Light Effects, Abstracts	24	2001
402	Mizusawa N, Miyao M	A novel degradation pathway of the D1 protein of photosystem II via covalent cross-linked adducts under illumination in vivo	Abstracts of the 12th International Congress on Photosynthesis	85	2001
403	望月淳子, 江口良子, 西口正通	CGMMVの変異型移行タンパク質遺伝子導入植物によるウイルス抵抗性と細胞内局在との関係	日本植物病理学会報	67:158	2001
404	Mori M, Ooka H, Sugimoto K, Kajiwar H, Satoh K, Hirochika H, Kikuchi S	Isolation of a rice dwarf mutant rescued by brassinolide	2002 Abstract Book of Keystone Symposia-Specificity and Crosstalk in Plant Signal Transduction	60	2002
405	Mori M, Ooka H, Sugimoto K, Satoh K, Hirochika H, Yamamoto K, Kikuchi S	Characterization of a Rice Dwarf Mutant Whose Phenotypes are Rescued by Brassinolide	日本植物生理学会2002年度年会講演要旨集		2002
406	森藤暁, 川原美保子, 井澤毅, 島本功	イネFEN1/RAD27類似遺伝子の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	1P-182:387	2001
407	Morishita T, Yamaguchi H, Degi K	The dose response and mutation induction by gamma ray in buckwheat.	Advances in buckwheat Research	334-343	2001
408	森下敏和	イオンビームがダットンソバに及ぼす影響	日本育種学会第100回講演会グループ研究集会	32-33	2001
409	Morita T, Fujimoto Z, Shikamoto Y, Atoda H, Mizuno H	Anticoagulant proteins isolated from the snake venom	Abstracts of the Conference on Exogenous Factors affecting Thrombosis and Haemostasis	63	2001
410	森田祐嗣, 何方, 橋本英夫, 水町功子, 栗崎純一	In vitroにおける乳酸菌及びビフィズス菌のプロバイオティクス適性の検討	日本畜産学会第99回大会講演要旨	85	2001
411	森脇丈治, 月星隆雄, 佐藤豊三	6種植物より分離された新種の炭疽病菌	日本植物病理学会報	67:165	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
412	Morozumi T, Inage Y, Shimanuki S, Shinkai H, Uchida Y, Murase A, Uenishi H, Hayashi T, Mikawa S, Awata T	QTL and candidate gene analysis of vertebra number in swine	Plant, Animal and Microbe Genomes X	231	2002
413	本村知樹, 川崎信二	HEGS/AFLPを用いたイネいもち病菌の精密ゲノムマップの効率的作製	日本植物病理学会報	67(2):130	2001
414	向井喜之, Antonio BA, 坂田克己, 牧野和佳, 境泰道, 佐々木卓治	イネゲノム統合データベースの現状: 2001	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	610	2001
415	村路雅彦, 中原重仁	mtDNA塩基配列に基づくBactrocera属ミバエの分子分類	第45回日本応用動物昆虫学会講演要旨	45:169	2001
416	村路雅彦, 立川周二	アメンボ科Macrogerris亜属の系統解析	日本昆虫学会第61回大会講演要旨	61:71	2001
417	Murakami R, Okuno T, Wada S, Hayasaka S, Miyamoto K, Shirata A, Yoshida S	Toxicity of phytotoxin produced by Myrothecium roridum for some lives	第52回日本蚕糸学会関東支部講演要旨集	19	2001
418	村上理都子, 吉田重信, 佐藤守, 市橋隆壽, 白田昭, 矢澤盈男, 高橋幸吉, 鈴木繁実	Erwinia carotovora subsp. carotovoraによるクワ枝の倒伏	日本蚕糸学会第71回学術講演会2001講演要旨集	74	2001
419	村上理都子, 平舘俊太郎, 白田昭, 吉田重信, 矢澤盈男	クワ暗斑病菌 (Myrothecium verrucaria) の病原性発現に対する本菌由来毒素roridin A、verrucarin A、Jおよび未同定毒素の関与	日本植物病理学会大会講演要旨	129	2001
420	Murthy MSRC, Kumeravel TS, Devaraj GM, Nishikawa S, Katahira M, Mizuno H, Endo Y, Kumar PKR	Cell free synthesis and analysis of denatured DHFR protein	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	13	2001
421	Myohara M	Immunohistochemical analysis of regeneration and embryonic development of the central nervous system of Enchytraeus japonensis (Annelida, "Oligochaeta")	日本植物病理学会報	43(Suppl.):48	2001
422	Nagahama K, Matsuoka M, Sato M, Fukuda H, Ogawa T	Ethylene-forming enzyme and its gene from Pseudomonas syringae.	Pseudomonas '01 abstr.	199	2001
423	長峰司, 奥野員敏, 勝田真澄, 三浦清之, 中山博貴, 江花薫子, 福岡修一	残存調査による茨城県及び福島県における作物在来品種の農家保存の実態	育種学研究	3(別 1)155	2001
424	長峰司, 叢花, 藤巻宏, 菊池文雄	イネ半矮性遺伝子座sd-1における起源の異なる対立遺伝子の優劣性関係	育種学研究	4:199	2002
425	Nagata T, Todoriki S, Masamizu T, Kikuchi S	Analysis of the control of the active oxygen species in Arabidopsis	12th International Conference on Arabidopsis Research	402	2001
426	永田俊文, 等々力節子, 岡部健, 佐藤浩二, 森昌樹, 菊池尚志	γ線照射による活性酸素生成によって誘導される細胞の生理及び形態的変異の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	807	2001
427	永田俊文, 等々力節子, 増水章季, 菊池尚志	活性酸素ストレスに対する植物の防衛機構の解明	アブストラクト第11回シロイヌナズナワークショップ		2001
428	内藤充, 佐野晶子, 田上貴寛, 春海隆, 松原悠子, 桑名貴	胚盤葉のエレクトロポーレーションによるニワトリ初期胚への外来遺伝子導入	日本家禽学会2001年度秋季大会号	18	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
429	Naito M, Sano A, Matsubara Y, Harumi T, Tagami T, Sakurai M, Kuwana T	Distribution of PGCs in stage X chicken blastoderm and their ability to differentiate into functional gametes in opposite-sex recipient gonads	Proceedings of the 14th International Congress of Developmental Biology	43(Suppl.):123	2001
430	Naito M, Sano A, Tagami T, Harumi T, Matsubara Y, Kuwana T	Production of germline chimeric chickens by transfer of primordial germ cells maintained in vitro	Proceedings of the Keystone Symposium "Stem Cells:Origins,Fates and Functions"	87	2002
431	Naito M, Sano A, Tagami T, Harumi T, Matsubara Y, Kuwana T	Transfection of stage X blastoderm in vivo by electroporation	Proceedings of the Transgenic Animal Research Conference III	69	2001
432	内藤成弘, 石田信昭, 小泉美香, 狩野広美, 高野博幸	NMRイメージングによるパンの網目構造の特徴計測法の検討	日本食品科学工学会第48回大会講演集	139	2001
433	仲川晃生, 加来久敏, 斉藤初雄, 竹原利明, 中山尊登	黒根腐病菌のダイズ胚軸感染過程の組織学的観察	日本植物病理学会報	67:129	2001
434	中川仁, 高辻博志	ベチュニアのSUPERMAN様遺伝子PetSPL1のノックアウト変異体の葯の形態異常	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	3P:631	2001
435	中原重仁, 金田昌士, 杉本民雄, 村路雅彦	ミカンコミバエ類のミトコンドリアDNAの「A+T」rich regionにおけるRFLPパターンの多様性	第45回日本応用動物昆虫学会講演要旨	45:170	2001
436	中井美智子, 菊地和弘, 滝澤明子, 林由里, 中務胞, 野口純子, 金子浩之, 紫野正雄, 柏崎直巳	ブタ精子に対する先体反応誘起処置が顕微授精後の胚盤胞への体外発生に及ぼす影響	日本畜産学会第100回大会講演要旨	115	2002
437	中島信彦, 金森保志	昆虫RNAウイルス由来リボソーム内部進入部位を利用した任意のアミノ酸からの翻訳開始	第3回日本RNA学会年会要旨集	38	2001
438	中村敦子, 福田篤徳, 酒井慎吾, 田中喜之	イネClチャンネル遺伝子OsCLC-1 and -2の細胞内局在性	Plant and Cell Physiology		2002
439	Nakamura E, Murayama N, Okuizumi H, Sawada K	RLGS profile segmentation via a SMV	Proc. IEEE Int'l Conf. Imag Processing 2001	533-536	2001
440	中村匡利, 平山力, 黄川田隆洋	エリサンとカイコの稚蚕期のステロール要求量について	日本蚕糸学会関東支部第52回学術講演会講演要旨集	3	2001
441	中村敏英, 西尾直美, 石川雅也	ディファレンシャルディスプレイを用いたレンゲツツジの耐凍性に関する遺伝子の単離	日本植物生理学会2001年度年会要旨集	212	2001
442	中村敏英, 石川雅也, 矢崎潤史, 藤井文子	イネcDNAマイクロアレイを用いた低温処理ブロムグラスの遺伝子発現解析	日本植物生理学会2002年度年会発表要旨集	209	2002
443	中野春男, 高橋透, 今井敬, 橋爪一善	ウシ胎盤二核細胞の単離培養と細胞内カルシウム濃度の測定	生研機構バイオ胎盤シンポジウム	34	2001
444	中野春男, 高橋透, 今井敬, 橋爪一善	培養ウシ胎盤二核細胞におけるDolichos biflorus agglutininの特異的結合	第94回日本繁殖生物学会	97	2001
445	中野春男, 嶋田新, 今井敬, 竹澤俊明, 高橋透, 橋爪一善	コラーゲンゲル培養によるウシ栄養膜細胞の二核細胞への分化誘導	第54回日本細胞生物学会大会講演要旨集	63	2001
446	中島健一, 鮎澤弘子, 岩垂美智子, 高林千幸, 寺本英敏, 野口忠久	特徴ある蚕品種繭の性状とその利用	日本蚕糸学会中部支部講演集	57:48	2001
447	中島健一, 鮎澤弘子, 岩垂美智子, 寺本英敏, 高林千幸	極細繊維繭の性状とその製糸方法について	日本シルク学会研究発表要旨集録	49:112-113	2001
448	Nakashima N	Crickit paralysis-like viruses: Unique genome organization and strategy for capsid protein expression	SIP 34th Annual Meeting ABSTRACTS	54	2001
449	中屋昭, 高林千幸, 星野伸男, 中島健一, 寺本英敏	高速ネットロウシルク繰糸機の開発と繰製糸糸の特性	日本蚕糸学会中部支部講演集	57:59	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
450	中山博貴, 長峰司, 林長生	アワのいもち病抵抗性の地理的変異	育種学研究	4:123	2002
451	中山博貴, 福岡修一, 辻耕治, 大西近江, Bimb HP, Bimb ML, Vaidya ML, Sharma DR, Kurmi PP, Baniya BK, Sapkota RP, 江花薫子, 奥野員敏, 長峰司	ネパールにおけるソバ属野生種の生息域 内保存のための現地調査と遺伝的多様性 の解析	育種学研究	3(別1):164	2001
452	Nakayama S, Fujishita M, Ohyama K	Differentiation of ribosomal RNA genes on liverwort sex chromo- somes	Chromosome Research	9 (suppl 1): 46	2001
453	中山繁樹, 藤下まり子, 大山莞爾	ゼニゴケ染色体におけるリボソーム DNA遺伝子座の雌雄間差異	プログラム予稿集	129	2001
454	Namba K, Fujii Y, Fujimoto Z, Mikoshiya Y, Nakagawa A, Tsukihara T, Omura T, Mizuno H	Crystallization and X-ray data col- lection of Cocksfoot mottle virus	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology includ- ing hydrogen and hydra- tion' in Organized research Combination System	38	2001
455	成瀬理紗, 関本征史, 小島美咲, 根本清光, 出川雅邦	塩化カドミウム投与時のラット肝臓およ び精巣における神経栄養因子の遺伝子発 現変動	第60回日本癌学会総会記事	92(Suppl): 497	2001
456	根本泰江, 木坂真由美, 矢野昌裕, 荻原保成	コムギにおけるイネ感光性遺伝子Hd1相 同遺伝子の単離	育種学研究(日本育種学会第 100回講演会要旨集)	3(別2): 142	2001
457	Nenoi M, Ichimura S, Mita K, Cartwright I	Regulation of the Catanase gene promoter by Sp1	Molecular Biology of the Cell	12:354	2001
458	西堀正英, 安江博, 都築政起, 山本義雄, 野澤謙, 黒澤弥悦, Kaviphone Phouthavongs, 万年英之, 黒岩麻里, 岡田幸男, 山縣高, Bounthong Bouahom, 並河鷹夫	ラオスおよびその近隣国における在来鶏 およびヤケイの分子系統学的解析	在来家畜研究会報	20: 1-10	2002
459	西堀正英, 都築政起, 林武司, 山本義雄, 安江博	キジ目家禽におけるミトコンドリアDN A 全塩基配列の決定とその分子系統学 的解析	日本DNA多型学会第10回学 術集会抄録	7	2001
460	西堀正英, 都築政起, 林武司, 山本義雄, 安江博	ヒメウズラ(Coturnix chinesnsis) のミトコンドリアゲノム全塩基配列を決定 した	日本家禽学会誌	1-17	2002
461	西堀正英, 林武司, 都築政起, 山本義雄, 安江博	ウズラ(Coturnix japonica)のミトコン ドリアゲノム全塩基配列を決定した	日本畜産学会第98回大会講演 要旨	III28-16:83	2001
462	西堀正英, 林武司, 都築政起, 山本義雄, 安江博	ミトコンドリア全塩基配列を用いたニワ トリの成立の分子系統学的解	日本家禽学会誌	1-2	2001
463	西口正通, 望月淳子, 霜野真幸, 田中良和, 園田昌司, 陸振暁, 下山淳	ジーンサイレンシングとウイルス; コン ニャクモザイクウイルスのNib遺伝子を導 入したNicotiana benthamianaの作出	日本植物病理学会報	67:143	2001
464	Nishikawa T, Komatsuda T, von Bothmer R, Kadowaki K	Molecular phylogeny in the genus Hordeum using three sequences of chloroplast DNA	4th International Triticeae Symposium, Book of abstracts	119	2001
465	西川智太郎, 小松田隆夫, 門脇光一	葉緑体DNAの塩基配列に基づく Hordeum属植物の系統解析	育種額研究	3(Suppl.2):290	2001
466	西村麻里江	いもち病菌の形態形成(胞子・付着器) に関する分子遺伝学的解析	シンポジウム 共生・病原微 生物の分子遺伝学		2001
467	西村麻里江, Jin-Rong Xu	イネいもち病菌における3量体Gタンパ ク質βサブユニットの機能	第1回糸状菌分子生物学コン ファレンス	25	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
468	西村麻里江, John E, Hamer	Magnaporthe griseaの胞子形成終了時に発現する転写因子Acr 1は何を制御しているか	日本菌学会第45回大会講演要旨集	130	2001
469	西村麻里江, John E, Hamer	Magnaporthe griseaの胞子形成に関連する転写因子Acr 1	日本菌学会第45回大会講演要旨集	35	2001
470	西村慎哉, 日本典秀, 高藤晃雄	カンザワハダニのマイクロサテライトマーカー第10回ダニ学会大会	第10回ダニ学会大会プログラム	5	2001
471	Nishizawa Y, Saruta M, Kaku H, Hibi T	Hyper-response to both blast and bacterial leaf blight in transgenic rice plants overexpressing the Gns1 1,3;1,4-b-glucanase gene.	10th International Congress Abstracts	319	2001
472	西沢八恵子, 岡野江津子, 入江強子, 市川裕章, 宇垣正志	S65T-GFP/GUS融合レポーター遺伝子の構築と高等植物における発現	育種学研究	4(別1):46	2002
473	丹羽康雄, 森安裕二, 梶原英之, 加藤友彦, 田畑哲之, 白野由美子, 林浩昭, 柴田大輔, 関原明, 小林正智, 篠崎一雄	挿入変異体を用いた葉緑体包膜輸送因子の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨		2001
474	Noda H, Nasir H, Koizumi Y	Intracellular yeastlike symbiotes as a sterol source for host insects: Sterol metabolic pathways in rice planthoppers and anobiid beetles	Endocytobiology VIII	90	2001
475	野田博明	ウンカ類の細胞質不和合性	第45回日本応用動物昆虫学会大会	183	2001
476	野田博明, 小泉蓉子	イネミズゾウムシの共生微生物: イネミズゾウムシはやはりカリフォルニアからきた!	第45回日本応用動物昆虫学会大会	172	2001
477	野田隆志	ヒメハナカメムシ類種別採集数の植物種による違い	第19回捕食・寄生性昆虫ワークショップ講演要旨		2001
478	野田隆志, 日本典秀, 川崎建次郎, 清水徹	タイリクヒメハナカメムシの休眠性の遺伝について	第46回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	139	2001
479	野津義幸, 西川智太郎, 久保中央, 門脇光一, 平井篤志	イネミトコンドリアゲノムに存在する葉緑体または核ゲノム由来配列の網羅的解析	育種額研究	3(Suppl.2):113	2001
480	野口純子, 菊地和弘, 金子浩之, 湯浅茂樹, 外山芳郎	減数分裂前期で精子形成が停止する遺伝的無精子症ラットにおける血液精巣閉門の機能不全	第94回日本繁殖生物学会講演要旨	86	2001
481	野一泰友, 西山義春, 和田晶久, 空閑重則, 馬越淳	絹フィブロイン/セルロース微結晶のコンポジットフィルムの力学物性	セルロース学会	25	2001
482	Nojiri H, Schaller F, Weiler WE, Akimoto C, Yamaguchi T, Shibuya N, Yoshihara T, Omori T, Nishiyama M, Yamane H	Functional analysis of jasmonate-inducible gene OsOPR1 in suspension-cultured rice cell	日本農芸化学会2002年度大会講演		2002
483	野々村賢一, 三好一丸, 永口貢, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦, 倉田のり	イネの生殖細胞の分化に関与する受容体セリン/スレオニンキナーゼ	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	3P:615	2001
484	Nowak Bernadeta, Tsuji N, Takeuchi O, Akira S, Tsuji R	Impaired IgA responses in the absence of MyD88 signal.	日本免疫学会総会・学術集会記録	31: 293	2001
485	Numa H, Sakata K, Nagamura Y, Antonio BA, Idonuma A, Shimizu Y, Horiuchi I, Matsumoto T, Sasaki T, Higo K	RiceGAAS: An Automated Annotation System for Rice Genome	Genome Informatics 2001	496-497	2001
486	沼田慎一, 片岡智, 富山雅光, 長谷部亮, 中島雅己, 阿久津克己	海洋細菌Alteromonas sp.のキチナーゼ遺伝子を効率的に発現させた組換え葉面細菌によるキュウリ灰色かび病の生物的防除	日本植物病理学会報	67(2):189	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
487	越智玲恵, 根本紀夫, Hosein KS, 馬越淳	絹糸線内の絹フィブロインの構造とダイナミックス	高分子学会予稿集	50:10	2001
488	Ochiai H, Inoue Y, Kaku H	Construction of a physical map of the <i>Xanthomonas oryzae</i> pv. <i>oryzae</i> genome	Plant, Animal & Microbe Genomes X	80	2002
489	落合弘和, 井上康宏, 竹谷勝, 加来久敏	イネ白葉枯病菌のゲノム解析 - hrp遺伝子クラスター及び近傍領域の構造解析 -	植物微生物研究会第11回研究交流会宮崎大会講演要旨集	163-165	2001
490	落合弘和, 竹内香純, 長谷部亮, 加来久敏	イネ白葉枯病菌より見いだされた挿入配列について	日本植物病理学会報	67:210	2001
491	緒方智子, 細野朗, 水町功子, 栗崎純一, 中村良	オボムコイド部分ペプチドの一残基置換ペプチドによる免疫応答の変化	日本畜産学会第99回大会講演要旨	83	2001
492	緒方智子, 細野朗, 水町功子, 栗崎純一, 中村良	オボムコイド由来のアナログペプチドのマウス経口投与免疫応答の変化	2002年度農芸化学会大会要旨	97	2002
493	小川泰一, 百瀬悟, 井田正二, 萩尾高志, 高岩文雄, 田部井豊	硝酸還元酵素cDNAを導入したイネ「コシヒカリ」形質転換セルラインの解析	育種学研究	3 (別2):211-211	2001
494	大橋祐子, 大坪憲弘, 仁木智哉, 瀬尾茂美, 光原一朗	タバコにおける病傷害誘導性防御遺伝子群の発現	日本植物生理学会2001年度年会	31	2001
495	Ohashi Y, Seo S, Ito N, Yamakawa H, Takabatake R, Mitsuhashi I, Kamada H	Two protein kinases involved in wound- and HR-signaling in tobacco plants	Plant Protein Phosphorylation	18	2001
496	Ohashi Y, Seo S, Yamakawa H, Ito N, Mitsuhashi I, Kamada H	Signaling for HR-induction and defense in TMV-infected tobacco plant.	6th International Workshop on Pathogenesis-Related Proteins in Plants	16	2001
497	大橋祐子, 佐々木克友, 平賀勲, 岩井孝尚, 伊藤浩之, 山本公子, 光原一朗, 佐々木卓治, 松井博和	21種のイネペルオキシダーゼ遺伝子の器官、薬剤、ストレスおよびもち病菌感染特異的発現	日本植物病理学会大会	119	2001
498	Ohbayashi F, Suzuki MG, Abe H, Tanaka N, Yokoyama T, Oshiki T, Hirokawa M, Mita K, Shimada T	Feminizing gene on the W chromosome regulates sex-specific splicing of Bmdsx pre-mRNA in Bombyx mori	The fifth International Workshop on the Molecular Biology and Genetics of the Lepidoptera		2001
499	Ohkawa H, Inui H, Imajuku Y, Imaishi H, Ohkawa Y	Herbicide resistant transgenic plants expressing cytochrome P450 monooxygenases metabolizing xenobiotics	ACS Symposium Series 774. Agrochemical Discovery -Insect, Weed, and Fungal Control-	116-126	2001
500	Ohkawa Y	Degradation of agrochemicals and herbicide tolerance in the transgenic rice plants with human cytochrome P450 genes	Genetic Engineering and Ecology Series 2. Novel Approaches to Weed Control Using New Classes of Herbicides and Transgenic Plants Resistant to Herbicide	114	2001
501	Ohkawa Y, Ohkawa H	Transgenic rice and potato plants expressing human cytochrome P450s show cross-tolerance to herbicides by detoxifying them	Proceedings of International Workshop on Seed & Seedling Science & Technology	115-127	2001
502	Ohkoshi K, Takahashi S, Koyama S, Akagi S, Adachi N, Furusawa T, Fujimoto J, Tokunaga T	Caprine somatic cell nuclear transfer using in vivo matured oocytes collected by laparoscopic follicular aspiration.	Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies, Program and Abstracts	57	2001
503	Ohkoshi K, Takahashi S, Koyama S, Akagi S, Adachi N, Furusawa T, Fujimoto J, Tokunaga T	In vitro developmental potential of parthenogenetic-activated and nuclear-transferred in vivo matured oocytes collected by laparoscopic follicular aspiration	UC Davis Transgenic Animal Research Conference III	65	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
504	Ohkura S, Ichimaru T, Matsuyama S, Okamura H	Nutritional control of the hypothalamic GnRH pulse generator activity in Shiba goats	2nd International Symposium on the Comparative Biology of GnRH: Molecular Forms and Receptors (Abstracts)	53	2001
505	岡田英二	蚕品種間における抗菌活性誘導の効率性	日本蚕糸学会中部支部講演集第57号	57:44	2001
506	岡村裕昭	ネズミの毛の色とGnRHパルスジェネレーター	第8回動物の神経科学を語る会プログラム		2001
507	岡村裕昭, 市丸徹, 松山秀一, 大蔵聡	脳室内コレシストキニン投与がシバヤギのGnRHパルス分泌活動におよぼす影響	第94回日本繁殖生物学会大会講演要旨集	91	2001
508	岡村裕昭, 大蔵聡	反芻動物におけるGnRHパルス状分泌活動の調節機構	第132回日本獣医学会学術集会講演要旨集	40	2001
509	岡野和広, 嶋田透, 三田和英, 松本正吾	平均化ライブラリー構築によるカイコ神経系・感覚器cDNAライブラリーの網羅的解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	2P-021:98	2001
510	Onishi A	Cloning in pigs	The International Workshop in Tsukuba: Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies Program and Abstracts	45	2001
511	小野里桂, 宮尾安藝雄, 田中克幸, 村田和優, 澤木弘道, 佐々木卓治, 廣近洋彦	イネレトロトランスポゾンTos17の挿入により生じた病斑葉変異体の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	616	2001
512	小野寺康之, 多田欣史, 鷲田治彦, 高岩文雄	イネ種子貯蔵タンパク質の発現調節に関わるbZIPタンパク質の解析	日本育種学会第99回講演要旨集	3(別1):28	2001
513	Ookoshi K, Takahashi S, Koyama S, Akagi S, Adachi N, Furusawa T, Fujimoto J, Tokunaga T	In vitro developmental potential of parthenogenetic-activated and nuclear transferred in vivo matured oocytes collected by laparoscopic follicular aspiration.	Transgenic Research Conference	3:65	2001
514	押田聡子, 加来久敏, 染谷信孝, 中島雅巳, 阿久津克己	Serratia marcescens B2 による誘導抵抗性発現の組織学的観察	日本植物病理学会報	67:191	2001
515	Ote M, Mita K, Kawasaki H, Nohata J, Suzuki M, Kobayashi M, Shimada T	Hormonal regulation of gene expressions in wing discs of Bombyx mori during metamorphosis revealed by microarray analysis	Fifth International Workshop on Molecular Biology and Genomics in Lepidoptera	s2:10	2001
516	王景明, 三好猛晴, 野田博明	トビイロウンカ卵巣小管基部に局在するEPSP-260kD 蛋白質の解析	第45回日本応用動物昆虫学会大会	177	2001
517	大林富美, 鈴木雅京, 外城寿哉, 三田和英, 岡野和広, 嶋田透	カイコのfruitless相同遺伝子Bmfruの構造および発現	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	1P-088: 58	2001
518	大越勝広, 高橋清也, 小山真一郎, 赤木悟史, 足立憲隆, 古沢軌, 藤本純一郎, 徳永智之	腹腔内視鏡卵胞吸引によるヤギ卵子採取及び単為発生刺激後の体外発生能	第94回日本繁殖生物学会講演要旨集	68	2001
519	大蔵聡	ヒツジ母性行動発現に関わる子ヒツジの匂い認識の神経機構	第5回鋤鼻研究会プログラム		2001
520	大蔵聡, 松山秀一, 市丸徹, 岡村裕昭	シバヤギのGnRH pulse generator活動の調節における血中グルコースおよび遊離脂肪酸の役割	第94回日本繁殖生物学会大会講演要旨集	90	2001
521	大森拓, 李貴宰, 西口正通, 柏崎哲	シロイヌナズナの抵抗性反応に関わるトバモウイルス遺伝子の解析	日本植物病理学会報	67:157	2001
522	大西彰	体細胞クローン豚の作出とその利用	日本畜産学会第100回大会講演要旨	19	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
523	大友泰裕, 謝秋宏, 成川隆也, 久寿米木幸寛, 三浦順一郎, 菅野純夫, 菊池尚志, 肥後健一, 村上和雄, 松原謙一	イネ完全長cDNAライブラリー構築と その解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	608	2001
524	大浦正伸, 李民賛	バーコードリーダによるカイコ飼育箱管 理システム	農業機械学会関東支部第37回 年次大会講演要旨	25	2001
525	大浦正伸, 李民賛, 野崎稔, 吉田主成	カイコ自動飼育システムの開発 - 20,000頭飼育実証試験 -	日本蚕糸学会第71回学術講演 会要旨集	86	2001
526	小沢憲二郎, 川東広幸, 萱野暁明, 大川安信	ディファレンシャルディスプレイ法を用 いたイネ再分化能関連遺伝子の単離と発 現解析	育種学研究	3(別2): 322	2001
527	Park G, Xue C, Li L, Nishimura M, Xu J-R	Characterization of PMK1 pathway in Magnaporthe grisea	1st International workshop on Magnaporthe pathge- nicity and genomics	6	2001
528	Patel OV, Kizaki K, Takahashi T, Imai K, Hashizume K	Pregnancy related proteins in arti- ficially inseminated and somatic cell clone recipient cows	Biotechnology, Agronomy Society and Environment	31	2001
529	Patel OV, Takahashi T, Imai K, Hashizume K	Complex post-translational modifi- cation of native and recombinant bovine pregnancy-associated gly- coprotein	14th International Cngress of Developmental Biology	3	2001
530	Patel OV, Takahashi T, Ishiwata H, Hashizume K	Simultaneous secretion of multiple pregnancy associated glycopro- teins in cattle	Society for the Study of Reproduction 34th annu- al meeting	338	2001
531	Rakwal R, Komatsu S	Exploring early events in the jas- monic acid pathogenesis-related protein(s) accumulation in rice seedling leaf sheaths	生化学	73(8):866	2001
532	Rakwal R, Komatsu S	Jasmonic acid induced necrosis and decreases in rubisco in rice seedlings involve reactive oxygen species	17th International Conference on Plant Growth Substances (Abstract)	186	2001
533	Rakwal R, Komatsu S	A proteomics approach towards understanding the role of jas- monate in stressed rice seedling tissues	The 1st Annual Meeting of the Protein Society of Japan (Abstract)	440	2001
534	Rakwal R, Komatsu S	Abscisic acid promoted changes in the proteins in rice seedling leaves and leaf sheaths by 2DE, 2D in vitro protein phosphorylation and in-gel kinase assays	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	494	2001
535	Ravikumar G, Yokata A, Watanabe H	Expression of a termite cellulase gene in yeast	Announcement for the conference on Cellulases and Cellulosomes http://www.grc.uri.edu/pro-grams/2001/cellul.htm		2001
536	李民賛, 大浦正伸	カイコ飼育装置稼動状況モニタリングシ ステムの開発	日本蚕糸学会第71回学術講演 会要旨集	87	2001
537	梁正偉, 林鴻宣, 佐々木卓治, 矢野昌裕	水稻品種日本晴から誘発された早生突然 変異体の遺伝解析	育種学研究 (日本育種学会第 99回講演会要旨集)	3(別1): 223	2001
538	梁正偉, 林鴻宣, 佐々木卓治, 矢野昌裕	イネ極晩生品種Nona Bokraとコシヒカ リのF2集団を用いた出穂期関連遺伝子 のマッピング	育種学研究 (日本育種学会第 100回講演会要旨集)	3(別2): 40	2001
539	Saisho D, Kawasaki S, Sato K, Takeda K	Construction of BAC library from Japanese malting barley Haruna Nijo	Abstracts of Plant, Animal & Microbe Genome X	393	2002
540	齋藤敏之, 渡邊康子, 根本鉄, 金山佳奈子, 粕谷悦子, 作本亮介, 斎藤則夫	牛クローン胎子心電位の測定・解析	第100回日本畜産学会大会講 演要旨集	8(28)-08	2002
541	齋藤敏之, 渡邊康子, 根本鉄, 粕谷悦子, 作本亮介, 安江邦子	小型テレメータを用いた家畜の脳波導出 法の考案	第132回日本獣医学会学術集 会講演要旨集	Pos6001	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
542	酒井伸也, 堀井克則, Duvjir Suvd, 香川正行, 藤本瑞, 高瀬研二, 水野洋	立体構造解析に基づく中等度好熱菌 Bacillus stearothermophilus由来α- アミラーゼの熱安定性向上の試み	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨集	725	2001
543	坂下邦仁, 窪田力, 岡野良一, 西博巳, 田原則雄, 米丸光政, 高橋清也, 居在家義昭	体細胞クローン去勢牛のと畜解体成績お よび枝肉成績	日本畜産学会第99回講演要旨	16	2001
544	作本亮介, 粕谷悦子, 渡邊康子, 齋藤敏之, 秋田富士	ブタ中枢および末梢のTNFα濃度に及 ぼすLPSの影響	日本畜産学会第100回大会	8(28)-12	2002
545	櫻井敦, 鷲尾尊規, 菊池尚志, 肥後健一, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, カルニンチピエロ, 林崎良英, 富田勝	完全長cDNAとゲノム配列を利用した イントロンの位置解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	367	2001
546	Sano A, Tagami T, Harumi T, Matsubara Y, Naito M	Transfection of stage X blasto- derms of chickens by lipofection and electroporation	Proceedings of the 14th International Congress of Developmental Biology	43(Suppl.):1 23	2001
547	佐野奈緒子, 武藤国昭, 大越研人, 渡辺順次, 馬越淳	ヒドロキシプロピトルセルロースを用い たコロイド分散系特異な採光現象	高分子学会予稿集	50: 9	2001
548	佐野晶子, 田上貴寛, 春海隆, 松原悠子, 内藤充	ニワトリ胚盤葉の切断部域の違いが Twin Embryo作出効率に及ぼす影響	日本家禽学会2001年度秋季大 会号	19	2001
549	佐野晶子, 田上貴寛, 春海隆, 松原悠子, 内藤充	垂直型電極を用いたニワトリ胚盤葉のエ レクトロポレーション効率	日本家禽学会2002年度春季大 会号	4	2002
550	猿田正恭, 西澤洋子, 加来久敏, 日比忠明	1,3;1,4-β-グルカナーゼ遺伝子(Gns1)を 過剰発現する組換えイネにおけるイネい もち病菌とイネ白葉枯病菌に対する過敏 感反応	日本植物病理学会報	67:119-120	2001
551	佐々木治人, 石丸健, 山岸徹	イネを中心とした作物学データベースの 構築	日本作物学会紀事	70:267-268	2001
552	佐々木克友, 平賀勲, 伊藤浩之, 松井博和, 大橋祐子	傷害誘導性タバコベルオキシダーゼ tpoxN1遺伝子は維管束部および表皮組 織において長期間発現する	日本植物生理学会2001年度年 会	146	2001
553	Sasaki T, Matsumoto T, Baba T, Yamamoto K, Katayose Y, Wu J, Sakata K	Understanding the Rice Plant by its Genome Sequene	Asian Agriculture Congress	62-62	2001
554	佐藤浩二, 小島恵一, 大根田英祐, 矢作渡, 並木高洋, 大里直樹, 河合純, カルニンチピエロ, 林崎良英, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 山下智也, 鷲尾尊規, 富田勝, 菊池尚志	イネ完全長cDNAにおけるUTR領域で の多型解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	607	2001
555	佐藤浩二, 森昌樹, 等々力節子, 岡部健, 永田俊文, 前川雅彦, 菊池尚志	イネのγ線照射に対する応答の系統間比 較	育種学研究	3(別1):287	2001
556	Sato M, Wei W, Kawakita H, Sato Y	Horizontal and vertical movement of mulberry dwarf-phytoplasmas in mulberry trees	Abstract of 101th General Meeting of the American Society for Microbiology	504	2001
557	佐藤守	「ファイトプラズマ研究の新展開」ファ イトプラズマと昆虫の関係	第28回日本マイコプラズマ学 会講要	14	2001
558	佐藤守, 渡部賢司, 佐伯知明	クワの霜害発生と氷核活性細菌との関係	日本蚕糸学会関東支部講演要 旨集	18	2001
559	佐藤守, 渡部賢司, 佐伯知明	氷核活性細菌の霜害誘導時に起こる植物 の初期反応	日本植物病理学会平成13年度 関東部会講演要旨予稿集	2	2001
560	佐藤正寛, 竹谷勝	遺伝的パラメーターの精度が育種価の制 限付きBLUPに与える影響	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	205	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
561	佐藤正寛, 竹谷勝	混合モデル方程式における反復解法の比較	第77回日本養豚学会大会講演要旨	31	2002
562	佐藤正寛, 竹谷勝, 武田尚人	集団のサイズが改良目標を達成するための選抜に及ぼす影響	第76回日本養豚学会講演要旨	31	2001
563	佐藤正寛, 武田尚人, 竹谷勝	育種価の制限付きBLUPにより選抜候補個体を評価した場合の選抜反応	日本畜産学会第99回大会講演要旨	38	2001
564	Sawada K, Ishikawa M	Anti-nucleating activity in wintering plant tissues	日本植物学会2001年度大会要旨集	200	2001
565	Sekozawa Y, Ishikawa M	Seasonal changes in nucleation activities of various tissues of Japanese pear (<i>Pyrus pyrifolia</i> Nakai) in relation to their freezing behavior and frost injury	International Symposium on Asian Pears		2001
566	瀬尾(白澤)直美, 佐野義孝, 中村茂雄, 村上高, 大橋祐子, 橋本義文, 松本継男	形質転換タバコにおけるレンゲ萎縮ウイルスDNAのプロモーター活性	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	775	2001
567	瀬尾茂美, 大橋祐子	TMV感染によるタバコ過敏感反応においてWIPKの活性化はジャスモン酸の蓄積に先行して起こる.	日本植物生理学会2001年度年会	146	2001
568	Sharma Arun, Isogai M, Yamamoto T, Sakaguchi K, Hashimoto J, Komatsu S	Identification and cloning of cDNA encoding proteins showing with rice calreticulin	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	494	2001
569	Sharma Arun, Komatsu S	Involvement of MAPK and CDPK signaling cascades downstream to the perception of brassinosteroids: evidence through anti-sense inhibition of BRI1 receptor	Keystone Symposia 2002 (Abstract)	66	2002
570	Sharma Arun, Matsuoka M, Tanaka H, Komatsu S	Revelation of protein kinase signaling cascades downstream to the perception of brassinosteroids receptor BRI1 in rice	生化学	73(8):866	2001
571	Shen S, Komatsu S	Proteome analysis of proteins responsive to gibberellin in the leaf sheath of rice	17th International Conference on Plant Growth Substances (Abstract)	82	2001
572	Shen S, Yang G, 小松節子	イネ中の植物ホルモン応答性カルシウム依存性プロテインキナーゼのリン酸化能及び遺伝子群の単離	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	615	2001
573	Shen S, 高尾敏文, 小松節子	イネ幼苗期葉鞘において発現するタンパク質のプロテオミクス解析	第1回日本蛋白質科学会年会要旨集	444	2001
574	Shen S, 小松節子	イネ幼苗期においてジベレリン特異的に発現するタンパク質群及び相互作用するタンパク質の解析	生化学	73(8):962	2001
575	Shigenari A, Ando A, Shiina T, Rogel-Gaillard C, Chardon P, Yasue H, Inoko H	Analysis of genomic structure in the swine leukocyte antigen (SLA) class I region by large scale genome sequencing	XIII International Congress of Histocompatibility and Immunogenetics		2001
576	重成敦子, 安藤麻子, 椎名隆, Claire Rogel-Gaillard, Patrick C, 松坂恭成, 傳田晃弘, 田宮元, 安江博, 猪子英俊	SLAクラスI遺伝子領域のゲノム構造解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	1P-020:54	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
577	Shikamoto Y, Fujimoto Z, Morita T, Mizuno H	Crystal structure of Ca ²⁺ -and Mg ²⁺ -bound Gla domain of factor IX complexed with its binding domain	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology includ- ing hydrogen and hydra- tion' in Organized research Combination System	35	2001
578	Shikamoto Y, Morita T, Fujimoto Z, Mizuno H	Crystal structure of Ca ²⁺ -and Mg ²⁺ -bound Gla domain of factor IX complexed with its binding domain	Abstracts of XVIII con- gress of the internation- al society on thrombosis and haemostasis	OC56	2001
579	鹿本泰生, 藤本瑞, 水野洋, 森田隆司	血液凝固IX因子結合タンパク質とIX因 子Glaドメイン複合体の結晶構造解析	第74回 日本生化学会大会発 表抄録集	625	2001
580	嶋田新, 高橋透, 今井敬, 橋爪一善	継代培養ウシ子宮内膜上皮細胞の特性	生研機構バイオ胎盤シンポジ ウム	33	2001
581	嶋田新, 高橋透, 今井敬, 橋爪一善	ウシ子宮内膜上皮細胞の分離と特性	第94回日本繁殖生物学会	99	2001
582	Shimada T, Omuro N, Suzuki M, Obayashi F, Mita K	Lepidopteran genomes contain peculiar genes that are missing in Drosophila	Fifth International Workshop on Molecular Biology and Genomics in Lepidoptera	s3:15	2001
583	島田武彦, 遠藤朋子, 藤井浩, 上田高則, 久保達也, 矢崎潤史, 中村桂子, 藤井文子, 真保佳納子, 岸本直己, 菊池尚志, 大村三男	カンキツでのcDNAマイクロアレイを 利用した遺伝子発現プロファイリング その2 幼植物、花、幼果での発現プロ ファイリング	園芸学会第71回春季大会	別1:59	2001
584	島貫伸一, 鈴木秀昭, 内田陽子, 稲毛優子, 村瀬亜弓, 新開浩樹, 美川智, 三橋忠由, 浜島紀之, 栗田崇	新たなマイクロサテライト (MS) マー カーのRHパネルによるブタ第1染色体 へのマッピング	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	40	2001
585	Shimizu T, Kaku K, Nagayama K, Tanaka Y	Molecular mechanism of resis- tance to ALS inhibitors	Japan-Australia Seminar	25	2001
586	清水力, 角康一郎, 永山孝三, 田中喜之	P C除草剤抵抗性遺伝子	日本植物生理学会講演要旨	37	2001
587	清水時哉, 藤永真史, 小木曾秀紀, 小林正伸, 粕山新二, 佐藤豊三	Macrophomina phaseolina (Tassi) Goid.によるスイカ, メロンおよびキュ ウリの炭腐病 (新称)	日本植物病理学会報	67:170	2001
588	Shimomura S	ABP1 transgenic plants and their physiological properties	Proceedings of the 65th Annual Meeting of the Botanical Society of Japan	47	2001
589	霜野真幸, 矢崎潤史, 藤井文子, 大塚好美, 真保佳納子, 岸本直己, 菊池尚志, 岩野正敬, 田中良和, 望月淳子, 山本公子, 佐々木卓司, 西口正通	プロベナゾール処理イネにおける8987イ ネESTクローンを利用したcDNAマイ クロアレイ解析	日本植物病理学会報	67:129	2001
590	神藤平三郎, 泊輝久, 小野克輝, 田代桜子, 水野猛, 山田寿美, 八田知久, 加藤悦子, 山崎俊正	細胞分裂に関与する蛋白質YhhPの CPXP配列モチーフは構造と機能に重 要である	日本蛋白質科学会 プログラ ム・要旨集	77	2001
591	Shinkawa R, Kuchitsu K, Ishikawa M	Induction of freezing tolerance in rice cultured cells by abscisic acid and proteomic analysis	日本植物学会2001年度大会要 旨集	200	2001
592	Shiotsuki T, Kamimura M, Kikuchi K, Yasukochi Y, Shinoda T, Seino A, Hirai M	Mechanism for regulation of enzyme activity and gene analysis of silk- worm juvenile hormone esterase	日本農芸化学会2002年度大会 講演要旨	156	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
593	園田昌司, 加藤久晴, 霜野真幸, 西口正通	サツマイモ斑紋モザイクウイルスのヘルパー成分-プロテアーゼ遺伝子(Hc-Pro)が異種ウイルスの上位葉への移行に及ぼす影響	日本植物病理学会報	67:140	2001
594	宗田吉広, 山本竜司, 上西博英, 吉原一浩, 森康行	豚インターロイキン18レセプターα鎖のクローニングと発現解析	第133回日本獣医学会学術集会	97	2002
595	早間良輔, 井澤毅, 島本功	イネの光周性に関与する遺伝子の単離と解析	育種学研究第3巻別冊1号 日本育種学会第99回講演会要旨集	3(1):220	2001
596	早間良輔, 井澤毅, 矢野昌裕, 島本功	イネの開花時期を制御する遺伝子ネットワーク	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	3P-638:713	2001
597	須藤充, 川村陽一, 春原嘉弘, 矢野昌裕	イネ品種「Pakhe Dhan」と「ふ系175号」の組み換え自殖系統群を用いたRFLPマーカー連鎖地図の作成と第11染色体上に検出された耐冷性に関するQTL	育種学研究(日本育種学会第100回講演会要旨集)	3別2:47	2001
598	須藤淳一, 山中晴道, 関川賢二	泌乳・育子能力の低下が疑われるマウス系統の遺伝解析	第132回日本獣医学会	134	2001
599	須賀しのぶ, 小松節子, 前島正義	ダイコン細胞膜・液胞膜水チャンネルの植物ホルモン応答	日本植物生理学会2002年度年会講演要旨集	101	2002
600	杉本和彦, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦	レトロトランスポゾンTos17による遺伝子破壊を利用したイネWRKY及びMYBの機能解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	617	2001
601	杉村雅広, 平山力, 中村匡利	カイコによる桑葉ウレアーゼの選択的取り込みとその機能	日本動物学会第72回大会講演要旨		2001
602	Sumitani M, Yamamoto DS, Lee JM, Hatakeyama M, Oishi K	The white gene homologue from the sawfly, <i>Athalia rosae</i>	Genes & Genetic Systems	76 (6): 427	2001
603	炭谷めぐみ, 山本大介, Lee Jae-Min, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチ (<i>Athalia rosae</i>) の white ホモログ	日本遺伝学会第73回大会(プログラム・予稿集)	1B01:93	2000
604	炭谷めぐみ, 山本大介, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチの white ホモログ	第21回菅平前口動物学セミナー		2001
605	炭谷めぐみ, 李載みん, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチ可視突然変異 cec はキイロショウジョウバエ white のホモログであるか	第37回日本節足動物発生学会		2001
606	Suzuki N, Shikamoto Y, Morita T, Mizuno H	Crystal structure of blood coagulation factor IX-binding protein at pH 6.5 and comparison with that at pH8.0	Conference program and abstracts of the 3rd International Symposium on 'development of new structural biology including hydrogen and hydration' in Organized research Combination System	37	2001
607	鈴木良介, 小知和裕美, 伊藤ひとみ, 源崇雄, 鷲尾尊規, 菊池尚志, 肥後健一, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, Carninci P, 林崎良英, 富田勝	イネ完全長cDNAの選択的スプライシングサイトおよびイントロンの検出	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	367	2001
608	鈴木良介, 小知和裕美, 櫻井敦, 伊藤ひとみ, 源崇雄, 鷲尾尊規, 菊池尚志, 肥後健一, 大友泰裕, 村上和雄, 松原謙一, 河合純, Carninci P, 林崎良英, 富田勝	イネ完全長cDNAと他植物との比較によるイントロンおよび選択的スプライシングサイトの検出	第24回日本分子生物学会年会講演要旨		2001
609	鈴木龍一郎, 岩松新之輔, 久野敦, 川原俊一, 金子哲, 藤本瑞, 水野洋, 日下部功, 長谷川常巳	ランダム変異導入法により得られたヒスチジン触媒型キシラナーゼの機能解析	日本農芸化学会2002年度年会講演要旨集	268	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
610	田部茂, Day RB, 南栄一, 渋谷直人	エリシター処理によるイネのイネいもち病菌に対する抵抗性の誘導	日本植物生理学会2002年度年会講演	198	2002
611	多田欣史, 内海成, 高岩文雄	イネ種子貯蔵タンパク質欠失突然変異体を用いた外来遺伝子産物を高度に集積する方法	日本育種学会第99回講演要旨集	3 別 1 :259	2001
612	Tagami T, Kagami H, Harumi T, Matsubara Y, Sano A, Naito M	Restricted differentiation of chicken primordial germ cells in the different-sex chimeric gonads	Proceedings of the 14th International Congress of Developmental Biology	43(Suppl):122	2001
613	Taguchi SF, Yuan Z, Hake S, Jackson D	The fasciated ear2 gene encodes a leucine-rich repeat receptor-like protein that regulates shoot meristem proliferation in maize	NIAS-COE/BRAIN International Symposium 'Genomic Approaches to Functional Analysis of Plant Genes'		2001
614	田口文緒	トウモロコシfea2に類似するイネ穂形態の突然変異体	遺伝研研究会「イネを舞台にした発生、分化プログラムの解明」		2001
615	田口文緒, ユアン・デュアン, ヘイク・サラ, ジャクソン・デビッド	トウモロコシfae2遺伝子は茎頂分裂組織の増殖を制御するレセプター様タンパク質をコードする	育種学研究	3(2):153	2001
616	田地宏美, 葛西祐介, 桑原俊介, 渡辺政隆, 原田宣之, 島貫久美子, 宇田尚, 市川明生	2-メトキシ-2-(1-ナフチル)プロピオン酸を用いた脂肪族鎖状アルコール類の光学分割および絶対立体配置の決定	Abstract Book of "Molecular Chirality 2001"	105-108	2001
617	高林千幸, 井澤一郎, 宮崎栄子, 中村邦子, 中島健一, 寺本英俊	はくぎん繭を用いたスカーフ地の織物特性	日本蚕糸学会中部支部講演集	57 : 62	2001
618	高林千幸, 宮崎栄子, 中島健一, 寺本英俊	顔料着色繭の混合繰製生糸とその織物について	日本蚕糸学会中部支部講演集	57 : 61	2001
619	高林千幸, 宮崎栄子, 中島健一, 中村邦子, 寺本英俊, 味澤宏重	平面繭 " プレスド・シルク " の開発とその製品化	第49回日本シルク学会研究発表要旨集録	49:19-20	2001
620	高木慎一郎, 尾崎まみこ, 山岡亮平, 秋野順治, 坂田宏志	クロヤマアリ体表および足跡炭化水素中のオレフィンの組成比が情報として機能してる	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	44	2001
621	高橋幸吉, 村上理都子, 阿部恭久	桑樹に発生した材質腐朽菌類によるクワ株腐朽病 (新称)	日本蚕糸学会第71回学術講演会2001講演要旨集	74	2001
622	Takahashi S, Akagi S, Adachi N, Ohkoshi K, Matsuda J, Kubota C, Tokunaga T, Izaike Y	Current status of cloning in livestock in Japan	Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies, Program and Abstracts	18	2001
623	高橋咲子, 石丸健, 小曾根睦, 矢崎潤史, 藤井文子, 真保佳納子, 山本公子, 坂田克巳, 佐々木卓治, 岸本直己, 菊池尚志	マイクロアレイを用いたイネ葉鞘のシンク・ソーストランジションの解析	日本植物生理学会2002年度年会講演要旨集	43:190	2002
624	高橋昌志, 永井卓, 岡村直道, 高橋ひとみ, 阪谷美樹, 岡野彰	酸化ストレス条件下におけるβメルカプトエタノールのウシ胚発生および発育時期におけるシスチン取り込み促進作用	日本畜産学会第100回大会講演要旨	122	2002
625	高橋慎司, 清水明, 泉徳和, 内藤充	周期的温度変動が孵卵に及ぼす影響	日本家禽学会2001年度秋季大会号	1	2001
626	Takahashi T, Imai K, Takezawa T, Todoroki J, Fuchimoto D, Izaike Y, Hashizume K	Differential expression of vascular endothelial growth factor and basic fibroblast growth factor in bovine uterus and placenta	34th Annual Meeting, Biology of Reproduction (Proceedings)	165	2001
627	高橋透, 濱仲早苗, 今井敬, 橋爪一善	時間分解蛍光免疫測定法によるウシ血漿中エストロジオール-17β濃度の直接測定	第94回日本繁殖生物学会	87	2001
628	高橋裕治, 奥本裕, 谷坂隆俊, 佐々木卓治, 矢野昌裕	塩基配列解析によるイネ感光性遺伝子Hd6とE3の同座性の検証	育種学研究 (日本育種学会第99回講演要旨集)	3別1 : 221	2001
629	高橋裕治, 小島晶子, 布施拓市, 山内歌子, 佐々木卓治, 矢野昌裕	イネ感光性遺伝子Hd1およびHd3aの発現解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	710	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
630	高畑能久, 水町功子, 森松文毅, 柴田瑠美子, 栗崎純一	鶏肉アレルギーの解析と低アレルギー化 食肉加工品の検討	日本畜産学会第99回大会講演 要旨	84	2001
631	Takai R, Matsuda N, Nakano A, Hasegawa K, Akimoto C, Shibuya N, Minami E	Analysis of chitin elicitor-inducible ubiquitin-conjugating enzymes (E2) and an ubiquitin ligase (E3) from rice	日本分子生物学会2001年度年 会		2001
632	Takai R, Matsuda N, Nakano A, Hasegawa K, Akimoto C, Shibuya N, Minami E	Chitin elicitor-responsive RING fin- ger protein, EL5, is a ubiquitin lig- ase (E3)	日本植物生理学会2002年度年 会	197	2002
633	Takaiwa F, Tada Y, Utsumi S	Development of transgenic rice accumulating soybean glycinin	Latin-American Meeting of Plant Biotechnology	38	2001
634	高岩文雄	消費者にメリットのある次世代型遺伝子 組換え体の開発（実用化）をめざして	第19回日本植物細胞分子生物 学会大会・シンポジウム講演	13	2001
635	高岩文雄, 多田欣史, 小野寺康之, 鷲田治彦	転写因子を利用した種子高度発現シス テムの開発	日本育種学会第100回講演要 旨集	3 別2:101	2001
636	高篠賢二, 榊原充隆, 野田隆志	ワックスレス型キャベツ品種の耐虫性評 価	北日本病害虫研究会報		2002
637	高野博幸, 石田信昭, 内藤成弘, 小泉美香, 狩野広美	MRIによる冷凍菓子パン生地 of 解凍後 における構造変化と水の緩和時間の追跡	日本食品科学工学会第48回大 会講演集	138	2001
638	Takano M, Kanegae H, Shinomura T, Miyao A, Hirochika H, Furuya M	Phytochrome mutants of rice	Abstract of Keystone Symposia A4 Specificity and Crosstalk in Plant Signal Transduction	70	2002
639	Takano M, Shinomura T, Kanegae H, Yazaki J, Fujii F, Shinbo K, Yamamoto K, Sakata K, Sasaki T, Kishimoto N, Kikuchi S	Functional analysis of phytochrome a gene in rice	日本植物生理学会2002年度年 会 講演要旨	264	2002
640	高瀬智将, 小松節子, 柳川由紀, 橋本純治, 中川弘毅	イネ培養細胞同調系を用いたプロテアソ ーム基質の検索	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	673	2001
641	Takahashi T, Kizaki K, Yamada O, Imai K, Takezawa T, Hashizume K	Temporal and spatial profiles of leptin and its receptor expression in bovine placenta	Society for the Study of Reproduction 34th annu- al meeting	338	2001
642	高藤晃雄, Sugeng Santoso, 日本典秀, 後藤哲雄	休眠性とDNA sequenceからみた日 本?台湾のカンザウハダニおよびナミハ ダニの遺伝的分化	第10回ダニ学会大会プログラ ム	5	2001
643	高津康正, 西澤洋子, 岸本久太郎, 佐々木アエ二, 中島雅己, 林幹夫, 日比忠明, 阿久津克己	イネ・キチナーゼ遺伝子を導入した組換 えキク植物における灰色かび病菌と白さ び病菌の感染に対する抵抗性反応の差異	日本植物病理学会報	67:181-182	2001
644	Takatsuji H	Functional analysis of petunia TFIII A-typeFunctional analysis of petunia TFIIIA-type zinc-finger proteins in the regulation of morphogenesis and gametogenesis	NIAS/COE International Symposium New era of transcription factor research in plants	4	2001
645	武田久美子, 金山佳奈子, 小林修司, 山中真理子, 赤木悟史, 高橋清也, 今井裕, 田上貴寛, 大西彰, 花田博文	ウシ核移植産子に高割合で検出されたド ナー細胞由来ミトコンドリアDNA	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	101	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
646	武田久美子, 佐藤正寛, Kuwar BS, Neopane SP, Joshi HD, Shrestha NP, Devkota BN, 村上賢, 藤瀬浩, 山中真理子, 大西彰, 田上貴寛, 花田博文	ネパール高地の小型ウシのmtDNA型解 析	日本畜産学会第99回大会講演 要旨	45	2001
647	武田真, 阿部清美, 小島直子, 矢野昌裕, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦	ミュータントパネルを利用した塩ストレ ス耐性に関わる新規イネ遺伝子の単離同 定と解析	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	3P:57	2001
648	武田尚人, 佐々木修, 石井和雄, 古川力, 西田朗, 佐藤正寛, 竹谷勝	形質に関与する遺伝子座の効果の大き さが選抜反応に及ぼす影響	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	205	2002
649	武田尚人, 佐藤正寛, 竹谷勝, 峰澤満, 高橋秀彰	維持基準を変化させた場合の多様性の維 持の効果	日本畜産学会第99回大会講演 要旨	44	2001
650	Takeda S, Agrawal G, Hirano H, Miyao A, Hirochika H	Systematic analysis of causes of somaclonal variation in rice	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	3P:01	2001
651	Takeda S, Sugimoto K, Kakutani T, Hirochika H	Behaviour and regulation of the tobacco retrotransposon, Ttol, in the original and heterologous host plants	Rice genome workshop	26-27	2002
652	竹之内直樹, 平尾雄二, 伊賀浩輔, 志水学, 下司雅也, 永井卓	インヒビン免疫が牛の生体内卵子吸引に 及ぼす影響	第94回日本繁殖生物学会	71	2001
653	竹之内敬人, 橋本款, Hsu LJ, Mackowski B, Rockenstein E, Mallory M, Masliah E	α -synuclein過剰発現の神経突起伸長 に与える影響	第74回日本生化学会大会発表 抄録集	1074	2001
654	Takenouchi T, Takezawa T	Isolation of fetal bovine bone mar row-derived stromal cells and their adipogenic differentiation in a three-dimensional culture system	Engineering Tissue Growth 2002, International Conference & Exposition	Compact Disk	2002
655	竹内善信, 林少揚, 矢野昌裕	イネ種子休眠性関連QTLsの準同質遺伝 子系統作出と遺伝子作用の評価	育種学研究(日本育種学会第 99回講演会要旨集)	3別1:222	2001
656	Takezawa T, Imai K, Takahashi T, Hashizume K	A bovine endometrial organoid convenient for the co-culture of blastocyst	The Sixth International Conference on the Extracellular Matrix of the Female Reproductive Tract		2001
657	Takezawa T, Takenouchi T, Miyashita N, Imai K, Takahashi T, Hashizume K	Concept for an ideal culture sub stratum to reconstruct an organoid	Engineering Tissue Growth 2002, International Conference & Exposition	Compact Disk	2002
658	竹澤俊明	器官再生技術の創出構想	Menicon 50th Anniversary Bioengineering Seminar	14-15	2001
659	竹澤俊明	再生医学: 医薬学領域への応用を指向し た組織再生技術	医工学治療(日本医工学治療 学会第17回学術大会抄録集)	13:64	2001
660	竹澤俊明, 金野俊洋, 山内伸彦, 山田治, 今井敬, 高橋透, 橋爪一善	再構築した子宮内膜様構造体上でウシ受 精卵を発育する方法の確立	生研機構バイオ胎盤シンポジ ウムつくば - 胎盤機能と組織 工学 -	40	2001
661	竹澤俊明, 今井敬, 高橋透, 山内伸彦, 山田治, 橋爪一善	再構築した子宮内膜様構造体上でウシ受 精卵を培養する方法の確立	第4回日本組織工学会プログ ラム・抄録集	61	2001
662	竹澤俊明, 竹之内敬人, 宮下範和	組織再生技術の創出構想	平成13年度 日本生物工学会 大会プログラム	2S03:39	2001
663	武弓利雄, 佐波哲次	チャの施肥による生育・光合成活性の変 化における品種間差異	日本作物学会紀事	70別2:42-43	2001
664	玉田靖, オレグトレティニコフ	キャスト条件による絹フィブロインフィ ルムの接触角変化と細胞付着変化	高分子学会予稿集	50:957	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
665	Tamura T, Quan GuoXing, Kuwabara N, Kanda T	Improvement for the germ-line transformation method in the silkworm, <i>Bombyx mori</i>	The Fifth International Workshop on molecular biology and genetics of the lepidoptera		2001
666	田村泰盛, 安居拓恵, 服部誠	ブタクサを含むキク科植物のメタノール抽出物に対するブタクサハムシの摂食反応	日本応用動物昆虫学会講演要旨	45 : 157	2001
667	田村泰盛, 服部誠, 今野浩太郎, 河野義明	ブタクサハムシの摂食刺激物質	第46回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	16	2002
668	田邊純代, 芦効基行, 矢野昌裕, 吉村淳, 北野英巳, 松岡信, 岩崎行玄	イネ種子の長径を支配する遺伝子群の解析	育種学研究 (日本育種学会第100回講演会要旨集)	3別2 : 4	2001
669	Tanaka H, Furukawa S, Yamakawa M	Selective transcriptional activation of antibacterial peptide genes by Bm Rel-A or Bm Rel-B	Keystone Symposia: Innate Immunity, Evolution and Link to Adaptive Immunity (Abstract)	53	2002
670	田中博光, 古川誠一, 中澤裕, 石橋純, 山川稔	カイコ抗菌性タンパク質遺伝子の転写活性化におけるRmRELタンパク質の関与	日本農芸化学会2002年度大会講演要旨集	153	2002
671	Tanaka K, Miyao A, Murata K, Onosato K, Kojima N, Yamashita Y, Harada M, Sasaki T, Hirochika H	Analysis of rice brittle mutants caused by disruption of cellulose synthase genes OsCesA4 and OsCesA11 with the retrotransposon Tos17	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	324	2002
672	田中克幸, 宮尾安藝雄, 村田和優, 小島直子, 小野里桂, 山下優美子, 原田万有子, 佐々木卓治, 廣近洋彦	イネレトロトランスポゾンTos17によってセルロース合成酵素(CesA)遺伝子が破壊されたカマイラズ変異体の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	616	2001
673	Tanaka M, Matsumoto T, Yanai S, Domukai M, Shimanuki S, Kiuchi S, Yasue H, Uenishi H, Kobayashi E, Awata T	Conservation of the syntenies between porcine chromosome 7 and human chromosomes 6p, 14 and 15 revealed by radiation hybrid mapping	Plant, Animal and Microbe Genomes X	230	2002
674	Tanaka M, Matsumoto T, Yanai S, Domukai M, Shimanuki S, Kiuchi S, Yasue H, Uenishi H, Kobayashi E, Awata T	Conservation of the syntenies between porcine chromosome 7 and human chromosomes 6p, 14, and 15 revealed by radiation hybrid mapping	Plant, Animal & Microbe Genomes X	608	2002
675	田中良和, 霜野真幸, 園田昌司, 西口正通	ジーンサイレンシングの接木による移行 : サツマイモ斑紋モザイクウイルスのCP遺伝子導入 <i>Nicotiana benthamiana</i> のサイレンシング系統間の移行	日本植物病理学会報	67:144	2001
676	田中誠二	ゴキブリの季節適応 : 早春の温度反応	日本昆虫学会講演要旨集	83	2001
677	田中喜之, 中村敦子	イネクロライドチャンネルOsCLC-1およびOsCLC-2の細胞内局在性	研究集会「植物の生存戦略における液胞機能の総合的理解」		2001
678	田中喜之, 福田篤徳, 中村敦子	イネのNaClストレスに対する応答について	日本植物生理学会		2002
679	丹野研一, R. von ボスマー, 武田和義, 小松田隆夫	塩基配列分析から示唆される <i>Hordeum murinum</i> の異質倍数性	育種学研究	3 (suppl.2): 278	2001
680	立石剣, 志村幸子, 行弘文子	カイコ皮膚基底部に存在する卵形構造	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	62	2001
681	田崎力, 古屋秀峰, 山崎俊正, 安部明廣	ブロック共重合体によるポリグルタミン酸エステルへのヘリックス-コイル転移挙動の検討	高分子学会予稿集	50-5 : 951	2001
682	寺本英敏, 中島健一, 高林千幸	セリシンの極性有機溶媒への溶解性	日本蚕糸学会中部支部講演集	57:53	2001
683	轟木純一, 高橋透, 橋爪一善, 溝下和則, 山口浩, 窪田力	徐放性GnRH agonistが牛の卵胞発育に及ぼす影響について	日本畜産学会第99回大会	61	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
684	Tokuda G, Saito H, Watanabe H	Characterization of b-glucosidase from the salivary glands of the termite, <i>Neotermes kosshunensis</i>	Announcement for the conference on Cellulases and Cellulosomes http://www.grc.uri.edu/programs/2001/cellul.htm	A24B20	2001
685	徳永智之	ES細胞の組織工学技術への応用	生研機構バイオ胎盤シンポジウムつくば - 胎盤機能と組織工学 - 講演要旨	19-20	2001
686	富岡啓介, 佐藤豊三	ペニベンケイ斑点病菌, <i>Stemphylium lycopersici</i> (Enjoji) Yamamotoの10種カラシコエ属植物に対する病原性	日本菌学会第45回大会講演要旨集	35	2001
687	富岡啓介, 佐藤豊三	<i>Pythium myriotylum</i> Drechslerによるベルゲランツス腐敗病 (新称)	日本植物病理学会報	67:162	2001
688	富岡啓介, 佐藤豊三, 中西建夫	ヤーコンとヒマワリの灰色かび病	四国植物防疫研究 (四国植物防疫研究協議会第46回大会講演要旨)	36:78-79	2001
689	Tomiya M, Ikebukuro K, Derek R, Frank S, David B, Karube I, Yano K	Open reading frames adjacently located to the hypF in <i>Escherichia coli</i> genome. Structural motif from deduced amino acid sequences and partial functional analysis	COST 8.41 Workshop "Biodiversity of Hydrogenases" Abstracts	18	2001
690	Tomiya M, Makimoto H, Yamamoto S, Tsutsumi M, Watanabe M, Tsugawa W, Sode K	Metabolic engineering aspects for fermentative hydrogen production in <i>Escherichia coli</i> ; A mixed acid producing bacterium	Abstracts "Biohydrogen" -Joint workshop of COST 8.41 and IEA annex 15	25	2001
691	友岡憲彦, ダンカンヴォーン, 加賀秋人, 柏葉晃一, ジャヤスリヤ	スリランカにおけるアズキ亜属野生種の種多様性と地理的分布	日本熱帯農業学会・熱帯農業	46(1):65-66	2002
692	友岡憲彦, 柏葉晃一, 加賀秋人, ダンカンヴォーン	ササゲ属およびインゲンマメ属におけるマメゾウムシ類抵抗性系統の分布	日本熱帯農業学会・熱帯農業	46(1):63-64	2002
693	Tostuka Y, Nagao Y, Yonekawa H, Izaike Y, Tokunaga T, Imai H	Reproductive and physical performances of wild-derived inbred mouse, <i>Mus spretus</i>	14th International Congress of Developmental Biology, Program and Abstracts	39	2001
694	津呂正人, 竹本哲行, 伊藤寿美子, 西澤洋子, 小坂能尚, 稲葉幸司, 古谷規行	イネキチナーゼ遺伝子を導入した賀茂ナスのうどんこ病抵抗性	育種学研究	107	2001
695	都築政起, 西堀正英, 石川明, 高橋秀彰, 杉本嘉憲, 谷本一志	日本初のニワトリ基準家系, Hiroshima家系の完成	日本畜産学会第99回大会講演要旨	43	2001
696	土屋こず江, 辻井弘忠, 山本静二, 齋藤治, 濱野光市, 橋爪一善	イージーブリードによる哺乳中黒毛和種の発情誘起	日本畜産学会第99回大会講演要旨	62	2001
697	内山幸伸, 木村成介, 石橋豊隆, 古川智之, 橋本純治, 坂口謙吾	高等植物イネDNA polymerase δ 遺伝子のクローニングおよび発現の組織分布について	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	763	2001
698	上田忠正, 佐藤雅志, 沼寿隆, 矢野昌裕	イネの紫外線感受性に関与する量的形質遺伝子座のRFLPマーカーによる詳細マッピング	育種学研究別冊	3別1:82	2002
699	Uenishi H, Hiraiwa H, Takagaki Y, Shiina T, Kikkawa E, Inoko H, Awata T, Yasue H	Genomic structure of the swine TCRA/TCRD locus	Sixth International Veterinary Immunology Symposium	204	2001
700	Ueno O, Kobayashi Y	Cellular regulation of glycine decarboxylase in the amphibious C3/C4 sedge, <i>Eleocharis vivipara</i> .	Plant Cell Physiol.	43:173	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
701	上野修, 近藤歩, 房相佑, 和田義春, 金子幸雄, 松澤康男, 石原邦	<i>Diplotaxis tenuifolia</i> (C3-C4中間型) ダイコン (C3型) 及びそれらの属間交 雑植物の葉構造と光合成・光呼吸特性	日本作物学会紀事	70: 46-47	2001
702	上野修, 房相佑, 和田義春, 金子幸雄, 松澤康男, 近藤歩	<i>Diplotaxis tenuifolia</i> (C3-C4中間型) とダイコン (C3型) から作出した様々 なゲノム構成をもつ交雑植物の光合成特 性と光呼吸酵素の細胞間蓄積様式	日本作物学会紀事	70: 143-144	2001
703	Umehara Y, Wieloch W, Schauser L, Dittmar J, Stougaard J	Expression analysis of nin and other nin like genes in lotus japoni- cus	Molecular Genetics of Model Legumes	110	2001
704	牛山章伸, 徳原弘史, 古屋秀峰, 山崎俊正, 安部明廣	ポリアスパルテートの主鎖ヘリックス反 転挙動における側鎖末端の効果	高分子学会予稿集	50-5 : 951	2001
705	Vaughan D, Kaga A, Chatieng B, Wang XW, Han OK, Laosuwan P, Kahiwaba K, Tomooka N	Powdery mildew resistance in <i>Vigna radiata</i>	Breeding Science	4(1):61	2002
706	Vaughan DA, Sherban A, Tomooka N, Kaga A, Wang XW, Doi K, Kashiwaba K	Diversity in the interase coding domain (ICD) of a gypsy-like retro- transposon among wild relatives of rice in the <i>Oryza officinalis</i> complex	Breeding Research	3 別1 : 26	2001
707	Wada S, Imanishi S, Miyamoto K	Research of Insect cell lines avail- able to the cytotoxicity assays of toxin produced by <i>Beauveria brong- niartii</i> and B.t. δ -endotoxin (cry1Aa)	日本応用動物昆虫学会第46回 学術講演会講演要旨集	40	2002
708	Wada S, Mikuni T, Tamura H, Miyamoto K	Comparison of the susceptibility to <i>Beauveria</i> spp. among silkworm, <i>Bombyx mori</i> strains	日本蚕糸学会関東支部第52回 学術講演会講演要旨集	14	2001
709	若村定男, 新垣則雄, 山本雅信, 平舘俊太郎, 安居拓恵, 安田哲也, 安藤哲	沖縄本島産コシロモンドクガ性フェロモ ンの同定: トランスエボキシド	第45回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨	147	2001
710	若村定男, 新垣則雄, 山澤広之, 中島直人, 安藤哲	スキバドクガの性フェロモン成分 - モ ノエボキシドとジエボキシド化合物	第45回日本応用動物昆虫学会 大会講演要旨	145	2001
711	Wakayama M, Ueno O, Ohnishi J	Cellular accumulation of photosyn- thetic enzymes during leaf develop- ment of <i>Arundinella hirta</i> , a C4 grass with unusual Kranz cells without contact with vascular tissues.	Plant Cell Physiol.	43:173	2002
712	Wang C, Kawasaki S	HEGS saturation mapping of the rice blast resistance gene Pi-ta2 in the centromere region of the chr.12	Abstracts of Plant, Animal & Microbe Genomes X Conference	332	2002
713	Wang C, Motomura T, Kawasaki S	Saturation mapping with HEGS around the rice blast resistance gene Pi-ta2 in the chr.2 centromeric region	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	3P022	2001
714	Wang XW, Kaga A, Tomooka N, Vaughan DA	The development of (CA)n repeat- enriched library in azuki bean	Breeding Research	3 別1 : 101	2001
715	Watanabe H	Metazoan cellulase genes from termites	Announcement for the conference on Cellulases and Cellulosomes	http://www.grc.uri.edu/ programs/ 2001/cellul.h tm	2001
716	渡部賢司, 佐藤守	晩秋期におけるクワ葉面の数種氷核活性 細菌の分布	平成13年度植物病理学会講要	170	2001
717	渡辺匡彦	オオタコゾウムシの越冬戦略	第45回日本応用動物昆虫学会 講演要旨集	119	2001
718	渡辺匡彦, 平井剛夫	ブタクサハムシ成虫が越冬前後に交尾す る意義	日本昆虫学会講演要旨集	88	2001
719	渡辺誠, 市川隆幸, 久野敦, 瀧真澄, 芳坂貴弘, 穴戸昌彦, 金子哲, 藤本瑞, 水野洋, 多比良和誠, 長谷川常巳	蛍光性非天然アミノ酸導入キシラナーゼ の機能解析	日本農芸化学会2002年度年会 講演要旨集	267	2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
720	渡辺誠, 市川隆幸, 久野敦, 瀧真澄, 芳坂貴弘, 穴戸昌彦, 金子哲, 藤本瑞, 水野洋, 多比良和誠, 長谷川常巳	放線菌由来キシラナーゼへの非天然アミノ酸導入法の確立	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	727	2001
721	Watanabe S, Honma D, Yasue H	Transient transgene expression in NIH3T3 cells was affected by flanking sea urchin ARS-INSULATOR, which generated conformational change in circular DNA.	Plant, Animal and Microbe Genome X	53	2002
722	渡辺早苗, 久次米タ佳里, 広瀬めぐみ, 鶴飼英世, 鈴木恵理香, 村田武英, 長村吉晃, 鶴川義弘, 横山和尚	組換えウイルスベクターの作製とそのデータベースの構築	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	854	2001
723	Watanabe S, Honma D, Yasue H	Transient transgene expression in NIH3T3 cells was affected by flanking sea urchin ars-insulator, which generated conformational change in circular DNA	Plant, Animal & Microbe Genomes X	700	2002
725	渡部聡, 本間大輔, 安江博	一過的な遺伝子発現におけるウニ・アリアルスルファターゼ遺伝子インスレーターの効果の解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	3 P 259:155	2001
726	渡辺恒暁, 阿部清美, 若狭暁, 杉本和彦, 廣近玲, 小島直子, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦	レトロトランスポゾンTos17による遺伝子破壊を利用したイネMAPキナーゼOSMPK2の機能解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	3P:059	2001
727	Xavier D, Sugano S, Tobin EM	Role of phosphorylation of CCA1 by the protein kinase CK2 in the circadian clock of Arabidopsis thaliana	12th International Conference on Arabidopsis Research	267	2001
728	Xiaoping Y, Zhenwei L, Kawasaki S, Kuroda S, Ichii M, Ashikawa I	Construction of a contig with transformation competent subclones in the gene region of SRT3, responsible for the root growth in rice	Abstracts of Plant, Animal & Microbe Genomes X Conference	332	2002
729	山田治, 山内伸彦, 今井敬, 高橋透, 橋爪一善	ヌードマウスに移植したウシ子宮内膜由来細胞によるスフェロイドの機能解析	生研機構バイオ胎盤シンポジウム	37	2001
730	山田哲也, 長谷川久和, 大川安信, 若狭暁	改変OASA1遺伝子による5 - メチルトリプトファン耐性を利用したバレイショ形質転換体の選抜	育種学研究	3別1:249	2001
731	山口博康, 森下敏和, 出花幸之介, 田中淳, 長谷純宏, 鹿園直哉	キクの葉片に対するCイオン照射が再分化個体の核DNA量に及ぼす影響	第10回TIARA研究発表会要旨集	125-126	2001
732	山口純一郎, 御厨初子, 松崎正文, 加来久敏	ナスすすかび病菌の感染・病斑形成過程の組織学的観察	日本植物病理学会報	67:185	2001
733	Yamaguchi T, Minami E, Shibuya N	Phosphatidic acid plays a key role in the defense reaction induced by N-Acetylchitooligosaccharide elicitor in suspension-cultured rice cells	日本植物生理学会2001年度年会講演	198	2002
734	Yamakawa H, Mitsuhashi I, Ito N, Seo S, Kamada H, Ohashi Y	Expression profile of 13 tobacco calmodulin genes in response to tobacco mosaic virus-induced cell death and wounding	6th International Workshop on Pathogenesis-Related Proteins in Plants	74	2001
735	山川博幹, 光原一朗, 伊藤直子, 鎌田博, 大橋祐子	タバコカルモジュリン遺伝子群の病傷害ストレス応答	日本植物生理学会2001年度年会	102	2001
736	山川博幹, 平賀勸, 光原一朗, 佐藤征弥, 鎌田博, 大橋祐子	スベルミンによるタバコ病害抵抗性の獲得.	ポリアミン研究会 第16回研究発表会	21	2001
737	Yamakawa M, Tanaka H	Molecular cloning of novel REL proteins from the silkworm, Bombyx mori and their differential effects on the activation of antibacterial peptide genes	The 14th Naito Conference on Bioactive Natural products and Their Mode of Action [], Programs and Abstracts	E-2	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
738	Yamamoto D S, Sumitani M, Lee J M, Hatakeyama M, Oishi K	Function of the decapentaplegic gene homologue of the sawfly <i>Athalia rosae</i> (Hymenoptera) during embryogenesis	Zoological Science	18(suppl): 61	2001
739	山本大地, 木村成介, 岡真慶, 石橋豊隆, 柳川由紀, 奈良貴幸, 中川弘毅, 橋本純治, 坂口謙吾	高等植物イネPCNAのProteasome依存的タンパク質分解について	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	762	2001
740	山本大介, 炭谷めぐみ, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチの胚発生における dpp 遺伝子	第21回菅平前口動物学セミナー		2001
741	山本大介, 李載暉, 畠山正統, 大石陸生	カブラハバチにおける decapentaplegic cDNA の構造解析	Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan	36: 27-28	2001
743	山本大介, 李載暉, 畠山正統, 大石陸生	decapentaplegic 遺伝子の局所的発現によって起こるカブラハバチ初期胚の異常	第37回日本節足動物発生学会		2001
744	山本眞実, 行弘文子, 小金沢雅之, 嶋田一郎, 長岡純治	ニクバエレクトン様遺伝子発現細胞の組織学的解析	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	45:168	2001
745	山本俊雄, 宮島たか子, 吉原常男	平面吐糸法によるセリシン蚕及び2眠蚕の絹糸の生産	日本シルク学会発表要旨集	49:132	2001
746	Yamamoto Y, Inagaki N, Satoh K	Some aspects of carboxyl-terminal processing of precursor D1 protein in photosystem II	Abstracts of the 12th International Congress on Photosynthesis	S5-023:61	2001
747	山下佳孝, 後藤康夫, 大越豊, 奈倉正宣, 山本俊雄	セリシン蚕から得られたセリシンの構造と物性	日本シルク学会発表要旨集	49:134-135	2001
748	Yamauchi N, Yamada O, Takahashi T, Takezawa T, Hashizume K	Formation of multicellular spheroid as a model of bovine endometrium	Society for the Study of Reproduction 34th annual meeting	324	2001
749	山内伸彦, 山田治, 高橋透, 竹澤俊明, 橋爪一善	ウシ子宮内膜由来細胞を用いて作製したヘテロスフェロイドにおける細胞外マトリックスの特性	日本畜産学会第99回大会	55	2001
750	山内伸彦, 山田治, 中野春男, 高橋透, 橋爪一善	ウシの子宮、胎盤および受精胚由来細胞を用いたヘテロスフェロイドの構築	生研機構バイオ胎盤シンポジウム	35	2001
751	山内歌子, 矢野昌裕, 林鴻宣, 芦荻基行, 山田恭司	イネ病斑形成抑制遺伝子Spi7は熱ストレス転写因子をコードする	育種学研究(日本育種学会第99回講演会要旨集)	3別1: 48	2001
752	Yamazaki M, Agrawal GK, Hirochika H	Characterisation of a novel rice stripe dwarf mutant showing altered response to brassinosteroid	Abstracts of 17th International Conference on Plant Growth Substances	159	2001
753	山崎昌良, 栗岡聡, 安田利勝, 山本俊雄	着色セリシンの機能性(2) 抗菌化作用	日本シルク学会発表要旨集	49:128-129	2001
754	Yamazaki T, Katoh E, Hatta T, Tomari T, Tashiro S, Mizuno T	A new type N-Terminal helix capping box	2nd International/17th American Peptide Symposium	19	2001
755	Yanagawa Y, Kimura S, Takase T, Sakaguchi K, Umeda M, Komamine A, Tanaka K, Hashimoto J, Sato T, Nakagawa H	Spatial distribution of the 26S proteasome in meristematic tissues and primordia of rice(<i>Oryza sativa</i> L.)	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	673	2001
756	柳井智, 松本敏美, 田中麻衣子, 堂向美千子, 島貫伸一, 秋田富士, 小林栄治, 栗田崇	ブタ7番染色体におけるマイクロサテライトマーカーの開発と詳細な連鎖地図の作製	日本畜産学会第101回大会講演要旨	40	2001
757	Yang G, 小松節子	イネ幼苗期においてブラシノライドにより発現が制御される遺伝子の単離とその機能解析	生化学	73(8):866	2001
758	Yang G, 小松節子	イネ幼苗期においてブラシノライドにより発現が促進されるOsBLEII遺伝子の単離とその機能解析	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	494	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
759	Yang Guangxiao, Tanaka H, Komatsu S	Changes of gene expression in rice seedlings caused by brassinolide	17th International Conference on Plant Growth Substance	82	2001
760	Yang S, Komatsu S	Effect of brassinolide and gibberellin on calcium-dependent protein kinase in rice seedling roots	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	615	2001
761	Yang S, Rakwal R, 八木研, 石本政男, 小松節子	植物の害虫抵抗性に関するタンパク質の検索と解析	生化学	73(8):963	2001
762	Yano M	Genetic and molecular dissection of complex traits in rice	Abstract for the NIAS-COE/BRAIN Joint International Symposium Genomic Approaches to Functional Analysis of Plant Genes	39-41	2001
763	矢野昌裕	作物の遺伝子資源 ー変異の発掘と創出ー	育種学研究 (日本育種学会第99回講演会要旨集)	3別1: 4-5	2001
764	屋良佳織利, 白井洋一, 村路雅彦	ミトコンドリアと核DNAの塩基配列によるチュウゴクオナガコバチとクリマモリオナガコバチとの間の類縁度調査	日本昆虫学会第61回大会講演要旨	61:68	2001
765	安田勝年, 山本俊雄	玉蘭の効率的生産法について	日蚕中部支部講要	57:47	2001
766	安田哲也	ハリクチプトカメムシの餌昆虫への定位におけるオス成虫存在の影響	第46回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨		2002
767	安田利勝, 山本俊雄, 山崎昌良	着色セリシンの機能特性	日本シルク学会発表要旨集	49:126	2001
768	安居拓恵	キオビエダシャクによるイヌマキ葉由来殺カメムシ活性物質の取込み蓄積	第45回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	155	2001
769	安居拓恵, 秋野順治, 安田哲也, 深谷緑, 小野裕嗣, 若村定男	ゴマダラカミキリの接触性フェロモンの新規ケトン成分の同定と活性評価	第46回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨		2002
770	安河内祐二, 馬場浩太郎, 味村正博, 笹沼俊一, 野畑順子, 三田和英	カイコ第2・6染色体の物理地図作成とゲノム塩基配列決定	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	24: 483	2001
771	矢頭治, 福本文良, 中島敏彦, 大島正弘, 山元剛, 樋口博也, 森浩一, 岩井孝尚, 西澤洋子, 大橋祐子	エンバク・チオニン遺伝子またはイネ・キチナーゼ遺伝子を導入した組換えイネ系統の隔離圃場における栽培特性調査及び耐病性検定	育種学研究	4別1:184	2002
772	Yazaki J, Kishimoto N, Ishikawa M, Kojima K, Shimbo K, Fujii F, Ohta T, Shimatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Sakata K, Yamamoto K, Sasaki T, Kikuchi S	Rice functional genomics via cDNA microarray: construction of the rice expression database and the comprehensive gene expression profiles	The microarray gene expression database group meeting (MGEDIV)	18	2002
773	Yazaki J, Kishimoto N, Ishikawa M, Kojima K, Shimbo K, Fujii F, Ohta T, Shimatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Sakata K, Yamamoto K, Sasaki T, Kikuchi S	Rice functional genomics via cDNA microarray: The expression profiles of various plant hormone responsible genes	Keystone Symposia 2002 Specificity and crosstalk in plant signal transduction	73	2002
774	矢崎潤史, 岸本直己, 藤井文子, 真保佳納子, 石川雅弘, 島谷善平, 橋本晶子, 長田夕子, 太田智弥, 山本公子, 坂田克己, 佐々木卓治, 菊池尚志	cDNAマイクロアレイを利用したイネの網羅的発現解析と発現データベースの構築	第24回日本分子生物学会年会講演要旨	614	2001
775	矢澤盈男, 野田博行, 小出智子, 吉田重信, 日本理都子, 広瀬淑子	病原菌の感染に対する桑の活性酸素生成への影響	日本蚕糸学会第71回学術講演会2001講演要旨集	76	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
776	Yi Xiaoping, Liang Zhengwei, Kawasaki S, Kuroda S, Ichii M, Ashikawa I	Fine physical mapping of a gene, srt3, responsible for the root growth in rice	第24回日本分子生物学会年会 講演要旨	3P022	2001
777	米澤勝衛, 石井卓朗	確立効率指数による選抜方法の最適化: 他殖性植物における主要選抜方式の効率 比較	育種学研究	4:99	2002
778	吉田重信, 月星隆雄, 村上理都子, 篠原弘亮, 對馬誠也	茨城県で発生したColletotrichum acutatumによるブルーベリー炭疽病 (新称)	日本植物病理学会平成13年度 関東部会講演要旨予稿集	4	2001
779	吉田重信, 村上理都子, 渡邊恒雄, 小山朗夫	Rhizopus oryzae による接木クワ苗の 腐敗症(新称)	日本植物病理学会大会講演要 旨	90	2001
780	吉井穀, 久慈直昭, 酒井のぞみ, 岩田莊吉, 浅田弘法, 小澤伸晃, 丸山哲夫, 末岡浩, 吉村泰典, 小松節子	ヒト精子核蛋白プロタミンの2次元電気 泳動分析	第46回日本不妊学会学術講演 会プログラム	147	2001
781	吉井穀, 久慈直昭, 小松節子, 山野環, 酒井のぞみ, 高橋純, 岩田莊吉, 浅田弘法, 小澤伸晃, 丸山哲夫, 末岡浩, 吉村泰典	ヒト精子核蛋白の二次元電気泳動分析	日本アンドロロジー学会第20 回学術大会要旨集	172	2001
782	Yoshikawa M, Komatsu S	Modulation in the gene expression caused by gibberellin in rice seedling	Plant, Animal & Microbe Genome X (Abstract)	256	2001
783	吉澤緑, 佐々木志野, 菊地和弘, Tamas Somfai, 淵本大一郎, 野口純子, 金子浩之, 永井卓	体外受精由来ブタ胚盤胞の染色体標本作 製	日本畜産学会第100回大会講 演要旨	124	2002
784	湯川聖士, 田中宥司, 番保徳, 宮内啓介, 福田雅夫, 加来久敏	マメ科植物に感染するAgrobacterium tumefaciensの特性解析	育種学研究	3(1):264	2001
785	行弘研司, 瀬筒秀樹, 伊藤正信, 伴野豊	クワコ(Bombyx mandarina)とカイコ (Bombyx mori)の間のミトコンドリア ゲノムの構造変異	日本遺伝学会第73回大会プロ グラム・予稿集	110	2001
786	Yukuhiro K, Sezutsu H, Itoh M, Banno Y	Structural variation in mitochon- dria genome between the wild mil- berry silkmoth, Bombyx mandarina, its close relative, the domesticat- ed silkmoth, Bombyx mori	The 3rd Annual Meeting of Society of Evolutinary Studies, Japan Program and Abstracts		2001
787	行弘研司, 瀬筒秀樹, 伊藤雅信, 伴野豊	クワコ(Bombyx mandarina)とカイコ (Bombyx mori)の間のミトコンドリア ゲノムの構造変異	The 73th Annual Meeting of the Genetics Society of Japan Program and Abstracts		2001

(6) 解説・紹介・技術資料

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
1	Becker MA, Magoshi Y, Sakai T	Chemical and physical properties of old silk fabrics	Annual Report of the Society of Japanese Women Scientists, Special Issue for the ICWES1	1(1):27-29	2001
2	土肥宏志, 浜岡隆文, 居在家義昭	独立行政法人化された畜産関係 3 研究所 の機構と業務	畜産技術	553:26-31	2001
3	羽賀篤信	昆虫の機能利用と資源化に関する基礎研 究	昆虫の機能利用と資源化に関 する基礎研究	364 : 74-79	2001
4	橋爪一善	妊娠認識, 畜産の各分野における成果と 展望(II)	畜産先進技術最新研究情報	特別号:44-48	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
5	日本典秀, 高藤晃雄	Tetranychus属ハダニの分子分類の現状 - 我が国におけるカンザワハダニ種群の分子系統学的解析を例に -	植物防疫	55: 528-531	2001
6	細江実佐, 徳永智之	免疫不全マウスの腎被膜下に移植したウシ胎子卵巣からの卵胞の発育	畜産研究成果情報	15 :25-26	2001
7	堀田光生	ナス科青枯病菌の系統解析および遺伝子診断への利用	植物防疫	55:499-502	2001
8	池宮秀和, 金城鉄男, 出花幸之介, 高原利雄, 比嘉ひろの, 大城和久, 仲宗根福則, 比嘉正和, 井上祐嗣, 栗国佳史	甘くて酸味の少ない秋向けの生食用パイナップル新品種候補「パイナップル沖縄6号」	果樹研究成果情報平成12年度	11-12	2001
9	池宮秀和, 金城鉄男, 出花幸之介, 高原利雄, 比嘉ひろの, 大城和久, 仲宗根福則, 比嘉正和, 井上祐嗣, 栗国佳史	甘くて酸味のある夏向けの生食用パイナップル新品種候補「パイナップル沖縄7号」	果樹研究成果情報平成12年度	13-14	2001
10	井濃内順	昆虫の脳におけるにおい情報処理機構	Aroma research	2:130-136	2001
11	石丸健	イネとトウモロコシのQTLシンテニー	ブレインテクノニュース	88:36-38	2001
12	居在家義昭	牛卵子、胚のガラス化保存法の最前線	家畜人工授精	1	2001
13	居在家義昭	家畜におけるクローン技術の現状と展望	時の動き	1034:26-30	2001
14	梶原英之	同位体ラベルしたタンパク質の質量分析による網羅的定量法	日本植物病理学会報	4月号	2001
15	賀来華江, 渋谷直人	エリシター受容体	化学と生物	39:756-763	2001
16	柏葉晃一	コアコレクションとその利用 - ツルアズキによる虫害抵抗性アズキの開発	つくばの研究開発情報誌	59 : 27 - 29	2001
17	Kitamoto H	Development of Killer Yeast to Prevent the Aerobic Spoilage of Silage	Farming Japan	36-1:41-43	2002
18	北本宏子	キラー酵母はこのごろ元気か?	日本生物工学会誌	10:409	2001
19	北本宏子	酵母によるサイレージの変敗を「キラー」酵母で防止する	ブレインテクノニュース	87:11-15	2001
20	北本宏子	キラー酵母でサイレージの変敗を抑制する: 変敗抑制技術の実用化に向けて	Dairyman	2001(9):90-91	2001
21	北本宏子	サイレージの変敗を防ぐキラー酵母の開発	畜産技術	2001(6):15-18	2001
22	北村実彬, 高林千幸	「シルク・ミュージアム・サミット2001 in 岡谷」報告	岡谷蚕糸博物館紀要	6:79-81	2001
23	今野浩太郎	エリサンを用いて昆虫と植物の攻防関係を探る	野蚕 (日本野蚕学会報)	44:3-5	2001
24	Minezawa M	Animal genetic resources in danger of extinction	Social Movement	255:14-23	2001
25	水町功子, 栗崎純一	経口免疫寛容誘導のしくみと利用	農林水産技術研究ジャーナル	24:24-30	2001
26	村路雅彦, 中原重仁	ミバエ類の分子分類	植物防疫	55:524-527	2001
27	茗原眞路子	再生研究の現状と医療への応用について (上)	月刊「丸の内」	358:10-11	2001
28	茗原眞路子	再生研究の現状と医療への応用について (下)	月刊「丸の内」	359:10-11	2001
29	長峰司, 白田和人, 国廣史	イネの種子バンクの利用法	モデル植物の実験プロトコール (植物工学別冊)	15:234-239	2001
30	難波一徳, 藤井佳史, 藤本瑞, 御小柴義郎, 水野洋	PFピームライン6Bおよび6CにおけるCocksfoot mottle virusのX線データ収集	構造生物	15:234-239	2001
31	西村麻里江	パデュー大学での1年8ヶ月	ブレインテクノニュース	85:34-36	2001
32	西村実	エルジーシー1とは	きょうの健康	11月号: 107	2001
33	西村実	水稻新品種「エルジーシー1」の育成	米麦改良	1月号: 38-46	2002
34	野口純子	家畜・家禽の遺伝資源保存手法	アニテックス	13:248-252	2001
35	大橋祐子	概論	植物ゲノム機能のダイナミズム	189-190	2001
36	大橋祐子	病害応答	植物ゲノム機能のダイナミズム	191-204	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
37	大西彰	臓器移植にクローン豚.	選択	110-111	2001
38	大西彰	体細胞クローン豚の開発とその後の展望	畜産の研究	24-28	2001
39	大西彰	体細胞クローン豚の作出と今後の展望	豚の繁殖衛生セミナー通信	24-28	2001
40	Sasaki T	農業生物資源研究所ニュース	研究トピックス：イネゲノム 第1染色体塩基配列の解読と その意義	創刊号：5	2001
41	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用(40) - 最良線形不偏予測(BLUP)の話 - 5 . さいごの最良線形不偏予測 (1) BLUP方程式の変換1)正準変換	畜産の研究	55(10):1119-1124	2001
42	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用(41) - 最良線形不偏予測(BLUP)の話 - 5 . さいごの最良線形不偏予測 (1) BLUP方程式の変換2)コレスキー変換 - 3)制限付きBLUP方程式の変換	畜産の研究	55(11):1201-1205	2001
43	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用(42) - 最良線形不偏予測(BLUP)の話 - 5 . さいごの最良線形不偏予測 (1) BLUP方程式の変換4)方程式の格納	畜産の研究	55(12):1285-1288	2001
44	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用(43) - 最良線形不偏予測 (BLUP) の話 - 5 . さいごの最良線形不偏予測 (2) BLUP方程式の解法1) 行列計算の予備知識	畜産の研究	56(1):79-82	2002
45	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (44) - 最良線形不偏予測 (BLUP) の話 - 5 . さいごの最良線形不偏予測 (2) BLUP方程式の解法2) 方程式の直接解法	畜産の研究	56(2):302-306	2002
46	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (45) - 最良線形不偏予測 (BLUP) の話 - 5 . さいごの最良線形不偏予測 (2) BLUP方程式の解法2) 方程式の反復解法	畜産の研究	56(3):411-416	2002
47	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (34) 最良線形不偏予測 (BLUP) の話	畜産の研究	55 : 508-510	2001
48	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (35) 最良線形不偏予測 (BLUP) の話	畜産の研究	55 : 589-596	2001
49	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (36) 最良線形不偏予測 (BLUP) の話	畜産の研究	55 : 709-714	2001
50	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (37) 最良線形不偏予測 (BLUP) の話	畜産の研究	55 : 803-810	2001
51	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (38) 最良線形不偏予測 (BLUP) の話	畜産の研究	55 : 915-919	2001
52	佐藤正寛	種豚評価のためのパソコン用ソフトの紹介	平成13年度豚の新育種技術に関する研究会資料	1-4	2001
53	佐藤正寛	家畜育種の理論とその応用 (39) 最良線形不偏予測 (BLUP) の話	畜産の研究	55:1019-1024	2001
54	Shibuya N	Frontiers of transgenic crop research	研究ジャーナル	24:13-17	2001
55	Shibuya N	Proteomics in post-genome sequencing	農業技術	57:26-29	2002
56	白田和人	希少植物遺伝資源の保存	化学と生物	40:53-55	2002
57	白田和人, 大川雅央, 宮崎尚時	新しい農業生物資源ジーンバンク体制と今後の活動の展望	農業技術	57:49-53	2002
58	田部井豊	「組換え体利用飼料等に関する懇談会」の中間とりまとめについて	食品工場長	49:55-55	2001
59	田部井豊	理想的草型の「コシヒカリ」の開発	食品工場長	50:34-35	2001
60	田部井豊	遺伝子組換え農作物を取り巻く情報の入手法 (単行本)	食品工場長	51:22-22	2001
61	田部井豊	遺伝子組換え農作物を取り巻く情報の入手法 (インターネット)	食品工場長	52:27-27	2001
62	田部井豊	未承認遺伝子組換え農作物の食品などへの混入について	食品工場長	53:20-21	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
63	田部井豊	「遺伝子組換え農作物を市民が考える会」の開催について	食品工場長	54:25-25	2001
64	田部井豊	遺伝子組換え農作物の環境影響評価	工業界ジャーナル	412:7-14	2001
65	高林千幸	シルク・ミュージアムサミット2001を開催して	日本蚕糸学会関東支部だより	110 : 4-5	2001
66	高林千幸	シルク新素材の開発と今後の展望	農業および園芸	76,12 : 1269-1276	2001
67	高林千幸	豊かなヒューマンライフを創造する絹生活用素材の開発	食と農を考える雑誌AFF	376:56-57	2002
68	高林千幸	生活資源開発研究チーム（岡谷）	日本蚕糸学会中部支部だより	29:2-3	2001
69	徳富光恵, 松岡信, 趙徹	C 3 植物への C 4 光合成回路の付与	ブレインテクノニュース	85:10-14	2001
70	富岡啓介, 佐藤豊三, 河瀬眞琴, 石原次郎, 笹谷孝英, 小金澤碩城, 石川浩一	RLGSによる菌類の変異解析法	四国農業 研究成果情報 2000	204-205	2001
71	山口博康	イオンビームによる植物育種	STAFFnewsletter	vol.12.6:6	2001
72	山本俊雄	特徴ある蚕品種の現状と将来	シルク情報	13:1-10	2001
73	矢野昌裕	マップベースクロニング法によるイネの遺伝子機能解析	ブレインテクノニュース	84 : 1-5	2001

(7) 特許等取得・品種登録

種類	発明の名称	特許等登録番号	登録日	発 明 者	備 考
国内特許	微生物除草剤及び除草方法	第3184967号	13. 5.11	佐藤守・渡部賢司・塚田益裕	
"	シグナル配列を用いた遺伝子のクローニング方法	第3194008号	13. 6. 1	門脇光一	
"	C 4 植物の光合成酵素を発現する C 3 植物体	第3210960号	13. 7.19	松岡信・徳富光恵・土岐精一 モーリス スノーベン クウ	
"	コンニャクモザイクウイルスのゲノムおよびその使用	第3215863号	13. 8. 3	西口正通・下山淳・花田薫 酒井淳一	
"	改質蛋白質繊維又はその繊維製品の製造法	第3230200号	13. 9.14	塚田益裕・小林雅夫	三菱レイヨン(株)と共有
"	抗菌ペプチド及びこれを有効成分とする抗菌剤	第3273314号	14. 2. 1	山川稔・石橋純・坂中寿子	
"	抗菌性菌糸の製造法	第3289144号	14. 3.22	中島健一・高林千幸・田村泰盛	
外国特許	ベチュニアの転写因子PetSPL2の遺伝子の導入によって花序の節間を短縮させる方法(アメリカ)	第6,215,043号 (特開2000-50873)	13. 4.10	高辻博志・中川仁	
"	創傷被覆材(ベトナム)	第2,085号 (2997758)	13. 5.18	坪内紘三	
"	植物の形態を変化させる転写因子の遺伝子およびその利用(韓国)	第0,298,877号 (3054694)	13. 6. 5	高辻博志・中川仁	
"	いもち病抵抗性遺伝子(アメリカ)	第6,274,789号 (特開平11-346783)	13. 8.14	矢野昌裕・岩本政雄・片寄裕一 佐々木卓治・王子軒・山内歌子 石丸理佐	(社)農林水産 先端技術産業振興センターと共有
"	植物の形態を変化させる転写因子の遺伝子およびその利用(アメリカ)	第6,297,429号 (3054694)	13.10. 2	高辻博志・中川仁	
"	絹フィブロイン微粉末の製造方法(イギリス、ドイツ、フランス、イタリア)	第0,753,533号 (2615440)	13.10.10	坪内紘三	
"	細胞死抑制遺伝子が導入されたストレス抵抗性植物およびその作出方法(アメリカ)	第6,310,272号 (特開平10-309142)	13.10.30	大橋祐子・光原一朗・カマルエイマリク	
"	フェロモン結合タンパク質及びその製造方法(アメリカ)	第6,316,221号 (3054692)	13.11.13	リアル バルター スアレス ヒューバート ヴォイタセク	
"	イネのいもち病抵抗性遺伝子の核酸マーカーと、このマーカーによって得られるイネいもち病抵抗性遺伝子(アメリカ)	第6,333,151号 (特開平07-163357)	13.12.25	桂直樹・川崎信二・斉藤彰 佐藤征弥・安東郁男	科学技術振興事業団と共有
"	キチンビーズ・キトサンビーズ・これらビーズの製造方法及びこれらビーズからなる担体並びに微孢子虫胞子の製造法(韓国)	第0,321,665号 (出願中)	14. 1.10	塚田益裕・白田昭・早坂昭二	
"	絹フィブロイン微粉末の製造方法(中国)	第ZL 96,190,245.0号 (2615440)	14. 2. 6	坪内紘三	
"	イネのいもち病抵抗性遺伝子の核酸マーカーと、このマーカーによって得られるイネいもち病抵抗性遺伝子(中国)	第80,705号 (特開平07-163371)	14. 2.13	桂直樹・川崎信二・宮本勝 佐藤征弥・安東郁男	科学技術振興事業団と共有
" (育成品種)	メイロード(エニシダ)(アメリカ)	第PP12,047号 (出願中)	13. 8.14	永富成紀・勝俣和子・安西弘行	明治製菓(株)と共有
" (")	メイキング(エニシダ)(アメリカ)	第PP12,048号 (出願中)	13. 8.14	永富成紀・勝俣和子・安西弘行	明治製菓(株)と共有
" (")	ゴールド二十世紀(なし)(オランダ)	第19,974号(品種登録 2932)	13. 9.12	西田光夫・藤田晴彦・池田富喜夫・真田哲朗・壽和夫	
品種登録	桑(せんしん)	第10056号	13. 3.25	岩田益・市橋隆壽・水本文洋 樋田仁蔵・山本賢・内田満 町井博明・小山朗夫・山ノ内宏昭 長沼計作	

*「特許等登録番号」欄の下段は、国内の公開又は登録番号

(8) 主要な研究成果

No.	研究成果名	研究グループ	研究チーム	分類
1 .	イネ第 1 染色体配列解読の終了	ゲノム G	植物ゲノム T	知
2 .	ブタ背脂肪厚に關与する遺伝子の存在領域を第 7 染色体動原体付近に限定した	ゲノム G	家畜ゲノム T	技
3 .	イネ赤条斑病の病原の特定	遺伝資源 G	上席研究官	知
4 .	植物性染色体 DNA における雌雄間差異の可視化	遺伝資源 G	遺伝子多様性 T	知
5 .	日本産新規フザリウム属菌の発見と分類形質の再評価	遺伝資源 G	生物分類 T	知
6 .	ツルアズキ種子に含まれる新規殺虫性化合物	遺伝資源 G	集団動態 T	生・技
7 .	ブタ体外生産胚盤胞からの仔ブタ生産法	遺伝資源 G	生殖質保全 T	技
8 .	原核および真核微生物に有効な広域抗菌スペクトルをもつ ASABF 型抗菌ペプチドの発見	発分化 G	発生機構 T	知・技
9 .	エレクトロポレーションによるニワトリ初期胚への外来遺伝子導入	発分化 G	発生制御 T	技・生
10 .	遺伝子銃によるカイコ前部絹糸腺での外来遺伝子の発現	発分化 G	成長制御 T	知
11 .	全齡人工飼料育蚕における繭糸質低下の原因	発分化 G	成長制御 T	技・農
12 .	MMPs 発現を指標とした卵卵の正常性の判定法	発分化 G	生殖再生 T	技・農
13 .	TNF- α 遺伝子を欠損したミクログリア細胞株の樹立	生体防御 G	分子免疫 T	技
14 .	牛筋肉内脂肪前駆細胞 (BIP 細胞) のカベオラ様膜ドメインの解析	生体機能 G	動物細胞機能 T	知
15 .	牛胎子の心電位を測定・解析する技術	生体機能 G	動物脳神経 T	技
16 .	マルチプレックス PCR 法によるヒメハナカメムシ類 5 種の簡易識別法	昆虫適応遺伝 G	天敵昆虫 T	技・農
17 .	昆虫培養細胞株の短期間樹立技術	昆虫生産工学 G	昆虫細胞工学 T	生・技
18 .	果実採取用桑品種「ポップベリー」	昆虫生産工学 G	増殖システム T	農
19 .	セリシン蚕品種「セリシンホープ」	昆虫生産工学 G	新蚕糸技術 T	農・生
20 .	細胞増殖による転写後型遺伝子不活性化の抑制	分子遺伝 G	シグナル応答研ユニット	知
21 .	イネ染色体部分置換系統群の作出と有用形質の遺伝解析への利用	分子遺伝 G	応用遺伝 T	知・技
22 .	イネ完全長 cDNA クローンの収集、配列解析、DB の作成	分子遺伝 G	遺伝子発現 T	知・技
23 .	蛇毒タンパク質の X 線解析による立体構造の解明	生体高分子 G	蛋白機能 T	知・技
24 .	N-アセチルキトオリゴ糖エリシターにより発現誘導される EL 5 遺伝子の RING-H2 finger domain の溶液構造とその機能に関する研究	生体高分子 G	超分子機能 T	知
25 .	エリシター及びジベレリンに応答するイネ遺伝子	生体高分子 G	糖鎖機能 T	知
26 .	光化学系 2 の機能発現に関わるタンパク質分解酵素 CtpA の触媒機構の解明	生理機能 G	光合成 T	知
27 .	C ₃ 植物と C ₃ -C ₄ 中間植物との属間交雑による光呼吸の抑制とその機構の解明	生理機能 G	物質代謝 T	知
28 .	転写因子機能を利用した雄性および雌性不稔形質導入法の開発	生理機能 G	形態発生 T	知・技
29 .	シアン耐性呼吸・末端酸化酵素遺伝子のストレスによる発現誘導	生理機能 G	環境ストレス T	知
30 .	イネのクロライドチャンネル遺伝子の構造と機能	生理機能 G	耐病性 T	知
31 .	HEGS によるイネとオオムギの高密度マップの短期作製	生理機能 G	耐病性 T	知・技
32 .	イネの種子で外来遺伝子産物をタンパク顆粒に輸送させる技術の開発	新生物資源創出 G	遺伝子操作 T	知・技
33 .	2 β 水酸化酵素導入による草型制御技術の開発	新生物資源創出 G	新作物素材開発 T	知・技
34 .	ブタ由来の P450 遺伝子導入イネの除草剤耐性	新生物資源創出 G	新機能開発 T	知・技
35 .	ダットンソバの各種放射線による変異誘発効果	放射線育種場	放射線利用 T	技

分類について

[知] = 「知的貢献」：原理の発見、独創的な理論の構築、未知の現象の予測・発見など論文発表による知の創造への貢献。

[技] = 「技術開発」：生産性の向上及び消費ニーズに対応した品質の向上を図る上でキーとなる革新的な技術開発研究への貢献。

[農] = 「農業生産」：農林水産業における生産活動を通じた社会への貢献。

[生] = 「生物産業」：成果の活用により社会に直接の利便をもたらすことができる産業技術開発への貢献

(9) 講演会・研究会等

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
1	青木孝之	Fusarium属菌の分類	フザリウム研究会		2001
2	淵本大一郎	マウスの初期発生の制御因子	第61回動物生殖科学教室特別セミナー	3-4	2001
3	Haga A	カイコ蛹からのキチン抽出	カイコ蛹からのキチン抽出について技術指導並びに講習会での講演		2001
4	橋爪一善	着床・胎盤特異的cDNAマイクロアレイの作成と胎盤機構の解明	シンポジウム2001明日をめざす科学技術	8	2001
5	今井敬	体外受精技術の概要と最近の研究動向	JICAグループトレーニング牛受精卵移植技術資料		2001
6	今井敬, 高橋透, 橋爪一善	胎盤形成と体細胞クローンウシ生産	日本畜産学会第100回大会	19	2002
7	岩本政雄	イネ近縁野生種の分類 - カタラーゼ遺伝子の分子進化	平成13年度作物試験研究推進会議 稲部会資料	11-14	2002
8	Kadono-O K, Ogoyi OD, An Y, Nguu KE, Hara W	Densonucleosis virus-nonsusceptible genes, Nid-1 and nsd-2, located on the same chromosome based on the cDNA linkage map of Bombyx mori	Sericologia		2001
9	Kikuchi S, Yazaki J, Kishimoto N, Ishikawa M, Kojima K, Namiki T, Shimbo K, Fujii F, Ohata T, Shimatani Z, Hashimoto A, Nagata Y, Honda S, Toyoshima K, Sakata K, Yamamoto K	Rice functional genomics via cDNA microarray: Systems for the microarray analysis and the expression profiles of stress responsible genes	JIRCAS Working Report	93-98	2001
10	菊池尚志	イネゲノムプロジェクトにおけるマイクロアレイ技術を利用した遺伝子発現のプロファイリング	DNA chip研究会		2001
11	北本宏子	牛の発酵飼料、サイレージの微生物制御～キラー酵母による変敗抑制	生物工学若手研究者の集い夏のセミナー2001	2-7	2001
12	Kobayashi E	QTL analysis for backfat thickness on porcine chromosome 7	INTERNATIONAL WORKSHOP ON ANIMAL GENOME ANALYSIS	VII:1-7	2001
13	今野浩太郎	イボタの化学防御を中和剤で打破して食べるスペシャリスト昆虫：化学物質を介した植物-植食昆虫間の攻防的関係の共進化	第54回昆虫生理生態談話会		2001
14	桑名芳彦	昆虫に学ぶマイクロマシン技術	第4回アグロバイオロジー先端セミナー		2001
15	Maeda M	D-Erythrulose reductase; purification, characterization, cloning, sequencing and modeling	s'eminare de l'Institut Charles Sadron		2001
16	前田美紀	ステロイド受容体リガンド結合ドメインにおいて保存されているアミノ酸残基は生化学的機能よりも構造形成に関与している？	2001年度TRIPOSユーザー会要旨集		2001
17	美川智	ブタの椎骨数に關与するQTLの候補遺伝子の解析	アニマルゲノム研究会	2	2002
18	三橋忠由	鶏の遺伝的抗病性に関する解析	家畜改良センター岡崎牧場セミナー資料	1-11	2002
19	水野洋	蛇毒由来・タンパク質の立体構造とそのメカニズム	生研機構プロジェクトミニシンポジウム2001	4	2001
20	永井卓	家畜における繁殖新技術：体外受精からクローン家畜生産まで	平成13年度第2回セミナー講演要旨	1-5	2002
21	永井卓	体外受精	平成13年度都道府県農業関係研究員短期集合研修		2001
22	永井卓	動物繁殖工学	京都府立大学大学院集中講義	1-65	2001

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
23	永井卓	繁殖における新技術	平成13年度海外集団研修「牛育種・人工授精コース」	1-20	2001
24	Nguu E, Kadono-O K, Kosegawa E, Mase K, Nagaoka S, Okano K, Hara W	195 cDNA clones were mapped on 28 chromosomes based on RFLP in the silkworm, <i>Bombyx mori</i> L.	Sericologia		2001
25	Noda T	天敵利用と天敵育種の展望	岡山大学資源生物科学研究所 学術講演会		2001
26	大橋祐子	植物のストレス応答の分子機構	岡山大学農学部		2001
27	大橋祐子	病原体感染による植物のプログラム細胞死の情報伝達	名古屋大学・バイオサイエンスセミナー		2001
28	岡村裕昭	農林水産業にかかわる匂いと臭い研究の動向	第2回アロマ・サイエンス・フォーラム2001「アロマルネッサンス21世紀は香りの時代を目指して」		2001
29	大西彰	クローン豚の作出とその応用について	第六回豚新技術開発研究会		2002
30	大西彰	体細胞クローン豚との対面と研究者との対話等	NHK番組制作局「週刊こどもニュース」		2001
31	大西彰, 岩元正樹, 秋田富士, 武田久美子, 美川智, 粟田崇, 花田博文	体細胞クローン豚の作成技術	平成13年度業績発表・表彰畜産大賞	14-15	2002
32	Sasaki T	イネゲノム解析研究とは？	平成13年度枯草菌研究会		2001
33	佐々木卓治	イネゲノム解析研究が開拓する新植物学	日本植物学会第65回大会公開シンポジウム 植物からみた21世紀ゲノムと植物	9-14	2001
34	霜野真幸	イネcDNAマイクロアレイ：病害抵抗性誘導材(プロベナゾール)処理による遺伝子発現解析	岩手生物工学研究センター第7回 岩手若手研究会セミナー	8-9	2001
35	Somfai T, Nagai T	Comparison of percoll and swim-up sperm separation methods regarding the viability and acrosome integrity of spermatozoa	第61回動物生殖科学教室特別セミナー	1-2	2001
36	Tabei Y	「遺伝子組換え農作物の環境安全性」(共通基礎知識と専門家の考え - その1)	遺伝子組換え農作物を市民が考える会議		2001
37	Tabei Y	「環境安全性」基礎知識と専門家の考え その1	遺伝子組換え農作物を市民が考える会議		2001
38	田部井豊	遺伝子組換え飼料の作出と安全性評価	第353回月例研究会		2001
39	田部井豊	遺伝子組換え農作物の環境影響評価	平成13年度バイオテクノロジー体験研修 講義・実習テキスト		2001
40	Takabayashi C	Development of New Silk Materials	蘇州大学講演会資料		2001
41	高林千幸	「人と地球にやさしい」シルク講座	「人と地球にやさしい」シルク講座		2001
42	高林千幸	非衣料分野におけるシルク(生地)の活用について	福島県絹人繊維物構造改善工業組合研修会		2001
43	高橋秀彰	鶏ゲノム解析の現状と展望	13年度高品質肉用鶏研究会資料	4-5	2001
44	高岩文雄	植物を利用した有用物質生産の実用化と展望	SHITA Report No.18植物工場を取りまく最新テクノロジー	18: 1-10	2001
45	Takasu Y, Yamada H, Tsubouchi K	SDS-PAGE of sericin polypeptides digested by lysyl endopeptidase	Fiber Preprints	56,1:107	2001
46	竹田 敏	絹の蛋白質としての利用	第2回機能性養蚕産物品評会および韓・日国際シンポジウム		2001
47	竹田 敏	蚕の多目的利用	バイオ素材：絹、蚕、桑 蚕業への貢献と将来の展望		2001
48	Takezawa T	Concept for Regenerating Organs in vitro	Biomaterial and Tissue Engineering Lab. Seminar		2002

No.	著者・発表者名	発表論文等の標題	発表誌名等	巻・ページ等	発表年
49	Takezawa T	Concept for Regenerating Organs in vitro	Pharmaceutical Discovery & Development Division Seminar		2002
50	竹澤俊明	組織再生技術の創出構想	BIBAXプログラム	2: 10	2001
51	竹澤俊明	細胞の足場に注目した組織 / 器官の再構築技術	再生医学セミナーシリーズ	2	2001
52	Tanaka Y, Yukuhiro F	Ecdysone has an effect on the regeneration of midgut epithelial cells that is distinct from 20-hydroxyecdysone in the silkworm, <i>Bombyx mori</i>	シンポジウム「昆虫腸の構造と機能」講演要旨		2001
53	田中宥司	遺伝子組換え農作物（食品）の開発状況と安全性評価	（社）日本技術士会創立50周年記念シンポジウム	14-16	2001
54	田中良和	接木によるジーンサイレンシングの移行	岩手生物工学研究センター第7回 岩手若手研究会セミナー	4-5	2001
55	Taniai K	LPS-inducible expression of the antibacterial peptide genes in <i>Bombyx mori</i>	第10回内毒素・LPS研究会講演要旨	1	2001
56	徳永智之	胚性幹細胞の培養技術と活用	畜産新技術	49-62	2001
57	山本俊雄	特徴ある蚕品種繭の作出とその利用	製糸夏期大学教材	54:11-24	2001
58	山崎俊正	NMRによるタンパク質の動的構造 - 機能相関の解明	ナノ・メゾ科学シンポジウム講演要旨集	13-14	2001
59	矢野昌裕, 蛭谷武志, 安藤露, 河野いづみ, 竹内善信	イネ遺伝育種研究におけるCAPSマーカーの利用	育種学最近の進歩（第43回日本育種学会シンポジウム報告）	43 : 33-36	2001

2. プロジェクト研究一覧

(1) 特別研究(交付金プロジェクト)

略 称	プロジェクト名	主となる研究所	研究期間
組換え植物	遺伝子組換え技術を応用した次世代型植物の開発に関する研究	生物研	平成13～17
動植物工場	植物・動物・昆虫を用いた有用物質生産系の確立	生物研	平成11～16
組換えDNA	組換えDNA技術の産業化のための開発研究	生物研	平成8～13
形態・生理	形態・生理機能の改変による新農林水産生物の創出に関する総合研究	生物研	平成10～19
地域実用化	先端技術等地域実用化研究促進に要する経費	生物研	平成8～15
ジーンバンク	農林水産ジーンバンク事業(ジーンバンク)	生物研	平成13～17
ジーンバンク	農林水産ジーンバンク事業(DNAジーンバンク)	生物研	平成13～17
持続的農業	持続的農業推進のための革新的技術開発に関する総合研究(ISA)	中央農研	平成11～15
雑草防除	植物の代謝系遺伝子を活用した新雑草防除技術の開発	中央農研	平成9～14
環状ペプチド	植物の殺虫環状ペプチド類の探索と利用技術の開発	作物研	平成10～13
プリオン病	インビトロにおける神経細胞変性モデルの開発と変性機構の解析	動衛研	平成9～14
超省力園芸	画期的園芸作物新品種創出による超省力栽培技術の開発	果樹研	平成9～16

(2) 委託プロジェクト研究

略 称	プロジェクト名	主となる研究所	研究期間
イネ全塩基配列	イネ・ゲノムの全塩基配列の解明	生物研	平成10～19
DNAマーカー	DNAマーカーを用いた効率的選抜育種技術の開発	生物研	平成10～19
有用遺伝子単離	遺伝地図とミュータントパネルを利用した単離及び機能解明	生物研	平成10～19
マイクロアレイ	遺伝子発現モニタリング手法を利用した単離及び機能解明	生物研	平成11～15
プロテオーム	タンパク質の構造解析を利用した単離及び機能解明	生物研	平成12～14
シミュレーター	イネ・ゲノムシミュレーターの開発	生物研	平成13～15
動物ゲノム	動物ゲノムの効率的解析手法及び有用遺伝子の利用技術の開発	生物研	平成6～15
DNA育種	複数家系の多型情報を統合したQTL解析手法の開発	生物研	平成13～15
連携実用化	絹合成繊維、イネタンパク	生物研	平成13～15
次世代稲作	画期的新品種の創出等による次世代稲作技術構築のための基盤的総合研究	作物研	平成13～16
ネギ・イグサ	RLGS分析によるイグサ品種識別への実用化	九沖農研セ	平成13～15
クローン	体細胞クローン動物における個体発生機構に関する研究	畜草研	平成13～17
組換え体産業化	組換え体の産業的利用における安全性確保に関する研究	農環研	平成11～15
環境ホルモン	農林水産業における内分泌かく乱物質の動態解明と作用機構に関する総合研究	農環研	平成11～16
植物体内細菌	植物体内細菌による窒素固定機能の解明とその利用技術の開発	生物研	平成11～13
シアン耐性	シアン耐性呼吸のストレス耐性機構の解明	生物研	平成11～13
近交退化	家畜における近交退化現象の発現機構の解明と制御技術の開発	畜草研	平成11～13
刺激可視化	環境刺激に応答する生物情報プロセスの可視化に関する研究	食総研	平成11～13
デンプン蓄積	イネの登熟初期においてデンプン蓄積を制御する分子機構の解明	生物研	平成12～14
家畜配偶子	家畜配偶子および胚の効率的生産システムの開発	生物研	平成12～14

略 称	プロジェクト名	主となる研究所	研究期間
師部操作	師部操作による植物資源への新たな機能の付与とその利用	生物研	平成12～14
ニワトリ遺伝子連鎖地図	ニワトリの遺伝連鎖地図の作成と経済形質を支配する量的遺伝子座 (QTL) の探索	生物研	平成12～14
ウォルバキア	ウォルバキア細菌による昆虫細胞質不和合性の分子機構の解明	生物研	平成12～14
昆虫小型RNAウイルス	昆虫小型RNAウイルス遺伝子の翻訳開始機構の解明	生物研	平成12～14
経口免疫寛容	経口免疫寛容の機構解明と効率的誘導方法の開発	生物研	平成12～14
動物セルラーゼ	動物セルラーゼの特性解明と利用技術の開発	生物研	平成12～14
殺虫タンパク質	植物の新規耐虫性生理活性物質及び殺虫タンパク質の探索・利用	生物研	平成12～14
免疫誘導	昆虫の先天性免疫遺伝子発現を誘導する微生物パターン認識機構の解明	生物研	平成13～15
マイクロマシン	マイクロマシン技術による昆虫感覚神経応答の高感度記録法の開発	生物研	平成13～15
イネミトコンドリア	イネミトコンドリアゲノムの全構造決定と解読	生物研	平成13～15
酵母キラータンパク質	細胞周期抑制に特徴を持つ酵母キラータンパク質の作用機構の解明	生物研	平成13～15
細胞譜系	細胞譜系を制御した組織再生新技術の開発	生物研	平成13～15
Double stranded RNA	Double stranded RNAを用いた特異的遺伝子制御によるほ乳動物胚の発生・分化機構の解明及び制御法の開発	九冲農研セ	平成13～15

3. シンポジウム・研究会等の行事

開催年月日	事項名
平成13年4月4日	農業生物資源研究所開所式（観音台・大わし）
4月18日	平成13年度 一般公開（観音台・大わし）
4月29日	2001シルクフェア in おかや
5月16日	新プロジェクト「イネ・ゲノムシミュレーターの開発」計画発表会
5月31日	平成13年度研究計画検討会 - 放射線育種場 -
6月14日	平成13年度研究計画検討会 - 新生物資源創出研究グループ -
6月15日	平成13年度研究計画検討会 - 生理機能研究グループ -
6月18日	平成13年度研究計画検討会 - 分子遺伝研究グループ -
6月19日	平成13年度研究計画検討会 - 発生分化研究グループ -
6月20日	平成13年度研究計画検討会 - 遺伝資源研究グループ -
6月21日	平成13年度研究計画検討会 - ジーンバンク -
"	平成13年度研究計画検討会 - ゲノム研究グループ -
6月22日	平成13年度研究計画検討会 - 生体防御研究グループ -
6月25日	平成13年度研究計画検討会 - 昆虫新素材開発研究グループ -
6月27日	平成13年度研究計画検討会 - 昆虫適応遺伝研究グループ -
6月28日	平成13年度研究計画検討会 - 生体高分子研究グループ -
"	平成13年度研究計画検討会 - 生体機能研究グループ -
6月29日	平成13年度研究計画検討会 - 昆虫生産工学研究グループ -
7月3日	平成13年度 組換えDNA実験安全委員会（植物小委員会）
7月5日	平成13年度 組換えDNA実験安全委員会（動物小委員会）
7月11日～12日	第40回ガンマフィールドシンポジウム 『突然変異育種の軌跡と新しい展開』
7月12日	COE「昆虫機能利用」ポスターセッション
7月13日	COE「昆虫機能利用」評価委員会
7月19日	DNA育種研究打ち合わせ会議
7月28日	第5回開放的融合研究公開シンポジウム 「21世紀の再生医療と移植遺伝子療法」
8月30日	独立行政法人農業生物資源研究所設立記念式典・シンポジウム
9月19日	「形態生理プロジェクト」研究推進協議会 研究推進打合せ
9月26日～27日	平成13年度 蚕糸・昆虫機能研究現地検討会
10月1日～4日	平成13年度 都道府県研究員短期集合研修
10月12日	第6回 開放的融合研究公開シンポジウム「造血研究の最近の進歩」
10月15日～18日	国際ワークショップ「クローン家畜生産に関する国際ワークショップ」
10月17日	平成13年度 イネゲノム研究毎年度中間評価会議
10月19日	放射線育種場（ガンマ）一般公開 - 放射線でひらく21世紀の農業 -
10月22日～23日	NIAS 国際シンポジウム 「昆虫工場開発の現状と展望」
10月22日～25日	第69回農林交流センターワークショップ 「マイクロアレイ技術を用いた植物遺伝子発現のプロファイル解析」
10月29日	国際交流セミナー 「Perspective on embryo biotechnology : its origin, current uses and future prospects」

開催年月日	事項名
11月12日	第70回農林交流センターワークショップ タンパク質構造解析「生物機能解明のためのプロテオーム解析」
11月19日	平成13年度 組換えDNA実験所内安全研修（植物小委員会 第2回）
11月21日～22日	NIAS - COE / BRAIN 国際シンポジウム 「Genomic Approaches to Functional Analysis of Plant Genes」
11月28日～30日	第71回農林交流センターワークショップ 「二次元電気泳動によるゲノム解析」講義と演習
11月29日～30日	NIAS - COE 国際シンポジウム "New Era of Transcription Factor Research in Plants"
12月3日～4日	ミレニアム植物科学研究プロジェクト 研究成果報告会（2001年）
12月5日	昆虫制御物質開発のためのゲノム情報利用研究（ゲノム創薬）についての意見交換会
12月10日～12日	文部科学省・開放的融合研究プロジェクト（ORCS）国際シンポジウム "Development of New Structural Biology Including Hydrogen and Hydration"
12月12日～13日	シルク・サミット 2001 in 桐生 -シルクへの想いを新しい波に-
12月25日	ミレニアム・ゲノム・プロジェクト 第3回評価・助言会議
12月26日	分子遺伝研究グループ・評価検討会
平成14年1月9日	新生物資源創出研究グループ・評価検討会
1月17日	生体防御研究グループ・評価検討会
"	生理機能研究グループ・評価検討会
1月18日	生体機能研究グループ・評価検討会
1月21日	「組換え植物」成績検討会
1月22日	「組換え植物」評価委員会
1月23日	「組換えDNA」成績・評価検討会
"	昆虫生産工学研究グループ・評価検討会
1月24日	ジーンバンク・評価検討会
"	ゲノム研究グループ・評価検討会
"	遺伝資源研究グループ・評価検討会
"	生体高分子研究グループ・評価検討会
1月25日	「DNA育種」研究推進評価会議
"	放射線育種場・評価検討会
1月28日	「動植物工場」植物分科会・動物分科会・昆虫分科会 / 合同推進評価会議
1月29日	発生分化研究グループ・評価検討会
1月29日～30日	「形態・生理」（光合成・環境チーム）推進部会
1月30日	植物バイテク研究全国連絡会
"	昆虫適応遺伝研究グループ・評価検討会
1月31日～2月1日	「形態・生理」（昆虫チーム）推進部会
"	「地域実用化」成績検討会
"	桑系統適応性検定試験等成績検討会
2月1日	ジーンバンク事業（DNA部会）
2月4日	昆虫新素材開発研究グループ・評価検討会
"	ジーンバンク事業（微生物部会）
2月5日	遺伝資源研究会
2月6日～7日	国際イネゲノムワークショップ
2月7日～8日	動物ゲノム（家畜）研究推進評価会議

開催年月日 事 項 名

2月8日	第10回国際イネゲノムフォーラム
"	ジーンバンク事業（動物部会）
"	ジーンバンク事業（植物部会）
2月12日～13日	イネ・ゲノム研究「ミュータントパネル」推進評価会議
"	蚕糸・昆虫機能研究全国連絡会
2月14日～15日	イネ・ゲノム研究「DNAマーカー」推進評価会議
"	「形態・生理（畜産）」チーム部会
2月18日～19日	イネ・ゲノム研究「プロテオーム」推進評価会議
2月20日～21日	イネ・ゲノム研究「マイクロアレイ」推進評価会議
2月21日～22日	動物ゲノム（昆虫）成績評価検討会
2月22日	イネ・ゲノム研究「イネ全塩基配列」推進評価会議
"	イネ・ゲノム研究「組換え体大規模解析」事前検討評価会議
2月25日	イネ・ゲノム研究「シミュレーター」推進評価会議
2月26日	イネ・ゲノム研究合同評価会議
2月27日	形態・生理評価委員会
2月28日	ジーンバンク事業評価委員会
3月4日	平成13年度バイオテクノロジー先端技術シーズ培養研究（植物分野）研究成果発表会
3月5日～6日	平成13年度COE「昆虫機能利用」推進会議・成績検討会
3月6日	ジーンバンク事業連絡協議会
3月7日～8日	昆虫・動物生命科学研究推進戦略会議
"	植物生命科学研究推進戦略会議
3月11日～12日	動物（家畜・昆虫）の行動メカニズムの解明と制御技術の開発」事前評価会議
3月19日	農業生物資源研究所評価委員会
3月20日	農業生物資源研究推進戦略会議
3月20日	組換えDNA 国際情報交流会議
3月27日	2001年度NIAS遺伝資源ワークショップ - 遺伝資源新国際条約以降における植物遺伝資源研究のあり方 -

4. 共同研究相手先別一覧

相 手 先	件 数
国及び独立行政法人	6
公立及び公益法人	17
国立大学	6
公立大学	1
私立大学	4
特殊法人	27
民間企業	23
合 計	84

III 派遣・受入

1. 派遣等

(1) 海外派遣

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
[文部科学省所管経費]				
秦 珠子	昆新素材開発研 G 素材特性 T	アメリカ ボストン	高分子の構造と機能 (Structure of spider silk) (若手研究制度)	12. 3.16 ～ 14. 3.15
富田秀一郎	昆虫適応遺伝研 G 昆虫分子進化 T	アメリカ シアトル	脱皮ホルモンによる転写制御の分子機構の解明 (長期在外研究)	12. 7.10 ～ 13. 7. 9
梅原 洋佐	生理機能研究 G 窒素固定 T	デンマーク オーフス	マメ科植物における共生窒素固定根粒形成機構の解析 (長期在外研究)	12. 9. 1 ～ 13. 8.31
大橋 祐子	分子遺伝研究 G 分子遺伝上席	ベルギー スバ	第 6 回国際 PR タンパク質シンポジウム	13. 5.18 ～ 13. 5.26
光原 一郎	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	ベルギー スバ	第 6 回国際 PR タンパク質シンポジウム	13. 5.18 ～ 13. 5.26
岩井 孝尚	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	ベルギー スバ	第 6 回国際 PR タンパク質シンポジウム	13. 5.18 ～ 13. 5.26
石橋 純	生体防御研究 G 先天性免疫 T	アメリカ・サンディエゴ カンザス	第 2 回国際ペプチド学会・カンザス州立大にて研究打ち 合わせ	13. 6. 9 ～ 13. 6.21
藤本 瑞	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	デンマーク フィンランド	カールスバーク研究所、コペンハーゲン大学にて 研究調査	13. 6. 9 ～ 13. 6.21
水野 洋	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	フランス パリ	第18回国際血栓止血国際会議	13. 7. 5 ～ 13. 7.15
川崎 信二	生理機能研究 G 耐病性 T	アメリカ マディソン	第 4 回メディカゴトランカツラに関するワークショップ 及び第10回国際植物微生物相互作用会議	13. 7. 6 ～ 13. 7.16
西澤 洋子	新生資源創出研 G 遺伝子設計 T	アメリカ マディソン	第10回国際植物微生物相互作用会議	13. 7. 9 ～ 13. 7.16
上西 博英	ゲノム研究 G 家畜ゲノム T	スウェーデン ウプサラ	第 6 回国際獣医免疫学会	13. 7.14 ～ 13. 7.22
橋爪 一善	発生分化研究 G 生殖再生 T	カナダ オタワ	第34回米国生殖生理学会	13. 7.26 ～ 13. 8. 3
石渡 広子	発生分化研究 G 生殖再生 T	カナダ オタワ	第34回米国生殖生理学会	13. 7.26 ～ 13. 8. 3
今野浩太郎	昆虫適応遺伝研 G 昆・植相互作用 T	デンマーク ヘルシンゲア	第11回昆虫と植物の関係に関する国際シンポジウム	13. 8. 3 ～ 13. 8.11
徳富 光恵	生理機能研究 G 光合成 T	オーストラリア ブリスベン・ キャンベラ他	第12回国際光合成会議・C 4 光合成に関する調査研究	13. 8.12 ～ 13. 8.26
神村 学	発生分化研究 G 成長制御 T	マレーシア クアラルンプール	第 4 回アジア太平洋昆虫学会議	13. 8.13 ～ 13. 8.18
平山 力	生体機能研究 G 代謝調節 T	マレーシア クアラルンプール	第 4 回アジア太平洋昆虫学会議	13. 8.13 ～ 13. 8.18
南 栄一	生体高分子研究 G 糖鎖機能 T	オランダ ハーグ	第16回国際複合糖質シンポジウム	13. 8.18 ～ 13. 8.26
永富 成紀	放射線育種農場長	タイ バンコック	RI・放射線による植物の品種改良セミナー	13. 8.19 ～ 13. 8.25

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
西村 実	放射線育種場 突然変異遺伝子 T	タイ バンコック	RI・放射線による植物の品種改良セミナー	13. 8.19 ～ 13. 8.25
矢野 昌裕	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	タイ バンコック	RI・放射線による植物の品種改良セミナー	13. 8.19 ～ 13. 8.21
門脇 光一	遺伝資源研究 G 遺伝多様 T	スウェーデン・アルナープ スペイン・コルドバ	共同研究・トリティシエ連第 4 回国際シポジウム	13. 8.22 ～ 13. 9.14
中島 信彦	昆虫適応遺伝研 G 昆虫共生媒介機構 T	オランダ ノードディカーハウト	第34回無脊椎動物病理学会	13. 8.24 ～ 13. 9. 1
内藤 充	発生分化研究 G 発生制御 T	アメリカ タホ	第 3 回形質転換動物に関する国際会議	13. 9. 8 ～ 13. 9.15
西川智太郎	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	スペイン コルドバ	トリティシエ連第 4 回国際シポジウム	13. 9. 9 ～ 13. 9.14
大橋 祐子	分子遺伝研究 G 分子遺伝上席	オーストリア ウィーン	植物のタンパク質リン酸化に関する国際会議	13. 9.10 ～ 13. 9.18
松本 隆	ゲノム研究 G 植物ゲノム T	アメリカ ワシントン	国際イネゲノム塩基配列コンソーシアム中間検討会	13.10.29 ～ 13.11. 2
井濃内 順	生体機能研究 G 生体上席	アメリカ サンディエゴ	第31回北米神経科学会大会、サテライトシンポジウム	13.11. 8 ～ 13.11.17
水野 洋	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	インド バンガーロール	第 4 回アジア結晶学会	13.11.16 ～ 13.11.26
藤本 瑞	生体高分子研究 蛋白機能 T	インド バンガーロール	第 4 回アジア結晶学会	13.11.16 ～ 13.11.23
美川 智	ゲノム研究 G 家畜ゲノム T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14. 1.11 ～ 14. 1.18
林 武司	ゲノム研究 G 家畜ゲノム T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14. 1.11 ～ 14. 1.18
安江 博	ゲノム研究 G G G 上席研究官	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14. 1.11 ～ 14. 1.18
加来 久敏	遺伝資源研究 G 資源上席研究官	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14. 1.11 ～ 14. 1.18
落合 弘和	遺伝資源研究 G 生物分類 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14. 1.11 ～ 14. 1.18
馬場浩太郎	ゲノム研究 G 昆虫ゲノム T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14. 1.11 ～ 14. 1.18
桑名 芳彦	昆虫新素材開発研 G 生体機能模倣 T	アメリカ ラスベガス	第15回IEEE微小電子機械システムに関する国際会議	14. 1.19 ～ 14. 1.26
安江 博	ゲノム研究 G G G 上席研究官	アメリカ イリノイ	個体発生のゲノム機能に関してイリノイ大学と研究打合せ	14. 1.27 ～ 14. 1.31
米村 真之	昆虫生産工学研 G 遺伝子工学 T	チェコ チェスキーブディチェ	科学技術振興事業団研究協力者海外派遣事業に関わる事前調査	14. 2. 2 ～ 14. 2.11
小松田隆夫	遺伝資源研究 G 限界機能 T	ドイツ・キドリブルク スウェーデン・マルメ	国際共同研究（オオムギ多様性）	14. 2.24 ～ 14. 3.22
山口 博泰	放射線放育場 放射線利用 T	中国 北京	放射線育種研究状況の調査	14. 3.17 ～ 14. 3.22
石橋 純	生体防御研究 G 先天性免疫 T	アメリカ カンザス州立大学	若手研究員海外派遣 （昆虫の生体防御タンパクの研究）	14. 3.21 ～ 16. 3.20
米村 真之	昆虫生産工学研 G 遺伝子工学 T	チェコ	遺伝子組換え昆虫の多目的利用法の開発	14. 3.27 ～ 16. 3.26
[国際機関所管経費]				
安江 博	ゲノム研究 G G G 上席研究官	ドイツ ゲッティング	国際動物遺伝学会	13. 5. 2 ～ 13. 5. 8

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
町井 博明	企画調整部 研究調整官	中国 杭州	桑の動物生産利用に関するシンポジウム	13. 5.13 ～ 13.5.18
大川 安信	新生資源創出研 G 創出上席研究官	台湾 台中市	種子の生産・管理技術に関するワークショップ	13. 6.10 ～ 13. 6.16
田部井 豊	新生資源創出研 G 植物細胞光学 T	韓国 水原	組換え農作物の開発及び安全評価に関する意見交換	13. 6.12 ～ 13. 6.16
富田秀一郎	昆虫適応遺伝研 G 昆虫分子進化 T	アメリカ ワシントン大学	脱皮ホルモンレセプターのアイソフォーム特異的機能の 解明	13. 7.25 ～ 14. 7.24
永富 成紀	放射線育種場場長	インドネシア ジャカルタ	インドネシアジョクジャカルタにおけるソルガムの耐旱 魅性突然変異育種に関する専門家派遣	13. 8. 5 ～ 13. 8.12
長峰 司	ジーンバンク 植物資源 T	モンゴル	IPGRI東アジア地区会合	13. 8.13 ～ 13. 8.16
友岡 憲彦	遺伝資源研究 G 集団動態 T	モンゴル	IPGRI東アジア地区会合	13. 8.13 ～ 13. 8.16
梅原 洋佐	生理機能研究 G 窒素固定 T	デンマーク オーフス大学	マメ科植物における共生窒素固定根粒形成機構の解析	13. 9.12 ～ 14. 2. 1
高橋 透	発生分化研究 G 生殖再生 T	アメリカ カンザス大学	胎盤発達の制御機構とプロラクチン関連タンパク質に関 する研究	13.10.15 ～ 14.10.14
坪内 紘三	昆新素材開発研 G 素材特性 T	ベトナム	シルクの特性と新素材の開発についての研究会	13.10.21 ～ 13.10.28
佐々木卓治	ゲノム研究 G グループ長	フランス・パリ アメリカ・ワシントン	GENOPLANTEプロジェクト評価会議国際イネゲノム塩 基配列コンソーシアム中間検討会	13.10.23 ～ 13.11. 2
三田 和英	ゲノム研究 G G G 上席研究官	アメリカ ロードアイランド	昆虫ゲノム比較ワークショップとセミナー	13.10.27 ～ 13.11. 3
川崎 信二	生理機能研究 G 耐病性 T	中国 中南国民大学 武漢大学ほか	植物の耐病性機構に関する特別講義	13.11.4 ～ 13.11.13
奥田 隆	生体機能研究 G 生活史制御 T	ケニア ナイロビ	アフリカズイムシ幼虫休眠に関する共同研究	13.11.26 ～ 13.12.11
菊池 尚志	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	フィリピン マニラ	国際稲研究所マイクロアレイワークショップ	13.12. 2 ～ 13.12. 8
宮崎 尚時	ジーンバンク ジーンバンク長	フランス パリ	持続的農業システムのための遺伝資源の管理に関する共 同研究	14. 1.17 ～ 14. 1.20
田部井 豊	新生資源創出研 G 植物細胞工学 T	アメリカ セントルイス他	新規組換え農作物の開発状況に関する現地調査	14. 3. 3 ～ 14. 3.10
宮崎 尚時	ジーンバンク ジーンバンク長	イタリア ローマ	国際植物遺伝資源研究所（IPGRI）理事会	14. 3.10 ～ 14. 3.15
[農林水産省所管経費]				
高野 誠	生理機能研究 G 環境ストレス T	アメリカ コロンビア	第19回ミズーリシンポジウム	13. 5.29 ～ 13. 6. 5
大川 雅央	ジーンバンク G B 上席研究官	イタリア ローマ	FAO臨時食料・農業遺伝資源委員会およびFAO第1回遺 伝資源国際技術作業部会	13. 6.23 ～ 13. 7. 5
北本 宏子	遺伝資源研究 G 多様性評価 T	フランス オルセー	Kluyveromyces属酵母研究会	13. 7. 5 ～ 13. 7.10
林 長生	遺伝資源研究 G 多様性評価 T	アメリカ マディソン	第10回国際植物微生物相互作用会議	13. 7. 8 ～ 13. 7.15
大野 清春	新生資源創出研 G グループ長	アメリカ プロビデンス	アメリカ植物生理学会	13. 7.20 ～ 13. 7.27
金子 浩之	遺伝資源研究 G 生殖質保存 T	カナダ オタワ	第34回米国繁殖学会年次大会	13. 7.28 ～ 13. 8. 3
平井 一男	企画調整部 首席研究調整官	マレーシア・クアラルンプール ベトナム・ハノイ	第4回アジア太平洋昆虫学会議・ハノイ農業大学におけ る研究協力並びに集中講義	13. 8.13 ～ 13. 8.25

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
稲垣 言要	生理機能研究 G 光合成 T	オーストラリア ブリスベン	第12回国際光合成会議	13. 8.16 ～ 13. 8.24
深山 浩	生理機能研究 G 光合成 T	オーストラリア ブリスベン	第12回国際光合成会議	13. 8.16 ～ 13. 8.24
三橋 渡	昆虫適応遺伝研 G 昆虫病理 T	オランダ ノードディカーハウト	第34回無脊椎動物病理学会	13. 8.24 ～ 13. 9. 1
小松田隆夫	遺伝資源研究 G 限界機能 T	ドイツ・スペイン スウェーデン スウェーデン農業大学	国際共同研究「オオムギ多様性」トリティシュ連第4回 国際シンポジウム他	13. 8.26 ～ 13. 9.22
菊池 尚志	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	タイ バンコク	農業バイオテクノロジーの国際セミナー	13. 9. 2 ～ 13. 9. 8
富山 雅光	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	ハンガリー セゲド	国際エネルギー会議第15部会合同ワークショップ	13. 9. 5 ～ 13. 9.14
徳永 智之	発生分化研究 G 分化機構 T	アメリカ タホ	第3回国際遺伝子組換え動物会議	13. 9. 8 ～ 13. 9.15
高橋 清也	発生分化研究 G 生殖再生 T	アメリカ タホ	第3回国際遺伝子組換え動物会議	13. 9. 8 ～ 13. 9.15
小松 節子	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	オーストラリア キャンベラ	第2回国際プロテオミクス学会	13. 9.29 ～ 13.10. 4
服部 誠	昆虫適応遺伝研 G 昆・植相互作用 T	中国 中国水稻研究所	中国における移動性イネウンカ類の総合管理技術の開発	13.10. 2 ～ 13.10.31
阿部 啓之	企画調整部 企画室	イタリア サルソマジョーレ	第4回農業動物内分泌学国際会議	13.10. 5 ～ 13.10.12
塚田 益裕	昆新素材開発研 G 新素材上席研究官	韓国 忠州市	第44回韓国蚕糸学会	13.10.14 ～ 13.10.20
竹田 敏	昆新素材開発研 G グループ長	韓国 忠州市	第44回韓国蚕糸学会	13.10.17 ～ 13.10.20
宮崎 尚時	ジーンバンク ジーンバンク長	ドイツ・ボン イタリア・ローマ	生物多様性に関する条約；遺伝資源へのアクセスと利益 配分に関する作業部会 第31回FAO総会事前打ち合わせ	13.10.21 ～ 13.10.31
川崎健次郎	企画調整部 研究調整官	アメリカ ワシントン	比較昆虫ゲノムワークショップ	13.10.27 ～ 13.11.1
坂田 克己	ゲノム研究 G ゲノム情報 T	アメリカ ワシントン	国際イネゲノム塩基配列コンソーシアム中間検討会	13.10.29 ～ 13.11. 1
大浦 正伸	昆虫生産工学研 G 増殖システム T	中国 蘇州大学	国際会議準備委員会及び農業科学と技術の国際会議	13.10.31 ～ 13.11.10
白田 和人	ゲノム研究 G G B 上席研究官	イタリア ローマ	第31回FAO総会	13.11. 1 ～ 13.11. 7
大野 清春	新生資源創出研 G グループ長	アメリカ カリフォルニア	第2回国際システムバイオロジー会議	13.11.3 ～ 13.11.9
古澤 軌	発生分化研究 G 分化機構 T	韓国 ソウル	幹細胞と治療のためのクローニング	13.11.23 ～ 13.11.26
峰澤 満	ジーンバンク 動物資源 T	タイ バンコク	FAOアジア地域トレーニングワークショップ	13.11.25 ～ 13.12.2
井上 尚	生体機能研究 G 昆虫神経 T	インド コインバトール	日印二国間研究の打合せ・講演・情報交換 (バラチャー大学)	13.12.2 ～ 13.12.13
黄川田隆洋	生体機能研究 G 代謝調節 T	アメリカ サンディエゴ	2001年アメリカ昆虫学会年会	13.12.6 ～ 13.12.14
竹田 敏	昆新素材開発研 G グループ長	フランス リヨン	国際養蚕委員会 (ISC) 執行委員会	13.12.16 ～ 13.12.20
門間 充	生体高分子研 G 蛋白機能 T	アメリカ ハワイ	太平洋計算生物学シンポジウム2002	14.1.2 ～ 14.1.9

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
永井 卓	発生分化研究 G 発生工学 T	ブラジル イグアス	第27回国際胚移植学会、サテライトシンポジウム	14.1.8 ～ 14.1.19
今井 敬	発生分化研究 G 生殖再生 T	ブラジル イグアス	国際胚移植学会	14.1.10 ～ 14.1.19
細江 実佐	発生分化研究 G 分化機構 T	ブラジル イグアス	国際胚移植学会	14.1.10 ～ 14.1.19
肥後 健一	分子遺伝研究 G グループ長	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
森 昌樹	分子遺伝研究 G 遺伝発現 T	アメリカ カリフォルニア タホ	キーストンシンポジウム「植物シグナル伝達における特異性とクロストーク」,他	14.1.21 ～ 14.1.29
高野 誠	生理機能研究 G 環境ストレス T	アメリカ カリフォルニア タホ	キーストンシンポジウム「植物シグナル伝達における特異性とクロストーク」,他	14.1.22 ～ 14.1.29
岩本 政雄	ゲノム研究 G DNAバンク	オーストラリア ビドエラ	ジーンバンク事業における海外探索事前調査	14.1.28 ～ 14.2.3
大野 清春	新生資源創出研 G グループ長	アメリカ ボストン	全米科学振興協会年会	14.2.13 ～ 14.2.21
小山 朗夫	昆虫生産工学研 G 増殖システム T	インドネシア ジョグジャカルタ	桑遺伝資源に関する探索・調査	14.2.17 ～ 14.2.28
石井 卓朗	ジーンバンク 植物資源 T	ミャンマー ナムサング等	豆類の海外探索調査	14.2.23 ～ 14.3.16
内藤 充	発生分化研究 G 発生制御 T	アメリカ キーストン	キーストンシンポジウム (幹細胞：起源、消長、機能)	14.3.16 ～ 14.3.25
古澤 軌	発生分化研究 G 分化機構 T	アメリカ キーストン	キーストンシンポジウム (幹細胞：起源、消長、機能)	14.3.16 ～ 14.3.25
竹之内敬人	生体機能研究 G 動物細胞機能 T	アメリカ・ピッツバーク ベセスタ他	組織成長工学国際会議出席と研究打合せ	14.3.18 ～ 14.3.29
竹澤 俊明	生体機能研究 G 動物細胞機能 T	アメリカ・ピッツバーク ベセスタ他	組織成長工学国際会議出席と研究打合せ	14.3.18 ～ 14.3.29
[研究交流促進法]				
大川 安信	新生資源創出研 G 創出上席研究官	ロシア モスクワ	新規除草剤と除草剤抵抗性形質転換植物を用いた雑草防除国際会議	13.4.22 ～ 13.4.30
佐々木卓治	ゲノム研究 G グループ長	フィリピン マニラ	アジア農業会議	13.4.23 ～ 13.4.26
富山 雅光	遺伝資源研究 G 多様性評価 T	アメリカ ブリッケンリッジ	第23回燃料と合成のバイオテクノロジーシンポジウム	13.5.5 ～ 13.5.12
坂田 克己	ゲノム研究 G ゲノム情報 T	フィリピン ロスバニョス	国際穀物情報システム会議	13.5.13 ～ 13.5.18
佐藤 守	昆虫適応遺伝研 G 適応上席研究官	アメリカ オーランド	第101回米国微生物学会	13.5.20 ～ 13.5.24
馬越 淳	生体高分子研究 G 超分子機能 T	イタリア ガルグナーノ	ヨーロッパ高分子集会2001	13.5.26 ～ 13.6.3
稲垣 言要	生理機能研究 G 光合成研 T	アメリカ コロンビア	ミズーリシンポジウム 「植物光生物学」	13.5.28 ～ 13.6.2
大蔵 聡	生体機能研究 G 神経内分泌 T	マレーシア ペナン	第2回生殖腺刺激ホルモン比較生物学国際シンポジウム	13.6.1 ～ 13.6.5
高岩 文雄	新生資源創出研 G 遺伝子操作 T	ブラジル ゴイアニア市	第4回ラテンアメリカ植物バイオテクノロジー集会	13.6.4 ～ 13.6.11
宮澤 光博	昆新素材開発研 G 素材特性 T	韓国 慶州	第10回近赤外分光国際会議	13.6.10 ～ 13.6.15
辻 典子	生体防御研究 G 分子免疫 T	アメリカ バーモント州	FASEB会議 (米国実験生物学会)	13.6.27 ～ 13.7.6

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
井上 尚	生体機能研究 G 昆虫神経生理 T	アメリカ カリフォルニア	第 8 回国際化学生態学会大会	13.7.8 ～ 13.7.11
西村麻里江	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	アメリカ ウィスコンシン大学	第10回国際植物・微生物相互作用会議	13.7.9 ～ 13.7.14
賀来 華江	生体高分子研究 G 糖鎖機能 T	アメリカ ウィスコンシン大学	第10回植物・微生物相互作用国際会議	13.7.10 ～ 13.7.14
馬越 淳	生体高分子研究 G 超分子機能 T	オランダ アインドボーン	ヨーロッパ国際高分子集会	13.7.14 ～ 13.7.20
馬越 芳子	昆虫生産工学研 G 昆虫産生物利用 T	オランダ アインドーヘン	欧州高分子2001国際集会	13.7.14 ～ 13.7.20
三田 和英	ゲノム研究 G 昆虫ゲノム T	インド ハイデラバード	カイコゲノムワークショップ	13.7.19 ～ 13.7.26
野口 純子	遺伝資源研究 G 生殖質保存 T	カナダ オタワ	第34回米国繁殖学会年次大会	13.7.28 ～ 13.8.4
井上 尚	生体機能研究 G 昆虫神経生理 T	デンマーク ヘルシンゲル	第11回国際昆虫植物関連学会議	13.8.4 ～ 13.8.11
今野浩太郎	昆虫適応遺伝研 G 蚕・植相互作用 T	マレーシア クアラルンプール	第 4 回アジア太平洋昆虫学会議	13.8.14 ～ 13.8.17
井上 尚	生体機能研究 G 昆虫神経生理 T	マレーシア クアラルンプール	第 4 回アジア太平洋昆虫学会議	13.8.14 ～ 13.8.17
原 和二郎	ゲノム研究 G 昆虫ゲノム T	フランス・パリ ギリシャ・アテネ	鱗翅目昆虫の分子生物学と遺伝学の研究集会	13.8.17 ～ 13.8.25
奥田 敬子	ゲノム研究 G 昆虫ゲノム T	フランス・パリ ギリシャ・アテネ	鱗翅目昆虫の分子生物学と遺伝学の研究集会	13.8.18 ～ 13.8.25
森下 敏和	放射線育種場 放射線利用 T	韓国 チュンチョン	第 8 回国際ソバシンポジウム	13.8.29 ～ 13.9.4
馬越 淳	生体高分子研究 G 超分子機能 T	フランス モンペリエ	第 3 回ミレニアム国際高分子集会	13.8.31 ～ 13.9.8
河内 宏	生理機能研究 G 窒素固定 T	ドイツ ゴルム	モデルマメ科植物の分子遺伝学会	13.9.14 ～ 13.9.20
前田 美紀	生体高分子研究 G 超分子機能 T	ドイツ エルランゲン	分子グラフィックスとモデリング学会国際会議	13.9.15 ～ 13.9.21
馬越 淳	生体高分子研究 G 超分子機能 T	スペイン マドリード	国際材料加工先端技術会議	13.9.17 ～ 13.9.21
馬越 芳子	昆虫生産工学研 G 昆虫産生物利用 T	スペイン マドリード	国際材料加工先端技術会議	13.9.17 ～ 13.9.21
梶原 英之	生体高分子研究 G 生体膜機能 T	オーストラリア キャンベラ	ComBio2001およびIPC2001	13.9.29 ～ 13.10.4
佐々木卓治	ゲノム研究 G グループ長	タイ バンコク・チェンマイ	バイオタイランド2001	13.11.6 ～ 13.11.14
三田 和英	ゲノム研究 G G G 上席研究官	アメリカ ワシントン	第41回アメリカ細胞生物学会年会	13.12.7 ～ 13.12.14
馬越 淳	生体高分子研 G 超分子機能 T	ドイツ イエナ市	第 9 回国際高分子結晶化学会	14.3.18 ～ 14.3.30
[生研機構]				
橋爪 一善	発生分化研究 G 生殖再生 T	アメリカ カンサス・ベセスタ	第 6 回雌性生殖系細胞外マトリックスに関する国際会議 他	13.5.9 ～ 13.5.17
竹澤 俊明	生体機能研究 G 動物細胞機能 T	アメリカ ベセスタ	第 6 回雌性生殖系細胞外マトリックスに関する国際会議 他	13.5.10 ～ 13.5.17
山崎 俊正	生体高分子研究 G 超分子機能 T	アメリカ サンディエゴ	第 2 回国際ペプチド学会及びカルフォルニア大学におけ る研究調査	13.6.9 ～ 13.6.20

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
村田 悦子	生体高分子研究 G 超分子機能 T	アメリカ サンディエゴ	第 2 回国際ペプチド学会	13.6.9 ～ 13.6.16
上野 節子	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	ポルトガル リスボン	第27回欧州生化学会	13.6.29 ～ 13.7.7
石川 雅也	遺伝資源研究 G 限界機能 T	フィンランド ヘルシンキ	第 6 回国際植物耐寒性セミナー	13.6.29 ～ 13.7.8
廣近 洋彦	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	チェコ ブルノ	第17回国際植物生長調節会議	13.6.30 ～ 13.7.9
山崎 宗郎	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	チェコ ブルノ	第17回国際植物生長調節会議	13.6.30 ～ 13.7.9
高辻 博志	生理機能研究 G 形態発生 T	チェコ ブルノ	第17回植物生長物質国際会議	13.6.30 ～ 13.7.8
矢野 昌裕	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	イギリス ノーリッチ	相転換の分子機構に関するワークショップ	13.7.9 ～ 13.7.15
澁谷 直人	生体高分子研究 G グループ長	アメリカ マディソン	第10回国際植物微生物相互作用会議	13.7.9 ～ 13.7.16
秋本 千春	生体高分子研究 G 糖鎖機能 T	アメリカ マディソン	第10回国際植物微生物相互作用会議	13.7.9 ～ 13.7.16
田部井 豊	新生資源創出研 G 植物細胞工学 T	アメリカ マディソン	第10回国際植物微生物相互作用会議	13.7.9 ～ 13.7.16
川越 靖	新生資源創出研 G 遺伝子操作 T	アメリカ プロビデンス	アメリカ植物生理学会	13.7.20 ～ 13.7.27
菊池 尚志	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	アメリカ プロビデンス	アメリカ植物生理学会	13.7.20 ～ 13.7.28
岸本 直己	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	アメリカ ロードアイランド	米国植物生理学会2001会議	13.7.20 ～ 13.7.27
高橋 透	発生分化研究 G 生殖再生 T	カナダ オタワ	第34回米国生殖生理学会	13.7.26 ～ 13.8.3
渡辺 裕文	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	アメリカ アンドバー他	ゴードン・リサーチ・カンファレンス、テキサス農工大学において研究連絡	13.7.27 ～ 13.8.8
田村 俊樹	昆虫生産工学研 G 遺伝子工学 T	フランス・リヨン ギリシア・コリンバリ	鱗翅目昆虫ゲノム解析のための国際コンソーシアム設立準備会・鱗翅目昆虫の分子生物ワークショップ	13.8.14 ～ 13.8.28
三田 和英	ゲノム研究 G G G 上席研究官 2	フランス・リヨン ギリシア・コリンバリ	鱗翅目昆虫ゲノム解析のための国際コンソーシアム設立準備会・鱗翅目昆虫の分子生物ワークショップ	13.8.14 ～ 13.8.28
賀来 華江	生体高分子 G 糖鎖機能 T	オランダ ハーグ	第16回国際複合糖質シンポジウム	13.8.18 ～ 13.8.26
田村 俊樹	昆虫生産工学研 G 遺伝子工学 T	アメリカ ワシントン他	比較昆虫ゲノムワークショップ参加研究打ち合わせ（ロードアイランド大学）	13.10.27 ～ 13.11.3
田部井 豊	新生資源創出研 G 植物細胞工学 T	アメリカ ノースカロライナ	組換え体と環境に関する国際会議	13.11.27 ～ 13.12.2
菊池 尚志	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
川崎 信二	生理機能研究 G 耐病性 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
宮尾安藝雄	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
田中 宥司	新生資源創出研 G 新作物素材開発 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
田部井 豊	新生資源創出研 G 細胞工学工学 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18

氏 名	所 属	派 遣 先	研究課題または用務	派遣期間
大竹 祐子	生理機能研究 G 環境ストレス T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
佐々木卓治	ゲノム研究 G グループ長	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
小松 節子	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
吉川 学	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
渡部 聡	発生分化研究 G 発生工学 T	アメリカ サンディエゴ	第10回植物・動物及び微生物ゲノム会議	14.1.11 ～ 14.1.18
岸本 直己	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	アメリカ カリフォルニア州	キーストンシンポジア2002 - 植物シグナル伝達 -	14.1.21 ～ 14.1.29
菊池 尚志	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	タイ バンコク	国際バイオインフォマテックス会議	14.2.4 ～ 14.2.9
田中 博光	生体防御研究 G 先天性免疫 T	アメリカ タオス	キーストン・シンポジウム (先天免疫部門)	14.2.11 ～ 14.2.19
岸本 直己	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	アメリカ ボストン	マイクロアレイ国際会議	14.2.12 ～ 14.2.18
[国際協力事業団]				
西出 照雄	昆虫生産工学研 G グループ長	インド マイソール等	インド二化性養蚕技術実用化促進計画終了時評価調査	13.7.15 ～ 13.8.1
長峰 司	ジーンバンク 植物資源 T	ネパール カトマンズ	植物遺伝資源の生息域内保存に関するワークショップ	13.9.11 ～ 13.9.16
加来 久敏	遺伝資源研究 G 資源上席研究官 2	ミャンマー	「ミャンマーシードバンク計画」に係る短期派遣	13.9.19 ～ 13.10.12
長峰 司	ジーンバンク 植物資源 T	ミャンマー ヤンゴン・イエジン	「ミャンマーシードバンク計画」終了時評価調査	13.10.21 ～ 13.11.3
山本 俊雄	昆虫生産工学研 G 新蚕系技術 T	ネパール カブレ他	「養蚕振興計画」調査団	13.10.14 ～ 13.10.20
友岡 憲彦	遺伝資源研究 G 集団動態 T	ミャンマー	ミャンマーシードバンク計画短期専門家派遣 (探索収集)	13.11.5 ～ 13.11.25
柳川 弘明	基盤推進官	インド バンガロール他	インド養蚕技術普及強化計画短期調査団	13.11.27 ～ 13.12.22
ダンカン・ ヴォーン	遺伝資源研究 G 集団動態 T	スリランカ ペラデニヤ	植物遺伝資源の保存と管理に関する在外技術研修講師 (分子技術)	14.2.12 ～ 14.3.6

研究員の海外への派遣人数の集約

	長期	中期	短期	国研集会
文部科学省所管経費	5(3)		8	31
国際機関経費	3		11	5
農林水産省所管経費			14	32
研究交流促進法				33
生研機構経費			3	34
国際協力事業団経費			8	
合 計	8(3)		44	135

注) 長期: 6 ヶ月以上、中期: 1 ～ 6 ヶ月未満、短期: 1 ヶ月未満
() は前年度からの派遣者 (内数)

(2) 国内派遣等

職員の研修

氏 名	所 属	主 催 者	研 修 名	研修期間
秋月 岳	企画調整部 企画室	総務庁・人事院	平成13年度 種試験採用者研修	13. 4. 3 ～ 13. 4.19
水野 浩志	企画調整部 企画室	農林水産省 農林水産技術会議 事務局		
立松謙一郎	企画調整部 企画室			
鈴木 俊一	企画調整部 企画室			
竹内 香純	ジーンバンク 微生物資源 T	科学技術庁研究交流センター	第24回英語研修	13. 4.16 ～ 13.12.10
松本由記子	生体防御研究 G			
吉川 学	疾患モデル動物 T			
小川 泰一	分子遺伝研究 G			
	遺伝子応答 T			
	新生資源創出研 G			
	植物細胞工学 T			
飯島 佐智	企画調整部 技術移転科	農林水産研修所	平成13年度 種試験採用者研修	13. 4.23 ～ 13. 4.26
佐藤 裕之	総務部 庶務課			
馬場浩太郎	ゲノム研究 G	(社) 日本アイソトープ協会	第 1 種放射線取扱主任者講習	13. 4.23 ～ 13. 4.27
	昆虫ゲノム T			
馬場 俊則	総務部 松本総務分室	農林水産研修所	平成13年度管理者研修 (第 2 班)	13. 5.21 ～ 13. 5.25
藤田 博之	企画調整部 技術移転科	農林水産研修所	平成13年度係長行政研修 (第 1 班)	13. 7. 2 ～ 13. 7.13
内山 兵一	企画調整部 業務第 2 科	茨城県立県民文化センター	平成13年度毒物劇物取扱者試験 の準備講習会	13. 7. 5 ～ 13. 7. 6
坪倉 義弘	企画調整部 業務第 2 科			
鈴木 俊一	発生分化研究 G	日本原子力研究所	日本原子力研究所国際原子力総合技術研究セ ンター	13. 7. 9 ～ 13. 8. 1
立松謙一郎	発生工学 T	国際原子力総合技 術研究センター	(第269回基礎課程)	
	昆虫適応遺伝研 G			
	昆虫遺伝 T			
田口 和代	総務部 会計課	人事院関東事務局	第73回関東地区中堅係員研修	13. 7.10 ～ 13. 7.13
萱野 暁明	企画調整部 研究交流科	国際協力事業団	平成13年度 (第21回) 研究員 受入機関指導者英語研修 (週 2 回)	13. 7.16 ～ 13.10.25
大竹 祐子	新生資源創出研 G	国際協力事業団	平成13年度 (第21回) 研究員 受入機関指導者英語研修 (週 1 回)	13. 7.17 ～ 14. 1.29
田中 宥司	新作物素材開発 T			
	新生資源創出研 G			
	新作物素材開発 T			
服部 幸子	ジーンバンク 遺伝資源管理課	総務省行政管理局	情報システム統一研修 (第 5 回外注管理コース)	13. 7.30 ～ 13. 8. 3
宇野 康雄	企画調整部 技術移転科	農林水産研修所	平成13年度一般職員行政基礎研修 (行政コース : 第 2 班)	13. 8.30 ～ 13. 9.28
栗山 賢治	企画調整部 広報普及課			
山本 徳義	企画調整部 情報資料課	総務省行政管理局	情報システム統一研修 (第28回ネットワーク基礎コース)	13.11. 5 ～ 13.11. 8

氏 名	所 属	主 催 者	研 修 名	研修期間
江口 和紀	総務部 庶務課	人事院関東事務局	第29回関東地区係長研修	13.11.13 ～ 13.11.16
中川 至	総務部 大宮総務分室	農林水産研修所	平成13年度一般職員行政研修	13.11.26 ～ 13.12. 7
岸 徹	企画調整部 情報資料課	農林水産技術会議事務局	農学情報機能部門研修	13.12. 4 ～ 13.12. 6
酒谷 秀俊	総務部 管理課	総務省統計センター 統計研修所	平成13年度統計研修専科 (単科課程<冬季>-表計算ソフトを用いた統計分析-)	13.12. 4 ～ 13.12.14
吉田 次男	企画調整部 業務第2科	農林水産研修所	農業機械化研修	13.12.11 ～ 13.12.13
伊藤 義弘	企画調整部 業務第2科	(社)茨城県危険物安全協会	危険物取扱者保安講習	13.12.11
飯泉 栄二	企画調整部 業務第2科			
飯泉 敏勝	企画調整部 業務第2科			
大内 聡子	総務部 会計課	農林水産研修所	平成13年度課長補佐研修	14. 1.21 ～ 14. 1.25
富山 浩和	企画調整部 業務第2科	農林水産研修所	ほ場管理者研修 (高性能農業機械整備技術研修)	14. 1.21 ～ 14. 2.12
宮下 進	企画調整部 広報普及課	農林水産研修所	平成13年度係長行政研修 (第2班)	14. 1.28 ～ 14. 2. 8

講師の派遣

研究課題名	開催年月日	開催場所	派遣講師
平成13年度 種試験採用者専門研修 (研究職コース)の実施について	12. 4.16 ～ 12. 4.19	農林水産技術会議 事務局筑波事務所	大橋 祐子、高岩 文雄 ダンカン・ヴォーン、山川 稔
平成13年度中央畜産技術研修会 (畜産新技術及び畜産行政)	13. 5.15	中央畜産研修施設	徳永 智之
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 5.22	農業生物資源研究所	宮崎 尚時
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 5.28	農業生物資源研究所	大川 雅央
日本植物工場学会	13. 6. 1	(財)機械振興会館6階会議室	萱野 暁明
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 6. 4	農業生物資源研究所	松本 隆
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 6. 5	農業生物資源研究所	田中 宥司、門脇 光一
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 6. 6	農業生物資源研究所	加来 久敏、白田 和人
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 6.18	農業生物資源研究所	ダンカン・ヴォーン
稲研究及び稲作(アジア諸国)コース	13. 6.28	国際協力事業団	加来 久敏
DNAマーカーを用いた水稻新品種の 育成	13. 6.28 ～ 13. 6.29	富山県農業技術センター 農業試験場	矢野 昌裕
蚕・繭糸類の高度利用技術の開発	13. 7.19	岐阜県生物産業技術研究所	羽賀 篤信
稲研究及び稲作(アジア諸国)コース	13. 7.23	国際協力事業団	加来 久敏
平成13年度中央畜産技術研修会 (畜産統計処理)	13. 7.23	中央畜産研修施設	武田 尚人
青少年のための科学の祭典2001全国大会	13. 8. 5 ～ 13. 8. 7	(財)日本科学技術振興財団	望月 淳子
科学技術館夏休み特別展	13. 8. 6 ～ 13. 8. 7	(財)日本科学技術振興財団	黄川田隆洋、田中 博光 谷合幹代子、川本 夏雄

研究課題名	開催年月日	開催場所	派遣講師
数千年も続く雑穀絶滅の危機	13. 8.19 ～ 13. 8.20	岩手県盛岡市山王ホテル	中山 博貴
遺伝子組換え農作物を市民が考える会議	13. 9.26	神奈川中小企業センター	田部井 豊
平成13年度植物遺伝資源コース技術研修	13. 9.26	農業生物資源研究所	長峰 司
平成13年度海外集団研修 「牛受精卵移植技術コース」	13.10. 1	家畜改良センター	今井 敬
遺伝子組換え農作物を市民が考える会議	13.10. 6 ～ 13.10. 7	神奈川中小企業センター	田部井 豊
植物のストレス応答の分子機構	13.10.16	岡山大学	大橋 祐子
動物バイオテクノロジーの現状と展望	13.10.16	日本農業研究所	安江 博
天敵利用と天敵育種の展望	13.10.18	岡山大学	野田 隆志
バイオサイエンスセミナー	13.10.18 ～ 13.10.19	名古屋大学生物分子 応答研究センター	大橋 祐子
平成13年度海外集団研修「豚育種・生産 技術コース」	13.10.22 ～ 13.10.23	家畜改良センター	大西 彰
植物遺伝資源の収集、評価及び育種への 利用	13.10.30	国際協力事業団	ダンカン・ヴォーン
作物育種におけるマーカー選抜の現状と 展望	13.11. 8 ～ 13.11. 9	北海道立中央農業試験場	矢野 昌裕
平成13年度全国養蚕振興研修	13.11.27	ホテル ルポール麹町	西出 照雄
セミナー「バイオテクノロジーにおける 昆虫の利用及び今後の展望」	13.11.30	静岡大学	宮澤 光博
平成13年度植物防疫官専門研修 (植物病理コース)	13.12. 5	植物防疫所研修センター	佐藤 豊三
技術講習会	14. 1.25	家畜改良センター	三橋 忠由
シルクを素材にした生体機能性材料	14. 2.15	岐阜県生物産業技術研究所	玉田 靖
第6回豚新技術開発研究会	14. 2.18 ～ 14. 2.19	家畜改良センター	大西 彰
平成13年度農業中核研究員養成研修	14. 3. 5	農林水産共用会議室	高岩 文雄
第11回加速器利用技術セミナー	14. 3. 6 ～ 14. 3. 7	テクノアークしまね情報21C棟	永富 成紀
畜産新技術普及推進事業に係る近畿・ 中国四国地域技術研修	14. 3.13 ～ 14. 3.14	家畜改良センター	今井 敬

2. 受 入 等

(1) 海外からの受入

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
[STAフェローシップ]				
Kim, S.-H. (金 尚賢)	韓国 (農業科学研究所)	生体防御研究 G 先天性免疫 T	昆虫における生体防御関連蛋白質遺伝子の同定と機能解析	11. 5. 6 ~ 13. 5. 5
Maxim, P.	ルーマニア (穀物工業作物研究所)	遺伝資源研究 G 限界機能 T	植物細胞の再分化機構の分子遺伝学的解明	11.10. 1 ~ 13. 9.30
Day, R.B.	アメリカ (テネシー大学)	生体高分子研究 G 糖鎖機能 T	イネのキチン結合原形質膜タンパク質の構造と機能	11.12.16 ~ 13.12.15
Shen, S. (沈 世華)	中国 (科学院植物研究所)	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	高等植物における低温ストレスによる生体内情報伝達機構の解明と応用	11.12.17 ~ 13.12.16
Wang, X. (王 新望)	中国 (科学院遺伝学研究所)	遺伝資源研究 G 集団動態 T	Vigna属野生種におけるマイクロサテライトマーカーの発達とその利用による有用遺伝子マッピング	12. 1.14 ~ 14. 1.13
Botchkarev, V.V.	ロシア (畜産研究所)	生体機能研究 G 動物遺伝子機能 T	鶏・げっ歯類ラジェーションハイブレット用いた鶏抗病性遺伝子マッピングに関する研究	12. 1.18. ~ 14. 1.17
Zhu, D.-H. (朱 道弘)	中国 (中央森林資源大学)	生体機能研究 G 生活史制御 T	バッタ類の相変異制御機構の解明：黒化誘導ペプチドの機能と多様性	12. 3.15 ~ 14. 3.14
Ponnuvel, K. M.	インド (中央蚕糸研究訓練所)	生体防御研究 G 先天性免疫 T	昆虫の抗微生物蛋白質遺伝子の発現誘導機構	12. 4.10 ~ 14. 3.14
Wang, C. (王 春台)	中国 (華中農業大学)	生理機能研究 G 耐病性 T	イネのいもち病に対する圃場抵抗性遺伝子の単離	12. 6.17 ~ 14. 6.16
Chen, F. (陳 凡)	中国 (中国科学院発生生物学研究所)	遺伝資源研究 G 限界機能 T	植物の凍結制御に関わるタンパク質遺伝子の解析	12. 7. 2 ~ 14. 7. 1
Chechetka, S. A.	ロシア (ボロネツ市医学研究所)	生理機能研究 G 窒素固定 T	マメ科モデル植物ミヤコグサを用いた根粒菌Nodファクターに対する応答機構の解析	12. 7.26 ~ 14. 7.25
Patel, O.V.	ザンビア (ザンビア大学)	発生分化研究 G 生殖再生 T	ウシ妊娠初期における受精胚の死滅と黄体機能に関する研究	12. 8.24 ~ 14. 8.23
Ogoyi, D.O.	ケニア (ナイロビ大学)	ゲノム研究 G 昆虫ゲノム T	カイコのゲノム解析における効率的な遺伝子の単離と染色体FISHによる遺伝子の座位決定	12. 9.23 ~ 14. 9.22
Roller, L.	スロバキア (動物アカデミー研究所)	発生分化研究 G 成長制御 T	昆虫の新規神経ペプチドの合成分泌を制御する分子機構	12.11. 1 ~ 13.10.31
Natesan, S.	インド (タミールナドゥー) 大学	遺伝資源研究 G 限界機能 T	分子生物学的手法によるオオムギ属植物形態形成遺伝子の解析	12.12. 1 ~ 14.11.30
He, C. (何 聰芬)	中国 (河北師範大学)	遺伝資源研究 G 限界機能 T	オオムギ属の遺伝的多様性と進化に関する研究	12.12. 1 ~ 14.11.30
Yang, S. (楊 世海)	中国 (吉林農業大学)	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	ゲノム機能解明のためのプロテオーム解析手法の確立と応用	12.12.18 ~ 14.12.17
Samadder, P. P.	カナダ (天然ガス会社)	分子遺伝研究 G 遺伝子修飾 T	植物ゲノムにおける転写後型ジーンサイレンシングの分子機構	13. 1. 4 ~ 15. 1. 3
Khan, M.M.	バングラディッシュ (原子力農業研究所)	生理機能研究 G グルーブ長	内生窒素固定菌アセトバクタージアゾトロフィカスのサトウキビへの感染経路の解明	13. 2.15 ~ 13. 5.14
Han, O.-K. (韓 玉圭)	韓国 (韓京大学)	遺伝資源研究 G 集団動態 T	アズキにおける栽培化関連遺伝子のマッピング	13. 3. 1 ~ 15. 2.28

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
Lo,N.	オーストラリア	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	無脊椎動物及び消化酵素遺伝子の分子系統解析	13. 3. 1 ～ 15. 2.28
Pillai,A.	インド（ケララ大学）	発生分化研究 G 発生機構 T	cDNAサブトラクション法を用いた線虫C.エレガンスの 遺伝子発現調節系に関する研究	13. 4. 1 ～ 14. 3.31
Sreekumar,S .	インド	ゲノム研究 G 昆虫ゲノム T	カイコのcDNAの分子遺伝学地図を利用した経済的・質 的形質の解析	13. 4.17 ～ 14. 3.31
[JSPSフェローシップ]				
Chen,H. Huiran,C.	中国（華中農業大学）	生理機能研究 G 耐病性 T	イネゲノム中のいもち病抵抗性関連遺伝子群の系統的分 析	13. 9. 1 ～ 15. 8.31
Reza,A.S.	バングラディシュ （ラジュシャヒ大学）	発生分化研究 G 成長制御 T	カイコの絹糸線を用いて、脱皮ホルモン及び幼若ホルモ ンの分子的作用機能を明らかにする。	13.10. 1 ～ 14. 9.30
Motlik,J.	チェコ（チェコ科学 アカデミー）	発生分化研究 G 発生工学 T	豚卵子の成熟に関わる諸要因に関する研究	13.10. 1 ～ 13.10.21
Men,A.E.	オーストラリア（ク イーンズランド大学）	生理機能研究 G 耐病性 T	高能率ゲノム走査法による根粒形成遺伝子近傍マーカ ーの探索と近傍物理地図の作製	13.10.12 ～ 13.12.10
Stefanova,V. N.	ロシア（全ロシア家 畜遺伝育種研究所）	生体機能研究 G 動物遺伝子機能 T	家畜育種に向けた、家畜発現遺伝子の遺伝的多様性の解 析	13.11. 1 ～ 14. 4.30
Azhaguvel,P	インド（タミルナジ ュ農業大学及び国際 半乾燥作物研究所）	遺伝資源研究 G 限界機能 T	オオムギ類花形成遺伝子 <i>Int-c</i> の分子マーカーによる高 密度連鎖地図作製	13.12. 6 ～ 15.12. 5
Fernandez,D. L.	アメリカ（カリフォ ルニア州立技術大学）	生体機能研究 G 動物脳神経機能 T	牛視床下部における成長ホルモン分泌調節機構に関する 研究	13.12. 8 ～ 13.12.21
Lee,J.M.	韓国	発生分化研究 G 発生機構 T	膜翅目昆虫における性決定に関与する遺伝子の同定およ びその機能解析	14. 1. 1 ～ 15.12.31
Bautista,N. S.	フィリピン	遺伝資源研究 G 集団動態 T	イネ属 C C ゲノム野生種における種分化および環境適応 性機構の解明	14. 1.15 ～ 16. 1.14
Nowak,B.	ポーランド（ヤギエ ロニアレ大学）	生体防御研究 G 分子免疫 T	消化管免疫機能の発達とトレランス誘導における自然免 疫シグナルの役割	14. 2. 1 ～ 16. 1.31
Badri,D.V.	インド（植物学研究 所）	遺伝資源研究 G 多様性評価 T	イネいもち病菌 <i>Magnaporthe grisea</i> の品種特異的病原 性因子の単離と特性解析	14. 3. 1 ～ 16. 2.28
Jiang,H.	中国（遼寧師範大学）	昆虫適応遺伝研 G 上席研究官	分子診断法によるファイトプラズマ等昆植物循環微生物 の生態特性の解明	14. 3. 1 ～ 16. 2.28
Chen,W.	中国（華中農業大学）	生理機能研究 G 窒素固定 T	マメ科モデル植物ミヤコグサを用いた共生窒素固定の分子 遺伝学的研究	14. 3.28 ～ 16. 3.27
Yang,D.	中国	ジーンバンク 動物資源 T	ニワトリの産肉形質に関するQTL解析	14. 3.28 ～ 16. 3.27
Agrawal,G.K.	ネパール	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	稲の穂発芽関連遺伝子の単離と機能解析	14. 3.30 ～ 16. 3.29
Damodaran, M.	インド（ケララ大学）	生体機能研究 G 生活史制御 T	神経ペプチドホルモン、アラトトロピン遺伝子のクロー ニングと分子特性の解明	14. 3.30 ～ 15. 1.29
Yang,K.	中国（中国農業科学 院）	生理機能研究 G 環境ストレス T	イネ未熟種子で特異的に発現するプロテインキナーゼ、 OSKの機能解析	14. 3.31 ～ 16. 3.30
[EU科学フェローシップ]				
Hajduch,M.	スロバキア（植物遺 伝学・生物工学大）	新生資源創出研 G 新作物素材開発 T	ババイヤにおける雄株特有DNAマーカーの特徴化	12. 3.12 ～ 14. 3.11
[JIRCASフェローシップ]				
Khan,M.A.	パキスタン（農業研 究センター）	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	プロテオーム解析技術利用によるイネにおける植物ホル モンの役割の解析	13. 8.27 ～ 14. 1.26
Zong,X.	中国（作物遺伝研究 所）	遺伝資源研究 G 集団動態 T	東アジアにおける近縁野生種複合の多様性解析	13.10. 1 ～ 14. 2.28

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
Nguyen,V.H.	ベトナム（畜産研究所）	ジーンバンク 動物資源 G	DNAマーカーを用いたベトナム豚遺伝資源の遺伝的評及び類縁関係に関する研究	13.10. 1 ～ 14. 2.28
Ardales,E.Y.	フィリピン（ロスバニョス大学）	遺伝資源研究 G 上席研究官	イネ白葉枯病に関する遺伝子のクローニングと機能解析	13.10.15 ～ 14. 2.28
[国際協力事業団]				
Wahyuni,S.	インドネシア（香辛、薬用植物研究所）	ジーンバンク ジーンバンク長	植物遺伝資源	13. 5. 7 ～ 13.11. 2
Abbasi,M.R.	イラン（種子、植物改良研究所）	ジーンバンク ジーンバンク長	植物遺伝資源	13. 5. 7 ～ 13.11. 2
Nsapato,L.E.	マウライ（チテズ研究所）	ジーンバンク ジーンバンク長	植物遺伝資源	13. 5. 7 ～ 13.11. 2
Sayim,I.	トルコ（農業農村省中央畑作物研究所）	ジーンバンク ジーンバンク長	植物遺伝資源	13. 5. 7 ～ 13.11. 2
Oo,T.M.	ミャンマー（中央農業研究所ジーンバンク）	ジーンバンク ジーンバンク長	植物遺伝資源	13. 5. 7 ～ 13.11. 2
Mallikarjuna	インド（繊維省中央蚕糸研究訓練所）	昆虫生産工学研 G 新蚕糸技術 T	蚕種製造技術	13. 5. 9 ～ 13. 8.16
Sharma,S.O.	インド（繊維省中央蚕糸研究訓練所）	昆虫生産工学研 G 新蚕糸技術 T	蚕飼育技術	13. 5. 9 ～ 13. 8.16
Joge,P.G.	インド（繊維省中央蚕糸研究訓練所）	昆虫生産工学研 G 新蚕糸技術 T	蚕品種維持技術	13. 5. 9 ～ 13. 8.16
Ibrahim,R.	マレーシア（マレーシア核技術研究所）	放射線育種場 放射線利用 T	植物育種および遺伝学の研修	13. 7.16 ～ 13. 7.27
Becker,W.F.	ブラジル（カサドル試験場）	ジーンバンク 微生物資源 T	落葉果樹病害の為の研究手法	13. 9.25 ～ 13. 9.28
Htay,M.T.	ミャンマー（中央農業研究所）	ジーンバンク 上席研究官	植物遺伝資源の保存・管理方法について	13.10.10 ～ 13.12.20
Maw,A.A.	ミャンマー（ミャンマーシードバンク）	ジーンバンク 植物資源 T	評価（植物遺伝資源評価法）	13.11.12 ～ 13.12.26
Sera,T.	ブラジル（サンパウロ大学）	放射線育種場 放射線利用 T	コーヒーの組織培養への低レベル放射による突然変異誘発に係る研究	13.11. 5 ～ 13.12. 8
Doukota,D.	ネパール（農業省産業昆虫課）	昆虫生産工学 G 新蚕糸技術 T	桑園管理・蚕飼育管理等の研修	14. 2. 7 ～ 14. 2.15
Pokharel,D. P.	ネパール（養蚕試験場）	昆虫生産工学 G 新蚕糸技術 T	桑園管理・蚕飼育管理等の研修	14. 2. 7 ～ 14. 2.15
Newingham, M.C.V.	フィリピン（フィリピンイネ研究所）	ジーンバンク 植物資源 T	バイオテクノロジー（イネ）の研修	14. 2.13 ～ 14. 7.17
Soe Myint	ミャンマー（農業公社中央農業研究所）	ジーンバンク 植物資源 T	シードバンク計画カウンターパート研修	14. 3.25 ～ 14. 3.27
[ウィンター・インスティテュートプログラム]				
Chung K-M	韓国（慶熙大学校生命工学院）	新生資源創出研 G 遺伝子操作 T	健康機能性米の開発	14. 1.15 ～ 14. 2.21
[ジーンバンク事業]				
Somantri,I.H.	インドネシア（作物バイオテクノロジー研究所）	ジーンバンク 植物資源 T	インドネシアのカンショ遺伝資源の多様性解析	13.10.17 ～ 13.11.21
Minantyorini	インドネシア（作物バイオテクノロジー研究所）	ジーンバンク 植物資源 T	インドネシアのカンショ遺伝資源の多様性解析	13.10.17 ～ 13.11.21

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
Park,N-K.	韓国（農村振興庁）	ジーンバンク 植物資源 T	NIAS遺伝資源ワークショップ	14. 3.26 ～ 14. 3.29
Baek H-J.	韓国（農村振興庁）	ジーンバンク 植物資源 T	NIAS遺伝資源ワークショップ	14. 3.26 ～ 14. 3.29
[二国間]				
Diaz,O.	スウェーデン（スウェーデン農業大学）	遺伝資源研究 G 限界機能 T	オオムギ多様性解析	13.10.16 ～ 13.11. 1
von Bothmer, R.	スウェーデン（スウェーデン農業大学）	遺伝源伝研究 G 限界機能 T	二国間国際共同研究打合せ（オオムギ多様性解析）	14. 2.14 ～ 14. 2.26
[生研機構]				
Soares,M.J.	アメリカ（カンザス大学）	発生分化研究 G 生殖再生 T	バイオ胎盤シンポジウム	13.10.31 ～ 13.11. 5
Goldsmith,M. R.	アメリカ（ロードアイランド大学）	昆虫生産工学研 G 遺伝子工学 T	カイコにおける遺伝子機能解析システムの開発およびセミナー講演	13.11. 3 ～ 13.11.13
[科学技術振興調整費（COE）]				
Hoffmann,J. A.	フランス（分子細胞生物学研究所）	昆新素材開発研 G グループ長	「昆虫機能利用研究」評価委員会	13. 7.12 ～ 13. 7.13
Marcandalli, B.	イタリア（ミラノ絹糸研究所）	昆新素材開発研 G グループ長	「昆虫機能利用研究」評価委員会	13. 7.12 ～ 13. 7.13
Choudary,P	アメリカ（カリフォルニア大学）	昆新素材開発研 G グループ長	「昆虫機能利用研究」評価委員会	13. 7.12 ～ 13. 7.13
Meinwald,J	アメリカ（コーネル大学）	昆新素材開発研 G グループ長	「昆虫機能利用研究」評価委員会	13. 7.12 ～ 13. 7.13
Hammock,B. D.	アメリカ（カリフォルニア大学）	昆新素材開発研 G グループ長	昆虫工場開発の現状と展望	13.10.21 ～ 13.10.25
Possee,R.D.	アメリカ（NERCウィルス学・環境微生物学研究所）	昆新素材開発研 G グループ長	昆虫工場開発の現状と展望	13.10.21 ～ 13.10.25
Couple,P.M.	フランス（クロードベルナル大学）	昆新素材開発研 G グループ長	昆虫工場開発の現状と展望	13.10.21 ～ 13.10.25
Shirk,P.D.	アメリカ（アメリカ農務省フロリダ）	昆新素材開発研 G グループ長	昆虫工場開発の現状と展望	13.10.21 ～ 13.10.25
Martienssen, R	アメリカ（コールドスプリングハーバー研究所）	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
Pereira,A	オランダ（植物育種研究センター）	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
An,G	韓国（ポーハン理工科大学）	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
Henikoff,S	アメリカ（フレッドハッチンソン癌研究センター）	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
McMullen,M	アメリカ（ミズーリ大学コロンビア大学）	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
Miller,A.J	イギリス（ワーウィック大学）	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
Mitchell-Ol d,T	ドイツ（マックスプランク研究所）	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23
Zamir,D	イスラエル（ヘブライ大学エルサレム校）	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	植物遺伝子機能解析のためのゲノム学的アプローチ	13.11.20 ～ 13.11.23

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
Lohman,J	アメリカ（ソーク研究所）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
Chaudhury,A	オーストラリア（科学産業研究機構）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
Morelli,G	イタリア（国立栄養学研究所）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
Kepinski,S	イギリス（ヨーク大学）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
Deng,X-W	アメリカ（エール大学）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
Dangl,J	アメリカ（ノースカロライナ大学）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
Memelink,J	オランダ（植物分子科学研究所）	生理機能研究 G 形態発生 T	植物の転写因子研究の新しい時代	13.11.28 ～ 13.12. 1
[科学技術振興調整費（開放融合）]				
Karmuah,A.B	リベリア	生体機能研究 G 動物遺伝子機能 T	ブタ発生障害に係る発現遺伝子の検索	10.10. 1 ～ 13. 5.10
Tsuji,F.	アメリカ（カリフォルニア大学）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	光発生タンパク質のエネルギー転移機構の構造生物学的 解明	13. 6. 1 ～ 13. 7.31
Tsuji,F.	アメリカ（カリフォルニア大学）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	GFPタンパク質の発光機構の構造的生物学的研究	13.11.15 ～ 14. 1.31
Podjarny,A	フランス（国立研究センター生物分子細胞研究所）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 7 ～ 13.12.13
Westhof,E	フランス（国立研究センター生物分子細胞研究所）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 8 ～ 13.12.14
Wang,A,H-J.	台湾（中央研究院）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 8 ～ 13.12.15
Snell H,E	アメリカ（NASA研究所）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.14
Steiner,T	ドイツ（ベルリン自由大学）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.13
Timmins,P	フランス（ラウエ・ランジェバン研究所）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.13
Allain,F	スイス（チューリッヒ工科大学）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.15
Cooper,J	イギリス（サザンブトン大学）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.13
Svergun,D	ドイツ（EMBL,ハンブルク）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.13
Finney,J	イギリス（ロンドン大学）	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	開放的融合研究国際シンポジウム及び研究打合せ	13.12. 9 ～ 13.12.13
Nagase,H.	イギリス（英国王立大学）	発生分化研究 G 生殖再生 T	開放融合セミナー及び研究打合せ	14. 2.26 ～ 14. 3. 5
Faraut,T.	フランス（国立農業研究所）	ゲノム研究 G 上席研究官 1	研究打合せ（家畜の繁殖障害ゲノム）	14. 3. 9 ～ 14. 3.14
[イネ・ゲノムプロジェクト]				
Hall,T.	アメリカ（テキサス A&M大学）	ゲノム研究 G グループ長	第10回国際イネゲノムフォーラム	14. 2. 5 ～ 14. 2. 9

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
Jiang,J.	アメリカ（ウィスコンシン-マディソン大学）	ゲノム研究Gグループ長	第10回国際イネゲノムフォーラム	14. 2. 5 ～ 14. 2. 9
Walsh,B.	オーストラリア（マックウェリー大学）	ゲノム研究Gグループ長	第10回国際イネゲノムフォーラム	14. 2. 5 ～ 14. 2. 9
Beachy,R.	アメリカ（モンサント社）	ゲノム研究Gグループ長	第10回国際イネゲノムフォーラム	14. 2. 5 ～ 14. 2. 9
[国際農林水産業研究センター]				
Minh,D.	ベトナム（カントー大学）	遺伝資源研究G上席研究官	分子生物学手法を用いた果樹フザリウム菌の新診断法の確立	13. 8. 2 ～ 13.10.18
Ndjondjop, M.-N.	カメルーン（西アフリカ稲作開発協会）	分子遺伝研究G応用遺伝T	イネ種間雑種作出のための分子マーカーを利用した育種選抜システムの開発	13.10.25 ～ 13.12.26
[国際原子力機関]				
Herath,B.	スリランカ（農業省輸出農業局研究所）	放射線育種場新形質開発T	黒胡椒の品質改善のための放射線育種技術	13.10.15 ～ 13.10.19
[相手国側]				
Wanchana,S.	タイ（カセサート大学）	ゲノム研究植物ゲノムT	イネゲノム大規模シーケンス	13. 4. 1 ～ 14. 3.31
Chaitieng,B.	タイ（スラナリー技術大学）	遺伝資源研究G集団動態T	リョクトウの近縁野生種を利用したうどんこ病抵抗性遺伝子の分子遺伝学的解析	13. 4.15 ～ 13. 9.30
Wu,S.-C.	台湾（Livestock研究所）	ジーンバンク動物資源T	動物遺伝資源ジーンバンク開設および情報管理システム構築の為の調査・見学	13. 9. 3 ～ 13. 9. 7
Chang,H.-L. A.	台湾（Livestock研究所）	ジーンバンク動物資源T	動物遺伝資源ジーンバンク開設および情報管理システム構築の為の調査・見学	13. 9. 3 ～ 13. 9. 7

研究員の海外からの受入集約

	長期	中期	短期
STAフェローシップ	23(21)		
JSPSフェローシップ	14	1	2
EU科学フェローシップ	1(1)		
JIRCASフェローシップ		4	
国際協力事業団		12	5
ウィンター・インスティテュートプログラム		1	
ジーンバンク事業		2	2
二国間			2
生研機構			2
科学技術振興調整費（COE）			23
科学技術振興調整費（開放融合）	1	2	12
イネ・ゲノムプロジェクト			4
国際農林水産業研究センター		2	
国際原子力機関			1
相手国側		2	2
合計	39(22)	26	55

注）長期：6ヶ月以上、中期：1～6ヶ月未満、短期：1ヶ月未満
（ ）は前年度からの受入数（内数）

(2) 国内からの受入

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
[依頼研究員制度による受入]				
川田 麻子	福井県農業試験場	ジーンバンク 植物資源 T	アレロパシー活性の遺伝様式と検定法の研究	13.7.2 ～ 13.12.28
原田 恵美	島根県立畜産試験場	発生分化研究 G 生殖再生 T	ウシの妊娠特異物質の機能解析	13.9.3 ～ 13.12.3
木下 剛仁	佐賀県	分子遺伝研究 G 上席研究官	耐病性品種の育種手法の効率化と耐病性品種の作出	13.9.3 ～ 14.1.31
太郎良和彦	沖縄県農業試験場	新生資源創出研 G 新作物素材開発 T	分子生物学手法を用い沖縄在来タロイモの分類	13.9.17 ～ 13.12.17
松井 崇晃	新潟県農業総合研究所	ジーンバンク 植物資源 T	水稻育種における DNA マーカーを利用した選抜技術	13.10.1 ～ 13.12.28
内村 要介	福岡県農業総合研究所	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカー利用による効率的育種技術の開発	13.11.1 ～ 14.2.28
福留 憲浩	鹿児島県畜産試験場	ゲノム研究 G 家畜ゲノム T	家畜のゲノム解析	13.11.1 ～ 14.1.31
大橋 愛美	石川県畜産総合センター	発生分化研究 G 発生工学 T	顕微注入法による核移植法の応用	14.1.7 ～ 14.3.31
井上 和典	東京都畜産試験場	ゲノム研究 G 上席研究官	乳牛の飼養技術に関する試験研究	14.1.15 ～ 14.3.31
[講習生制度による受入]				
高井 亮太	筑波大学	生体高分子研究 G 糖鎖機能 T	イネエリシター応答性遺伝子の機能解明	13.4.2 ～ 14.3.31
岩谷 亮	東京理科大学	生体防御研究 G 分子免疫 T	細胞内抵抗発現によるタンパク質ドメイン機能の解析	13.4.2 ～ 14.3.31
福田 琢哉	北海道大学	生理機能研究 G 光合成 T	イネの低リン耐性遺伝子の機能特性と遺伝子導入による生理的評価	13.4.2 ～ 13.6.30
河合 康洋	岡山大学	遺伝資源研究 G 生殖質保全 T	雄性生殖器異常ラットの病因解析	13.4.2 ～ 14.3.31
竹野友理子	岡山大学	遺伝資源研究 G 生殖質保全 T	雄性仮性半陰陽ラットの病理学的解析	13.4.2 ～ 14.3.31
鷲田 治彦	千葉大学	新生資源創出研 G 遺伝子操作 T	アグロバクテリウムを用いたイネ形質転換	13.4.2 ～ 14.3.31
桐渕 協子	東京大学	生体高分子研究 G 糖鎖機能 T	イネ培養細胞におけるジャスモン酸のシグナル伝達機構	13.4.2 ～ 14.3.31
大岡 久子	長岡技術科学大学	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	イネのアクチベーションタギングシステムの開発及び変異体の解析	13.4.2 ～ 13.6.30
久保 中央	千葉大学	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	ミトコンドリアタンパク質の輸送に関わるシグナル配列の分子遺伝学的解析	13.4.2 ～ 14.3.31
草野 博彰	東京理科大学	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	師部操作による有用物質生産系の開発	13.4.2 ～ 14.3.31
野津 良幸	東京大学	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	植物ミトコンドリアの構造と発現に関する研究	13.4.2 ～ 14.3.31
奥田 知弘	東京理科大学	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	師部操作による有用物質生産系の開発	13.4.2 ～ 14.3.31
ダンビーニャム・ ニャムサンバ	東京大学	ジーンバンク 動物資源 T	モンゴル在来ヤギの系統遺伝学的研究	13.4.2 ～ 14.3.31
吉田 光毅	大成建設土木技術研究所	新生資源創出研 G 新作物素材開発 T	イネ草型制御技術の開発	13.4.2 ～ 14.3.31

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
今泉 信之	(株) ジャパン・ターフグラス	新生資源創出研 G 新作物素材開発 T	イネ科植物の草型制御に関する研究	13.4.2 ～ 14.3.31
岩田 理恵	東京大学	生体機能研究 G 神経内分泌 T	反芻家畜のフェロモンおよびその受容機構の神経生物学的解析	13.4.2 ～ 14.3.31
川崎 浩明	岡山大学	ゲノム研究 G 家畜ゲノム T	ハムスターにおける DNA マーカーの開発	13.4.2 ～ 14.3.31
大迫 麗子	東京大学	生体防御研究 G 疾患モデル動物 T	前精子発生期精細胞の増殖様構の解明とその発生工学的利用についての研究	13.4.2 ～ 13.12.31
浅野 貴博	社団法人農林水産先端技術産業振興センター	新生資源創出研 G 植物細胞工学 T	環境ストレスが組換え農作物の交雑親和性に与える影響に関する研究	13.4.2 ～ 13.9.30
小野 克輝	東京薬科大学	生体高分子研究 G 超分子機能 T	NMR によるタンパク質の構造研究	13.4.4 ～ 14.7.4
上野 悟	埼玉工業大学	発生分化研究 G 発生機構 T	遺伝学的手法による線虫の細胞内信号伝達系の解析	13.4.5 ～ 14.3.25
タマス ソム ファイ	東北大学	発生分化研究 G 発生工学 T	豚の体外受精	13.4.5 ～ 14.3.31
中井美智子	麻布大学	遺伝資源研究 G 生殖質保全 T	生殖細胞を利用した動物遺伝資源の個体再生法に関する研究	13.4.16 ～ 14.3.31
滝澤 明子	麻布大学	遺伝資源研究 G 生殖質保全 T	生殖細胞を利用した動物遺伝資源の個体再生法に関する研究	13.4.16 ～ 14.3.31
加藤 諭	帝京科学大学	ゲノム研究 G 上席研究官	動物ゲノム解析法	13.4.17 ～ 14.3.31
廣瀬 文昭	東京理科大学	生理機能研究 G 環境ストレス T	イネ・クリプトクロム遺伝子の機能解析	13.4.18 ～ 13.6.30
難波 一徳	大阪大学	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	RDV 構成タンパク質の発現, 精製, 結晶化	13.5.1 ～ 14.3.31
中島 啓介	京都大学	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	シロアリセルラーゼの特性解明	13.5.1 ～ 13.9.30
濱本 卓	佐賀大学	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	トビイロウンカの翅型発現に関与する遺伝子の探索	13.5.7 ～ 13.8.31
廣田 敦子	香川大学	生理機能研究 G 窒素固定 T	ダイズ根粒ウリカーゼ遺伝子の発現制御機構に関する研究	13.5.7 ～ 14.3.31
松葉 周子	麻布大学	昆虫適応遺伝 G 昆共生媒介機構 T	動物卵巣から得られた cDNA のサブトラクション	13.5.9 ～ 13.6.20
高瀬 彩	琉球大学	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	シロアリセルラーゼの精製およびその遺伝子のクローニング	13.5.10 ～ 13.5.22
徳田 岳	琉球大学	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	シロアリセルラーゼの精製およびその遺伝子のクローニング	13.5.10 ～ 13.5.22
岩山 正隆	埼玉大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	C 4 植物維管束鞘細胞発達過程の形態学的研究	13.5.14 ～ 14.3.31
伊東 義兼	新潟大学	新生資源創出研 G 遺伝子設計 T	遺伝子組み換えイネの特性調査	13.5.28 ～ 13.7.26
木田 尚子	筑波大学	生体機能研究 G 動物細胞機能 T	ウシ肝細胞株の樹立とその諸性質の解明	13.6.1 ～ 14.3.31
西村 慎哉	京都大学	昆虫適応遺伝研 G 天敵昆虫 T	マイクロサテライトを利用したカンザワハダニの個体群構造の研究	13.6.1 ～ 14.3.31
新宅 俊之	千葉大学	昆虫適応遺伝研 G 天敵昆虫 T	DNA 多型を用いたミヤコカブリダニの地理的変異の分析	13.6.1 ～ 14.3.31
山本 竜司	北里大学	ゲノム研究 G 上席研究官	動物ゲノム解析法	13.6.1 ～ 14.3.31
松本 大輔	筑波大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	季節変化が C 3 及び C 4 光合成特性に及ぼす影響	13.6.18 ～ 14.3.31

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
莫 文紅	筑波大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	雑草における C 3 及び C 4 植物の推移	13.6.18 ～ 14.3.31
北 満夫	石川県畜産センター	発生分化研究 G 生殖再生 T	牛血液中のステロイドホルモンの測定	13.6.25 ～ 13.6.29
貝賀 信保	宇都宮大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	D.tenuifoliaとB.oleraceaの正逆交雑における雑種植物の光合成特性に関する調査	13.7.1 ～ 14.3.31
金子 良平	宇都宮大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	Maricandia arvensisの C 3 -C 4 中間型植物 と Brassica oleraceaの雑種植物の光合成特性に関する研究	13.7.1 ～ 14.3.31
松山 秀一	名古屋大学	生体機能研究 G 神経内分泌 T	反芻動物におけるエネルギー感知機構の解明	13.7.1 ～ 14.2.28
櫻井 勝康	東北大学	生体機能研究 G 神経内分泌 T	反すう家畜の中樞機能	13.7.1 ～ 14.3.31
堀 清純	岡山大学	生理機能研究 G 耐病性 T	オオムギ高密度マップの開発	13.7.1 ～ 14.3.31
中川 知巳	京都大学	生理機能研究 G 窒素固定 T	ダイズ根粒特異的 PEPC 遺伝子のプロモーター解析	13.7.1 ～ 13.9.1
市川 康明	日本大学	ジーンバンク 動物資源 T	犬マイクロサテライトの単離と検査	13.7.16 ～ 13.12.28
石塚 徹	日立製作所中央研究所	生理機能研究 G 環境ストレス T	フィトクロム遺伝子形質転換体の解析	13.7.26 ～ 13.8.10
小ヶ口恭介	東北大学	ゲノム研究 G 上席研究官	インシュレーターの応用研究	13.8.6 ～ 13.9.30
本田 敦子	山口県立大学	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカーを用いたイネの遺伝解析	13.8.12 ～ 13.9.6
田崎三香子	山口県立大学	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカーを用いたイネの遺伝解析	13.8.13 ～ 13.9.14
久保田昌子	山口県立大学	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカーを用いたイネの遺伝解析	13.8.13 ～ 13.9.1
米原 由希	山口県立大学	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカーを用いたイネの遺伝解析	13.8.13 ～ 13.9.6
上田 悠加	山口県立大学	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカーを用いたイネの遺伝解析	13.8.13 ～ 13.9.13
竹原小百合	山口県立大学	分子遺伝研究 G 応用遺伝 T	DNA マーカーを用いたイネの遺伝解析	13.8.14 ～ 13.9.14
牧志 佑子	佐賀大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	C 4 植物及び CAM 植物の光合成代謝の解析	13.8.20 ～ 13.8.29
田原 圭輔	佐賀大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	C 4 植物及び CAM 植物の光合成代謝の解析	13.8.20 ～ 13.8.30
大岡 久子	長岡技術科学大学	分子遺伝研究 G 遺伝子発現 T	イネのアクチベーションタギングシステムの開発及び変異体の解析	13.9.1 ～ 13.12.31
濱本 卓	佐賀大学	昆虫適応遺伝研 G 昆共生媒介機構 T	トビイロウンカの翅型発現に関与する遺伝子の探索	13.9.1 ～ 13.12.21
迫田 琢也	横浜植物防疫所	遺伝資源研究 G 生物分類 T	中国産玄米から分離される糸状菌の同定	13.9.3 ～ 13.10.3
近藤 歩	名城大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	CAM 植物葉緑体の光環境適応	13.9.3 ～ 13.9.14
小曽根 睦	埼玉大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	イネの糖代謝関連遺伝子の制御に関する研究	13.9.3 ～ 14.3.31
芳賀 聖	琉球大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	パガス炭がサトウキビ収量に与える影響	13.9.10 ～ 14.2.22

氏 名	所 属	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
宮崎 浩平	琉球大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	バガス炭がサトウキビ収量に与える影響	13.9.10 ～ 14.2.22
矢野 和孝	高知県農業技術センター	ジーンバンク 微生物資源 T	PCR法および抗血清による植物病原細菌の検出技術習得	13.9.17 ～ 13.9.28
菊池 慎一	愛媛大学	生理機能研究 G 耐病性 T	オオムギ遺伝子のHEGSマッピング	13.9.19 ～ 13.10.12
高橋 順二	パキスタン植物遺伝 資源研究所	ジーンバンク 上席研究官	植物遺伝資源管理	13.10.1 ～ 13.11.14
濱田 梓	長岡技術科学大学	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	蛋白質工学に関する研究	13.10.9 ～ 14.1.31
渡辺 純	北海道大学	生体防御研究 G 分子免疫 T	抑制性 T 細胞機能および免疫寛容誘導機構の解明	13.10.15 ～ 14.3.31
梅木 哲也	宮崎県総合農業試験 場	放射線育種場 放射線利用 T	放射線・イオンビームによる育種技術の実際	13.11.5 ～ 13.11.9
上野敬一郎	鹿児島県	放射線育種場 放射線利用 T	イオンビーム照射による植物の育種技術（再生植物の変異解析）	13.11.5 ～ 13.11.7
林 由理	麻布大学	遺伝資源研究 G 生殖質保全 T	生殖細胞を利用した動物遺伝資源の個体再生法に関する研究	13.11.19 ～ 14.3.31
ベニナチ・チ ジアナ	ミラノ大学	昆虫適応遺伝 G 昆共生媒介機構 T	シロアリ及びフィラリア線虫共生ウォルバキア類の機能 解明	13.12.1 ～ 14.3.31
佐々木智子	東京農業大学	ゲノム研究 G 家畜ゲノム T	ヤギにおけるDNAマーカーの解析	13.12.17 ～ 14.3.31
山内奈保子	科学技術振興事業団	発生分化研究 G 分化機構 T	ES細胞の樹立に関する研究	14.2.12 ～ 14.3.29
浅田 正貴	東京農業大学	新生資源創出研 G 新機能開発 T	アグロバクテリウムを用いたイネの形質転換法について	14.2.18 ～ 14.3.1
穴戸 利幸	東京農業大学	新生資源創出研 G 新機能開発 T	アグロバクテリウムを用いたイネの形質転換法について	14.2.18 ～ 14.3.1
梅木 哲也	宮崎県総合農業試験 場	放射線育種場 放射線利用 T	放射線・イオンビームによる育種技術の実際	14.2.20 ～ 14.2.21
吉村 泰幸	九州大学	生理機能研究 G 物質代謝 T	C 4 植物の光呼吸関連酵素からみた個葉光合成制御機構 の解明	14.3.18 ～ 14.3.31
[客員研究員制度による受入]				
草間 豊子	独立行政法人 肥飼料検査所	遺伝資源研究 G 遺伝子多様性 T	PCR法による肉骨粉等の畜種識別に関する研究	13.9.17 ～ 14.3.16

（３）その他各種制度

氏 名	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
[開放的融合特別研究員]			
岸 久司	ゲノム研究 G G G 上席研究官	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
木内 幸子	ゲノム研究 G G G 上席研究官	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
江口 智子	ゲノム研究 G G G 上席研究官	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
白井 睦	ゲノム研究 G G G 上席研究官	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13.10. 3 ～ 13.12.31

氏 名	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
渡邊 康子	ゲノム研究 G G 上席研究官	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	14. 1. 1 ～ 14. 3.30
古澤 軌	発生分化研究 G 分化機構 T	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 13. 9.29
大越 勝広	発生分化研究 G 分化機構 T	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
石渡 広子	発生分化研究 G 生殖再生 T	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
Arthur Bob karnuah	生体機能研究 G 動物遺伝子機能 T	個体発生のゲノム機能と分子機構の解明	13. 4. 1 ～ 13. 5.11
香川 正行	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
鹿本 泰生	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
Musti Sree Rama Chandra Murty	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
金子 寛生	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
堀井 克紀	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
西本 悦子	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
藤井 佳史	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 13. 7.14
古市真木雄	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 1.31
廣津 晶子	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
内藤 久志	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 13.11.30
井上 英男	生体高分子研究 G 蛋白機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 3. 1 ～ 14. 3.30
八田 知久	生体高分子研究 G 超分子機能 T	水素・水和構造を含めた新しい構造生物学の開拓	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
[ゲノムフロンティア特別研究員]			
佐藤 充	生体防御研究 G 分子免疫 T	細胞内発現抗体を用いたタンパク機能欠損マウスの作製に関する研究	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
[COE特別研究員]			
栗林 茂治	昆虫新素材開発研 G 昆虫新素材開発研 G 長室	昆虫機能研究に関する国内外情報収集と整理	13. 6. 1 ～ 13.10.31
Meenu Kapoor	生理機能研究 G 形態発生 T	植物ゲノムの環境応答メカニズムの解明と制御	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
[総合研究特別研究員]			
井上 康宏	遺伝資源研究 G 資源上席研究官 2	植物 - 微生物間相互作用の解明による新たな共生系・病害抵抗性植物の開発のための基礎研究	13. 5. 1 ～ 14. 3.30
平野 恒	生理機能研究 G 耐病性 T	植物 - 微生物間相互作用の解明による新たな共生系・病害抵抗性植物の開発のための基礎研究	13. 4. 1 ～ 14. 3.30
王 新望	生理機能研究 G 耐病性 T	植物 - 微生物間相互作用の解明による新たな共生系・病害抵抗性植物の開発のための基礎研究	14. 1.14 ～ 14. 3.30

氏 名	受入研究チーム	研 究 課 題	受入期間
熊谷 浩高	生理機能研究 G 窒素固定 T	植物 - 微生物間相互作用の解明による新たな共生系・病害抵抗性植物の開発のための基礎研究	13. 4. 1 ~ 14. 3.30
呉 国江	生理機能研究 G 窒素固定 T	植物 - 微生物間相互作用の解明による新たな共生系・病害抵抗性植物の開発のための基礎研究	13. 4. 1 ~ 14. 3.30
【 科学技術特別研究員 】			
田中 直樹	生理機能研究 G 物質代謝 T	イネの形質転換を利用した枝作り酵素制御によるアミロペクチン構造の改変	11. 1. 1 ~ 13. 9.30
中川 仁	生理機能研究 G 形態発生 T	ペチュニアの形態形成を制御するジンクフィンガー型転写因子の機能解析	11. 1. 1 ~ 13.12.31
Rakwal Randeep	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	プロテオーム研究の応用による植物ホルモン等を介するシグナル伝達機構の解明	11. 1. 1 ~ 13.12.31
村上 泰弘	生理機能研究 G 耐病性 T	ミヤコグサの窒素固定細菌との共生因子のゲノム解析手法による解析	11. 1. 1 ~ 13.12.31
柏葉 晃一	遺伝資源研究 G 集団動態 T	ツルアズキおよび近縁野生種のもつ虫害抵抗性の多様性解明	12. 1. 1 ~ 14.12.31
田中 良和	分子遺伝研究 G 遺伝子修飾 T	植物におけるジーンサイレンシングと遺伝子解析への利用	12. 1. 1 ~ 13. 7.31
岡本 裕行	分子遺伝研究 G 遺伝子機能 T	レトロトランスポゾンを用いたシロイヌナズナのミュータントパネル構築に向けた基礎研究	12. 1. 1 ~ 14.12.31
相井城太郎	生理機能研究 G 耐病性 T	異型花による自家不和合性の分子機構解明	13. 3. 1 ~ 16. 2.28
本村 知樹	生理機能研究 G 耐病性 T	イネいもち病菌の病原性遺伝子のポジショナルクローニングとその応用	13. 3. 1 ~ 16. 2.28
Sharma Arun	分子遺伝研究 G 遺伝子応答 T	プロテオーム解析による植物ホルモン情報伝達機構解明	13. 4. 1 ~ 16. 3.31
三上 一保	生理機能研究 G 耐病性 T	整列化ゲノムライブラリーの高効率作製手法の開発と応用	13.11. 1 ~ 16.10.30
金 容洵	昆虫適応遺伝研 G 昆虫病理 T	Bacillus thuringiensisキメラ結晶体毒素の構築とそのカイコ地理的品種に対する毒素解析	11. 1. 1 ~ 13.11.25
畠山 吉則	昆虫生産工学研 G 生産上席研究官	微粒子病の早期検出系の確立および微胞子虫を用いた生物農薬への応用の試み	11. 1. 1 ~ 13.12.31
新居 孝之	昆新素材開発研 G 新素材上席研究官	生体内消化吸收機能を持つ生体高分子素材の作出	13. 4. 1 ~ 16. 3.31
土原 和子	生体機能研究 G 昆虫神経生理 T	チョウの産卵刺激物質受容体の単離と機能解明	13. 4. 1 ~ 16. 3.31
中澤 裕	生体防御研究 G 先天性免疫 T	カイコにおける抗ウイルスタンパク質の単離と遺伝子解析	13. 4. 1 ~ 16. 3.31
Nitish Sarker	ゲノム研究 G G 上席研究官	ブタ染色体の領域特異的マーカーの開発と連鎖解析	11. 3. 1 ~ 14. 2.28
大迫 麗子	生体防御研究 G 疾患モデル動物 T	生殖膜器官培養系を用いた哺乳類精細胞の精子形成機序の解明	14. 1. 1 ~ 16.12.31
中野 春男	発生分化研究 G 生殖再生 T	ウシ栄養膜細胞の二核細胞分化に関わる分子の探索	14. 1. 1 ~ 16.12.31
東城 幸治	発生分化研究 G 発生機構 T	昆虫類の地理的単為生殖に関する研究	14. 2. 1 ~ 17. 1.31

開放的融合研究に係る併任

氏 名	所 属	併 任 期 間
[国立大学等]		
中 馬 寛	徳島大学薬学部教授	13.7.16～14.3.31
河 野 敬 一	富山医科薬科大学薬学部教授	13.7.16～14.3.31
奥 田 潔	岡山大学農学部教授	13.7.16～14.3.31
今 井 裕	京都大学大学院農学研究科教授	13.7.16～14.3.31
月 原 富 武	大阪大学たんばく質研究所教授	13.7.16～14.3.31
中 川 敦 史	大阪大学たんばく質研究所生体分子解析研究センター助教授	13.7.16～14.3.31
城 所 俊 一	長岡技術大学工学部助教授	13.7.16～14.3.31
片 平 正 人	横浜国立大学大学院環境情報研究所助教授	13.7.16～14.3.31
今 川 和 彦	東京大学大学院農学生命科学研究科助教授	13.7.16～14.3.31
久 野 敦	山形大学理学部助手	13.7.16～14.3.31
西 堀 正 英	広島大学生物生産学部助手	13.7.16～14.3.31
山 田 正 夫	国立小児病院小児医療研究センター先天異常研究部長	13.7.16～14.3.31
辻 本 豪 三	国立小児病院小児医療研究センター小児薬理研究部長	13.7.16～14.3.31
鈴 木 盛 一	国立小児病院小児医療研究センター実験外科・生体工学研究部長	13.7.16～14.3.31
藤 本 純 一 郎	国立小児病院小児科医長	13.7.16～14.3.31
西 川 諭	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員	13.7.16～14.3.31
Penmetcha Krishna Rajendra Kumar	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員	13.7.16～14.3.31
大 村 敏 博	独立行政法人農業技術研究機構中央農業総合研究センター 病害防除部ウイルス病害研究室長	13.7.16～14.3.31
岡 野 彰	独立行政法人農業技術研究機構畜産草地研究所家畜育種繁殖部 上席研究官（家畜繁殖担当）	13.7.16～14.3.31
高 橋 清 也	独立行政法人農業技術研究機構畜産草地研究所家畜育種繁殖部 主任研究官（生殖細胞研究室）	13.7.16～14.3.31
足 立 憲 隆	独立行政法人農業技術研究機構畜産草地研究所家畜育種繁殖部 主任研究官（生殖細胞研究室）	13.7.16～14.3.31
赤 木 悟 史	独立行政法人農業技術研究機構 畜産草地研究所家畜育種繁殖部（生殖細胞研究室）	13.7.16～14.3.31
小 林 秀 行	独立行政法人食品総合研究所生物機能開発部分子情報研究室長	13.7.16～14.3.31
[私立大学等]		
高 垣 洋 太 郎	北里大学医学部分子生物学単位担当教授	13.7.16～14.3.31
森 田 隆 司	明治薬科大学薬学部教授	13.7.16～14.3.31
山 本 義 弘	兵庫医科大学助教授（遺伝学）	13.7.16～14.3.31
雨 宮 浩	小児医療研究センター名誉センター長	13.7.16～14.3.31
内 田 昌 樹	株式会社CSKリサーチパーク生物資源研究センター研究員	13.7.16～14.3.31
木 戸 勝	大塚製薬徳島本部環境・安全部（課長）	13.7.16～14.3.31

IV 資格取得・表彰

学位取得者

氏 名	所属・職名	取得年月日	博士の種類
堀田 光生	ジーンバンク主任研究官（微生物資源研究チーム）	14.1.15	農学博士
光原 一朗	分子遺伝研究グループ主任研究官（遺伝子応答研究チーム）	14.2.28	理学博士

資格取得者

氏 名	所属・職名	取得年月日	資格の種類
馬場浩太郎	ゲノム研究グループ（昆虫ゲノム研究チーム）	13.5.17	第1種放射線取扱主任者
吉 川 学	分子遺伝研究グループ（遺伝子応答研究チーム）	13.5.17	第1種放射線取扱主任者
井上 潤二	企画調整部（業務第2科）	13.6.20	三級自動車ジーゼル・エンジン整備士
野堀 隆弘	企画調整部（業務第2科）	13.8.6	一般毒劇物取扱者

表彰受賞者

氏 名	所属・職名	受賞年月日	備考（表彰名等）
澁谷 直人	生体高分子研究グループ長	13.4.18	研究功績者表彰
三浦 清之	ジーンバンク主任研究官（植物資源研究チーム）	13.3.24	平成12年度日本育種学会賞
大橋 祐子	分子遺伝研究グループ上席研究官	13.3.24	日本植物生理学会論文賞
光原 一朗	分子遺伝研究グループ主任研究官（遺伝子応答研究チーム）	13.3.24	日本植物生理学会論文賞
井波 勇二	企画調整部（業務第1科）	13.4.11	平成13年度創意工夫功労者表彰
飯野 健一	企画調整部（業務第1科）	13.4.11	平成13年度創意工夫功労者表彰
橋本 好二	企画調整部（業務第1科）	13.4.11	平成13年度創意工夫功労者表彰
於保 正弘	昆虫生産工学研究グループ主任研究官（昆虫産生物利用研究チーム）	13.10.23	蚕糸有功賞
今井 恒夫	企画調整部主任研究官（技術移転科）	13.10.23	蚕糸有功賞
町井 博明	企画調整部企画室研究調整官	13.10.23	貞明皇后記念蚕糸技術賞
小山 朗夫	昆虫生産工学研究グループ主任研究官（増殖システム研究チーム）	13.10.23	貞明皇后記念蚕糸技術賞
山ノ内宏昭	放射線育種場主任研究官（新形質開発研究チーム）	13.10.23	貞明皇后記念蚕糸技術賞
玉田 靖	昆虫新素材開発研究グループ生体機能模倣研究チーム長	13.4.5	第60回注目発明
高 林 千幸	昆虫適応遺伝研究グループ昆虫遺伝研究チーム長	13.4.5	第60回注目発明
中島 健一	昆虫適応遺伝研究グループ主任研究官（昆虫遺伝研究チーム）	13.4.5	第60回注目発明
田村 泰盛	昆虫適応遺伝研究グループ（昆虫・植物間相互作用研究チーム）	13.4.5	第60回注目発明

V 事業

1. 遺伝資源の配布

当所では、農業生物資源ジーンバンク事業のセンターバンクとして、遺伝資源を受け入れて長期にわたって保存し、これを国内外の関係者に配布しています。

(1) 植物遺伝資源

植 物 種 類	国立機関等	都道府県	大 学	民間等	外 国	計
稲 類	5,674(33)	174(9)	112(12)	185(13)	8(3)	6,153(70)
麦 類	11,492(9)	10(1)	2(1)	11(3)	7(2)	11,522(16)
豆 類	4,017(16)	25(4)	2,702(4)	12(4)	45(3)	6,801(31)
い も 類		34(1)	73(4)			107(5)
雑穀・特用作物	137(5)	2(1)	27(3)	51(6)	10(2)	227(17)
牧草・飼料作物	33(3)	28(2)	127(2)	9(1)	3(1)	200(9)
果 樹 類		8(1)	4(2)	9(3)		21(6)
野 菜 類	336(10)	18(8)	152(7)	253(28)	6(1)	765(54)
花き・緑化植物		3(2)		5(2)	13(2)	21(6)
茶						0(0)
桑	6(1)				6(1)	12(2)
熱帯・亜熱帯作物						0(0)
合 計	21,695(77)	302(29)	3,199(35)	535(60)	98(15)	25,829(216)

注 各欄の左側は品種数、右側の()内は件数

(2) 微生物遺伝資源

微 生 物 種 類	国立機関等	都道府県	大 学	民間等	外 国	計
細 菌	56(12)	10(4)	65(12)	12(7)	61(25)	204(60)
糸 状 菌	141(21)	41(13)	248(26)	111(29)	82(8)	623(97)
植 物 ウ イ ル ス	8(5)	1(1)	1(1)	12(4)		22(11)
動 物 ウ イ ル ス						0(0)
原 線 虫					1(1)	1(1)
マイコプラズマ						0(0)
放 線 菌	1(1)		10(2)	2(1)		13(4)
酵 母						0(0)
昆 虫 培 養 細 胞						0(0)
合 計	206(39)	52(18)	324(41)	137(41)	144(34)	863(173)

注 各欄の左側は菌株数、右側の()内は件数

(3) 動物遺伝資源

平成14年1月からウシ（凍結精液）、マウス（生体）、カイコ（受精卵）、天敵昆虫（成虫）、ウマ（生体、凍結精液）、ブタ（生体、凍結精液）、ヤギ（凍結精液）、ウサギ（生体）の動物遺伝資源の配布事業を開始しましたが、平成13年度の配布実績はありませんでした。

(4) DNA等（イネ）

D N A 種 類	国立機関等	都道府県	大 学	民間等	外 国	計
cDNAクローン(チューブ)	871(112)		287(26)	44(3)	1,003(87)	2,205(228)
RFLPマーカー(チューブ)	211(10)	22(3)	47(4)	116(4)	929(24)	1,325(45)
RFLPマーカー(プレート)	4(4)	1(1)	1(1)		2(2)	8(8)
YACクローン(フィルター)	1(1)		2(2)			3(3)
合 計	1,087(127)	23(4)	337(33)	160(7)	1,934(113)	3,541(284)

注 左側はクローン数及びセット数、右側の（ ）内は配布件数

(5) DNA等（ブタ）

D N A 種 類	国立機関等	都道府県	大 学	民間等	外 国	計
cDNAクローン(チューブ)						0(0)
BACクローン(チューブ)	190(5)			1(1)		191(6)
BACクローン(スーパープール)			22(1)			22(1)
BACクローン(4Dスーパープール)	6(1)			1(1)		7(2)
合 計	196(6)	0(0)	22(1)	2(2)	0(0)	220(9)

注 左側はクローン数及びセット数、右側の（ ）内は配布件数

2. 遺伝資源の受入・保存

(1) 植物遺伝資源

植 物 種 類	増 減	保存総数	保 存 形 態 内 訳			保 存 区 分 内 訳		
			種 子	栄養体	その他	W C	B C	A C
稲 類	1,712	37,683	37,674	9	0	535	37,148	30,143
麦 類	799	53,779	53,779	0	0	258	53,521	32,888
豆 類	208	15,466	15,466	0	0	141	15,325	10,920
い も 類	0	381	371	10	0	0	381	11
雑穀・特用作物	448	8,239	7,794	445	0	407	7,832	6,857
牧草・飼料作物	1,529	14,187	14,187	0	0	49	14,138	11,606
果 樹 類	0	5	2	3	0	1	4	0
野 菜 類	280	10,366	10,360	6	0	155	10,211	6,937
花き・緑化植物	2	329	14	315	0	315	14	2
茶	0	1	1	0	0	0	1	0
桑	1,354	1,401	0	1,354	47	409	992	780
熱帯・亜熱帯作物	0	17	13	4	0	0	17	13
そ の 他	256	427	421	6	0	280	147	87
合 計	6,588	142,281	140,082	2,152	47	2,550	139,731	100,244
(センターバンク)	4,648	117,765	117,718	0	47	447	117,318	91,835
(生物研サブバンク)	1,940	24,516	22,364	2,152	0	2,103	22,413	8,409

(2) 微生物遺伝資源

微 生 物 種 類	増 減	保存総数	保 存 形 態 内 訳				保 存 区 分 内 訳	
			継 代	凍 結	真空乾燥	その他	B C	A C
細 菌 ・ 放 線 菌	61	4,151	5	3,771	3,562	270	4,151	3,177
糸 状 菌 ・ 酵 母	137	8,909	8,260	8,068	2,232	1,854	8,909	6,468
ウイルス・ファージ等	0	190	27	73	166	0	190	149
原 虫 ・ 線 虫	0	3	3	0	0	3	3	3
細胞融合微生物	0	10	0	10	10	0	10	5
培 養 細 胞	48	48	48	48	0	0	48	48
合 計	246	13,311	8,343	11,970	5,970	2,127	13,311	9,850

(3) 動物遺伝資源

動 物 種 類	増 減	保存総数	保 存 形 態 内 訳				保 存 区 分 内 訳		
			個 体	受精卵	生殖細胞	その他	W C	B C	A C
牛	1	22	0	3	19	0	3	19	1
豚	2	23	0	0	23	0	3	20	0
家 き ん	2	41	0	0	41	0	12	29	0
実験用動物	-1	37	13	24	0	0	1	36	11
蚕	177	647	0	647	0	0	177	470	49
合 計	181	770	13	674	83	0	196	574	61

注 増減は探索・収集、受入、移管、廃棄による
W C : ワーキングコレクション (B C の候補材料) B C : ベースコレクション (長期保存対象材料)
A C : アクティブコレクション (B C のうち、配布対象材料)

3. 原蚕種及び桑の接穂・苗木の配布等

(1) 原蚕種の製造数量及び配布数量

原蚕種

品 種 名	13年度 製造蛾数	配 布 数 量		計	品 種 名	13年度 製造蛾数	配 布 数 量		計
		研究機関	その他				研究機関	その他	
日 137号	121	31		31	支 146号	86	27		27
日 03号	111	15	(5)	15(5)	中 03号	62	10	(5)	10(5)
日 04号	111	15	(5)	15(5)	中 04号	107	10	(5)	10(5)
日 509号	104	10		10	中 509号	111	10		10
日 510号	66	10		10	中 510号	90	10		10
日 511号	95	10		10	中 511号	69	10		10
日 601号	104	27		27	中 513号	107	23		23
日 602号	116	19		19	中 602号	168	26		26
日 603号	118	16		16	中 603号	73	19		19
日 604号	138	10		10	中 604号	78	10		10
日 201号	124	10		10	中 605号	75	10		10
日 513号	119	10		10	中 202号	67	19		19
日 512号	108	10		10	中 514号	67	18(11)		18
					中 515号	36	15(11)		15
合 計	1,435	193	(10)	193(10)	合 計	1,196	217(22)	(10)	217(10)

() 内は有料配布

交雑原種

品 種 名	13年度 製造蛾数	配 布 数 量		計	品 種 名	13年度 製造蛾数	配 布 数 量		計
		研究機関	その他				研究機関	その他	
日 03・日 04	68	10	(5)	10(5)	中 03・中 04	92	10	(5)	10(5)
日509・日510	106	10		10	中509・中510	71	10		10
日511・日512	70	10		10	中602・中603	67	13		13
日601・日602	65	13		13	中604・中605	67	10		10
日603・日604	117	10		10	中511・中513	58	10(10)		10(10)
合 計	426	53	(5)	53(5)	合 計	355	53(10)	(5)	53(15)

() 内は有料配布

交雑種

蚕 期 別	配布 品種名	13年度 製造蛾数	配 布 数 量		計
			研究機関	その他	
春 蚕 期	18	4,428	2,804	11	2,815
初秋蚕期	18	1,740	559	50	609
晩秋蚕期	18	1,181	838	55	893
合 計	54	7,349	4,201	116	4,317

研究機関：国公立試験研究機関及び大学
そ の 他：民間等

(2) 保存蚕品種配布状況

蚕品種・系統	保存点数 (点)	配布済品種数 (品種)	配布蚕種数 (蛾)
日本種 在来種	49	37	108.5
日本種 改良種	55	55	102.5
中国種 在来種	51	43	94
中国種 改良種	70	60	69
欧州種 在来種	27	27	62.5
欧州種 改良種	19	17	15.5
東南アジア種	6	6	19
眠 性 種	21	21	35.5
突然変異種原型	125	90	107
突然変異種複合型	49	14	10.5
合 計	472	370	624

(4) 桑の接穂・苗木の配布状況

品 種 名	配布本数(本)		配 布 先
	接穂	苗	
しんいちのせ	200		鹿児島県
しんけんもち	200		福島県
みつさかり	200		鹿児島県
なつのぼり	400		栃木県、鹿児島県
ララベリー	60	113	山形県、宮城県、白鷹町など11件
ポップベリー		5	白鷹町
計	1 060	118	のべ 17件

(3) 昆虫培養細胞株の分譲状況

培養細胞番号	培養細胞名	所内分譲(件)	所外分譲(件)
SK0001	NIAS-MB-32	1	1
SK0002	Sf9		1
SK0003	SES-MaBr-1	1	2
SK0004	SES-MaBr-3	1	1
SK0005	NIAS-MB-25	2	1
SK0006	NIAS-MaBr-92	2	2
SK0007	SES-MaBr-4		2
SK0008	NIAS-LeSe-11		1
SK0009	NIAS-MaBr-93	3	1
SK0011	SES-MaBr-5	2	1
SK0013	NIAS-AeAl-2	2	
SK0015	FRI-Splm-1229	2	
SK0016	TUAT-SpLi-221	1	1
SK0017	NIAS-PX-64	2	
SK0019	SES-BoMo-J125K2	1	
SK0020	SES-BoMo-J125K1	1	
SK0021	SES-BoMo-J125K5	1	
SK0022	SES-BoMo-J125K6	1	
SK0023	BM-N4	1	2
SK0026	NISES-B0M0-Cam1		1
SK0028	SES-BoMo-J125	1	
SK0029	SES-BoMo-15A	1	1
SK0030	SES-BoMo-C129	1	
SK0031	FFPRI-Splm-2AM		1
SK0034	SES-MaBr-2	2	
計		29	19

4. 依頼照射

依頼名	作物名	形状	照射方法	件数
【国立試験研究機関】				
近畿中国四国農業研究センター	ダイズ	種子	急照射	6
作物研究所	ダイズ	種子	急照射	5
森林総合研究所	ポプラ	苗木	急照射	1
東北農業研究センター	ソバ	種子	急照射	2
野菜・茶業研究所	ミツバ	種子	急照射	10
野菜・茶業研究所	ハウレンソウ	種子	急照射	10
野菜・茶業研究所	ネギ	種子	急照射	10
野菜・茶業研究所	レタス	種子	急照射	40
野菜・茶業研究所	アスパラガス	種子	急照射	8
野菜・茶業研究所	シュンギク	種子	急照射	8
野菜・茶業研究所	トルバム	種子	急照射	8
野菜・茶業研究所	ニンジン	種子	急照射	8
野菜・茶業研究所	ブロッコリー	種子	急照射	8
野菜・茶業研究所	タマネギ	種子	急照射	8
小計				132
【公立試験研究機関等】				
北海道立十勝農業試験場	ダイズ	種子	急照射	15
山形県置賜総合支庁産地研究課	エダマメ	種子	急照射	4
新潟県農業総合研究所	ヒメイワダレソウ	植物体	緩照射	3
新潟県農業総合研究所	ネギ	培養体	急照射	5
新潟県農業総合研究所センター	チューリップ	球根	急照射	6
新潟県農業総合研究所センター	イネ	種子	急照射	16
新潟県農業総合研究所センター	ダイズ	種子	急照射	2
宮崎県総合農業試験場	イネ	種子	急照射	6
茨城県農業総合センター	キク	培養体	急照射	4
鳥取県園芸試験場	ナシ	植物体	緩照射	10
山形県立園芸試験場	食用キク	培養体	急照射	3
山形県立園芸試験場	食用キク	冬至苗	急照射	6
山形県立園芸試験場	サトイモ	培養体	急照射	2
山形県立園芸試験場	メロン	種子	急照射	3
山形県立園芸試験場	オウトウ	穂木	急照射	5
富山県農業技術センター	チューリップ	球根	急照射	38
静岡県柑橘試験場	ナシ	穂木	急照射	1
茨城県立水戸農業高等学校	ハナスベリヒユ	培養体	急照射	5
小計				134
【大学】				
鳥取大学	イネ	種子	急照射	1
筑波大学	イネ	種子	急照射	2
小計				3
【民間・個人等】				
みのるガーデンセンター	ミヤコワスレ	培養体	急照射	4
みのるガーデンセンター	スカビオサ	培養体	急照射	1
オリノバ	イネ	種子	急照射	1

依 頼 名	作 物 名	形 状	照射方法	件 数
富山県福野町園芸植物園	キク	挿穂	急照射	1
鶴川清一	クワイ	塊茎	急照射	1
星野昌章	スモークツリー	種子	急照射	1
日精製油株式会社	ラベンター	植物体	緩照射	6
日精製油株式会社	ピオラ	植物体	緩照射	3
加茂花菖蒲園	ギボウシ	種子	急照射	1
大東植産株式会社	ノシバ	根茎	急照射	2
大東植産株式会社	シーショウワースパルム	根茎	急照射	2
岩下友記	東洋蘭	培養体	急照射	1
齋藤賢一	モモ	植物体	緩照射	2
行徳緑化農場	山桃	種子	急照射	2
農林水産技術情報協会	トルコギキョウ	種子	急照射	6
ジェー・アンド・エッチ・ジャパ	オステオスペルマム	植物体	緩照射	1
石井重久	サクラ	穂木	急照射	1
三瓶雄一	ディルフィニウム	種子	急照射	1
湯本邦雄	オモト	種子	急照射	5
湯本邦雄	リンゴ	穂木	急照射	3
小 計				45
合 計				314

VI 広報・普及

1. 刊行物一覧

刊行物名	発行年月
農業生物資源研究所年報 平成12年度	13.3
Annual Report 2001 (No.17)	13.3
農業生物資源研究所ニュース 創刊号	13.8
農業生物資源研究所ニュース No.2	13.11
農業生物資源研究所ニュース No.3	13.12
農業生物資源研究所ニュース No.4	14.3
農業生物資源研究所研究報告 第16号	14.3
農業生物資源研究所研究資料 第16号	14.3
Gamma Field Symposia No.38	13.4
Gamma Field Symposia No.39	13.12
最近の主要な研究成果	13.8
Research and Development on Buckwheat: An Important yet a Neglected Crop in Nepal (Proceedings of National Workshop, 13-14 Sept 2001, Kathmandu, Nepal)	13.9
The International Workshop in Tsukuba: Current Status and Perspectives in Cloning and Related Studies, Program and Abstracts	13.10
NIAS-COE/BRAIN Joint International symposium: Genomic Approaches to functional Analysis of Plant Genes, Abstracts	13.11
農林水産省 交付金プロジェクト「形態・生理」研究成果集	14.3
農林水産省ジーンバンク事業実績報告書：(植物遺伝資源部門)(微生物遺伝資源部門)(動物遺伝資源部門) 平成12年度	13.12
植物遺伝資源探索導入調査報告書 第17号	13.3
植物遺伝資源探索導入調査報告書 第18号	14.3
動物遺伝資源探索調査報告 第12号	13.12
微生物遺伝資源探索収集調査報告書 第14号	14.3
微生物遺伝資源利用マニュアル (11)	14.3
微生物遺伝資源利用マニュアル (12)	14.3
昆虫機能COEニュースレター No.15	13.7
昆虫機能COEニュースレター No.16	13.12
昆虫機能COEニュースレター No.17	14.3
Insect COE News Letter No.15	13.7
Insect COE News Letter No.16	13.12
Insect COE News Letter No.17	14.3
独立行政法人農業生物資源研究所 (要覧)	13.4
National Institute of Agrobiological Sciences (NIAS)(英文要覧)	13.11
イネゲノム研究～遺伝子の構造及び機能解析と育種・機能性食品開発への応用～	-
農業生物資源ジーンバンク 植物・微生物・動物・DNA	13.12
MAFF Genebank : Plants, Microorganisms, Animals and DNA	14.3



2. 収書図書数

(14.3.31現在)

地 区	和洋	単行書(冊)			雑誌(種)			その他資料(冊)		
		購入	寄贈	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
観音台	和	231	44	275	67	733	800	3	147	150
	洋	118	20	138	154	98	252	0	22	22
	計	349	64	413	221	831	1052	3	169	172
大わし	和	86	42	128	92	503	595	0	115	115
	洋	58	55	113	114	12	126	0	10	10
	計	144	97	241	206	515	721	0	125	125
合 計	和	317	86	403	159	1236	1395	3	262	265
	洋	176	75	251	268	110	378	0	32	32
	計	493	161	654	427	1346	1773	3	294	297

3. 視察・見学者数一覧

()は、うち外国人数

年 月	つくば	大 宮	松 本	岡 谷	小淵沢	合 計
13年 4月	2,082(13)	3(0)	6(0)	292(0)	18(0)	2,401(13)
5月	149(5)	0(0)	17(0)	54(0)	2(0)	222(5)
6月	122(26)	12(0)	32(2)	24(0)	7(3)	197(31)
7月	248(19)	43(0)	18(0)	102(3)	19(0)	430(22)
8月	213(31)	1(0)	10(0)	30(6)	16(0)	270(37)
9月	277(68)	19(0)	17(0)	15(0)	9(0)	337(68)
10月	291(32)	126(1)	4(0)	18(0)	11(0)	450(33)
11月	372(44)	17(3)	4(0)	50(0)	2(0)	445(47)
12月	109(12)	7(0)	5(0)	4(0)	0(0)	125(12)
14年 1月	90(3)	32(0)	4(0)	7(0)	0(0)	133(3)
2月	72(12)	53(0)	12(2)	9(2)	9(0)	155(16)
3月	103(15)	50(0)	13(0)	11(0)	15(0)	192(15)
13年度合計	4,128(280)	363(4)	142(4)	616(11)	108(3)	5,357(302)

上記のうち、一般公開等来訪者数(4月18日 つくば 1,836名、4月29日 岡 谷 250名、10月19日 大 宮 126名)

4. 普及・教育活動

開催年月日	活動内容	開催場所
13.4.18	平成13年度一般公開	本部・大わし地区
13.4.29	2001 シルクフェア in おかや	長野県岡谷市内
13.7.25 ~ 13.8.29	つくばびっ子博士 (8月15日を除く毎週水曜日)	P G C セミナー室他
13.7.26 ~ 13.7.27	2001 Silk Summer Seminar in Okaya -第54回製糸夏期大学-	ホテル岡谷
13.8.5 ~ 13.8.7	青少年のための科学の祭典 2001全国大会	(財)日本科学技術振興財団 科学技術館
13.8.6 ~ 13.8.7	科学技術館夏休み特別展 科学・サマーカーニバル '01	(財)日本科学技術振興財団 科学技術館
13.10.6 ~ 13.10.7	つくば科学フェスティバル 2001	つくばカピオ
13.10.13 ~ 13.10.14	第2回まつもと工業まつり	松本臨空工業団地
13.10.19	放射線育種場一般公開 -放射線でひらく21世紀の農業-	放射線育種場
13.12.12 ~ 13.12.13	シルク・サミット 2001 in 桐生 -シルクへの想いを新しい波に-	群馬県桐生市市民文化会館他
イベントへの職員の派遣による協力を含む。展示物の貸し出しによる協力は除く。		

5. 報道関係

(1) 記者発表

発表課題名	発表記者会	発表場所	発表年月日
トノサマバッタの生息密度（大発生時や通常の低密度下）に応じて変わる体色を制御するホルモン機構の解明 ～一世紀にわたる謎を解く～	筑波研究学園都市記者会	農林交流センター（セミナー室）	13.4.25
蛇毒タンパク質が血液凝固を阻害する仕組みを解明	筑波研究学園都市記者会	農林交流センター（セミナー室）	13.7.4
体細胞クローン雄牛の精子テロメア長の正常性 （旧畜産試験場の成果として発表）	筑波研究学園都市記者会	農林交流センター（セミナー室）	13.8.29
農業生物資源研究所とNECソフトが共同研究開始 ～タンパク質の構造に関する共同研究～ タンパク質の立体構造に関する研究 タンパク質構造解析の産業利用技術化に関する研究	筑波研究学園都市記者会	農林交流センター（セミナー室）	13.11.19
イネ白葉枯病菌のゲノム解読ほぼ終了 ・ホールゲノムショットガン法により全塩基配列を決定 （推定で総計約4500個）し、病原性関連領域で新規の遺伝子候補（約30個）を発見	筑波研究学園都市記者会	農林交流センター（セミナー室）	14.1.9
6591個のイネ遺伝子を位置づけた高密度遺伝子地図を作成 ～植物における最高密度の遺伝子地図～	筑波研究学園都市記者会	農林交流センター（セミナー室）	14.3.13

(2) 資料提供

提供資料課題名	提供記者会	提供年月日
第40回ガンマフィールドシンポジウム& 成果展示会 ～突然変異育種の軌跡と新しい展開～ 成果展示：突然変異による育成品種の紹介	筑波研究学園都市記者会	13.6.15
独立行政法人農業生物資源研究所 設立記念式典とシンポジウムの開催案内	筑波研究学園都市記者会	13.8.22
COE「昆虫機能利用研究」 プロジェクト主要成果集の提供	筑波研究学園都市記者会	13.8.22
平成13年度農林水産省農作物新品種命名登録（第1回）について ・命名登録になった低グルテリン米「LGC-1」の紹介	農政クラブ・農林記者会	13.10.5
イネ塩基配列解読国際コンソーシアムが2002年末までにイネの全塩基配列重要部分の解読終了を決定 ・国際イネゲノム塩基配列解析プロジェクト（IRGSP）は2002年末までにフェーズ2（高精度ドラフト配列）以上で完全解読を行うと宣言	筑波研究学園都市記者会	13.12.21

(3) 新聞記事

日付の後のYは夕刊

掲載年月日	見 出 し	新聞名
13.4.1	変わる農 第3部「遺伝子の波紋」2 稲ゲノム解読	毎日新聞(熊本)
13.4.2	ゲノムの世紀 狙われる生物遺伝子 イネ解読競う官民	日経産業新聞
13.4.2	遺伝子組み換え技術 高血圧や花粉症予防イネを研究	産経新聞
13.4.4	安定多収の桑新品種 「なつのぼり」を育成	日本農業新聞
13.4.6	イネ第1染色体のDNA配列 99.99%の高精度で解読	科学新聞
13.4.6Y	イネゲノム 1番染色体ほぼ読めた	朝日新聞
13.4.11	桑園の薬剤散布トラクターで楽々 電動散粒機を開発	日本農業新聞
13.4.11	生きた蚕も展示 29日に長野県でシルクフェア	日本農業新聞
13.4.12	数千年も栽培続く豆類や雑穀 在来種、絶滅の危機	日本農業新聞
13.4.13	遺伝子数は約7000個 第一染色体を高精度解読 イネの塩基配列	全国農業新聞
13.4.16Y	アワ、ヒエ...国内消滅の危機 在来種の栽培激減	読売新聞
13.4.19	科学は楽しい つくばなどの研究機関が一般公開	読売新聞
13.4.20	10年後の技術達成目標 4 ゲノム・先端研究 遺伝子の機能を解明	日本農業新聞
13.4.23	99.99%の精度で7000個予測 イネ第1染色体の塩基配列解読	常陽新聞
13.4.26	黒くなったトノサマバッタ 体色制御のメカニズム解明	東京新聞
13.4.26	ホルモンの働き解明 トノサマバッタの体色変化	日本農業新聞
13.4.26	バッタの変色成功 色と行動との関係調査	日経産業新聞
13.4.26	トノサマバッタの体色黒変 ホルモン作用を解明	日刊工業新聞
13.4.27	バッタの体色変化確認 ホルモン投与の機構解明	日本工業新聞
13.4.27	ホルモンがバッタ変色 解明	茨城新聞
13.4.30	トノサマバッタ 体色を変える ホルモンの仕組み解明	毎日新聞
13.4.30	体色変化の原因となるホルモン解明 集団発生時のバッタ	常陽新聞
13.4.30	自然の不思議 ホルモン注射で体色変化	赤旗
13.5.2Y	体色変化ホルモンを発見	読売新聞
13.5.3	コメ主導すすみ絶滅の危機 「ヒエ・アワ在来種守れ」	東京新聞
13.5.14	1世紀の謎の解明へ 群れるバッタはなぜ黒い? ホルモンで体色誘導	常陽新聞
13.5.16Y	遺伝子のスイッチをオフ DNAメチル化に注目	朝日新聞
13.5.18	技術最前線 トノサマバッタの体色変える仕組みを解明	全国農業新聞
13.5.18	植物遺伝資源活用の国際ルール案まとまる	日本農業新聞
13.5.18Y	夢中人 バッタ変色のなぞを解く	朝日新聞
13.5.22	蚕糸業の博物館がピンチ 農家減り展示、教育に苦慮	日本農業新聞
13.5.25	解析スピードなど課題 イネゲノム研初会合	日刊工業新聞
13.5.25	イネゲノム研究を推進 有識者懇談会が初会合	日本農業新聞
13.5.25	国研から脱皮 独立法人始動 融合研究、企業も参加	日経産業新聞
13.5.25	日本の家畜クローン出生は、ほとんどが牛	科学新聞
13.5.28	イネゲノム有識者懇談会が初会合	化学工業日報
13.6.5	蚕品種や機能性などテーマに講演 来月、夏期大学	日本農業新聞
13.6.7	G革命へ発信 ポストゲノムの胎動 21 イネの塩基配列解析	日刊工業新聞
13.6.7	イネゲノム研究加速 国際競争力確保へ 懇談会で方向性	化学工業日報
13.6.12	生物資源で新産業創出 高度利用研究会を設立	化学工業日報
13.6.14Y	イネゲノム 解読1年前倒し 欧米企業先行「成果購入論」も浮上	朝日新聞
13.6.15	塩基配列の解読で意見 イネゲノム懇談会	全国農業新聞
13.6.18	遺伝子組み換え作物の意義 食糧危機に対応 望まれる正当な評価	日本農業新聞

掲載年月日	見 出 し	新聞名
13.6.21	新品種の繭「大鷲」を利用し結城紬 ブランドシルクをPR	毎日新聞
13.6.22	種のメッセージ 6 鉱脈探し 遺伝資源を次代へ	日本農業新聞
13.6.22	突然変異育種の奇跡と展開探る 7月11, 12日につくば市でシンポ	日本農業新聞
13.6.22	突然変異育種でシンポ ガンマーフィールド委 来月11, 12日	日刊工業新聞
13.6.28	食料・人口問題などテーマにシンポ 7月19日に日本技術士会	日本農業新聞
13.7.2	害虫大発生 なぜ? アワヨトウ 北日本を猛襲	日本農業新聞
13.7.3	生物資源の利用探る 研究会を設立へ	日本農業新聞
13.7.5	ヘビ毒 疑血阻害作用を解明 血栓防止薬に応用	日経産業新聞
13.7.5	蛇毒たん白質の働き解明 抗血液凝固薬など期待	化学工業日報
13.7.5	百歩蛇の毒 血液凝固阻害の仕組み解明 凝固因子一部と結合	日刊工業新聞
13.7.6	蛇毒の血液凝固阻害 抑制の仕組み解明	日本工業新聞
13.7.6	ナノテクノロジーから宇宙まで “強いイネ” 食糧危機を救う	日本工業新聞
13.7.13	放射線育種の成果報告 140品種を登録	日本農業新聞
13.7.13	健康・医療めぐり新形質米研修会 27日につくば市で	日本農業新聞
13.7.13	ヘビ毒タンパク質の血液凝固阻害機構解明 共同研究	科学新聞
13.7.16	国研から脱皮 独立法人始動 農業生物資源研究所 ④ 動植物全般を対象に	日経産業新聞
13.7.16	ゲノムの世紀定着への課題 瀬戸際の組み換え作物	日経産業新聞
13.7.17	国研から脱皮 独立法人始動 農業生物資源研究所 ⑤ 研究し烈なイネゲノム	日経産業新聞
13.7.20	DNA鑑定技術のビジネス展開探る 10月11日に都内で	日本農業新聞
13.7.23	岩元睦夫農林水産技術会議事務局長に聞く 技術先導の農政必要	化学工業日報
13.7.27	絹から抗HIV物質 作成 予防投与などに有効	化学工業日報
13.7.31	新形質米研修会 低グルテリンや飼料用稲 新品種の普及に関心	日本農業新聞
13.8.1	日本技術士会が創立50周年記念シンポ「食料・人口」テーマに討論	日本農業新聞
13.8.2	ゲノムが世界を動かす 農業支配強める企業	毎日新聞
13.8.6	絹から抗HIV物質 主成分たんぱく質硫酸化	日刊工業新聞
13.8.8	新事業創出へ19課題 若手支援型の基礎研究も	化学工業日報
13.8.9	ナノテクノロジーから宇宙まで ごはんで生活習慣病を断て	日本工業新聞
13.8.9	新技術研究 13課題採択 生物機能を高度利用	日本農業新聞
13.8.10	ナノテクノロジーから宇宙まで 次世代コメ、花粉症抑制も	日本工業新聞
13.8.14	ナノテクノロジーから宇宙まで クローン家畜 食糧確保へ最新技術	日本工業新聞
13.8.21	県産雑穀見直そう 研究発表や試飲食	日本農業新聞
13.8.21	イケます! 雑穀ビール 県産原料活用策探る	岩手日報
13.8.21	なかなかの味 雑穀ビール 盛岡で試飲会	岩手日日
13.8.27	設立記念で式典 30日	化学工業日報
13.8.29	イネゲノム研究3倍に 概算要求	化学工業日報
13.8.30	体細胞クローン牛 「老化」に影響せず 遺伝子調査で判明	日本農業新聞
13.8.30	クローン牛の精子で生まれた子牛のテロメア正常	産経新聞
13.8.30	テロメアは正常 クローン牛の精子	日本工業新聞
13.8.30	寿命示す遺伝子配列クローン牛は正常	毎日新聞
13.8.30	昆虫利用した物質生産探る 10月22・23日につくば市でシンポ	日本農業新聞
13.8.30	ナノテクノロジーから宇宙まで 温暖化対策や砂漠化の防止にも	日本工業新聞
13.8.31	遺伝子機能解明目指す 設立記念式典とシンポ	日本農業新聞
13.9.1	稲ゲノム解読加速 来年度完了へ前倒し 特許競争に対応	日本農業新聞
13.9.1	アンテナ 生命科学の研究が重要	日本農業新聞
13.9.1	イネゲノム解読2年前倒し提言 有識者懇談会	日本経済新聞

掲載年月日	見 出 し	新聞名
13.9.1	イネゲノム解読を加速	朝日新聞
13.9.1	イネゲノムの解読終了時期 02年度に繰り上げ 特許戦争激化に対応	毎日新聞
13.9.3	イネゲノム 来年度内に解読完了 予算要求、倍増の100億強	化学工業日報
13.9.3	イネゲノム 解読終了、来年度中に 研究者組織、提言まとめる	日経産業新聞
13.9.3	イネゲノム解読を加速 来年度終了に前倒し	日本工業新聞
13.9.3	体細胞クローン雄牛 テロメア長は正常 精子などで確認	化学工業日報
13.9.3	新技術・新分野創出へ 01年度 基礎研究推進事業	化学工業日報
13.9.4	細胞寿命に関係する染色体末端遺伝子 体細胞クローン牛の「テロメア」長さ	日刊工業新聞
13.9.4	クローン牛細胞の寿命正常	日経産業新聞
13.9.8	論説 イネゲノム研究 遺伝子の機能解明を急げ	日本農業新聞
13.9.12	イネゲノム研究を加速化 研究有識者懇談会が提言	農業共済新聞
13.9.14	イネゲノムの解読 来年度中に完了へ	全国農業新聞
13.9.17	えいのう相談室 キラー酵母実用化は	日本農業新聞
13.9.19	クローン家畜研究を討議 つくば市で来月15日から	日本工業新聞
13.9.20	光る研究室 上 クローン豚 人への臓器提供に期待	日本工業新聞
13.9.21	光る研究室 下 クローン豚 再生医療の可能性秘める	日本工業新聞
13.9.24	クローン家畜生産に関する国際ワークショップ	常陽新聞
13.9.25	宇宙環境利用の公募研究テーマ 上	日刊工業新聞
13.10.3	遺伝子操作で低温に強い稲 育種素材に期待	日本農業新聞
13.10.9	水稻新形質米 5 品種を登録	日本農業新聞
13.10.16	各地でまつり 企業や高校など76ブース出展 工業まつり	信濃毎日新聞
13.10.22	蚕の新品種で新製品を 県独自ブランド目指す	毎日新聞
13.10.24	昆虫機能の活用へ つくばで国際シンガ	日本農業新聞
13.10.24	シルク・サミット2001 in桐生	農業共済新聞
13.10.24	13年度第1回 命名登録新品種の特徴 上	農業共済新聞
13.10.29	探究創 新しいシルクマテリアル産業構築へ研究開発の重要性を説く	化学工業日報
13.11.9	シルク・サミット桐生 12月12～13日	全国農業新聞
13.11.10	稲遺伝子、6 割解読 1 万 7 千個を収集	日本農業新聞
13.11.10	イネの遺伝子 6 割解読 ゲノム研究に弾み	産経新聞
13.11.10	イネDNA 有用の 1 万 7000 個 解読 植物で世界最多	日本経済新聞
13.11.10	イネ遺伝子の 6 割解読	毎日新聞
13.11.12	イネ完全長 c DNA 6 割の解読達成 来年度完了にもメド	化学工業日報
13.11.13	イネの c DNA 塩基配列 1 万 7000 個決定 来年度中に全量解読	日刊工業新聞
13.11.13	第70回農林交流センターワークショップ	常陽新聞
13.11.16	絹織り伝授へ研修会 23日からカイコと八尾展	富山新聞
13.11.16	絹織り指導のコツつかむ 岡谷市研究所員手ほどき	北日本新聞
13.11.20	たん白質構造解析 NECソフトと共同研究 高度計算技術を駆使	化学工業日報
13.11.20	タンパク質の構造解析技術 NECソフト共同研究で合意	日本工業新聞
13.11.20	ゲノム IT 技術の応用推進 共同研究	日刊工業新聞
13.11.20	たんぱく質解析、民間と共同研究	読売新聞
13.11.20	NECソフトと タンパク質構造で共同研究	電波新聞
13.11.21	世界に先駆けイネ「完全長 c DNA」を解読	農業共済新聞
13.11.22	たんぱく質の構造解明 共同研究に合意	日本農業新聞
13.11.23	イネの育種革命へ 遺伝子の解析加速 データベース化を	全国農業新聞
13.11.24	環境創世記 適地適畜 取り戻せ循環の輪 効率優先に「種」が警鐘	日本農業新聞

掲載年月日	見 出 し	新聞名
13.11.27	新需要の創出へ プロジェクト研究成果から	日本農業新聞
13.12.7	医療向けに普及 低グルテリン品種続々 低たんぱく米	日本農業新聞
13.12.9	世界一細い絹糸を開発 松本から新蚕業を 医療品向けの繭も特許申請中	信濃毎日新聞
13.12.13Y	「シルク・サミット2001 in 桐生」 全国から250人集い議論 シルクの方向性探る	桐生タイムス
13.12.18	論説 「シルク・サミット」に思う	桐生タイムス
13.12.25	イネゲノム解読 年度末に完了 国際プロジェクト	日本農業新聞
13.12.25	イネゲノム国際プロジェクト 来年内に完全解読	化学工業日報
13.12.30	2001年回顧 高品質で輸入に対抗 稲の遺伝子6割解読	日本農業新聞
14.1.1	なるほどナットク 話題の農業先端技術 節目を迎えるイネゲノム研究	農業共済新聞
14.1.1	昆虫 小さな体に可能性ぎっしり 有効資源が眠る“宝庫”	日本農業新聞
14.1.1	国際イネゲノム解析プロ 年内にフェーズ2	日刊工業新聞
14.1.1	21世紀で克つには... “遺伝子”を凝視すべき	日本食料新聞
14.1.1	花粉症に繭糸マスク ほこり吸着高い能力に着目	信濃毎日新聞
14.1.10	稲の白葉枯病菌ゲノムほぼ解読 抵抗性品種育成に弾み	日本農業新聞
14.1.10	イネの白葉枯病 ゲノムほぼ解読	産経新聞
14.1.10	イネ白葉枯病菌のゲノム ほぼ解読を完了	毎日新聞
14.1.10	イネ白葉枯病菌ゲノム解読完了	化学工業日報
14.1.10	白葉枯病菌 全遺伝情報を解読 イネ新品種開発に道	日経産業新聞
14.1.10	イネ細菌病のゲノム解読 耐性品種や薬の開発に道	河北新報
14.1.10	イネ白葉枯病菌 ゲノム配列解読に成功 さらに遺伝子機能解明へ	日本工業新聞
14.1.11	イネゲノム全塩基配列 今年中に完全解読へ	科学新聞
14.1.14	拒絶反応抑えたクローン豚 異種移植の大きなハードル越える	毎日新聞
14.1.14	週間ダイジェスト 営農 稲の病原菌ゲノム解読	日本農業新聞
14.1.14	イネ白葉枯病菌のゲノム解読を終了	日本食料新聞
14.1.15	ゲノム研究成果内外の学者が発表 2月6～8日 茨城県つくば市で	日本農業新聞
14.1.15	つくばの研究者が発表 30日に植物工場学会シンポ	常陽新聞
14.1.18	新品種紹介 01年度農水省育成農作物	全国農業新聞
14.1.22	バイオウオース 起爆剤 農林畜産のメッカ イネゲノムで先頭走る	日本工業新聞
14.1.23	インドネシアで国際野蚕学会議 4月下旬に	日本農業新聞
14.1.23	イネ白葉枯れ病菌のゲノム解析を終了	農業共済新聞
14.1.24	稲白葉枯れ病菌 ゲノムほぼ解読	日刊工業新聞
14.1.25	イネ白葉枯れ病菌 全ゲノム配列解読	科学新聞
14.1.26	脱皮殻も使い抗菌絹を開発 医療用服に応用期待	日本農業新聞
14.1.29	イネとシロイヌナズナで 開花期決める遺伝子同定	日本工業新聞
14.1.29	植物工場の最新技術紹介 あす都内で講演会	日本農業新聞
14.1.31	絹利用ワイドに パウダー化でこんなに使える	日本農業新聞
14.2.6	ジャンボ蚕から有用たんぱく質 中国産で量産技術開発	朝日新聞
14.2.11	ゲノム解析施設を拡充 品質改良や機能性食品 早期産業化目指す	日刊工業新聞
14.2.12Y	進む「国際イネゲノム計画」 食糧危機回避へ熱い期待	東京新聞
14.2.22	第一線の研究者が討議 国際イネゲノムフォーラム 塩害に強いイネ開発を報告	全国農業新聞
14.2.23	遺伝子組み換えめぐり つくばで研究者がディベート	常陽新聞
14.3.4	カイコやガ活用し「昆虫工場」遺伝子組み換えで医薬品原料を生産	毎日新聞
14.3.12	科学から産業へ ゲノムビジネス動き出す 動植物ゲノム	日刊工業新聞
14.3.12	国際ワークショップ 「第2世代組み換え農作物の開発」	常陽新聞
14.3.14	稲遺伝子の地図作製 有用種開発へ期待	日本農業新聞

掲載年月日	見出し	新聞名
14.3.14	イネ遺伝子 高密度マップ作成 6591個の位置を特定	化学工業日報
14.3.14	6591個分の位置付け イネ遺伝子の地図作成	常陽新聞
14.3.14	最高密度の遺伝子マップ イネ染色体活用し作成	日本工業新聞
14.3.15	稲の遺伝子地図作製 ゲノム解読と品質育成に期待	日本農業新聞
14.3.19	イネの遺伝子地図作製 H P で公開	日経産業新聞
14.3.20	畜産学会賞と奨励賞決まる	日本農業新聞
14.3.22	軟骨細胞 増殖能力 約10倍に 絹のたんぱく質利用	日経産業新聞
14.3.26	来年度研究テーマ 森林機能など25件 選定	日経産業新聞

(4) テレビ・ラジオ放送

テレビ放送

放送年月日	放送時間帯	内 容	番組名	放送局
13.4.4	8:00-10:00	21世紀エコロジー最前線 (「遺伝子組換え食品コーナー」で紹介)	スーパーモーニング	テレビ朝日
13.5.2	10:00-10:55	こんな所にも? 広がる遺伝子組換え食品 (機能性米開発の現状等)	NHK ニュース10	NHK (総合)
13.5.10	23:35-23:55	イネゲノム日米の攻防 イネゲノム解析研究の現状と今後の展望(研究現場の放映と理事長他のインタビュー)	BS23経済最前線	NHK衛星 (BS-1)
13.5.15	10:45-11:00	「お米なんでも大百科」 (種子貯蔵庫と機能性米の栽培風景を紹介)	なぜなぜ日本	NHK (教育)
13.5.17	11:30-12:00	「赤いバツタについて」 (番組中に電話インタビュー)	ニュース・スピーク	フジテレビ
13.6.1	8:33-9:23	続々登場! おこめの新顔(機能性米の紹介等)	生活ほっとモーニング	NHK (総合)
13.6.13	10:00-10:15	安全な食べ物 (土壌等、身近な環境問題を取り上げて放映)	たったひとつの地球	NHK (教育)
13.7.6	23:00-23:45	特集《バイオで蘇る養蚕業》 壊滅寸前の養蚕業が挑む漢方秘薬・光るカイコ	ワールドビジネスサテライト	テレビ東京
13.7.18	14:05-14:45	バイオテクノロジー最前線	昆虫が医学を変える	野村の自由学校
13.12.11	5:55-8:00	カイコ品種「小石丸」の卵、繭の特徴等	めざましテレビ	フジテレビ
14.1.18	18:10-18:40	体細胞クローン家畜の映像および作出方法	週間こどもニュース	N H K
14.2.17	7:00-7:30	昆虫が冬を越すための生態・仕組み等	所さんの目がテン!	日本テレビ
14.2.18 14.2.25	10:00-11:00	イネゲノムプロジェクト、全塩基配列解析事業、 国際コンソーシアム、マップベースクローニング 法、機能性米等	植物を操る ～イネの遺伝子をめぐって～	グリーンチャンネル・ アグリネット
14.3.1	7:38-7:41	市場に出回っている豚肉の現状等 (「きょうのアンクル」コーナーにて放送)	ズームイン!! SUPER	日本テレビ
14.3.26		放射線照射と培養による突然変異の誘発	テクノギャラリー: 最先端の冒険者たち	サイエンスチャンネル

放送年月日	放送時間帯	内 容	番組名	放送局
13.6.14	22:00-23:00	月例経済報告、イネゲノム、他 (国際協力の意義、ゲノム情報の活用等インタビュー)	ニュース・ジャーナル	NHK (第1)
13.7.13	22:00-22:50	コメを医療に ～低たんぱく米の効用～	NHKジャーナル	NHK (第1)

(5) 雑誌・広報誌等

誌名	見出し (内容)	発行所	発行年月日 巻号・ページ
日経バイオテク	潮流 / 機能性組換えイネの開発が加速、日本独自の農業バイオ推進体制構築を目指す	日経 B P 社	13.5.7 第471号 P.23-26
MAFF UPDATE	Solving Century-Old Mystery: How Locusts Change Their Body Color	農林水産省 大臣官房広報室	13.6.8 No.411 P.1
週刊朝日	食卓を席巻!? 「高血圧、がん・・・に効く」 続々開発中 遺伝子組み換え米ホントに大丈夫か! 消費者の志向が普及の力 を握る?	朝日新聞社	13.6.15 通巻4444号 P.38-40
月刊 社会運動	特集: 「種」取材プロジェクト - 「種」の行方を探る	市民セクター政策機構	13.6.15 2001年6月号 (255号)
TANTO	新しい米の食べ方・選び方 まだまだあるこんな新顔米	集英社	13.7.1 第9巻 第7号
日経バイオテク	農水省・生物研 / ポスト・ゲノム研究センターの新設を総合 科学技術会議に要求	日経 B P 社	13.7.2 第475号 P.3
地上	特集: 農家にとっての遺伝子組み換え問題	家の光協会	13.9.1 9月号 P.67-79
日経トレンド	売れ筋商品製造の秘密 ジャガイモ: 遺伝子組換えの食用以外での利用	日経ホーム出版社	13.10.1 No.187 P.42-44
日経バイオテク	生物研・約5万系統のイネライブラリーを完成データベース 化へ	日経 B P 社	13.10.22 第482号 P.14-15
日経バイオテク	ISGSP 02年末にイネ全塩基配列の解読終了、日本の貢献は 約5割	日経 B P 社	14.1.14 第487号 P.12-13
日経バイオテク	生物研 イネ白葉枯病菌のゲノム解読を完了 耐病性イネ品種や農薬開発応用へ	日経 B P 社	14.1.14 第487号 P.12-13
日経バイオテク	生物研など 機能性組換えイネの閉鎖系温室での試験を開始、 国内初	日経 B P 社	14.2.11 第489号 P.14-15
MAFF UPDATE	イネ白葉枯病菌ゲノム・シーケンス解読ほぼ終了	農林水産省 大臣官房広報室	14.2.22 No.442
日経バイオテク	生物研 相同組換え技術を利用して特定の遺伝子だけを改変 した作物作製に成功	日経 B P 社	14.3.11 第491号 P.13-14
日経バイオビジネス	疑惑の農作物流通にメス? DNA鑑定が各地でブーム	日経 B P 社	14.3.15 2002年4月号 P.72-73
日経バイオテク	生物研など イネの高密度遺伝子地図の作成に成功、育種や 遺伝子機能解明に応用へ	日経 B P 社	14.3.25 第492号 P.13
原子力広報 「あす」	放射線の農業への利用・考古学などへの利用	(社) 茨城県原子力協議会	14.3.25 112号 P.6-7
ニュートン	食べるだけでスギ花粉症や糖尿病が治る 遺伝子組み換えイ ネの威力	ニュートンプレス	14.3.26 5月号 P.102

(6) 取材協力

取材協力	取材件数(報道件数)	取材内容	取材件数(報道件数)
新 聞	53 (186)	遺伝資源関係	20 (13)
テレビ	34 (16)	ゲノム関係	24 (86)
ラジオ	2 (2)	遺伝子組換え関係	25 (25)
書 籍	1	放射線育種場	14 (7)
雑 誌	35 (18)	昆虫関係	33 (49)
その他	9 (1)	クローン関係	9 (15)
		その他	9 (28)
計	134 (223)	計	134 (223)

* 取材・報道件数：複数取材・報道を含む
* 昆虫関係は、遺伝資源関係、ゲノム関係、遺伝子組換え関係を含まず、蚕糸技術を含む。

VII 財務・資産等

1. 財務諸表

貸 借 対 照 表

(平成14年3月31日)

[単位：円]

資産の部

流動資産

現金預金	1,002,922,333	
棚卸資産	4,060,565	
未収還付消費税	795,189,595	
その他流動資産	<u>8,151,396</u>	
流動資産合計		1,810,323,889

固定資産

1 有形固定資産

建物	13,443,959,717	
減価償却累計額	<u>▲ 807,502,574</u>	12,636,457,143
構築物	1,483,138,474	
減価償却累計額	<u>▲ 210,546,325</u>	1,272,592,149
機械及び装置	3,882,702,991	
減価償却累計額	<u>▲ 875,459,322</u>	3,007,243,669
車両運搬具	28,229,327	
減価償却累計額	<u>▲ 6,679,529</u>	21,549,798
工具器具備品	2,601,156,826	
減価償却累計額	<u>▲ 719,017,001</u>	1,882,139,825
土地		<u>23,780,216,475</u>
有形固定資産合計		42,600,199,059

2 無形固定資産

地役権	<u>1,764,978</u>	
無形固定資産合計		1,764,978

3 その他の資産

預託金	<u>2,175,000</u>	
その他の資産合計		2,175,000

固定資産合計 42,604,139,037

資産合計 44,414,462,926

負債の部

流動負債

運営費交付金債務	106,743,138	
未払金	574,463,475	
未払費用	261,848,166	
短期リース債務	253,836,507	
その他流動負債	<u>30,640,375</u>	
流動負債合計		1,227,531,661

固定負債

長期リース債務	348,066,852	
資産見返負債		
資産見返運営費交付金	468,600,813	
資産見返物品受贈額	<u>2,210,336,293</u>	<u>2,678,937,106</u>
固定負債合計		<u>3,027,003,958</u>
負債合計		4,254,535,619

資本の部

資本金

政府出資金	<u>40,319,066,059</u>	
資本金合計		40,319,066,059

資本剰余金

資本剰余金	108,517,154	
損益外減価償却累計額	<u>▲ 1,585,605,275</u>	
資本剰余金合計		▲ 1,477,088,121

利益剰余金

当期末処分利益	<u>1,317,949,369</u>	
(うち当期総利益 1,317,949,369)		
利益剰余金合計		1,317,949,369

資本合計	<u>40,159,927,307</u>
------	-----------------------

負債資本合計	<u>44,414,462,926</u>
--------	-----------------------

損 益 計 算 書
(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

[単位：円]

経常費用

研究業務費

給与手当	3,090,392,420	
法定福利費	137,833,042	
退職金	300,807,552	
退職年金拠出負担金	194,886,465	
雑給	447,580,162	
外部委託費	4,490,764,512	
研究材料費	1,238,599,923	
消耗品費	259,457,002	
備品費	655,681,680	
減価償却費	1,026,520,535	
保守・修繕費	669,203,588	
水道光熱費	432,350,567	
その他経費	427,897,347	13,371,974,795

一般管理費

役員報酬	59,134,769	
給与手当	426,723,755	
法定福利費	23,185,874	
退職金	27,942,483	
退職年金拠出負担金	32,249,023	
雑給	33,176,836	
減価償却費	7,078,941	
保守・修繕費	431,917,787	
その他経費	262,820,486	1,304,229,954

財務費用

支払利息	16,440,295	
その他財務費用	13,920	16,454,215

経常費用計

14,692,658,964

経常収益

運営費交付金収益

運営費交付金収益	7,403,617,017	
資産見返運営費交付金戻入	32,079,032	7,435,696,049

物品受贈益

物品受贈益	379,737,990	
資産見返物品受贈額戻入	816,890,595	1,196,628,585

受託収入

政府受託収入	6,380,974,000	
その他受託収入	196,261,446	6,577,235,446

事業収入

3,150,567

事業外収入

2,108,363

財務収益

受取利息	599,728	599,728
------	---------	---------

還付消費税収入

795,189,595

経常収益計

16,010,608,333

経常利益

1,317,949,369

当期純利益

1,317,949,369

当期総利益

1,317,949,369

キャッシュ・フロー計算書

自平成13年4月1日 至平成14年3月31日

[単位：円]

業務活動によるキャッシュ・フロー

研究業務による支出	▲ 7,613,809,067
人件費支出	▲ 4,693,693,987
一般管理業務による支出	▲ 559,048,885
運営費交付金収入	8,011,040,000
受託収入	6,577,235,446
事業収入	3,419,667
事業外収入	2,108,363
小計	1,727,251,537
利息の受取額	599,728
利息の支払額	▲ 14,326,300

業務活動によるキャッシュ・フロー 1,713,524,965

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	▲ 698,019,064
有形固定資産の除却に伴う支出	▲ 1,852,200
施設費による収入	108,992,000
その他固定資産の取得による支出	▲ 2,175,000

投資活動によるキャッシュ・フロー ▲ 593,054,264

財務活動によるキャッシュ・フロー

リース債務の返済による支出	▲ 117,548,368
---------------	---------------

財務活動によるキャッシュ・フロー ▲ 117,548,368

資金に係る換算差額	0
資金増加額	1,002,922,333
資金期首残高	0
資金期末残高	1,002,922,333

行政サービス実施コスト計算書
自平成13年4月1日 至平成14年3月31日

[単位：円]

業務費用			7,314,375,265
損益計算書上の費用			
研究業務費	13,371,974,795		
一般管理費	1,304,229,954		
財務費用	16,454,215	<u>14,692,658,964</u>	
(控除)			
受託収入	▲ 6,577,235,446		
事業収入	▲ 3,150,567		
事業外収入	▲ 2,108,363		
財務収益	▲ 599,728		
還付消費税収入	<u>▲ 795,189,595</u>	<u>▲ 7,378,283,699</u>	
損益外減価償却等相当額			1,586,080,121
損益外減価償却相当額		1,585,605,275	
損益外固定資産除却相当額		<u>474,846</u>	
引当外退職手当増加見積額			4,157,920
機会費用			
政府出資等の機会費用		<u>554,127,308</u>	<u>554,127,308</u>
行政サービス実施コスト			<u>9,458,740,614</u>

2. 固定資産

固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（損益外減価償却相当額を含む）の明細

単位：円

地区別資産		期 首 (平成13年 4月 1日現在)	当 期 増加額	当 期 減少額	減価償却 累計額	期末残高 (平成14年 3月31日現在)
つくば	土地	17,427,987,286	0	0	0	17,427,987,286
	建物	12,354,418,912	216,187,557	174,975	755,255,425	11,815,176,069
	構築物	1,247,550,095	2,659,404	0	197,269,362	1,052,940,137
	工具器具備品	1,871,186,693	0	0	569,703,696	1,301,482,997
	合計	32,901,142,986	218,846,961	174,975	1,522,228,483	31,597,586,489
大 宮	土地	484,136,747	23,907,033	0	0	508,043,780
	建物	284,317,066	1,189,650	0	18,556,256	266,950,460
	構築物	139,754,883	12,114,400	0	10,444,387	141,424,896
	工具器具備品	0	0	0	0	0
	無形固定 資産（地役権）	2,064,849	0	299,871	0	1,764,978
	合計	910,273,545	37,211,083	299,871	29,000,643	918,184,114
松 本	土地	5,495,400,341	0	0	0	5,495,400,341
	建物	239,419,971	710,850	0	12,578,918	227,551,903
	構築物	56,110,420	0	0	1,195,377	54,915,043
	工具器具備品	0	0	0	0	0
	合計	5,790,930,732	710,850	0	13,774,295	5,777,867,287
岡 谷	土地	0	0	0	0	0
	建物	130,975,529	1,300,530	0	10,986,176	121,289,883
	構築物	4,809,321	0	0	0	4,809,321
	工具器具備品	0	0	0	0	0
	合計	135,784,850	1,300,530	0	10,986,176	126,099,204
小淵沢	土地	348,785,068	0	0	0	348,785,068
	建物	212,008,927	3,605,700	0	10,125,799	205,488,828
	構築物	20,139,951	0	0	1,637,199	18,502,752
	工具器具備品	0	0	0	0	0
	合計	580,933,946	3,605,700	0	11,762,998	572,776,648
全地区 合 計	土地	23,756,309,442	23,907,033	0	0	23,780,216,475
	建物	13,221,140,405	222,994,287	174,975	807,502,574	12,636,457,143
	構築物	1,468,364,670	14,773,804	0	210,546,325	1,272,592,149
	工具器具備品	1,871,186,693	0	0	569,703,696	1,301,482,997
	無形固定 資産（地役権）	2,064,849	0	299,871	0	1,764,978
	合計	40,319,066,059	261,675,124	474,846	1,587,752,595	38,992,513,742

土地及び建物

場 所	土 地 (m ²)	建 物 (m ²) 延面積	備 考
農業生物資源研究所(本部・農環研)	127,772.48	24,524.53	37,602.01
農業生物資源研究所(大わし)	307,896.35	24,331.61	43,052.55
放射線育種場（大宮）	625,798.96	4,702.92	4,712.52
新蚕糸技術研究チーム（松本）	107,690.90	4,024.27	4,635.80
生活資源開発研究チーム（岡谷）	0	2,485.82	3,201.51
昆虫遺伝研究チーム（小淵沢）	42,582.74	1,628.38	1,899.02
計	1,211,741.43	61,697.53	95,103.41

場 所	土 地 (m ²)	建 建面積	物 (m ²) 延面積	備 考
借 地 (岡谷市) 生活資源開発研究チーム (岡谷)	8,500.26	0	0	
地 役 権 放射線育種場 (大宮)	24,034.00	0	0	

資産 (物品) 内訳表

	承継資産		増		減		減価償却累計額	期末残高	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額		数量	金額
合計	916	3,027,226,888	294	894,223,836	0	0	886,215,158	1,210	3,035,235,566
機械及び装置	864	2,977,888,817	280	879,754,874	0	0	873,371,046	1,144	2,984,272,645
車両運搬具	17	20,613,767	4	7,615,560	0	0	6,679,529	21	21,549,798
工具器具備品	35	28,724,304	10	6,853,402	0	0	6,164,583	45	29,413,123
本地区	821	2,873,467,542	277	855,582,867	0	0	839,658,777	1,098	2,889,391,632
機械及び装置	783	2,836,871,086	266	846,803,890	0	0	831,012,400	1,049	2,852,662,576
車両運搬具	10	12,711,004	2	2,526,070	0	0	3,406,676	12	11,830,398
工具器具備品	28	23,885,452	9	6,252,907	0	0	5,239,701	37	24,898,658
大宮地区	39	63,071,512	5	17,884,524	0	0	19,281,458	44	61,674,578
機械及び装置	33	57,801,948	5	17,884,524	0	0	18,200,570	38	57,485,902
車両運搬具	3	2,853,608	0	0	0	0	815,304	3	2,038,304
工具器具備品	3	2,415,956	0	0	0	0	265,584	3	2,150,372
松本地区	24	41,891,827	5	6,108,695	0	0	15,373,469	29	32,627,053
機械及び装置	21	39,805,456	3	2,386,345	0	0	14,020,088	24	28,171,713
車両運搬具	1	713,895	1	3,121,855	0	0	935,439	2	2,900,311
工具器具備品	2	1,372,476	1	600,495	0	0	417,942	3	1,555,029
岡谷地区	18	22,364,988	2	6,587,635	0	0	4,149,189	20	24,803,434
機械及び装置	15	19,984,349	1	4,620,000	0	0	3,300,159	16	21,304,190
車両運搬具	1	1,330,219	1	1,967,635	0	0	607,674	2	2,690,180
工具器具備品	2	1,050,420	0	0	0	0	241,356	2	809,064
小淵沢地区	14	26,431,019	5	8,060,115	0	0	7,752,265	19	26,738,869
機械及び装置	12	23,425,978	5	8,060,115	0	0	6,837,829	17	24,648,264
車両運搬具	2	3,005,041	0	0	0	0	914,436	2	2,090,605
工具器具備品	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資産（物品）本部地区グループ別内訳：期末残高

機械及び装置	合計	
	数量	金額
合計	1,049	2,852,662,576
企画調整部	14	17,747,290
総務部	0	0
基盤研究推進官	0	0
ゲノム研究 G	48	155,953,826
遺伝資源研究 G	93	160,171,901
ジーンバンク	50	65,383,647
発分化研究 G	79	141,002,592
生体防御研究 G	44	131,038,999
生体機能研究 G	103	162,368,943
昆虫適応遺伝研究 G	88	110,198,431
昆虫新素材開発研究 G	65	101,884,335
昆虫生産工学研究 G	67	88,790,936
分子遺伝研究 G	144	1,226,233,338
生体高分子研究 G	89	258,282,774
生理機能研究 G	99	131,386,811
新生物資源創出研究 G	66	102,218,753

車両運搬具	合計	
	数量	金額
合計	12	11,830,398
企画調整部	5	2,977,773
総務部	7	8,852,625

工具器具備品	合計	
	数量	金額
合計	37	24,898,658
企画調整部	2	1,556,232
総務部	6	3,676,377
基盤研究推進官	0	0
ゲノム研究 G	10	7,897,975
遺伝資源研究 G	2	1,267,073
ジーンバンク	2	1,927,570
発分化研究 G	0	0
生体防御研究 G	0	0
生体機能研究 G	3	2,164,590
昆虫適応遺伝研究 G	0	0
昆虫新素材開発研究 G	3	1,737,758
昆虫生産工学研究 G	0	0
分子遺伝研究 G	4	1,910,200
生体高分子研究 G	3	1,455,601
生理機能研究 G	2	1,305,282
新生物資源創出研究 G	0	0

研究用機械の購入（1点あたり100万円以上）

品名	メーカー	規格	取得日	取得金額	研究グループ
[本部地区]					
超低温槽	サンヨー	MDF-192AT 貯蔵ケース6個	20020320	1,002,960	企画調整
DNAシーケンサー	ABI	3100-21Y	20011114	25,584,300	ゲノム
落射式蛍光読取装置	TAITEC	EU-500Mほか	20020131	2,419,200	ゲノム
落射式蛍光読取装置	TAITEC	EU-500Mほか	20020131	2,419,200	ゲノム
冷却CCDカメラ	PIXERA	Penguin600CL	20020304	1,396,500	ゲノム
インキュベータ	サンヨー	MLR350H	20011002	1,192,800	遺伝資源
インキュベータ	サンヨー	MLR350H	20011002	1,192,800	遺伝資源
高速液体クロマトグラフ	アマシャムファルマシア	AKTApurifierシステムB	20011005	6,542,550	遺伝資源
DNA自動分離装置	トミー	DP-480X	20011018	4,890,900	遺伝資源
マイクローム		HM505N/V	20011018	3,323,040	遺伝資源
倒立顕微鏡	オリンパス	IX70-33HMCほか	20011019	1,948,590	遺伝資源
微弱励起光検出システム	オリンパス	BX51-34-FL-2ほか	20011019	4,347,000	遺伝資源
純水製造装置	ミリボア	Milli-RX75	20011026	2,797,200	遺伝資源
超低温槽	サンヨー	MDF-792	20011026	1,818,600	遺伝資源
冷却CCDカメラ	浜松ホトニクス		20011108	5,316,570	遺伝資源
マイクロピペット作製装置	サッター		20011112	1,715,700	遺伝資源

品名	メーカー	規格	取得日	取得金額	研究グループ
DNAシーケンサー	ABI	438566	20011114	20,506,500	遺伝資源
顕微鏡	カールツァイス	Axioskop2Plus	20020228	1,993,005	遺伝資源
蛍光装置	アットマーク	2セット	20020228	1,179,045	遺伝資源
超低温槽	サンヨー	MDF-U71V	20020228	1,999,200	遺伝資源
マイクロスコープ	キーエンス	VH-5000	20020228	1,386,000	遺伝資源
遺伝子増幅装置	バイオラッド	170-8726JA	20011217	1,039,500	ジーンバンク
遺伝子増幅装置	バイオラッド	170-8726JA	20011217	1,039,500	ジーンバンク
マイクロスコープ	キーエンス	VH-5000ほか	20020228	3,666,705	ジーンバンク
インキュベータ	トミー	CFH-405	20020228	2,052,750	ジーンバンク
遠心分離機	日立	CR20G	20020228	3,427,200	ジーンバンク
超低温槽	日本フリーザー	CL-1022	20020308	2,936,325	ジーンバンク
分光光度計	日立	U-3310ほか	20020308	2,904,300	ジーンバンク
精子運動解析装置	ハミルトン	HTM-CEROS	20020318	3,150,000	ジーンバンク
インキュベータ	フォーマ	F3210	20020315	1,995,000	発生分化
炭酸ガス培養装置	アステック	APM-30D	20010731	1,228,500	発生分化
遺伝子増幅装置	ロシュ	ライトサイクラーquickシステム330	20010831	8,612,100	発生分化
顕微画像解析装置	CRI	Spindle View Imaging system MC-SIS-N	20010928	8,799,577	発生分化
蛍光実体顕微鏡	オリンパス	SZX12-RFL3-KS	20011019	3,666,810	発生分化
高解像度デジタルカメラシステム	カールツァイス	AxioCam	20011025	2,584,470	発生分化
マイクロトーム		CM3050SIV型	20011108	5,705,910	発生分化
蛍光顕微鏡	ライカ・マイクロシステムズ		20011108	6,992,475	発生分化
超音波診断装置	富士平工業		20011122	7,877,100	発生分化
オルガノイド培養装置	サンヨー	MTH-4200-OR	20011122	2,394,000	発生分化
遠心分離機	クボタ	6930 アングルロータRA-53G2付	20011211	1,535,100	発生分化
マイクロアレイスキャナ	アクソン・インスツルメンツ	GenePix4000B	20011220	9,114,000	発生分化
クリーンベンチ	ダルトン		20011225	1,711,500	発生分化
電気泳動装置	バイオラッド	プロティアンIEFセルコンプリートシステム4000	20011227	1,242,675	発生分化
腹腔内視鏡	カールツァイス	テルカムSL-IPM	20011228	5,698,980	発生分化
マイクロマニピュレーターシステム	オリンパス	IX70-22PH-SP	20020116	1,867,800	発生分化
電気泳動装置	アジレント	2100 バイオアナライザ(ノート)	20020226	3,179,400	発生分化
超純水製造装置	ミリポア	Elix-10kit	20020320	2,613,870	発生分化
麻酔器	メラ	MD-701	20020320	2,047,605	発生分化
電気泳動装置	アトー	AE-6914・TP-15MP	20011031	1,158,570	生体防御
遠心分離機	ベックマン	Optima MAX	20011102	10,463,040	生体防御
超低温槽	サンヨー		20011108	1,852,200	生体防御
顕微画像解析装置	ライカ・マイクロシステムズ		20011109	14,348,040	生体防御
高速液体クロマトグラフ	Agilent	1100	20011116	5,714,100	生体防御
バイオイメージアナライザー	アマシャムファルマシア		20011122	13,018,698	生体防御
分光蛍光光度計	島津	RF-5300PC	20011130	2,009,700	生体防御
マルチペプチド合成装置	アドバンストケムテック	APEX396S	20011221	12,566,400	生体防御
遠心分離機	クボタ	6930 ローター 2 個付	20020208	2,293,725	生体防御
振とう培養機	トーマス科学	AT-24Aほか	20020228	1,262,331	生体防御
炭酸ガス培養装置	タバイエスベック	BMP-110M-CIR	20011005	1,585,500	生体機能
蛍光観察顕微鏡	ニコン	E600	20011005	1,682,383	生体機能

品名	メーカー	規格	取得日	取得金額	研究グループ
蛍光マルチプレートリーダー	モレキュラデバイス	SPECTRAmaxCombinatio	20011018	7,343,217	生体機能
細胞内イオン測定装置	日本分光	CAF-110	20011024	3,669,750	生体機能
顕微画像解析装置	ニコン	TE300	20011031	4,092,228	生体機能
ガスクロマトグラフ	アジレント	6890	20011031	7,696,500	生体機能
炭酸ガス培養装置	タバイエスベック		20011122	1,722,000	生体機能
クリーンブース	日本エアーテック	ACB-642CA-S	20020117	4,368,000	生体機能
多チャンネル神経活動測定解析システム		CED Power1401	20020129	13,628,790	生体機能
遠心分離機	トミー	CC-105ほか	20020131	1,740,375	生体機能
感覚子応答記録解析装置	Syntech	データ・アキュイジションシステム	20020131	1,346,100	生体機能
実体顕微鏡	ライカマイクロシステムズ	MZ125	20020212	1,837,500	生体機能
実体顕微鏡	カールツァイス	StemiSV11	20020308	1,235,902	生体機能
煮菌機	増沢	増沢式	20011017	1,974,000	昆虫適応遺伝
光周反応測定装置	富士医科産業	FL-16	20011018	6,720,000	昆虫適応遺伝
フリーザー	サンヨー	MDF-383	20011031	1,255,800	昆虫適応遺伝
超低温槽	サンヨー	MDF-592 ケース付	20011102	1,875,720	昆虫適応遺伝
蚕蛾調整機	樋口機械製作所	HM20型	20011109	4,515,000	昆虫適応遺伝
遠心分離機	日立	CF-16RX	20011120	1,014,720	昆虫適応遺伝
DNAシーケンサー	アマシャムファルマシア		20011122	3,613,050	昆虫適応遺伝
超微粒子殺菌消臭装置	アリミツ工業		20011130	1,533,000	昆虫適応遺伝
顕微画像撮影装置	ニコン	TE300-EF-S	20011203	1,596,483	昆虫適応遺伝
遠心分離機	クボタ	3740 アングルロータほか	20011211	1,105,755	昆虫適応遺伝
DNAシーケンサー	ABI	PRISM3100-10	20011221	20,506,500	昆虫適応遺伝
遠心分離機	SHANDON	サイトスピン3	20011227	1,001,700	昆虫適応遺伝
示差走査熱量計	T.Aインスツルメント	Q-100ほか	20011011	5,926,305	昆虫新素材
デジタルオシロスコープ	横河電機	DL1740	20011109	1,126,650	昆虫新素材
超臨界流体抽出装置	アブライド・セパレーション	Spe-edSFE 2 型	20011210	13,645,800	昆虫新素材
マイクロマニピュレータシステム	ライカ	MP-2 MZ125 ICA	20011221	4,656,330	昆虫新素材
マイクロスコープ	キーエンス	VH-8000	20010831	5,397,000	昆虫生産工学
遺伝子増幅装置	ABI	PCR9700	20011019	1,122,975	昆虫生産工学
ルミカウンター	マイクロテック	ニチオン700 プリント付	20011031	1,247,400	昆虫生産工学
遠心分離機	ベックマン・コールター	Optima MAX	20011102	8,618,400	昆虫生産工学
超低温槽	サンヨー	MDF-382AT貯蔵ケース付	20011108	1,690,920	昆虫生産工学
マスターサイクラー	盟和商事	BTX-ECM630	20010928	1,077,300	分子遺伝
遠心分離機	KUBOTA	7700	20010928	3,177,300	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	PCR9700	20011019	1,122,975	分子遺伝
細胞破碎装置	安井器械	MB501	20011019	3,107,160	分子遺伝
DNAシーケンサー	ABI	3100-20	20011114	25,418,925	分子遺伝
DNAシーケンサー	ABI	3100-20	20011114	25,418,925	分子遺伝
ルミノメーター	DYNEX		20011114	2,097,900	分子遺伝
土壌高圧滅菌器	サンプラス	AS-S-5	20011130	9,156,000	分子遺伝
質量分析計	マイクロマス	Q-TOF micro	20011220	39,795,000	分子遺伝
電気泳動装置	Agilent	バイオアナライザーAgilent2000	20020131	3,134,565	分子遺伝
マイクロスコープ	キーエンス	VH-8000	20020228	6,749,400	分子遺伝
インキュベータ	トミー	CLH-301	20020301	1,338,750	分子遺伝

品名	メーカー	規格	取得日	取得金額	研究グループ
遠心分離機	トミー	CR-16RXほか	20020301	1,191,488	分子遺伝
遠心分離機	トミー	CR-16RXほか	20020301	1,191,487	分子遺伝
遺伝子増幅装置	アステック	PC-808-02	20020301	1,209,600	分子遺伝
遺伝子増幅装置	アステック	PC-808-02	20020301	1,209,600	分子遺伝
振とう培養機	タイテック	BR-300LF	20020301	1,569,750	分子遺伝
電気泳動装置	バイオクラフト	FX-400Eほか	20020306	1,521,450	分子遺伝
クリーンベンチ	サンヨー	MCV-161BNF	20020308	1,188,600	分子遺伝
蛍光顕微鏡	ライカ	MZ-FL3 カメラDC-300F	20020308	3,651,847	分子遺伝
電気泳動装置	アトー	AE-6920M-FX	20020308	3,118,500	分子遺伝
マイクロトーム	堂坂イーエム	DTK-1000	20020308	1,941,450	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	分子遺伝
遠心分離機	日立	CR-16RXほか	20020308	1,075,200	分子遺伝
高速相溶性検索装置	パラセル	BlastMachine	20020320	14,847,000	分子遺伝
顕微画像解析装置	浜松ホトニクス	AQUACOSMOS/VIN	20020315	11,466,918	分子遺伝
クロマトチャンバー	荏原	ECC-220	20010928	1,546,650	生体高分子
DNAシーケンサー	ABI	310-10SY	20011002	6,884,325	生体高分子
生体物質分離装置	アマシャムファルマシア	AKTAexplorer10S	20011005	7,476,000	生体高分子
質量分析計	ブルカー・ダルトニクス	BIFLEX3-N	20011022	27,999,877	生体高分子
遠心分離機	ベックマン・コールター	Avanti HP-25	20011102	3,118,500	生体高分子
イメージングプレートX線検出装置	リガク	R-AXIS4	20011121	34,650,000	生体高分子
細胞応答解析装置	ABI	TR717-02AH	20011211	4,198,950	生体高分子
冷却CCDカメラシステム	ライカマイクロシステムズ	DC-300ほか	20011211	4,940,617	生体高分子
マイクロスコープ	キーエンス	VH-5000C	20020121	2,465,400	生体高分子
振とう培養機	NBS	4335	20020301	3,158,190	生体高分子
分光光度計	ベックマンコールター	DU640	20020308	2,195,235	生体高分子
分子設計支援システム	エルエイシステムズ	LA-3080	20020308	9,030,000	生体高分子
生体物質分離装置	ファルマシア	AKTAexplorer10S Flac901仕様	20020312	6,972,000	生体高分子
生体物質分離装置	ファルマシア	AKTAexplorer100ほか	20020315	11,381,580	生体高分子
超音波粉碎機	BANSON	MODEL450D	20020315	1,339,590	生体高分子
ワークステーション	SGI	RAID480GBモデル	20020315	3,609,081	生体高分子
ワークステーション	SGI	02+	20020320	2,874,081	生体高分子
超低温槽	SANYO	MDF-71V 自記記録計・ラック付	20010928	2,446,920	生理機能
化学発光検出解析装置	タイテック	LumiVision PRO	20011003	7,229,250	生理機能
超低温槽	日本フリーザー	CL-522U アルミトレイ6個付	20011012	1,683,150	生理機能
遠心分離機	トミー	MX-300	20011026	1,169,175	生理機能
マルチラベルカウンター	ワラック	1420 ARVO SK-1	20020116	5,937,435	生理機能
光子密度計	レーヨン工業	RMS-101	20020228	1,596,000	生理機能

品名	メーカー	規格	取得日	取得金額	研究グループ
遠心分離機	トミー	MX-300ほか	20020301	1,004,063	生理機能
遠心分離機	日本ケンドロ	Legend RT	20020308	1,377,810	生理機能
蛍光測定装置	バイオラッド	FX Pro Plus K163ほか	20011109	16,991,100	新生物資源
遺伝子増幅装置	アステック	PC-808-02	20011218	1,209,600	新生物資源
細胞破碎装置		MB501(S)	20020131	2,858,625	新生物資源
遠心分離機	トミー	MX-300ほか	20020301	1,111,163	新生物資源
遠心濃縮装置	サーバント	DNA120	20020304	1,134,000	新生物資源
超低温槽	サンヨー	MDF-U50V ケース(7個) MDF-70SC	20020308	1,969,800	新生物資源
蛍光顕微鏡	ライカ	MZ-FL3	20020308	2,415,945	新生物資源
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	新生物資源
遺伝子増幅装置	ABI	GeneAmp PCR System9700G	20020308	1,171,800	新生物資源
[大宮地区]					
サーバイメーター	アロカ	TCS-171	20010810	543,900	大宮
サイクロンサンプルミル		CMS-S1型 スクリーン付	20010719	989,100	大宮
高速液体クロマトグラフ	島津	LC-CLASS-VPシリーズ	20020131	8,243,424	大宮
グロースキャビネット	日本医科器械	LPH-1.9PHS	20020320	7,140,000	大宮
高速冷却遠心機	クボタ	MODEL7700 特別仕様	20020129	968,100	大宮
[松本地区]					
普通貨物自動車	トヨタ	ダイナ KK-XZU412-TGPMS	20010704	3,121,855	松本
引張圧縮試験機	エー・アンド・デイ	STA-1150	20020121	921,375	松本
対物レンズ	カールツァイス	プランネオフルアール 63X korr	20020226	600,495	松本
高速冷却遠心機	クボタ	5922	20020301	955,500	松本
分光光度計	アマシャムファルマシア	GeneQuantPro	20020313	509,470	松本
[岡谷地区]					
小型貨物自動車	トヨタ	ハイエースバン GE-RZH112V-RHPDE	20010725	1,967,635	岡谷
生菌冷凍装置	荏原製作所	荏原製作所製	20011031	4,620,000	岡谷
[小淵沢地区]					
トラクター	クボタ	KL27FQBMAP	20011016	4,534,950	小淵沢
電気泳動ゲル写真撮影記録装置	バイオクラフト	AS-100	20020131	1,047,900	小淵沢
遺伝子増幅装置		GeneAmp PCR System2700	20020111	642,600	小淵沢
小型微量冷却遠心機	Microfuge	22R	20020118	661,500	小淵沢
拡大画像記録装置	エプソン	レーザープリンター-LP8800CPSほか	20020322	1,173,165	小淵沢

共用機械（つくば）一覧【購入時価格1000万円以上】

機械名	規 格	購入年度	購入金額	設置場所	使用責任者
DNAシーケンサー	ABI 438566	13	20,506,500	本部地区 本館	遺伝資源 G 生物分類 T
DNAシーケンサー	ABI PRISM377-96	12	29,168,055	大わし地区 昆虫機能・素材高度利用実験棟	生体防御 G 先天性免疫 T
DNAシーケンサー	アプライド・バイオシステム377	9	19,822,950	大わし地区 研究棟4F	昆虫適応遺伝 G 昆虫分子進化 T
DNAシーケンサー	ABI PRISM377-10XL	10	21,443,940	農環研地区 環研棟288	生理機能 G 耐病性 T
DNAシーケンサー	アプライド・バイオシステム377A	4	22,544,640	大わし地区 第2 圃場調査室	昆虫適応遺伝 G 昆虫分子進化 T
DNAシーケンサー	アプライド・バイオシステム CATALYST800-51	7	13,410,000	大わし地区 昆虫機能共同実験棟	ゲノム G 昆虫ゲノム T
DNAシーケンサー	パーキンエルマー PRISM377-1	8	20,614,935	大わし地区 昆虫機能共同実験棟	ゲノム G 昆虫ゲノム T
DNAシーケンサー	パーキンエルマー PRISM377-96	10	25,427,850	荳崎地区 研究棟104	生体機能 G 動物遺伝子 T
DNAシーケンサー（プロテインシーケンサー）	ABI Procise492cLc-1	11	24,982,776	大わし地区 昆虫機能・素材高度利用実験棟	生体防御 G 先天性免疫 T
DNAシーケンサー（リアルタイム）	パーキンエルマー Sequence Direction System	10	12,176,955	荳崎地区 研究棟401	生体機能 G 動物遺伝子 T
ISH処理装置	ベンタナ HX750-HP/HA-20	12	11,340,000	本部地区 隔離温室	生理機能 G 環境ストレス T
アナライザー（蛍光イメージアナライザー）	富士写真フィルム FLA-3000G	10	19,740,000	荳崎地区 TG棟	発生分化 G 分化機構 T
アミノ酸分析計	日立 L-8500A	7	17,922,000	大わし地区 研究棟2F分離分析室	生体機能 G 代謝調節 T
アミノ酸分析計	日立 L-8500	62	15,800,000	大わし地区 研究棟2F分離分析室	生体機能 G 代謝調節 T
遺伝子増幅解析装置	ABI PRISM7700	10	14,159,250	農環研地区 環研棟288	生理機能 G 耐病性 T
遺伝子増幅解析装置	パーキンエルマー PRISM310-11	10	15,745,134	荳崎地区 TG棟	発生分化 G 分化機構 T
液体クロマトグラフシステム	ダイオネクス DX-500	7	11,267,000	農環研地区 環研棟182	生理機能 G 物質代謝 T
X線解析測定装置	リガク UltraX18/R-AXISIV++	12	51,996,000	本部地区 生物特殊実験棟	生体高分子 G 蛋白機能 T
蛍光発光（イメージングプレート）X線検出装置	リガク R-AXISIV++	13	34,650,000	本部地区 生物特殊実験棟	生体高分子 G 蛋白機能 T
X線回折装置	リガク RAD-RA	56	28,880,000	大わし地区 研究棟2FX線解析室	昆虫新素材 G 塚田上席
X線マイクロアナライザー	日本電子 JXA-733S	55	44,476,000	大わし地区 研究棟2FX線解析室	昆虫新素材 G 塚田上席
塩基配列検出装置	ABI PRISM7700	10	14,159,250	大わし地区 研究棟4F生化学実験室	昆虫適応遺伝 G 昆虫共生媒介 T
塩基配列自動分析装置	ABI MODEL373S-36	6	16,806,000	本部地区 PGC110	分子遺伝 G 遺伝子応答 T
（超）遠心分離機	日立 SCP85H	62	48,000,000	本部地区 GB1	遺伝資源 G 橋本上席
超遠心分離機	ベックマン L8-80M		12,420,000	本部地区 PGC101	分子遺伝 G 大橋上席
遠心分離機	ベックマン OptimaXL-80K	10	16,892,400	大わし地区 研究棟403	昆虫適応遺伝 G 昆虫共生媒介 T
遠心分離機	ベックマン OptimaXL-90	6	11,124,000	大わし地区 研究棟3F超遠心分析室	昆虫生産工学 G 遺伝子工学 T
遠心分離機	日立 CD100α	6	19,990,240	本部地区 2号館221	分子遺伝 G 遺伝子修飾 T
遠心分離機	日立 CP100α	7	22,907,200	本部地区 本館126	遺伝資源 G 多様性評価 T
遠心分離機	ベックマン OptimaXL-80K	10	11,944,800	農環研地区 環研棟288	生理機能 G 耐病性 T
遠心分離機	ベックマン L8-80M	62	19,407,000	大わし地区 研究棟3F超遠心分析室	昆虫生産工学 G 遺伝子工学 T
遠心分離機	ベックマン オブチマXL-80	4	16,010,000	動衛研地区 生体防御実験棟	生体防御 G 分子免疫 T
遠心分離機	ベックマン XL-90型	5	24,740,600	動衛研地区 生体防御実験棟	生体防御 G 分子免疫 T
核磁気共鳴装置	日本電子 JNM-EX90	3	46,195,500	大わし地区 研究棟2F電磁気分析室	昆虫新素材 G 塚田上席
ガスクロマトグラフ	ヒューレットパッカード HP6890		12,000,000	本部地区 PGC101	分子遺伝 G 大橋上席
ガスクロマトグラフ質量分析計	日本電子 JMS-SX102A	6	62,999,950	大わし地区 研究棟2F電磁気分析室	生体機能 G 昆虫行動制御 T
画像演算処理装置	カールツァイス アキシオフォト	7	16,996,634	大わし地区 昆虫機能共同実験棟	ゲノム G 昆虫ゲノム T
画像解析装置	カールツァイス IBAS/AT	1	19,982,000	荳崎地区	ゲノム G 安江上席
蛍光顕微鏡	バイオラッド μRadiance MR/A1	12	14,994,315	農環研地区 環研棟284	生理機能 G 耐病性 T
顕微鏡	日本電子 JEM-1200EX	62	33,350,000	本部地区	遺伝資源 G 上席
高精細画像データ構築装置	アップル PowerMac	9	12,960,709	大わし地区 研究棟2F2035	ゲノム G 上席
高速液体クロマトグラフ	ベックマン LC-CEシステム	5	19,765,150	農環研地区 環研棟286	生理機能 G 耐病性 T

機械名	規 格	購入年度	購入金額	設置場所	使用責任者
細胞微細操作装置	メリディア ACAS Ultimaマルチスキャンシステム	7	94,296,500	本部地区 2号館特殊顕微鏡室	遺伝資源 G 遺伝子多様性 T
示差熱分析装置	リガク TG-DTA-DSC	57	12,000,000	大わし地区 研究棟2F熱測定室	昆虫新素材 G 塚田上席
質量分析計	パーキンエルマーサイエックス API-300	7	120,632,550	本部地区 2号館319	分子遺伝 G 遺伝子応答 T
質量分析装置	パーセプティブリミテッド Voyager LinearMALDI-TOF	7	14,996,800	大わし地区 昆虫生物学実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫細胞工学 T
自動細胞認識分取装置	COULTER EPICSELEITE3レーザーシステム	5	69,834,000	農環研地区	新生物資源 G 植物細胞工学 T
織機	津田駒 レビアR200	7	18,334,000	大わし地区 絹加工実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫産生物 T
真空系むし装置	日空工業 SBRE-1	5	18,849,000	大わし地区 絹加工実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫産生物 T
真空凍結乾燥機	パーチスコンソール 25-EL-S4	5	24,087,580	農環研地区 環研棟282-1	生理機能 G 耐病性 T
生体分子構造解析装置	Nicolet 60SXR	62	210,971,680	農環研地区	生理機能 G 上席
赤外分光分析装置	パーキンエルマー 1760X型 FT-IR	1	14,812,430	大わし地区 研究棟2F分光分析室	昆虫新素材 G 塚田上席
染色体画像解析装置	プリンストン Penta Max/IpLab	10	18,766,650	本部地区 2号館特殊顕微鏡室	遺伝資源 G 遺伝子多様性 T
染色体断面画像解析装置	バイオラッド MRC-600Kシステム	4	34,588,000	農環研地区 環研棟364	生体高分子 G 糖鎖機能 T
タンパク質微量分取装置	Pharmacia SMART SYSTEM	10	12,327,000	大わし地区 昆虫生物実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫細胞工学 T
蛋白質分離分析システム	バイオラッド バイオジャックインテグレーションシステム	7	11,999,500	農環研地区 環研棟286	生理機能 G 耐病性 T
電子顕微鏡	日立 S-2380N	6	16,955,000	農環研地区 BPRC2F	生理機能 G 形態発生 T
電子顕微鏡	カールツァイス LSM410	63	41,715,000	大わし地区 研究棟2014	発生分化 G 発生機構 T
電子顕微鏡	日本電子 JSM-6301F	5	27,421,690	大わし地区 研究棟2F電子顕微鏡室	生体機能 G 昆虫神経生理 T
電子顕微鏡（透過型）	日本電子 JEM-1010	5	21,789,650	大わし地区 研究棟2F電子顕微鏡室	生体機能 G 昆虫神経生理 T
同位体質量分析計	ファニンガンマット MAT-2521B	5	65,508,000	農環研地区 R I 質量分析室	生理機能 G 物質代謝 T
動的粘弾性圧電測定装置	東洋精機 ソリッド-S型	2	10,300,000	大わし地区 研究棟2F熱分析室	昆虫新素材 G 塚田上席
バイオイメーシングアナライザー	富士フイルム BAS2000	5	26,441,260	農環研地区 環研棟286	生理機能 G 耐病性 T
バイオイメーシングアナライザー	モレキュラーダイナミクス Fluor Imager SI	7	16,870,000	大わし地区 昆虫機能共同実験棟	ゲノム G 昆虫ゲノム T
バイオイメーシングアナライザー	ファルマシア BIA core	7	24,575,800	大わし地区 昆虫生産工学実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫細胞工学 T
バイオイメーシングアナライザー	富士フイルム BAS-2500Mac	10	17,377,500	大わし地区 R I 実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫細胞工学 T
光散乱法絶対分子量測定装置	東ソー LS-8000	5	15,233,000	本部地区 2号館314	生体高分子 G 蛋白機能 T
物理的劣化装置	岩崎電気 SUV-W131	11	11,980,500	大わし地区 絹加工実験棟	昆虫生産工学 G 昆虫産生物 T
分光光度計	日本分光 JASCO IR-8900		11,899,500	大わし地区 研究棟2F分光分析室	昆虫新素材 G 素材開発 T
分光光度計	ブルカー FT-IRラマン RFS-100	7	42,494,400	大わし地区 研究棟4F機器分析室	昆虫新素材 G 素材特性 T
分光光度計	バイオラッド FTS-45A	8	29,035,700	大わし地区 研究棟2F分光分析室	昆虫新素材 G 素材特性 T
分光光度計	島津 AA-670GS	62	12,637,000	大わし地区 研究棟4F機器分析室	昆虫新素材 G 塚田上席
分子構造解析装置	シリコングラフィックス PowerIndigo2	7	14,718,000	本部地区	生体高分子 G 蛋白機能 T
ペプチドシンセサイザー	パーセプティブリミテッドモデル9050Plus	7	12,246,700	大わし地区 昆虫機能・素材高度利用実験棟	生体防御 G 先天性免疫 T
マニピレーター装置	セルボティックス 2000/200-MW	7	14,141,900	荏岐地区 研究棟510	発生分化 G 発生制御 T

3. 知的財産一覧

(14. 3 .31現在)

種 類	特 許 権	実用新案権	商 標 権	著 作 権	育成者権
出願中件数 (国内)	141	0	2	0	12
〃 (外国)	228	0	0	0	2
小 計	369	0	2	0	14
保有件数 (国内)	178	8	5	1	27
〃 (外国)	49	0	0	0	8
小 計	227	8	5	1	35
許諾件数 (国内)	18	1	0	0	9

VIII 人事異動

異動年月日	氏 名	異 動 先	異 動 元
13.4.1	桂 直 樹	生物研理事長	生物研所長
	井 上 元	生物研理事	蚕糸・昆虫農業技術研究所長
	中 島 皐 介	生物研理事	草地試験場長
	元 井 葎 子	生物研監事	家畜衛生試験場飼料安全性研究部長
	立 道 美 朗	生物研監事（非常勤）	社団法人農林水産技術情報協会嘱託
	阿 部 啓 之	生物研企画調整部主任研究官（企画室）	畜産試験場栄養部主任研究官 （栄養素配分調節研究室）
	秋 月 岳	生物研企画調整部（企画室）	新規採用
	水 野 浩 志	生物研企画調整部（企画室）	新規採用
	立 松 謙一郎	生物研企画調整部（企画室）	新規採用
	鈴 木 俊 一	生物研企画調整部（企画室）	新規採用
	萱 野 暁 明	生物研企画調整部主任研究官 （企画室研究交流科）	農林水産技術会議事務局 先端産業技術研究課課長補佐 （安全評価班担当）
	土 屋 修 一	生物研企画調整部技術移転科 特許管理専門官	畜産試験場総務部会計課課長補佐
	飯 島 佐 智	生物研企画調整部（技術移転科審査係）	新規採用
	坂 井 誠	生物研総務部次長	九州農政局総務部次長
	宮 内 英 男	生物研総務部労務調整官	農業研究センター総務部管理官
	佐 藤 裕 之	生物研総務部庶務課（総務係）	新規採用
	大 内 聰 子	生物研総務部会計課課長補佐	野菜・茶業試験場総務部金谷総務分室 分室長補佐
	田 中 聖 一	生物研総務部管理課長	中国農業試験場総務部会計課長
	馬 場 俊 則	生物研総務部松本総務分室長	家畜衛生試験場総務部会計課支出係長
	安 江 博	生物研ゲノム研究グループ上席研究官	畜産試験場育種部上席研究官
	三 田 和 英	生物研ゲノム研究グループ上席研究官	文部科学省放射線医学総合研究所 第2研究グループ主任研究官
	栗 田 崇	生物研ゲノム研究グループ 家畜ゲノム研究チーム長	畜産試験場育種部家畜ゲノム研究チーム長
	林 武 司	生物研ゲノム研究グループ主任研究官 （家畜ゲノム研究チーム）	畜産試験場育種部主任研究官 （家畜ゲノム研究チーム）
	小 林 栄 治	生物研ゲノム研究グループ主任研究官 （家畜ゲノム研究チーム）	畜産試験場育種部主任研究官 （家畜ゲノム研究チーム）
	美 川 智	生物研ゲノム研究グループ主任研究官 （家畜ゲノム研究チーム）	畜産試験場育種部主任研究官 （家畜ゲノム研究チーム）
	上 西 博 英	生物研ゲノム研究グループ （家畜ゲノム研究チーム）	畜産試験場育種部（家畜ゲノム研究チーム）
	栗 崎 純 一	生物研遺伝資源研究グループ長	食品総合研究所生物機能開発部長
	林 長 生	生物研遺伝資源研究グループ 多様性評価研究チーム長	愛知県農業総合試験場山間農業研究所 主任研究員
	大 川 雅 央	生物研ジーンバンク上席研究官	農林水産技術会議事務局 連絡調整課課長補佐（育種・遺伝資源班）
	久 田 方 彦	生物研ジーンバンク遺伝資源管理課 遺伝資源管理官	農林水産技術会議事務局 連絡調整課遺伝資源管理官
	居在家 義 昭	生物研発生分化研究グループ長	畜産試験場繁殖部生殖工学研究室長
	畠 山 正 統	生物研発生分化研究グループ主任研究官 （発生機構研究チーム）	選考採用
	徳 永 智 之	生物研発生分化研究グループ 分化機構研究チーム長	畜産試験場繁殖部発生分化研究室長

異動年月日	氏 名	異 動 先	異 動 元
	細 江 実 佐	生物研発生分化研究グループ (分化機構研究チーム)	畜産試験場繁殖部(発生分化研究室)
	内 藤 充	生物研発生分化研究グループ 発生制御研究チーム長	畜産試験場育種部遺伝子制御研究室長
	松 原 悠 子	生物研発生分化研究グループ主任研究官 (発生制御研究チーム)	畜産試験場育種部主任研究官 (遺伝子制御研究室)
	春 海 隆	生物研発生分化研究グループ主任研究官 (発生制御研究チーム)	畜産試験場育種部主任研究官 (遺伝子制御研究室)
	永 井 卓	生物研発生分化研究グループ 発生工学研究チーム長	畜産試験場繁殖部受胎機構研究室長
	大 西 彰	生物研発生分化研究グループ主任研究官 (発生工学研究チーム)	畜産試験場育種部主任研究官 (育種素材開発研究室)
	渡 部 聡	生物研発生分化研究グループ主任研究官 (発生工学研究チーム)	畜産試験場繁殖部主任研究官 (生殖工学研究室)
	淵 本 大 一 郎	生物研発生分化研究グループ (発生工学研究チーム)	畜産試験場繁殖部(生殖工学研究室)
	橋 爪 一 善	生物研発生分化研究グループ 生殖再生研究チーム長	畜産試験場繁殖部生殖内分泌研究室長
	高 橋 透	生物研発生分化研究グループ主任研究官 (生殖再生研究チーム)	畜産試験場繁殖部主任研究官 (生殖内分泌研究室)
	今 井 敬	生物研発生分化研究グループ主任研究官 (生殖再生研究チーム)	畜産試験場繁殖部主任研究官 (生殖内分泌研究室)
	関 川 賢 二	生物研生体防御研究グループ長	家畜衛生試験場生体防御研究部長
	櫻 井 通 陽	生物研生体防御研究グループ上席研究官	家畜衛生試験場生体防御研究部主任研究官
	木 谷 裕	生物研生体防御研究グループ 分子免疫研究チーム長	家畜衛生試験場生体防御研究部 免疫細胞研究室長
	辻 典 子	生物研生体防御研究グループ主任研究官 (分子免疫研究チーム)	家畜衛生試験場生体防御研究部主任研究官 (疾患モデル動物研究室)
	広 狩 康 裕	生物研生体防御研究グループ (分子免疫研究チーム)	家畜衛生試験場生体防御研究部 (免疫細胞研究室)
	後 藤 英 夫	生物研生体防御研究グループ 疾患モデル動物研究チーム長	家畜衛生試験場生体防御研究部主任研究官 (分子病理研究室)
	須 藤 淳 一	生物研生体防御研究グループ主任研究官 (疾患モデル動物研究チーム)	家畜衛生試験場生体防御研究部主任研究官 (疾患モデル動物研究室)
	松 本 由記子	生物研生体防御研究グループ (疾患モデル動物研究チーム)	家畜衛生試験場生体防御研究部 (免疫細胞研究室)
	新 保 博	生物研生体機能研究グループ長	農林水産技術会議事務局研究開発課長
	三 橋 忠 由	生物研生体機能研究グループ 動物遺伝子機能研究チーム長	畜産試験場育種部遺伝子機能研究室長
	小 島 美 咲	生物研生体機能研究グループ主任研究官 (動物遺伝子機能研究チーム)	畜産試験場育種部主任研究官 (遺伝子機能研究室)
	伊 藤 嘉 保	生物研生体機能研究グループ主任研究官 (動物遺伝子機能研究チーム)	畜産試験場育種部主任研究官 (家畜ゲノム研究チーム)
	竹 澤 俊 明	生物研生体機能研究グループ主任研究官 (動物細胞機能研究チーム)	畜産試験場繁殖部主任研究官 (生殖内分泌研究室)
	竹之内 敬 人	生物研生体機能研究グループ (動物細胞機能研究チーム)	畜産試験場生理部(動物細胞機能研究室)
	宮 下 範 和	生物研生体機能研究グループ (動物細胞機能研究チーム)	畜産試験場生理部(動物細胞機能研究室)
	齋 藤 敏 之	生物研生体機能研究グループ 動物脳神経機能研究チーム長	畜産試験場生理部神経生理研究室長

異動年月日	氏 名	異 動 先	異 動 元
	粕 谷 悦 子	生物研生体機能研究グループ (動物脳神経機能研究チーム)	畜産試験場生理部(神経生理研究室)
	作 本 亮 介	生物研生体機能研究グループ (動物脳神経機能研究チーム)	畜産試験場生理部(神経生理研究室)
	岡 村 裕 昭	生物研生体機能研究グループ 神経内分泌研究チーム長	畜産試験場生理部適応生理研究室長
	大 蔵 聡	生物研生体機能研究グループ主任研究官 (神経内分泌研究チーム)	畜産試験場生理部主任研究官 (適応生理研究室)
	松 本 和 典	生物研生体機能研究グループ (神経内分泌研究チーム)	畜産試験場生理部(適応生理研究室)
	幡 谷 弘 行	(独)農業技術研究機構統括部労務調整官	生物研総務部庶務課長
	三 井 文 子	(独)農業技術研究機構総合情報管理部 情報管理課情報システム係長	生物研企画調整部情報資料課管理係長
	浅 見 芳 彦	(独)農業技術研究機構畜産草地研究所 総務部総務課専門職(企業会計審査)	生物研総務部庶務課人事第2係長
	土 屋 健 一	(独)農業環境技術研究所生物環境部 微生物・小動物研究グループ研究リーダー	生物研遺伝資源第二部 微生物評価保存研究チーム長
	宮 原 研 三	農林水産技術会議事務局研究調査官	生物研企画調整部主任研究官(企画科)
13.5.1	西海石 祐 二	(独)農業技術研究機構動物衛生研究所 総務部会計課用度係長	生物研総務部大宮総務分室(会計係)
13.5.16	水 野 浩 志	生物研ゲノム研究グループ (植物ゲノム研究チーム)	生物研企画調整部(企画室)
	鈴 木 俊 一	生物研発生分化研究グループ (発生工学研究チーム)	生物研企画調整部(企画室)
	立 松 謙一郎	生物研昆虫適応遺伝研究グループ (昆虫遺伝研究チーム)	生物研企画調整部(企画室)
	秋 月 岳	生物研昆虫生産工学研究グループ (昆虫細胞工学研究チーム)	生物研企画調整部(企画室)
13.5.25	飯 野 健 一	退職(死亡)	生物研企画調整部(業務第1科)
13.7.1	枝 利 恵	生物研総務部会計課会計係主任	生物研総務部会計課(会計係)
13.9.1 (13.9.25)	大 沼 美 雪	生物研企画調整部(業務第1科)	新規採用
13.4.1	安河内 祐 二	生物研ゲノム研究グループ主任研究官 (昆虫ゲノム研究チーム)	生物研ゲノム研究グループ (昆虫ゲノム研究チーム)
	江 花 薫 子	生物研ジーンバンク主任研究官 (植物資源研究チーム)	生物研ジーンバンク(植物資源研究チーム)
	福 岡 修 一	生物研ジーンバンク主任研究官 (植物資源研究チーム)	生物研ジーンバンク(植物資源研究チーム)
	田 中 博 光	生物研生体防御研究グループ主任研究官 (先天性免疫研究チーム)	生物研生体防御研究グループ (先天性免疫研究チーム)
	渡 部 賢 司	生物研昆虫適応遺伝研究グループ主任研究官 (昆虫共生媒介機構研究チーム)	生物研昆虫適応遺伝研究グループ (昆虫共生媒介機構研究チーム)
	川 越 靖	生物研新生物資源創出研究グループ 主任研究官(遺伝子操作研究チーム)	生物研新生物資源創出研究グループ (遺伝子操作研究チーム)
13.9.30	野 中 光 一	退職(勸奨)	生物研総務部庶務課管理係主任
	今 井 陽 子	退職(自己都合)	生物研総務部庶務課(厚生係)
13.10.1	谷田部 潤	生物研総務部管理課用度係長	(独)農業技術研究機構畜産草地研究所 総務部総務課会計係長
	田 中 良 穂	生物研総務部松本総務分室会計係長	(独)国際農林水産業研究センター 海外業務管理課海外物品係長

異動年月日	氏 名	異 動 先	異 動 元
	佐 藤 敏 明	生物研総務部会計課（予算係）	（独）食品総合研究所総務部会計課（用度係）
	谷 口 洋	生物研ジーンバンク遺伝資源管理課 出納係主任	生物研総務部管理課用度係長
	杉 本 亮 二	生物研総務部庶務課（管理係）	生物研ジーンバンク（遺伝資源管理課出納係）
	石 井 卓 朗	生物研ジーンバンク主任研究官 （植物資源研究チーム）	農林水産技術会議事務局研究調査官
	古 澤 軌	生物研発生分化研究グループ主任研究官 （分化機構研究チーム）	選考採用
	井 澤 毅	生物研分子遺伝研究グループ主任研究官 （応用遺伝研究チーム）	文部科学省奈良先端科学技術大学院大学助手
	門 間 充	生物研生体高分子研究グループ主任研究官 （蛋白機能研究チーム）	生物研企画調整部主任研究官（企画室）
	市 村 幸 宏	（独）農業技術研究機構 中央農業総合研究センター北陸研究センター 総務部総務課専門職（用度係）	生物研総務部松本総務分室会計係長
	村 田 毅 裕	（独）農業技術研究機構 中央農業総合研究センター企画調整部 情報資料課広報係長	生物研総務部大宮総務分室（庶務係）
	布 施 光 一	（独）農業技術研究機構畜産草地研究所 総務部総務課会計係長	生物研総務部会計課（予算係）
	岡 田 誠 慈	（独）食品総合研究所総務部会計課（審査係）	生物研総務部庶務課（管理係）
	吉 田 久	（独）農業技術研究機構 作物研究所付主任研究官	生物研企画調整部企画室植物企画連絡科長
	中 山 博 貴	（独）農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター畑作研究部 主任研究官（遺伝資源利用研究室）	生物研ジーンバンク主任研究官 （植物資源研究チーム）
	武 田 尚 人	（独）農業技術研究機構畜産草地研究所 家畜育種繁殖部家畜育種研究室長	生物研遺伝資源研究グループ 資源情報研究チーム長
	西 口 正 通	文部科学省（愛媛大学教授）	生物研分子遺伝研究グループ 遺伝子修飾研究チーム長
13.10.16	宇 野 康 雄	生物研総務部大宮総務分室（会計係）	生物研企画調整部（技術移転科管理係）
	佐 藤 智 之	生物研企画調整部（技術移転科管理係）	生物研ジーンバンク （遺伝資源管理課遺伝資源管理係）
	栗 山 賢 治	農林水産政策研究所企画連絡室 （広報課広報係）	生物研企画調整部（広報普及課情報企画係）
13.11.1	村 上 雪 子	生物研企画調整部（広報普及課情報企画係）	新規採用
	大 川 安 信	農林水産技術会議事務局 研究開発企画官	生物研新生物資源創出研究グループ 上席研究官
14.1.16	佐 藤 美由紀	生物研総務部大宮総務分室（庶務係）	新規採用
14.2.1	花 田 薫	生物研企画調整部企画室植物企画連絡科長	（独）農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター地域基盤研究部 病害遺伝子制御研究室長
14.3.31	若 公 正 義	定年退職	生物研企画調整部情報資料課長
	関 沢 美 江	定年退職	生物研企画調整部広報普及課広報係長
	柳 川 弘 明	定年退職	生物研基盤研究推進官
	宮 崎 昌 久	定年退職	生物研昆虫適応遺伝研究グループ長
	榎 本 末 男	定年退職	生物研企画調整部業務第2科長
	岡 島 輝 雄	定年退職	生物研昆虫生産工学研究グループ 上席研究官
	大 橋 祐 子	定年退職	生物研分子遺伝研究グループ上席研究官

異動年月日	氏 名	異 動 先	異 動 元
	坂 野 勝 啓	定年退職	生物研新生物資源創出研究グループ 上席研究官
	澁 谷 直 人	退職（勸奨）	生物研生体高分子研究グループ長
	坂 田 克 己	退職（自己都合）	生物研ゲノム研究グループ ゲノム情報研究チーム長
	岩 井 孝 尚	退職（宮城県へ）	生物研分子遺伝研究グループ （遺伝子応答研究チーム）

IX 名簿

1. 役職員名簿

(14.3.31現在)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	所 属 ・ 役 職 名	氏 名
理事長	桂 直 樹		井 波 勇 二
理事	井 上 元		塚 田 亀 雄
理事	中 島 皐 介		中 村 薫
監事	元 井 葭 子		梅 澤 雅 弘
監事（非常勤）	立 道 美 朗		橋 本 好 二
企画調整部			大 沼 美 雪
部長	小 畑 太 郎	（松本駐在）	熊 井 敏 夫
企画室長	北 村 實 彬	（松本駐在）	和 泉 清 二
主任研究官	阿 部 啓 之	（小淵沢駐在）	三 澤 利 彦
主任研究官	立 石 剣	（小淵沢駐在）	小 林 始
首席研究調整官	平 井 一 男	業務第2科長	榎 本 末 男
研究調整官	川 崎 建次郎	総括作業長	岡 野 博 志
研究調整官	町 井 博 明	総括作業長	吉 田 次 男
研究交流科長	白 田 昭		野 堀 降 弘
動物企画連絡科長	加 藤 正 雄		谷 澤 了 次
	内 村 宏 行		中 澤 秀 雄
植物企画連絡科長	花 田 薫		狩 野 伸 行
連絡調整係長	小 林 栄 一		柳 橋 正 章
	岩 田 利 幸		伊 東 義 弘
技術移転科長	小 川 雅 文		根 本 英 男
主任研究官	今 井 恒 夫		平 島 信 也
主任研究官	萱 野 暁 明		飯 泉 栄 二
特許管理専門官	土 屋 修 一		内 山 兵 一
審査係長	大久保 裕 之		小松崎 隆 男
	飯 島 佐 智		秋 葉 光 孝
管理係長	藤 田 博 之		大 水 豊 司
	佐 藤 智 之		鬼 鞍 千 冬
情報資料課長	若 公 正 義		杉 本 恵 一
課長補佐	山 本 徳 義		飯 泉 敏 勝
司書専門官	上 杉 かおる		井 上 潤 二
管理係長	渡 部 桂 子		田 口 哲 彦
	岸 徹		坪 倉 義 浩
広報普及課長	宮 前 正 義		富 山 浩 和
広報専門官	早 川 忠 志	業務第3科長	川 勝 正 夫
広報係長	関 沢 美 江		栗 田 孝 行
情報企画係長	宮 下 進		飛 田 正 義
	村 上 雪 子		桑 原 秀 則
業務第1科長	野 崎 稔		飯 村 英 善
総括作業長	吉 田 主 成		富 山 繁
	大 山 誠	総務部	
	島 田 利 夫	部長	若 山 弘

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	所 属 ・ 役 職 名	氏 名
次長	坂 井 誠		橋 本 三男也
労務調整官	宮 内 英 男	用度係長	谷田部 潤
庶務課長	有 働 國 光		向 井 智 彦
課長補佐	井 澤 茂		西 山 智
総務係長	飯 塚 光 一	施設管理係長	高 橋 一二三
	坂 田 百 代		廣 野 哲 也
	佐 藤 裕 之	大宮総務分室長	中 村 光 男
	川 村 彰	庶務係長	石 川 達 夫
	山 口 英 夫		佐 藤 美由紀
庶務係長	染 谷 栄 次	会計係長	久 保 健
	狩 谷 純 子		中 川 至
管理係長	江 口 和 紀		宇 野 康 雄
	杉 本 亮 二		島 根 克 佳
調整係長	淵 野 久美子	松本総務分室長	馬 場 俊 則
主任	菊 地 静 江	庶務係長	佐 藤 昭 彦
主任	松 本 みゆき	会計係長	田 中 良 穂
人事係長	井 上 建 紀		林 美 佳
主任	川 崎 美 江	岡谷総務分室	
	平 山 兵八郎	庶務係長	馬 場 政 広
職員係長	海老原 裕 司	主任	清 水 末 子
厚生係長	大 部 正 史	小淵沢総務分室	
	江 原 久 美	庶務係長	新 津 善 博
会計課長	平 澤 英 夫	主任	田 中 千代江
課長補佐	大 内 聡 子	基盤研究推進官	柳 川 弘 明
監査官	本 間 方 生	ゲノム研究グループ	
予算係長	本 田 和 也	グループ長	佐々木 卓 治
	佐 藤 敏 明	上席研究官	安 江 博
会計係長	出 店 厚 志	上席研究官	三 田 和 英
主任	青 木 えみ子	上席研究官	木 下 晴 夫
主任	塚 田 利 恵	植物ゲノム研究チーム長	松 本 隆
	篠 原 靖 子	主任研究官	片 寄 裕 一
	飯 田 大 介		水 野 浩 志
経理係長	森 田 仁	家畜ゲノム研究チーム長	栗 田 崇
	田 口 和 代	主任研究官	林 武 司
監査係長	長谷川 勉	主任研究官	小 林 栄 治
	佐々木 恭 子	主任研究官	美 川 智
調達係長	本 多 靖		上 西 博 英
	平 松 幹 一	昆虫ゲノム研究チーム長	原 和二郎
	久保田 克 則	主任研究官	門 野 敬 子
	入 野 優 子	主任研究官	安河内 祐 二
	山 澤 英 之		馬 場 浩太郎
物品係長	高 田 伸一郎	ゲノム情報研究チーム長	坂 田 克 己
	吉 倉 孝 徳		沼 寿 隆
管理課長	田 中 聖 一	DNAバンク長	長 村 吉 晃
施設専門官	酒 谷 秀 俊		岩 本 政 雄
施設管理専門官	齋 藤 良 一	遺伝資源研究グループ	
業務係長	山 本 岳 人	グループ長	栗 崎 純 一

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
上席研究官	橋 本 純 治
上席研究官	加 来 久 敏
上席研究官	梅 原 正 道
遺伝子多様性研究チーム長	門 脇 光 一
主任研究官	中 山 繁 樹
	西 川 智太郎
生物分類研究チーム長	(兼)栗 崎 純 一
主任研究官	青 木 孝 之
主任研究官	落 合 弘 和
集団動態研究チーム長	Duncan Alexander Vaughan
主任研究官	友 岡 憲 彦
	加 賀 秋 人
生殖質保全研究チーム長	金 子 浩 之
主任研究官	野 口 純 子
主任研究官	菊 地 和 弘
多様性評価研究チーム長	林 長 生
主任研究官	富 山 雅 光
主任研究官	北 本 宏 子
	西 村 麻里江
限界機能研究チーム長	(兼)栗 崎 純 一
主任研究官	石 川 雅 也
主任研究官	小松田 隆 夫
資源情報研究チーム長	(兼)栗 崎 純 一
主任研究官	佐 藤 正 寛
主任研究官	竹 谷 勝
ジーンバンク	
ジーンバンク長	宮 崎 尚 時
上席研究官	白 田 和 人
上席研究官	大 川 雅 央
植物資源研究チーム長	長 峰 司
主任研究官	三 浦 清 之
主任研究官	石 井 卓 朗
主任研究官	江 花 薫 子
主任研究官	福 岡 修 一
微生物資源研究チーム長	佐 藤 豊 三
主任研究官	永 井 利 郎
主任研究官	堀 田 光 生
	竹 内 香 純
動物資源研究チーム長	峰 澤 満
主任研究官	高 橋 秀 彰
主任研究官	川 田 真佐枝
遺伝資源管理課長	湯 村 勝 敏
遺伝資源貯蔵専門官	椎 名 次 男
遺伝資源管理官	久 田 方 彦
遺伝資源管理係長	知 花 高 志
	服 部 幸 子
	坪 倉 倫 代

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
業務係長	鈴 木 昌 幸
	村 岡 文 子
出納係長	中 澤 恭 子
主任	谷 口 洋
発生分化研究グループ	
グループ長	居在家 義 昭
上席研究官	古 舘 宏
発生機構研究チーム長	茗 原 眞路子
主任研究官	中 尾 肇
主任研究官	加 藤 祐 輔
主任研究官	畠 山 正 統
分化機構研究チーム長	徳 永 智 之
主任研究官	古 澤 軌
	細 江 実 佐
発生制御研究チーム長	内 藤 充
主任研究官	松 原 悠 子
主任研究官	春 海 降
発生工学研究チーム長	永 井 卓
主任研究官	大 西 彰
主任研究官	渡 部 聡
	淵 本 大一郎
	鈴 木 俊 一
成長制御研究チーム長	木 内 信
主任研究官	塩 月 孝 博
主任研究官	田 中 良 明
主任研究官	神 村 学
	志 村 幸 子
生殖再生研究チーム長	橋 爪 一 善
主任研究官	高 橋 透
主任研究官	今 井 敬
生体防御研究グループ	
グループ長	関 川 賢 二
上席研究官	櫻 井 通 陽
分子免疫研究チーム長	木 谷 裕
主任研究官	辻 典 子
	広 狩 康 裕
先天性免疫研究チーム長	山 川 稔
主任研究官	石 橋 純
主任研究官	田 中 博 光
疾患モデル動物研究チーム長	後 藤 英 夫
主任研究官	須 藤 淳 一
	松 本 由記子
生体機能研究グループ	
グループ長	新 保 博
上席研究官	平 井 剛 夫
上席研究官	井濃内 順
生活史制御研究チーム長	田 中 誠 二

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	所 属 ・ 役 職 名	氏 名
主任研究官	奥 田 隆	主任研究官	行 弘 研 司
主任研究官	小 瀧 豊 美	主任研究官	村 路 雅 彦
	渡 邊 匡 彦	主任研究官	富 田 秀一郎
代謝調節研究チーム長	中 村 匡 利		長谷川 毅
主任研究官	平 山 力		河 本 夏 雄
	黄川田 隆 洋	昆虫新素材開発研究グループ	
昆虫神経生理研究チーム長	朝 岡 潔	グループ長	竹 田 敏
主任研究官	市 川 明 生	上席研究官	塚 田 裕
主任研究官	井 上 尚	素材特性研究チーム長	坪 内 紘 三
	木 原 真 実	主任研究官	都 島 美 行
昆虫行動制御物質研究チーム長	若 村 定 男	主任研究官	宮 澤 光 博
主任研究官	安 田 哲 也	主任研究官	秦 珠 子
	秋 野 順 治		高 須 陽 子
	安 居 拓 恵	素材開発研究チーム長	羽 賀 篤 信
動物遺伝子機能研究チーム長	三 橋 忠 由	生体機能模倣研究チーム長	玉 田 靖
主任研究官	小 島 美 咲	主任研究官	小 林 亨
主任研究官	伊 藤 嘉 保	主任研究官	後 藤 洋 子
動物細胞機能研究チーム長	(兼)新 保 博		桑 名 芳 彦
主任研究官	竹 澤 俊 明	昆虫生産工学研究グループ	
	竹之内 敬 人	グループ長	西 出 照 雄
	宮 下 範 和	上席研究官	加 藤 弘
動物脳神経機能研究チーム長	齋 藤 敏 之	上席研究官	岡 島 輝 雄
	粕 谷 悦 子	上席研究官	早 坂 昭 二
	作 本 亮 介	上席研究官	市 橋 降 壽
神経内分泌研究チーム長	岡 村 裕 昭	昆虫細胞工学研究チーム長	今 西 重 雄
主任研究官	大 蔵 聡	主任研究官	谷 合 幹代子
	松 本 和 典		秋 月 岳
昆虫適応遺伝研究グループ		遺伝子工学研究チーム長	田 村 俊 樹
グループ長	宮 崎 昌 久	主任研究官	米 村 真 之
上席研究官	佐 藤 守	主任研究官	霜 田 政 美
昆虫・植物間相互作用研究チーム長	服 部 誠	増殖システム研究チーム長	大 浦 正 伸
主任研究官	今 野 浩太郎	主任研究官	小 山 朗 夫
	田 村 泰 盛	昆虫産生物利用研究チーム長	馬 越 芳 子
天敵昆虫研究チーム長	野 田 隆 志	主任研究官	於 保 正 弘
	日 本 典 秀	生活資源開発研究チーム長	高 林 千 幸
昆虫共生媒介機構研究チーム長	野 田 博 明	主任研究官	中 島 健 一
主任研究官	渡 辺 裕 文		寺 本 英 敏
主任研究官	中 島 信 彦	特性調査専門官	中 村 邦 子
主任研究官	渡 部 賢 司	主任	鮎 澤 弘 子
昆虫病理研究チーム長	宮 本 和 久	主任	岩 垂 美智子
主任研究官	三 橋 渡		中 屋 昭
	和 田 早 苗		宮 崎 栄 子
	村 上 理都子	新蚕糸技術研究チーム長	山 本 俊 雄
昆虫遺伝研究チーム長	小瀬川 英 一	主任研究官	間 瀬 啓 介
主任研究官	廣 川 昌 彦		岡 田 英 二
	立 松 謙一郎	(つくば駐在)	福 井 邦 明
昆虫分子進化研究チーム長	永 易 健 一		飯 塚 哲 也

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
主任	小 池 文 江
主任	宮 島 たか子
分子遺伝研究グループ	
グループ長	肥 後 健 一
上席研究官	大 橋 祐 子
遺伝子機能研究チーム長	廣 近 洋 彦
主任研究官	萩 原 清
主任研究官	宮 尾 安藝雄
主任研究官	杉 本 和 彦
	山 崎 宗 郎
応用遺伝研究チーム長	矢 野 昌 裕
主任研究官	井 澤 毅
	山 本 伸 一
	上 田 忠 正
遺伝子修飾研究チーム長	(兼) 肥 後 健 一
主任研究官	奥 泉 久 人
	望 月 淳 子
遺伝子発現研究チーム長	菊 池 尚 志
主任研究官	森 昌 樹
主任研究官	岸 本 直 己
遺伝子応答研究チーム長	小 松 節 子
主任研究官	光 原 一 朗
	岩 井 孝 尚
	吉 川 学
生体高分子研究グループ	
グループ長	澁 谷 直 人
蛋白機能研究チーム長	水 野 洋
主任研究官	高 瀬 研 二
主任研究官	門 間 充
	藤 本 瑞
	若 生 俊 行
超分子機能研究チーム長	馬 越 淳
主任研究官	山 崎 俊 正
主任研究官	加 藤 悦 子
主任研究官	前 田 美 紀
糖鎖機能研究チーム長	南 栄 一
主任研究官	賀 来 華 江
	秋 本 千 春
生体膜機能研究チーム長	下 村 正 二
主任研究官	梶 原 英 之
主任研究官	田 口 文 緒
生理機能研究グループ	
グループ長	赤 尾 勝一郎
光合成研究チーム長	徳 富 光 恵
主任研究官	狩 野 広 美
主任研究官	稲 垣 言 要
	深 山 浩

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
物質代謝研究チーム長	上 野 修
	石 丸 健
	高 橋 咲 子
形態発生研究チーム長	高 辻 博 志
主任研究官	渡 邊 紳一郎
主任研究官	菅 野 正 治
	馬 場 晶 子
環境ストレス研究チーム長	高 野 誠
主任研究官	武 市 哲 郎
主任研究官	矢 崎 芳 明
主任研究官	清 田 誠一郎
耐病性研究チーム長	田 中 喜 之
主任研究官	川 崎 信 二
	福 田 篤 徳
窒素固定研究チーム長	河 内 宏
主任研究官	中 山 泰 次
主任研究官	梅 原 洋 佐
新生物資源創出研究グループ	
グループ長	大 野 清 春
上席研究官	坂 野 勝 啓
遺伝子設計研究チーム長	(兼) 大 野 清 春
主任研究官	市 川 裕 章
主任研究官	西 澤 洋 子
遺伝子操作研究チーム長	高 岩 文 雄
主任研究官	土 岐 精 一
主任研究官	川 越 靖
植物細胞工学研究チーム長	田部井 豊
主任研究官	萩 尾 高 志
主任研究官	小 川 泰 一
新作物素材開発研究チーム長	田 中 宥 司
主任研究官	古 賀 保 徳
	大 竹 祐 子
新機能開発研究チーム長	(兼) 大 野 清 春
主任研究官	小 沢 憲二郎
	川 東 広 幸
放射線育種場	
場長	永 富 成 紀
突然変異遺伝子研究チーム長	西 村 実
主任研究官	高 野 敏 弥
主任研究官	草 場 信
放射線利用研究チーム長	森 下 敏 和
主任研究官	出 花 幸之介
主任研究官	山 口 博 康
新形質開発研究チーム長	伊 藤 祐 司
主任研究官	武 弓 利 雄
主任研究官	山ノ内 宏 昭



2. 評価委員名簿

(敬称略)

上田 龍(うえだりゅう)

三菱化学生命科学研究所遺伝子機能ユニット研究主幹/主任研究員、理学博士

1952年生まれ。1979年筑波大学生物科学系大学院博士課程単位修得

内宮博文(うちみやひろふみ)

東京大学分子細胞生物学研究所細胞生物部門教授、Ph.D

1946年生まれ。1975年カリフォルニア大学大学院博士課程修了

勝木元也(かつきもとや)

岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所所長、理学博士

1943年生まれ。1972年九州大学大学院理学研究科博士課程修了

木口憲爾(きぐちけんじ)

信州大学繊維学部応用生物科学科教授、農学博士

1944年生まれ。1969年東京農工大学農学研究科修士課程修了

木元教子(きもとのりこ)

評論家、ジャーナリスト(元TBSアナウンサー)

北海道生まれ。1956年立教大学文学部卒業

榊 佳之(さかきよしゆき)

東京大学医科学研究所教授、理学博士

1942年生まれ。東京大学大学院理学研究科博士課程修了

武田和義(たけだかずよし)

岡山大学資源生物科学研究所教授、農学博士

1943年生まれ。1971年北海道大学大学院農学研究科博士課程修了

中村靖彦(なかむらやすひこ)

農政ジャーナリスト・明治大学農学部農業経済学科客員教授(元NHK解説委員)

1935年仙台生まれ。1959年東北大学文学部卒業

付 録

1. 研究チーム名等の略称一覧

(14.3.31現在)

正式名称	組織略名(8文字)例示	組織略名(5文字)	組織略名(3文字)
独立行政法人農業生物資源研究所	独法生物研	独法生物研	生物研
本部地区	本部地区	本部	本部
大宮地区	大宮地区	大宮	大宮
松本地区	松本地区	松本	松本
岡谷地区	岡谷地区	岡谷	岡谷
小淵沢地区	小淵沢地区	小淵沢	小淵沢
理事長	理事長	理事長	理事長
理事(動生研担当)	理事(動生研担当)	動生研理事	動理事
理事(植生研担当)	理事(植生研担当)	植生研理事	植理事
監事	監事	監事	監事
企画調整部	企画調整部	企画調整部	企画部
企画室	企画室	企画室	企画室
首席研究調整官	首席研究調整官	首席調整官	首席官
研究調整官	研究調整官	研究調整官	調整官
研究交流科	研究交流科	研究交流科	交流科
動物企画連絡科	動物企画連絡科	動物企画科	動企画
植物企画連絡科	植物企画連絡科	植物企画科	植企画
技術移転科	技術移転科	技術移転科	移転科
情報資料課	情報資料課	情報資料課	資料課
広報普及課	広報普及課	広報普及課	広報課
業務第1科	業務第1科	業務第1科	業1科
業務第1科(小淵沢)	業務第1科(小淵沢)	業務1小淵	業小淵
業務第1科(松本)	業務第1科(松本)	業務1松本	業松本
業務第2科	業務第2科	業務第2科	業2科
業務第3科	業務第3科	業務第3科	業3科
総務部	総務部	総務部	総務部
庶務課	庶務課	庶務課	庶務課
会計課	会計課	会計課	会計課
管理課	管理課	管理課	管理課
大宮総務分室	大宮総務分室	大宮総分室	大宮総
松本総務分室	松本総務分室	松本総分室	松本総
岡谷総務分室	岡谷総務分室	岡谷総分室	岡谷総
小淵沢総務分室	小淵沢総務分室	小淵沢分室	小淵総
基盤研究推進官	基盤研究推進官	基盤推進官	推進官
ゲノム研究グループ	ゲノム研究G	ゲノム研G	GG
上席研究官(安江)	GG上席研究官1	GG上席1	G上1
上席研究官(三田)	GG上席研究官2	GG上席2	G上2
上席研究官(木下)	GG上席研究官3	GG上席3	G上3
植物ゲノム研究チーム	植物ゲノムT	植ゲノムT	植GT
家畜ゲノム研究チーム	家畜ゲノムT	畜ゲノムT	畜GT
昆虫ゲノム研究チーム	昆虫ゲノムT	昆ゲノムT	昆GT
ゲノム情報研究チーム	ゲノム情報T	ゲノム情T	G情T
DNAバンク	DNAバンク	DNAバン	DB

正式名称	組織略名（８文字）例示	組織略名（５文字）	組織略名（３文字）
遺伝資源研究グループ	遺伝資源研究 G	遺伝資源 G	資源 G
上席研究官（橋本）	資源上席研究官 1	資源上席 1	資上 1
上席研究官（加来）	資源上席研究官 2	資源上席 2	資上 2
上席研究官（梅原）	資源上席研究官 3	資源上席 3	資上 3
遺伝子多様性研究チーム	遺伝子多様性 T	遺伝多様 T	遺多 T
生物分類研究チーム	生物分類 T	生物分類 T	分類 T
集団動態研究チーム	集団動態 T	集団動態 T	集団 T
生殖質保全研究チーム	生殖質保全 T	生殖保全 T	生保 T
多様性評価研究チーム	多様性評価 T	多様評価 T	多様 T
限界機能研究チーム	限界機能 T	限界機能 T	限界 T
資源情報研究チーム	資源情報 T	資源情報 T	情報 T
ジーンバンク	ジーンバンク	GB	GB
上席研究官（白田）	GB上席研究官 1	GB上席 1	B上 1
上席研究官（大川雅）	GB上席研究官 2	GB上席 2	B上 2
植物資源研究チーム	植物資源 T	植物資源 T	植資 T
微生物資源研究チーム	微生物資源 T	微生物資 T	微資 T
動物資源研究チーム	動物資源 T	動物資源 T	動資 T
遺伝資源管理課	遺伝資源管理課	遺伝資源課	遺資課
動物生命科学研究所	動物生命科学研究	動物生命研	動生研
発生分化研究グループ	発生分化研究 G	発生分化 G	発生 G
上席研究官（古館）	発生上席研究官	発生上席	発生上
発生機構研究チーム	発生機構 T	発生機構 T	発生 T
分化機構研究チーム	分化機構 T	分化機構 T	分化 T
発生制御研究チーム	発生制御 T	発生制御 T	発制 T
発生工学研究チーム	発生工学 T	発生工学 T	発工 T
成長制御研究チーム	成長制御 T	成長制御 T	成長 T
生殖再生研究チーム	生殖再生 T	生殖再生 T	生再 T
生体防御研究グループ	生体防御研究 G	生体防御 G	生防 G
上席研究官（櫻井）	防御上席研究官	防御上席	防御上
分子免疫研究チーム	分子免疫 T	分子免疫 T	分免 T
先天性免疫研究チーム	先天性免疫 T	先天免疫 T	先天 T
疾患モデル動物研究チーム	疾患モデル動物 T	疾モデル T	疾モ T
生体機能研究グループ	生体機能研究 G	生体機能 G	生機 G
上席研究官（平井）	生体上席研究官 1	生体上席 1	生上 1
上席研究官（井濃内）	生体上席研究官 2	生体上席 2	生上 2
生活史制御研究チーム	生活史制御 T	生活史 T	生史 T
代謝調節研究チーム	代謝調節 T	代謝調節 T	代謝 T
昆虫神経生理研究チーム	昆虫神経生理 T	昆虫神経 T	昆神 T
昆虫行動制御物質研究チーム	昆虫行動制御物質 T	昆虫行動 T	行動 T
動物遺伝子機能研究チーム	動物遺伝子機能 T	動遺伝子 T	動遺 T
動物細胞機能研究チーム	動物細胞機能 T	動物細胞 T	動細 T
動物脳神経機能研究チーム	動物脳神経機能 T	脳機能 T	脳機 T
神経内分泌研究チーム	神経内分泌 T	神経分泌 T	神泌 T
昆虫適応遺伝研究グループ	昆虫適応遺伝研 G	適応遺伝 G	遺伝 G
上席研究官（佐藤）	適応上席研究官	適応上席	適応上
昆虫・植物間相互作用研究チーム	昆・植相互作用 T	相互作用 T	相互 T
天敵昆虫研究チーム	天敵昆虫 T	天敵昆虫 T	天敵 T
昆虫共生媒介機構研究チーム	昆共生媒介機構 T	共生媒介 T	共生 T
昆虫病理研究チーム	昆虫病理 T	昆虫病理 T	病理 T
昆虫遺伝研究チーム	昆虫遺伝 T	昆虫遺伝 T	昆遺 T

正式名称	組織略名（８文字）例示	組織略名（５文字）	組織略名（３文字）
昆虫分子進化研究チーム	昆虫分子進化 T	昆虫進化 T	昆進 T
昆虫新素材開発研究グループ	昆虫新素材開発研 G	素材開発 G	素開 G
上席研究官（塚田）	新素材上席研究官	新素材上席	素材上
素材特性研究チーム	素材特性 T	素材特性 T	素特 T
素材開発研究チーム	素材開発 T	素材開発 T	素開 T
生体機能模倣研究チーム	生体機能模倣 T	生体模倣 T	模倣 T
昆虫生産工学研究グループ	昆虫生産工学研究 G	生産工学 G	生産 G
上席研究官（加藤）	生産上席研究官 1	生産上席 1	産上 1
上席研究官（岡島）	生産上席研究官 2	生産上席 2	産上 2
上席研究官（早坂）	生産上席研究官 3	生産上席 3	産上 3
上席研究官（市橋）	生産上席研究官 4	生産上席 4	産上 4
昆虫細胞工学研究チーム	昆虫細胞工学 T	昆虫細胞 T	昆細 T
遺伝子工学研究チーム	遺伝子工学 T	遺伝子工 T	遺工 T
増殖システム研究チーム	増殖システム T	システム T	増殖 T
昆虫産生物利用研究チーム	昆虫産生物利用 T	生物利用 T	昆利 T
生活資源開発研究チーム	生活資源開発 T	生活資源 T	生活 T
新蚕糸技術研究チーム	新蚕糸技術 T	新蚕糸技 T	新蚕 T
植物生命科学研究所	植物生命科学研究	植物生命研	植生研
分子遺伝研究グループ	分子遺伝研究 G	分子遺伝 G	分遺 G
上席研究官（大橋）	分子遺伝上席研究官	分子遺上席	分子上
遺伝子機能研究チーム	遺伝子機能 T	遺伝機能 T	遺機 T
応用遺伝研究チーム	応用遺伝 T	応用遺伝 T	応遺 T
遺伝子修飾研究チーム	遺伝子修飾 T	遺伝修飾 T	修飾 T
遺伝子発現研究チーム	遺伝子発現 T	遺伝発現 T	遺発 T
遺伝子応答研究チーム	遺伝子応答 T	遺伝応答 T	応答 T
生体高分子研究グループ	生体高分子研究 G	高分子 G	高分 G
蛋白機能研究チーム	蛋白機能 T	蛋白機能 T	蛋白 T
超分子機能研究チーム	超分子機能 T	超分子 T	超分 T
糖鎖機能研究チーム	糖鎖機能 T	糖鎖機能 T	糖鎖 T
生体膜機能研究チーム	生体膜機能 T	生体膜 T	膜 T
生理機能研究グループ	生理機能研究 G	生理機能 G	生理 G
光合成研究チーム	光合成 T	光合成 T	光合 T
物質代謝研究チーム	物質代謝 T	物質代謝 T	物代 T
形態発生研究チーム	形態発生 T	形態発生 T	形態 T
環境ストレス研究チーム	環境ストレス T	環境スト T	環境 T
耐病性研究チーム	耐病性 T	耐病性 T	耐病 T
窒素固定研究チーム	窒素固定 T	窒素固定 T	窒素 T
新生物資源創出研究グループ	新生資源創出研 G	資源創出 G	創出 G
上席研究官（坂野）	創出上席研究官 1	創出上席 1	創上 1
上席研究官（大川安）	創出上席研究官 2	創出上席 2	創上 2
遺伝子設計研究チーム	遺伝子設計 T	遺伝設計 T	遺設 T
遺伝子操作研究チーム	遺伝子操作 T	遺伝操作 T	遺操 T
植物細胞工学研究チーム	植物細胞工学 T	植物細胞 T	植細 T
新作物素材開発研究チーム	新作物素材開発 T	新作物 T	新作 T
新機能開発研究チーム	新機能開発 T	新機能開 T	新機 T
放射線育種場	放射線育種場	放育種場	放育場
突然変異遺伝子研究チーム	突然変異遺伝子 T	変異遺伝 T	変異 T
放射線利用研究チーム	放射線利用 T	放射線利 T	放利 T
新形質開発研究チーム	新形質開発 T	新形質開 T	新形 T

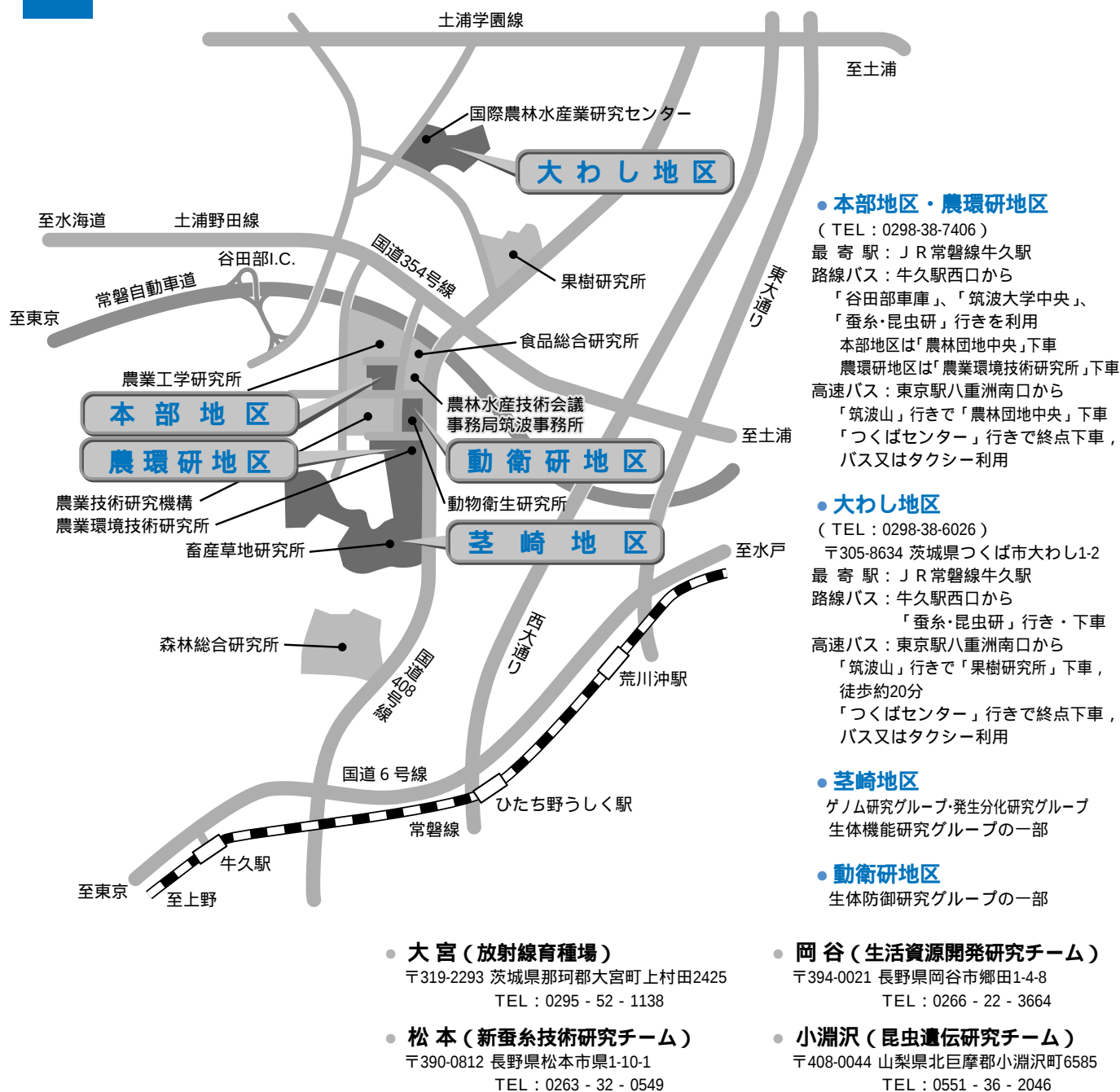
2. 組織・職名の英文名称

日本語職名	英文名称
理事長	President
理事	Vice President
監事	Auditor
基盤研究推進官	Director of Genome and Biodiversity Research Center
グループ長、部長、場長	Director
上席研究官	Research Leader
チーム長	Head
主任研究官	Senior Researcher
研究員	Researcher
企画室長	Director of Research Planning Division
首席研究調整官	Senior Research Coordinator
研究調整官	Research Coordinator
科長・課長	Head

部、グループ日本語名称	英文名称
企画調整部	Department of Research Planning and Coordination
企画室	Research Planning Division
研究交流科	Research Coordination
動物企画連絡科	Insect and Animal Sciences Research Planning and Coordination
植物企画連絡科	Plant Science Research Planning and Coordination
技術移転科	Technology Transfer Section
情報資料課	Information and Documentation Section
広報普及課	Advertising and Public Relation Section
業務第1科	Field Management Section
業務第2科	Field Management Section
業務第3科	Field Management Section
総務部	Department of Administration
庶務課	General Affairs Section
会計課	Accounting Section
管理課	Facility Management Section
基盤研究部門	Genome and Biodiversity Research Center
ゲノム研究グループ	Genome Research Department
植物ゲノム研究チーム	Plant Genome Laboratory
家畜ゲノム研究チーム	Animal Genome Laboratory
昆虫ゲノム研究チーム	Insect Genome Laboratory
ゲノム情報研究チーム	Bioinformatics Laboratory
DNAバンク	DNA Bank
遺伝資源研究グループ	Genetic Diversity Department
遺伝子多様性研究チーム	Molecular Biodiversity Laboratory
生物分類研究チーム	Biosystematics Laboratory

部、グループ日本語名称	英文名称
集団動態研究チーム	Evolutionary Dynamics Laboratory
生殖質保全研究チーム	Germ Cell Conservation Laboratory
多様性評価研究チーム	Applied Microbiology Laboratory
限界機能研究チーム	Adaptation Systems Laboratory
資源情報研究チーム	Biometrics Laboratory
ジーンバンク	Genebank
植物資源研究チーム	Plant Genetic Resources Laboratory
微生物資源研究チーム	Microorganism Genetic Resources Laboratory
動物資源研究チーム	Animal Genetic Resources Laboratory
遺伝資源管理課	Genetic Resources Management Section
動物生命科学研究所	Institute of Insect and Animal Sciences
発生分化研究グループ	Developmental Biology Department
発生機構研究チーム	Developmental Mechanisms Laboratory
分化機構研究チーム	Development and Differentiation Laboratory
発生制御研究チーム	Animal Genetic Engineering Laboratory
発生工学研究チーム	Embryonic Technology Laboratory
成長制御研究チーム	Insect Growth Regulation Laboratory
生殖再生研究チーム	Reproductive Biology and Technology Laboratory
生体防御研究グループ	Molecular Biology and Immunology Department
分子免疫研究チーム	Molecular Immunology Laboratory
先天免疫研究チーム	Innate Immunity Laboratory
疾患モデル動物研究チーム	Experimental Animals Laboratory
生体機能研究グループ	Physiology and Genetic Regulation Department
生活史制御研究チーム	Insect Life-Cycles and Physiology Laboratory
代謝調節研究チーム	Insect Nutrition and Metabolism Laboratory
昆虫神経生理研究チーム	Insect Neurobiology Laboratory
昆虫行動制御研究チーム	Insect Behavior Laboratory
動物遺伝子機能研究チーム	Animal Gene Function Laboratory
動物細胞機能研究チーム	Animal Cell Biology Laboratory
動物脳神経機能研究チーム	Animal Neurophysiology Laboratory
神経内分泌研究チーム	Animal Neuroendocrinology Laboratory
昆虫適応遺伝研究グループ	Insect Genetics and Evolution Department
昆虫・植物間相互作用 研究チーム	Insect-Plant Interactions Laboratory
天敵昆虫研究チーム	Natural Enemies Laboratory
昆虫共生媒介機構研究チーム	Symbiosis Laboratory
昆虫病理研究チーム	Insect Pathology Laboratory
昆虫遺伝研究チーム	Insect Genetics Laboratory
昆虫分子進化研究チーム	Insect Molecular Evolution Laboratory
昆虫新素材開発研究グループ	Insect Biomaterial and Technology Department
素材特性研究チーム	Biopolymer Characterization Laboratory
素材開発研究チーム	Biomaterial Development Laboratory
生体機能模倣研究チーム	Biomimetic Laboratory
昆虫生産工学研究グループ	Insect Biotechnology and Sericology Department
昆虫細胞工学研究チーム	Insect Cell Engineering Laboratory
遺伝子工学研究チーム	Insect Gene Engineering Laboratory
増殖システム研究チーム	Mass Production System Laboratory
昆虫産生物利用研究チーム	Insect Products Utilization Laboratory
生活資源開発研究チーム	New Silk Materials Laboratory
新蚕糸技術研究チーム	Sericultural Science Laboratory

部、グループ日本語名称	英文名称
植物生命科学研究所	Institute of Plant Science
分子遺伝研究グループ	Molecular Genetics Department
遺伝子機能研究チーム	Functional Genomics Laboratory
応用遺伝研究チーム	Applied Genomics Laboratory
遺伝子修飾研究チーム	Epigenetics Laboratory
遺伝子発現研究チーム	Gene Expression Laboratory
遺伝子応答研究チーム	Gene Regulation Laboratory
生体高分子研究グループ	Biochemistry Department
蛋白機能研究チーム	Crystallography Laboratory
超分子機能研究チーム	Biophysics Laboratory
糖鎖機能研究チーム	Glycobiology Laboratory
生体膜機能研究チーム	Membrane Biology Laboratory
生理機能研究グループ	Plant Physiology Department
光合成研究チーム	Photosynthesis Laboratory
物質代謝研究チーム	Carbon Metabolism Laboratory
形態発生研究チーム	Developmental Biology Laboratory
環境ストレス研究チーム	Environmental Physiology Laboratory
耐病性研究チーム	Disease Physiology Laboratory
窒素固定研究チーム	Nitrogen Fixation Laboratory
新生物資源創出研究グループ	Plant Biotechnology Department
遺伝子設計研究チーム	Gene Design Laboratory
遺伝子操作研究チーム	Plant Gene Engineering Laboratory
植物細胞工学研究チーム	Plant Cell Engineering Laboratory
新作物素材開発研究チーム	Molecular Breeding Laboratory
新機能開発研究チーム	Biosystems Laboratory
放射線育種場	Institute of Radiation Breeding
突然変異遺伝子研究チーム	Mutation Genetics Laboratory
放射線利用研究チーム	Radiation Technology Laboratory
新形質開発研究チーム	Mutation Breeding Laboratory



問い合わせ窓口一覧 (TEL: 0298-38-****)

1 研究内容.....企画調整部企画室	7 4 2 3	5 取材.....企画調整部広報普及課	7 0 0 4
2 共同研究.....企画調整部技術移転科	7 4 3 5	6 技術相談.....企画調整部広報普及課	7 0 0 2
3 知的所有権...企画調整部技術移転科	7 4 3 5	7 遺伝資源.....ゲノムバンク遺伝資源管理課	7 4 6 7
4 視察・見学...企画調整部広報普及課	7 0 0 3	8 その他.....総務部庶務課	7 4 0 6

ISSN1347-9377

平成14年12月1日 印刷・発行

平成13年度（2001）

農業生物資源研究所年報

編集・発行 独立行政法人農業生物資源研究所

〒305-8602 茨城県つくば市観音台2-1-2

電話 0298(38)7406（庶務）

URL <http://www.nias.affrc.go.jp/>

印刷・製本 株式会社 高山 〒300-1272 茨城県つくば市荃崎1887 TEL：0298-76-4721